

「小鹿野町まちづくりアンケート」 調査結果報告書

平成30年3月

— 目 次 —

序 章 調査の概要	1
第1節 調査の概要.....	2
1 調査の目的	2
2 調査対象者	2
3 回収状況	2
4 報告書を見る際の留意点	2
第1章 調査の集計結果	3
第1節 回答者自身の状況	4
1-1 性別（問1）	4
1-2 年齢（問2）	4
1-3 居住地区（問3）	5
1-4 世帯構成（問4）	7
1-5 職業（問5）	9
1-6 転入・転出の状況（問6）	11
1-7 転入者の居住年数（問6-1）	13
1-8 転入前の居住地（問6-2）	15
1-9 普段の買い物の場所（問7）	17
1-10 生活で支障となっていること（問8）	19
第2節 町への愛着やまちづくりへの参加について.....	22
2-1 町への愛着の有無（問9）	22
2-2 町の良さを満喫しながら暮らしているか（問10（1））	25
2-3 町の活性化のための協力への意向（問10（2））	28
2-4 地域運営組織に関する考え（問11）	30
第3節 町の住みごこちや取組への評価.....	32
3-1 生活環境や取組への評価（問12）	32
3-2 今後、重点的に進めるべき施策（問13）	42
第4節 これからのまちづくりの方向性について.....	48
4-1 交通や道路の整備に関する重点施策（問14）	48
4-2 身近な生活環境に関する重点施策（問15）	51
4-3 就労環境に関する重点施策（問16）	54
4-4 交流人口増加に関する重点施策（問17）	57
4-5 結婚・子育て環境に関する重点施策（問18）	60
4-6 定住・転入促進に関する重点施策（問19）	63
4-7 支え合いの地域づくりに関する重点施策（問20）	66
4-8 教育の振興に関する重点施策（問21）	69
4-9 社会教育・スポーツ振興に関する重点施策（問22）	72
4-10 「小鹿野町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の重点施策（問23）	75
第5節 これからの交通環境のあり方について.....	78
5-1 外出する際の移動手段（問24）	78
5-2 公共交通機関の利用状況（問25）	81
5-3 公共交通に関する重点施策（問26）	84

5-4	地域運営組織による輸送サービスへの考え（問27）	86
5-5	公共交通に関する重点施策（問28）	88
第5節	生涯学習活動について	90
5-1	生涯学習活動の実施状況（問29）	90
第6節	公共施設の利用について	94
6-1	公共施設の利用方法（問30）	94
第7節	巻末自由記入の内容.....	99

序 章

調査の概要

第1節 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、第2次総合振興計画基本構想（平成31年度～40年度）及び前期基本計画（平成31年度～平成35年度）の策定を進めるにあたり、町民の日常生活における現状と将来への希望、考え方等を把握することを目的に実施しました。

2 調査対象者

対象者	調査方法	調査期間
町内在住の18歳以上の方のうち、2,000人を無作為抽出	郵送配付・郵送回収	平成29年8月10日～8月31日

※締切日に調査協力依頼を兼ねた礼状を対象者全員に送付しました。

3 回収状況

対象者数	有効回収数	有効回答率
2,000人	933人	46.7%

4 報告書を見る際の留意点

（1）回答率について

- ①比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。このため、比率の合計は100%を上下することがあります。
- ②一人の回答者が2つ以上の回答をすることができる設問（複数回答）では、比率の合計が100%を上回ることがあります。

（2）表記について

- ①図表及び文章中で、選択肢を一部省略して用いています。
- ②文章中で選択肢を引用する場合は「 」を用いています。また、いくつかの選択肢を合わせて一つのまとまりとする場合は“ ”で囲んで表記しています。
- ③同じ設問であっても、障害区分によって設問番号が異なる場合は、身体障害者調査の設問番号を標記しています。

（3）「考察」の取扱について

調査結果を見る際の参考としてご活用いただくために、それぞれの集計結果の所感を記載したものです。

第1章

調査の集計結果

第1節 回答者自身の状況

1-1 性別（問1）

問1 あなたの性別はどちらですか。あてはまる番号1つに○を付けてください。

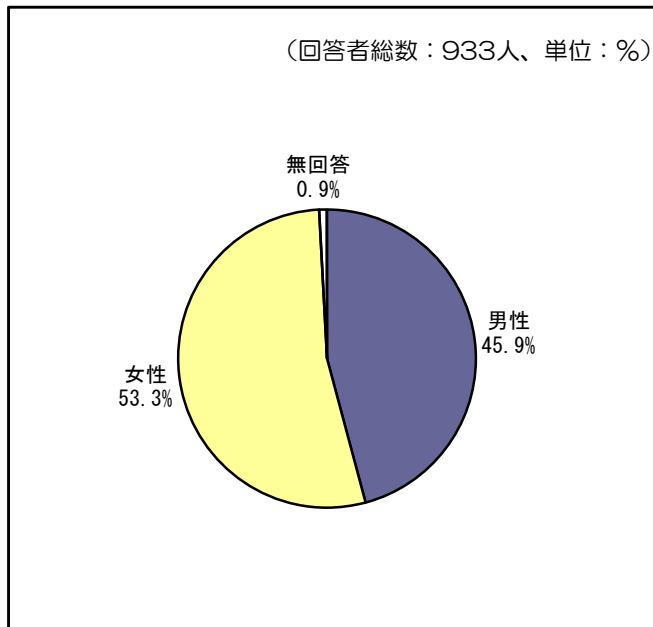
「女性」が53.3%

性別については、「男性」が45.9%、「女性」が53.3%となっています。

■性別

区 分	人 (%)
回答者総数	933 (100.0)
男性	428 (45.9)
女性	497 (53.3)
無回答	8 (0.9)

■性別



1-2 年齢（問2）

問2 あなたの年齢はいくつですか。あてはまる番号1つに○を付けてください。

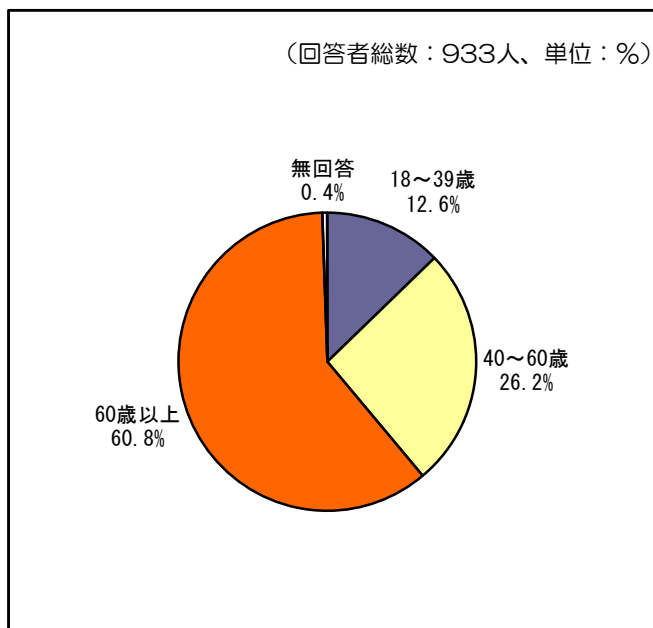
「65歳以上」が60.8%

年齢については、「18～39歳」が12.6%、「40～60歳」が26.2%、「60歳以上」が60.8%となっています。

■年齢

区 分	人 (%)
回答者総数	933 (100.0)
18～39 歳	118 (12.6)
18～29歳	64 (6.9)
30～39歳	54 (5.8)
40～60 歳	244 (26.2)
40～49歳	100 (10.7)
50～59歳	144 (15.4)
60～64歳	128 (13.7)
60 歳以上	567 (60.8)
65～69歳	128 (13.7)
70歳以上	311 (33.3)
無回答	4 (0.4)

■年齢



1-3 居住地区（問3）

問3 あなたが住んでいる地区はどこですか。あてはまる番号 1 つに○を付けてください。

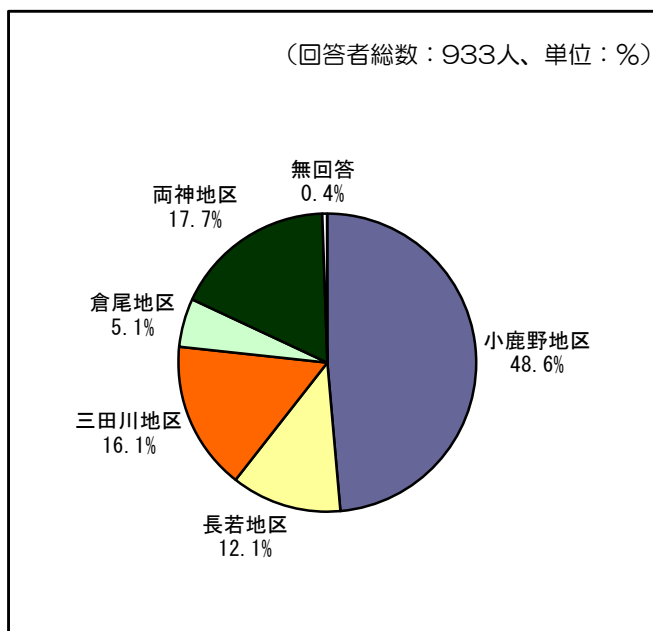
「小鹿野地区」が48.6%

居住地区については、「小鹿野地区」が48.6%、で最も多く、次いで「両神地区」が17.7%、「三田川地区」が16.1%で続いています。

■居住地区

区 分	人 (%)
回答者総数	933 (100.0)
小鹿野地区	453 (48.6)
長若地区	113 (12.1)
三田川地区	150 (16.1)
倉尾地区	48 (5.1)
両神地区	165 (17.7)
無回答	4 (0.4)

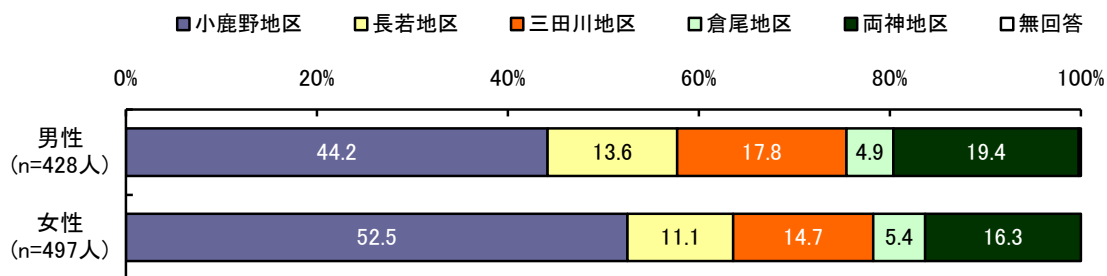
■居住地区



【性別】

これを性別にみると、女性は男性に比べて小鹿野地区の割合が高くなっています。

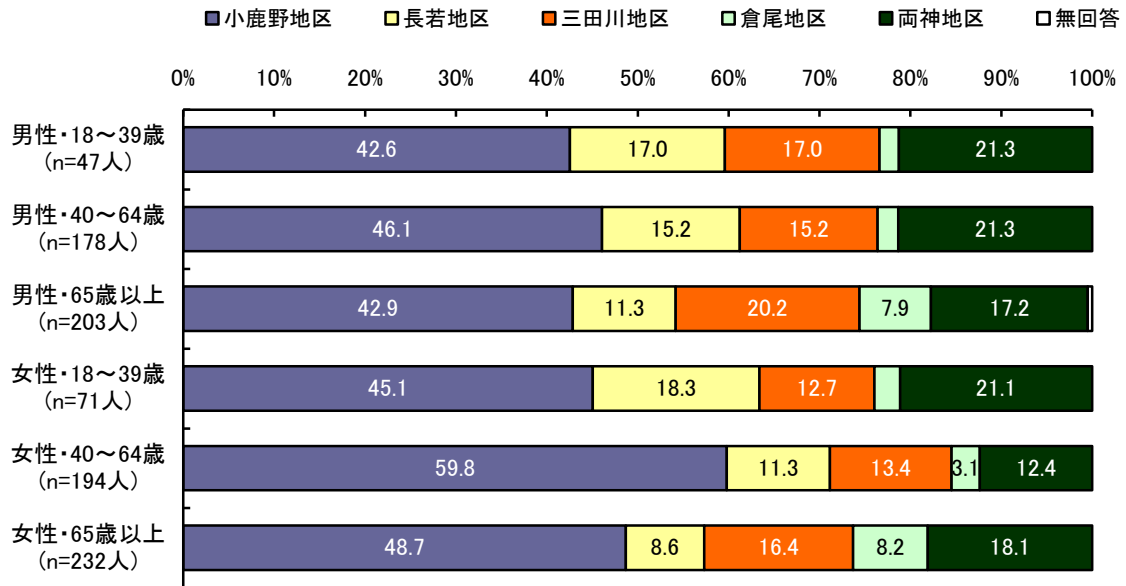
■性別にみた住地区



【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、女性の40～64歳は「小鹿野地区」の割合が高くなっています。

■性・年齢別にみた居住地区



1-4 世帯構成（問4）

問4 あなたの世帯の構成について、あてはまる番号1つに○を付けてください。

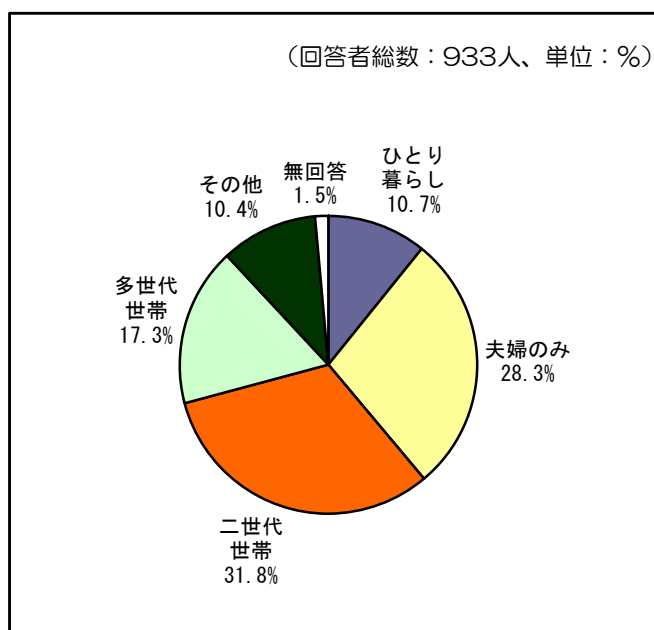
「二世帯世帯」が31.8%

世帯構成については、「二世帯世帯」が31.8%で最も多く、次いで「夫婦のみ」が28.3%、「多世代世帯」が17.3%が続いています。

■世帯構成

区 分	人 (%)
回答者総数	933 (100.0)
ひとり暮らし	100 (10.7)
夫婦のみ	264 (28.3)
二世帯世帯	297 (31.8)
多世代世帯	161 (17.3)
その他	97 (10.4)
無回答	14 (1.5)

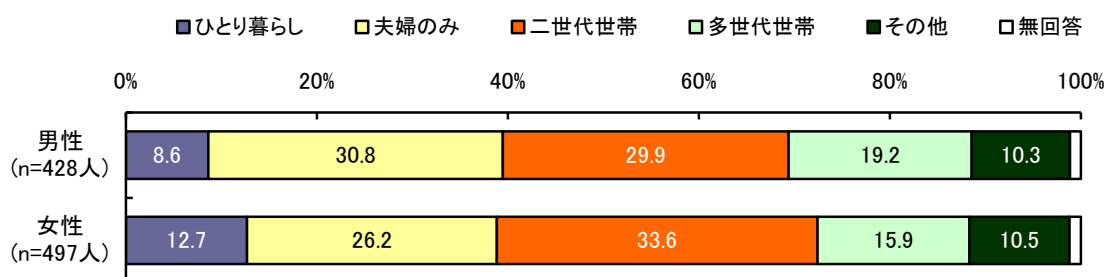
■世帯構成



【性別】

これを性別にみると、女性は男性に比べて「ひとり暮らし」及び「二世帯世帯」の割合が高くなっています。

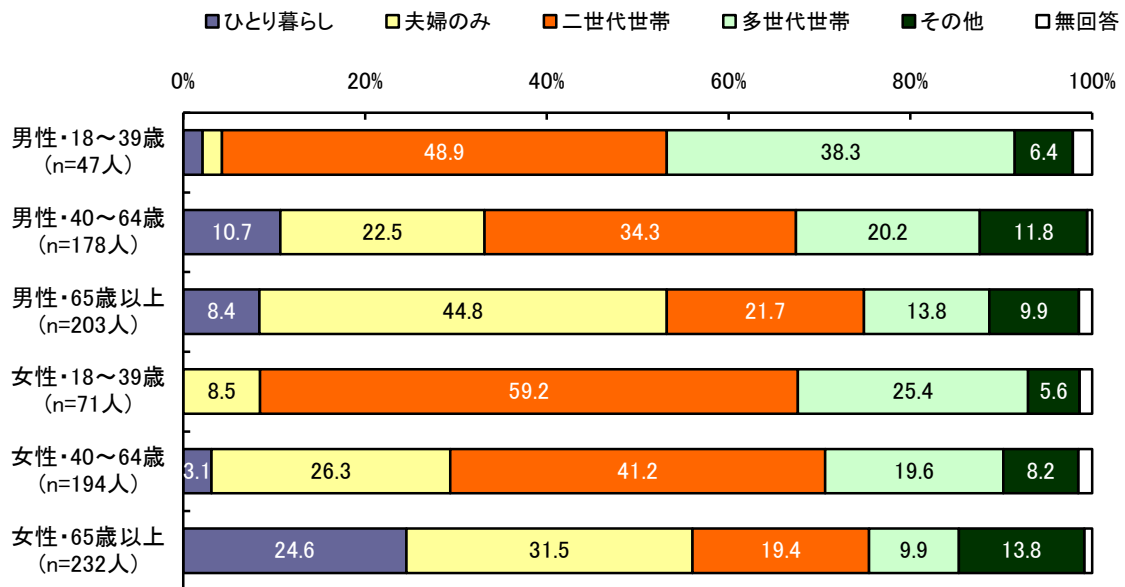
■性別にみた世帯構成



【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、女性の65歳以上は「ひとり暮らし」が24.6%と比較的多くみられます。

■性・年齢別にみた世帯構成



「考察」

○女性の65歳以上の4人に1人がひとり暮らしであるということは、生活交通の需要につながる事が考えられる。

1-5 職業（問5）

問5 あなたの職業（主たる収入源となっているもの）は何ですか。あてはまる番号 1 つに○を付けてください。

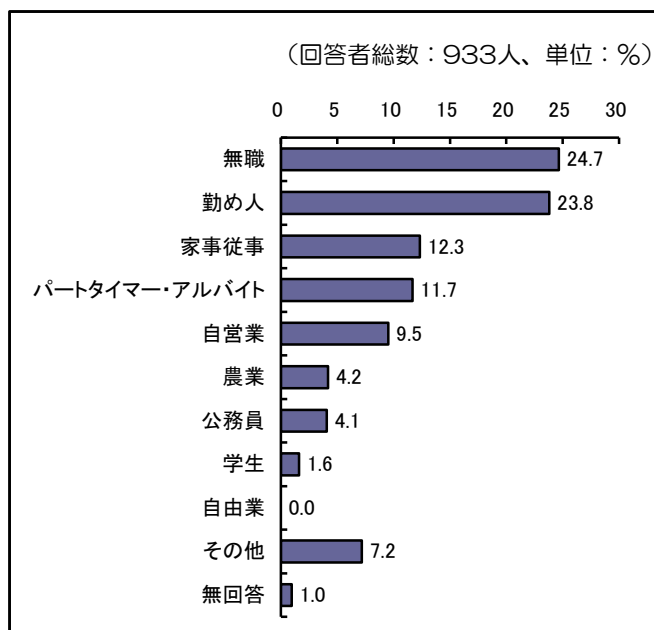
「無職」や「勤め人」が多い

職業については、「無職」が24.7%で最も多く、次いで「勤め人」が23.8%、「家事従事」が12.3%が続いています。

■職業

区 分	人 (%)
回答者総数	933 (100.0)
無職	230 (24.7)
勤め人	222 (23.8)
家事従事	115 (12.3)
パートタイマー・アルバイト	109 (11.7)
自営業	89 (9.5)
農業	39 (4.2)
公務員	38 (4.1)
学生	15 (1.6)
自由業	0 (0.0)
その他	67 (7.2)
無回答	9 (1.0)

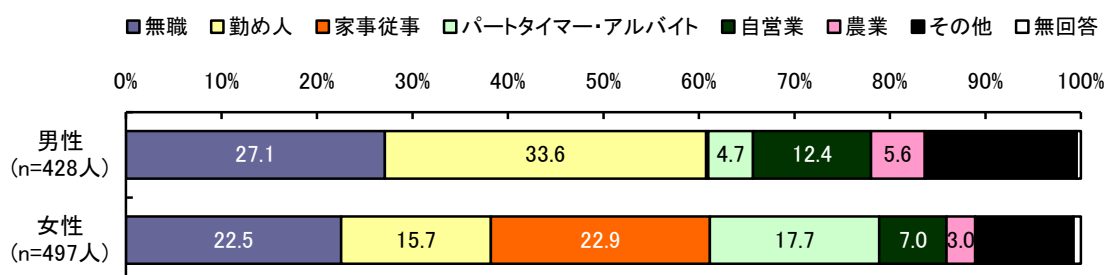
■職業



【性別】

これを性別にみると、男性は女性に比べて「無職」及び「勤め人」の割合が高く、女性は「家事従事」の割合が高くなっています。

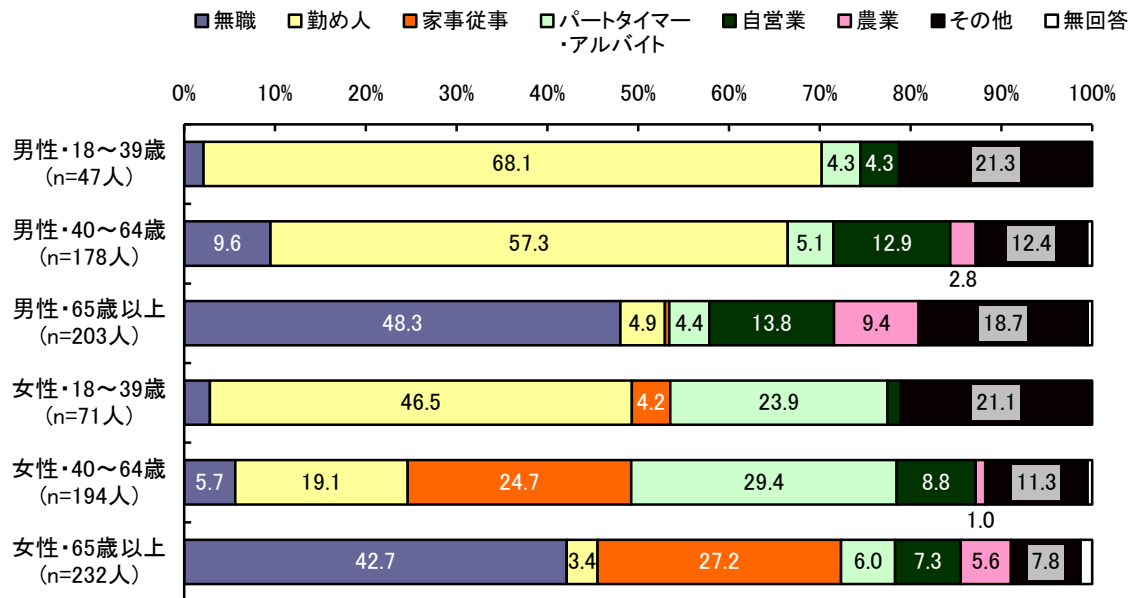
■性別にみた職業



【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性、女性ともに65歳以上は「無職」の割合が高くなっています。

■性・年齢別にみた職業



※図中、「その他」は「公務員」、「学生」、「自由業」を含みます。

「考察」

○「農業」の割合が男性の65歳以上は9.4%であるが、40～64歳では3%未満、40歳未満では0%であり、農業をめぐる後継者問題がうかがえる。

1-6 転入・転出の状況（問6）

問6 小鹿野町での定住もしくは転入・転出の状況は、次のどれですか。【1つ】

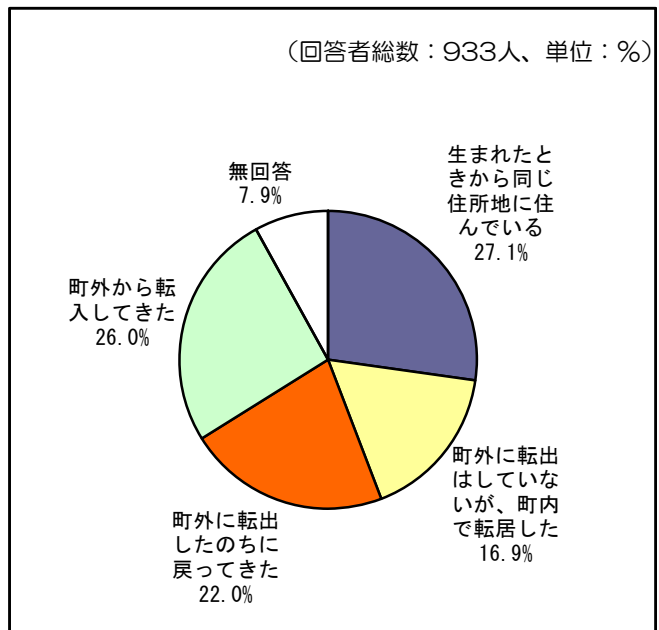
「生まれたときから同じ住所地に住んでいる」が27.1%

転入・転出の状況については、「生まれたときから同じ住所地に住んでいる」が27.1%で最も多くなっています。

■転入・転出の状況

区 分	人（%）
回答者総数	933（100.0）
生まれたときから同じ住所地に住んでいる	253（27.1）
町外に転出はしていないが、町内で転居した	158（16.9）
町外に転出したのちに戻ってきた	205（22.0）
町外から転入してきた	243（26.0）
無回答	74（7.9）

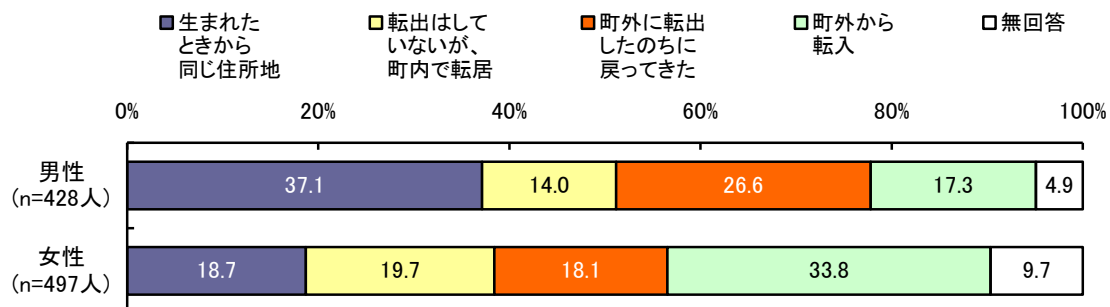
■転入・転出の状況



【性別】

これを性別にみると、男性は女性に比べて「生まれたときから同じ住所地」の割合が高く、女性は「町外から転入」の割合が高くなっています。

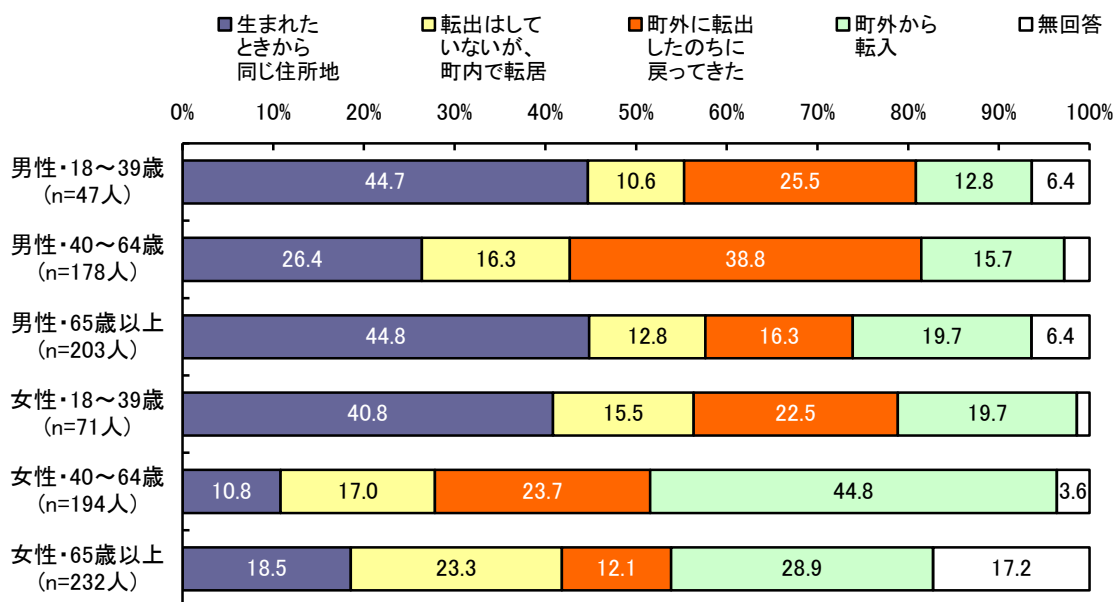
■性別にみた転入・転出の状況



【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、女性の40歳以上は「生まれたときから同じ所在地」の割合が他の回答者に比べて低くなっています。また、男性の40～64歳は「町外に転出したのちに戻ってきた」の割合が他の回答者に比べて高くなっています。

■性・年齢別にみた転入・転出の状況



「考察」

- 男性の40～64歳の4割（38.8%）がUターン。大学等に進学して帰ってくるパターンがうかがえる。この割合を増やしていくことがまちづくりの上で重要になる。
- 女性の18～64歳の2割以上がUターンである。仮に、戻ってきた際に子育て世帯であるとすれば、子育て支援、経済的・就労環境のニーズになる可能性がある。

1-7 転入者の居住年数（問6-1）

問6-1 あなたは、小鹿野町に住んで何年くらいになりますか。Uターンの方は、通算の年数でお答えください。【1つ】

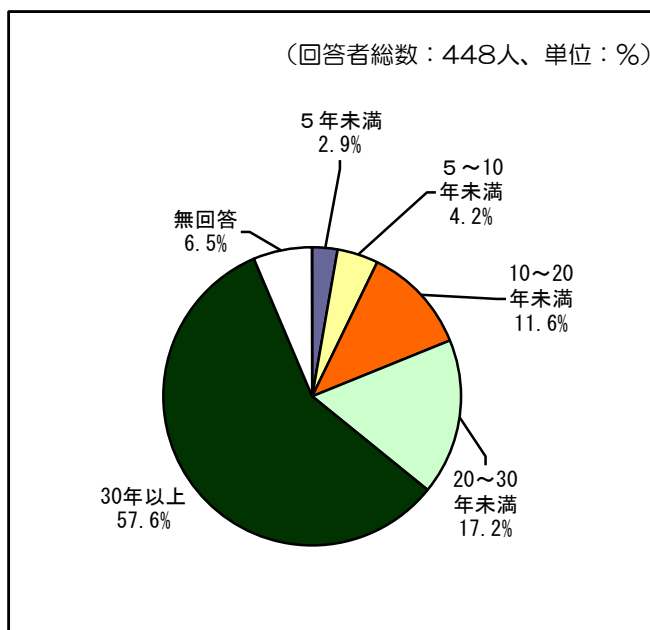
「30年以上」が79.6%

問6で“町外から転入”と回答した448人に対し、居住年数については、「30年以上」が57.6%で最も多く、次いで「20～30年未満」が17.2%、「10～20年未満」が11.6%、「5～10年未満」が4.2%、「5年未満」が2.9%、「無回答」が6.5%で続いています。

■転入者の居住年数

区 分	人（%）
回答者総数	448（100.0）
5年未満	13（2.9）
5～10年未満	19（4.2）
10～20年未満	52（11.6）
20～30年未満	77（17.2）
30年以上	258（57.6）
無回答	29（6.5）

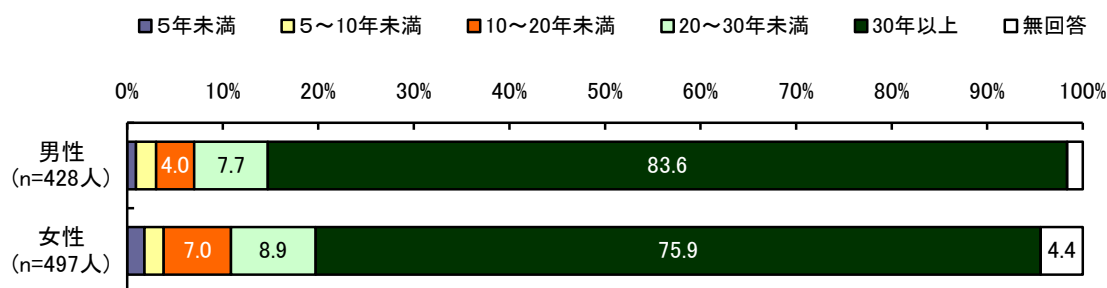
■転入者の居住年数



【性別】

これを性別にみると、女性は男性に比べて「10～20年未満」の割合が高くなっています。

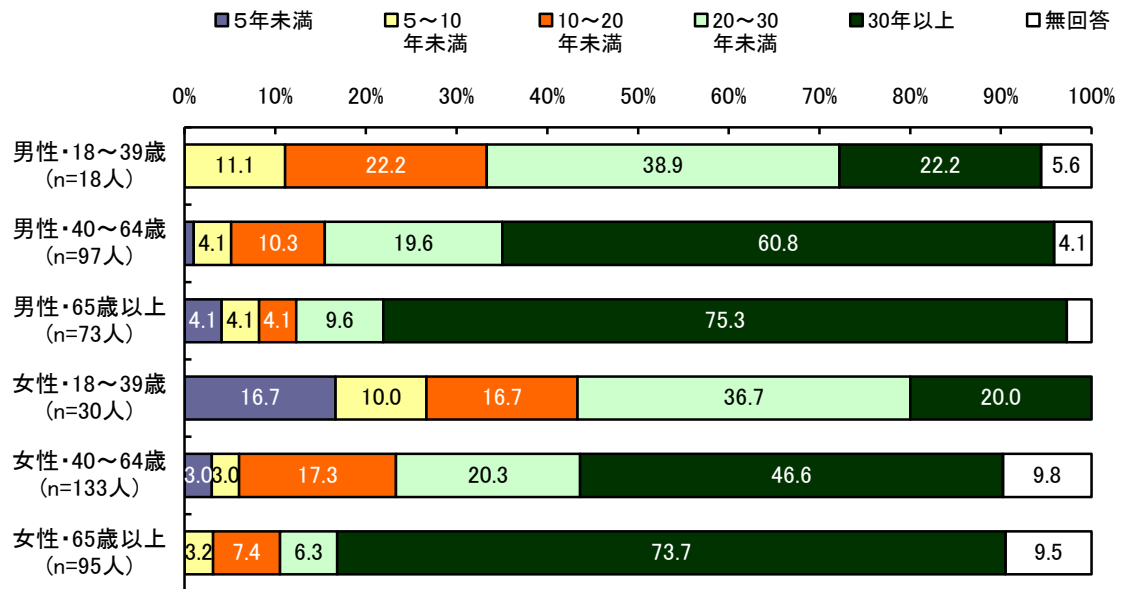
■性別にみた転入者の居住年数



【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性、女性ともに年齢層が高くなるほど「30年以上」の割合が高くなる傾向がみられます。

■性・年齢別にみた転入者の居住年数



1-8 転入前の居住地（問6-2）

問6-2 あなたは、現在の住所地に転入する前にどちらに住んでいましたか。【1つ】

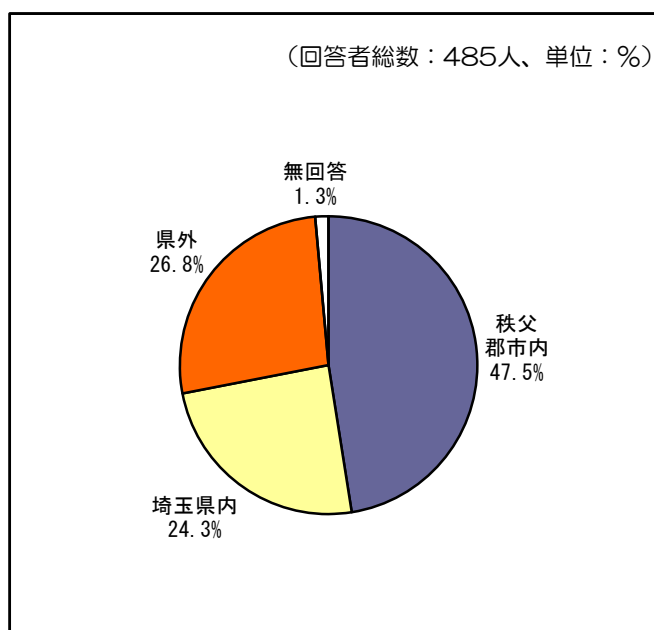
「秩父郡市内」が47.5%

問6で“町外から転入”と回答した448人に対し、転入前の居住地について聞いたところ、「秩父郡市内」が47.5%、「埼玉県内」が24.3%、「県外」が26.8%となっています。

■転入前の居住地

区 分	人 (%)
回答者総数	448 (100.0)
秩父郡市内	213 (47.5)
埼玉県内	109 (24.3)
県外	120 (26.8)
無回答	6 (1.3)

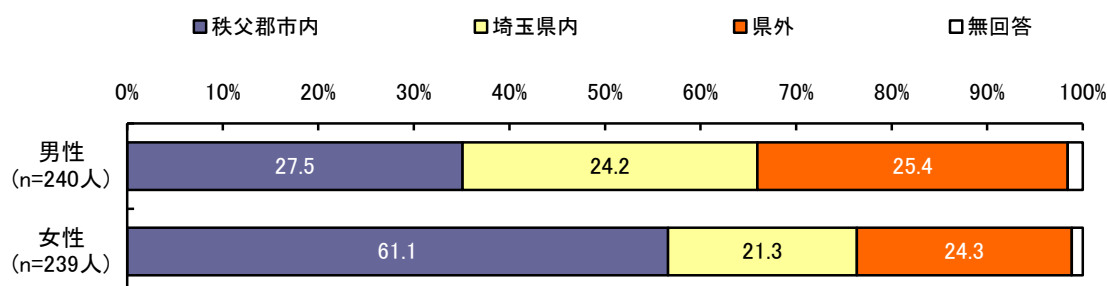
■転入前の居住地



【性別】

これを性別にみると、女性は男性に比べて「秩父郡市内」の割合が高くなっています。

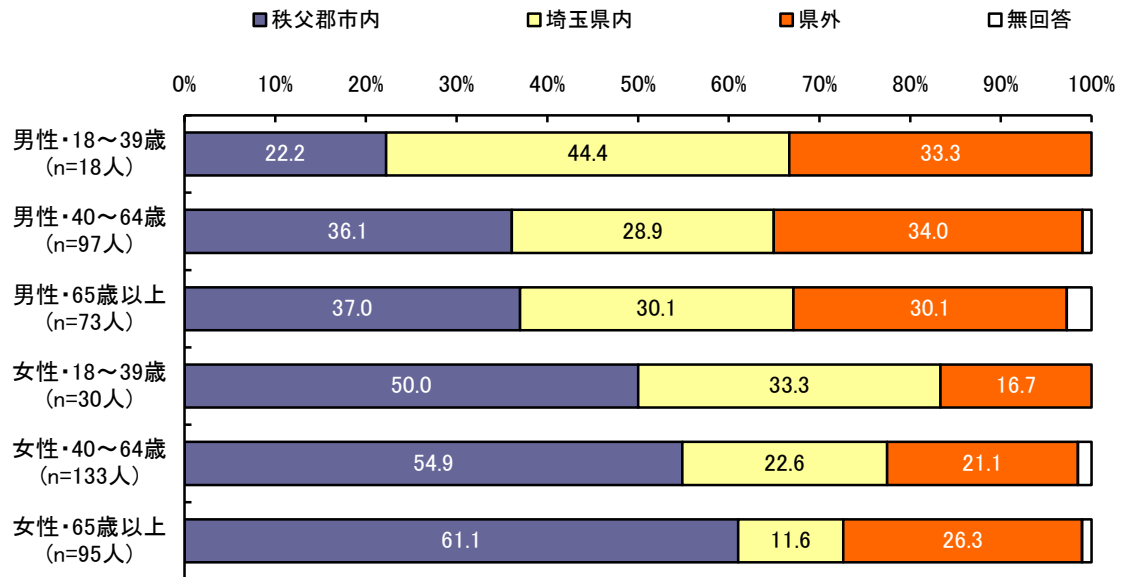
■性別にみた転入前の居住地



【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、女性は男性に比べて「秩父郡市内」の割合が高くなっています。

■性・年齢別にみた転入前の居住地



「考察」

○女性は秩父郡市内からのUIターンが多く、秩父郡市内で出会って結婚するパターンが多いと考えられる。このパターンは年齢が若くなるにしたがって徐々に減ってはいるが、18～39歳でなお半分。群市内での結婚支援が地域性に合致していると考えられる。

1-9 普段の買い物の場所（問7）

問7 あなたは、普段の生活の中で、主に買い物をどこで行いますか。【1つ】

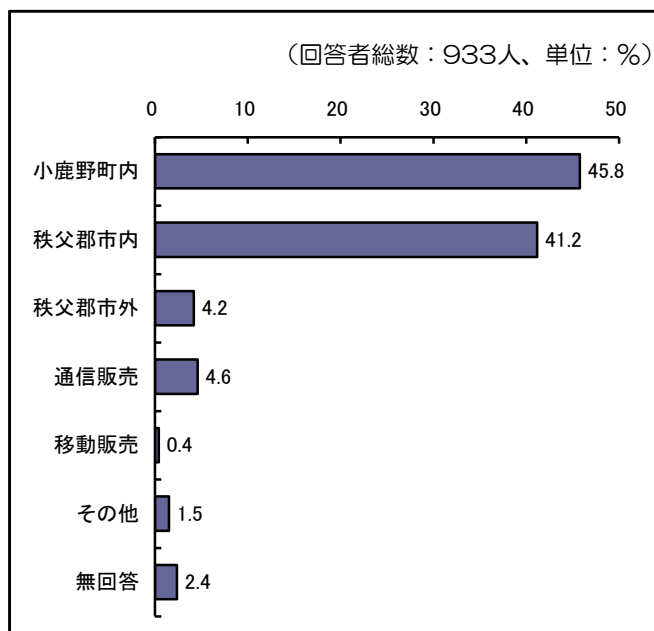
「小鹿野町内」が45.8%

普段の買い物の場所については、「小鹿野町内」が45.8%で最も多く、次いで「秩父郡市内」が41.2%が続いています。

■ 普段の買い物の場所

区 分	人 (%)
回答者総数	933 (100.0)
小鹿野町内	427 (45.8)
秩父郡市内	384 (41.2)
秩父郡市外	39 (4.2)
通信販売	43 (4.6)
移動販売	4 (0.4)
その他	14 (1.5)
無回答	22 (2.4)

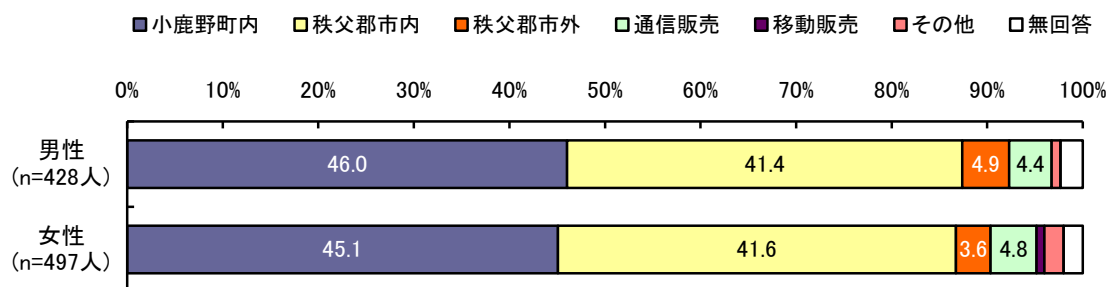
■ 普段の買い物の場所



【性別】

これを性別にみると、特に顕著な違いはみられません。

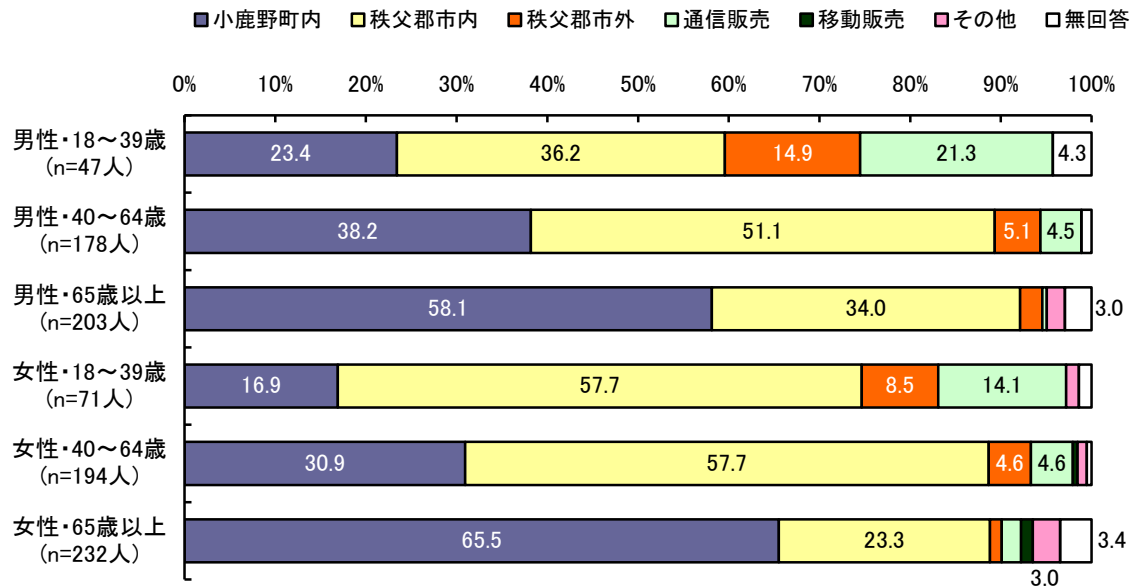
■ 性別にみた普段の買い物の場所



【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性、女性ともに年齢層が高くなるほど「小鹿野町内」の割合が高くなる傾向がみられます。

■性・年齢別にみた普段の買い物の場所



「考察」

○普段の買い物の場所（問 7）では、男性、女性ともに 18～39 歳は通販が多い半面、65 歳以上（特に女性）は「町内」が多い。高齢者等の買い物支援のニーズがうかがえる。

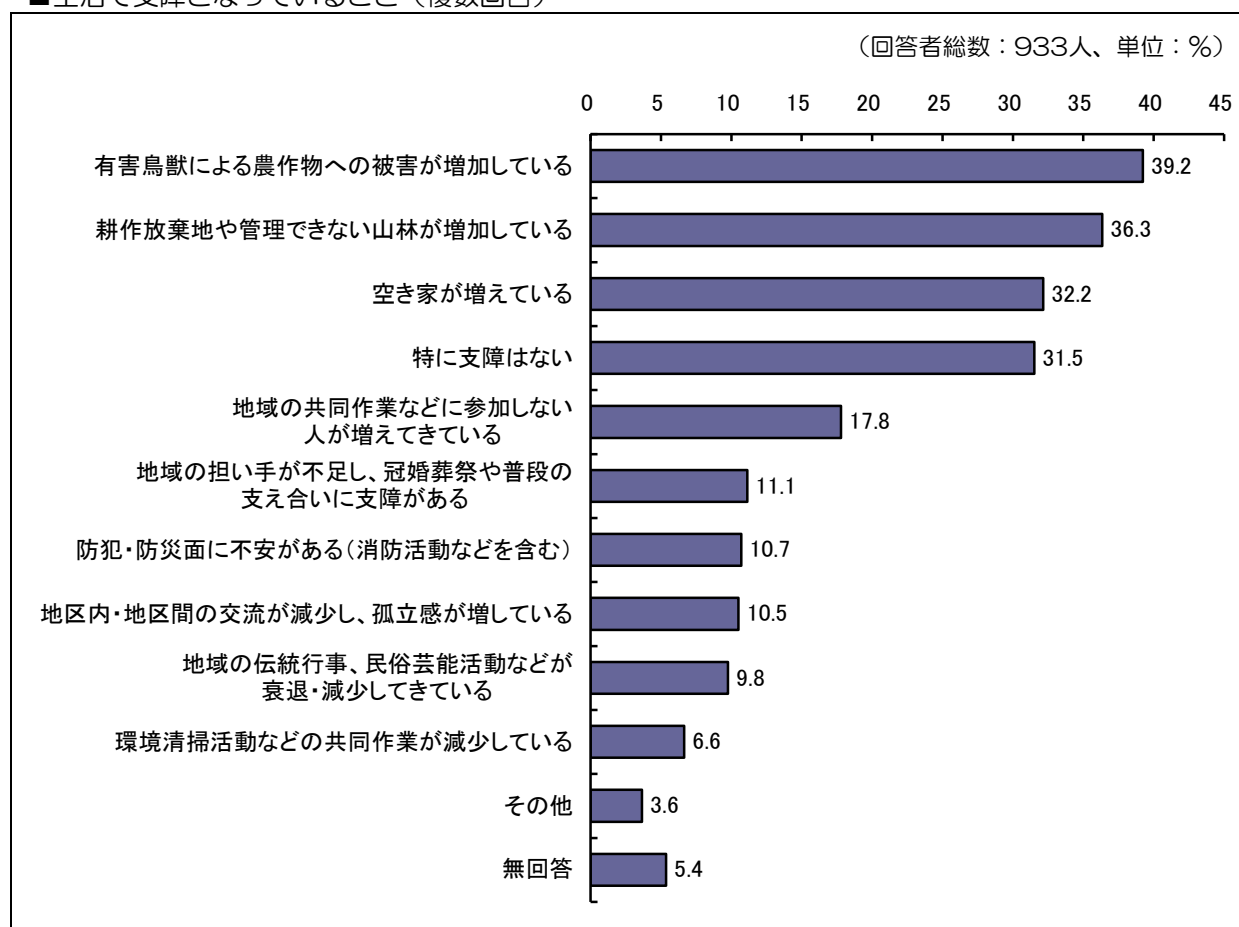
1-10 生活で支障となっていること（問8）

問8 あなたのお住まいになっている地区では、住民生活に何か支障がでていますか。あてはまる番号すべてに○を付けてください。

「有害鳥獣による農作物への被害」や「耕作放棄地や管理できない山林が増加」が多い

生活で支障となっていることについては、「有害鳥獣による農作物への被害が増加している」が39.2%で最も多く、次いで「耕作放棄地や管理できない山林が増加している」が36.3%、「空き家が増えている」が32.2%が続いています。

■生活で支障となっていること（複数回答）



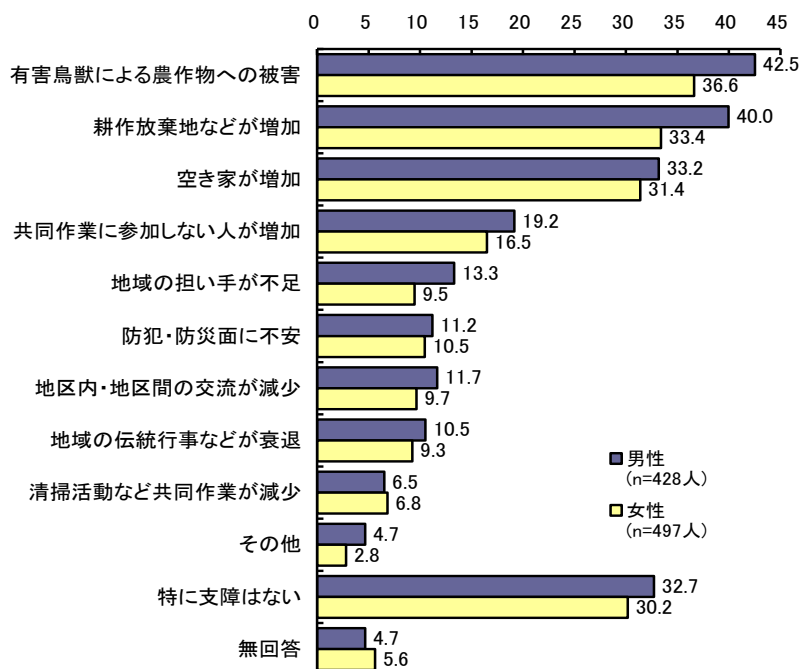
■生活で支障となっていること（複数回答）

区 分	人（％）
回答者総数	933（100.0）
有害鳥獣による農作物への被害が増加している	366（39.2）
耕作放棄地や管理できない山林が増加している	339（36.3）
空き家が増えている	300（32.2）
特に支障はない	294（31.5）
地域の共同作業などに参加しない人が増えてきている	166（17.8）
地域の担い手が不足し、冠婚葬祭や普段の支え合いに支障がある	104（11.1）
防犯・防災面に不安がある（消防活動などを含む）	100（10.7）
地区内・地区間の交流が減少し、孤立感が増している	98（10.5）
地域の伝統行事、民俗芸能活動などが衰退・減少してきている	91（9.8）
環境清掃活動などの共同作業が減少している	62（6.6）
その他	34（3.6）
無回答	50（5.4）

【性別】

これを性別にみると、男性は女性に比べて「有害鳥獣による農作物への被害」や「耕作放棄地などが増加」の割合が高くなっています。

■性別にみた生活で支障となっていること（複数回答）

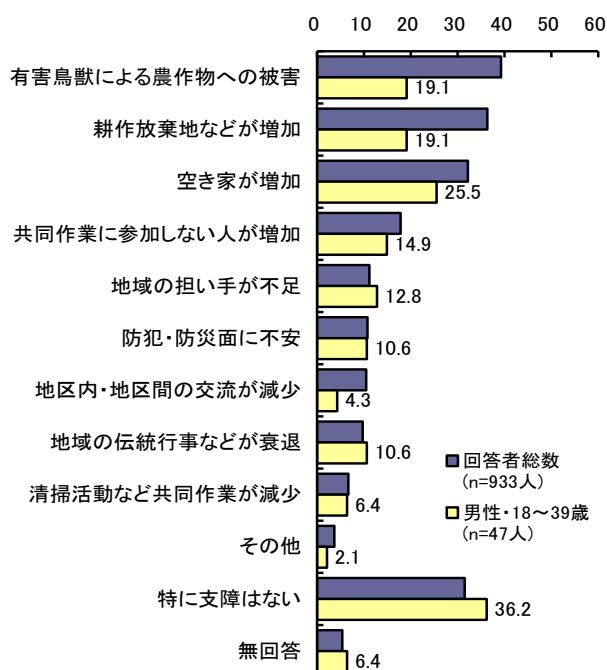


【性・年齢別】

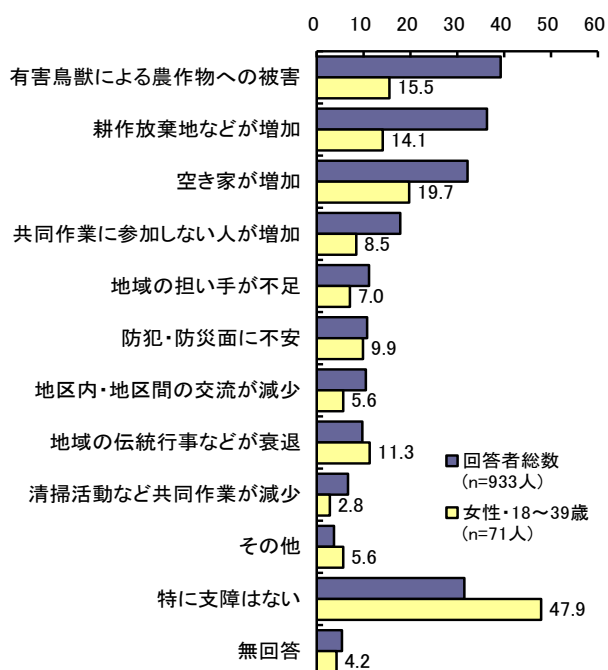
これを性・年齢別にみると、男性の40歳以上は「有害鳥獣による農作物への被害」及び「耕作放棄地などが増加」の割合が他の回答者に比べて高くなっています。

■性・年齢別にみた生活で支障となっていること（複数回答）

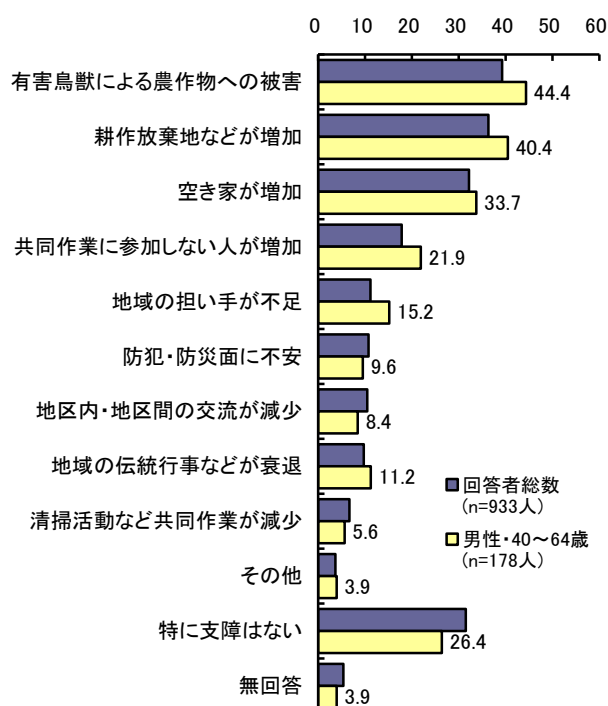
①男性・18～39歳



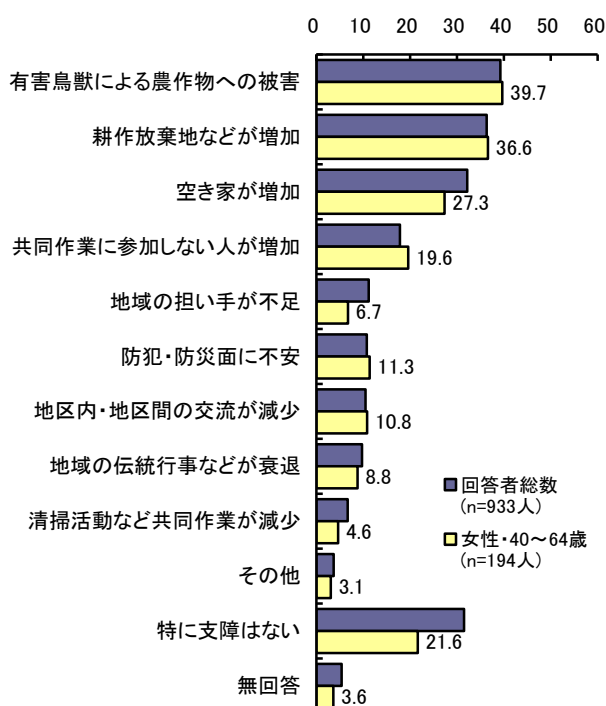
④女性・18～39歳



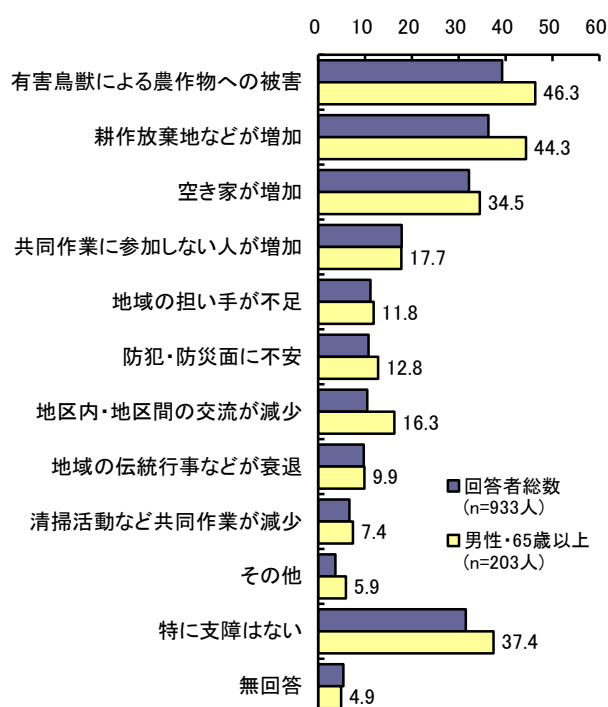
②男性・40～64歳



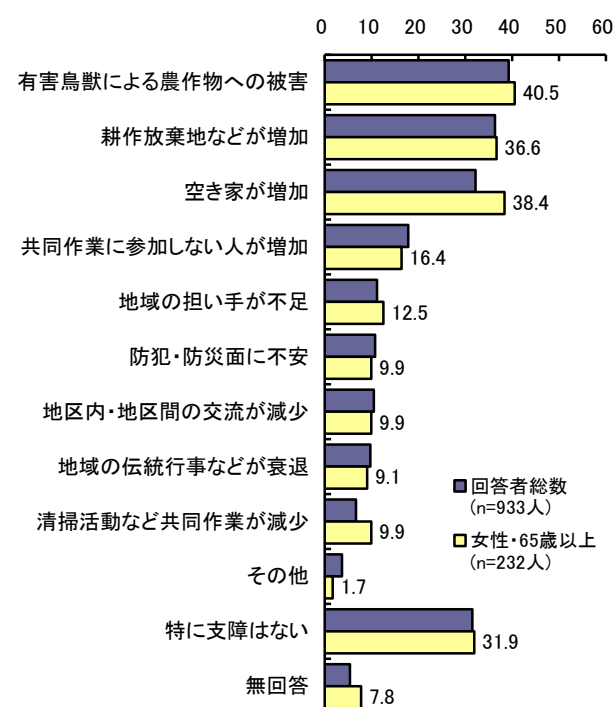
⑤女性・40～64歳



③男性・65歳以上



⑥女性・65歳以上



「考察」

- 人口減少等によって「耕作放棄地」「管理できない山林」「空き家」が増加し、それらが有害鳥獣のすみかや隠れ場所となることで「有害鳥獣による被害」も増加していることが考えられる。
- 有害鳥獣駆除対策の必要性ももちろんのことであるが、被害を引き起こす原因に対する対策も講じる必要がある。

第2節 町への愛着やまちづくりへの参加について

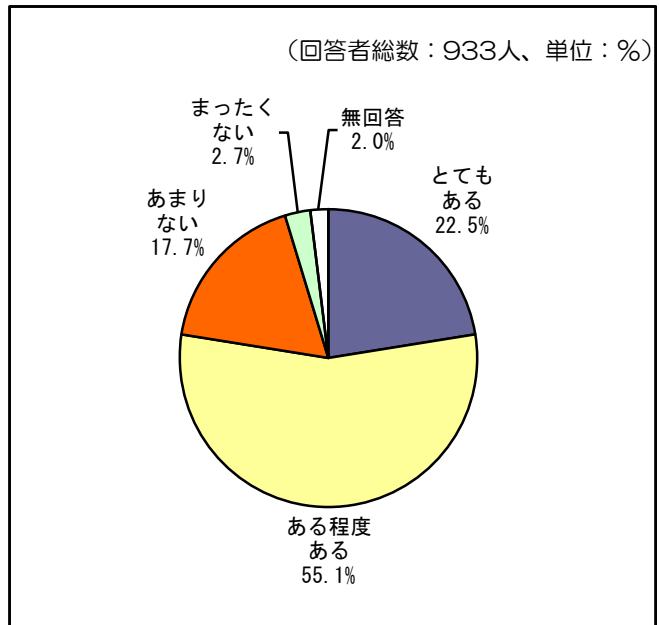
2-1 町への愛着の有無（問9）

問9 あなたは、小鹿野町に「わがまち」といった愛着（地元愛）をもっていますか。あてはまる番号1つに○を付けてください。

“ある” が77.6%

町への愛着の有無については、「とてもある」が22.5%、「ある程度ある」が55.1%であり、これらを合わせると77.6%が“ある”と回答しています。

■町への愛着の有無



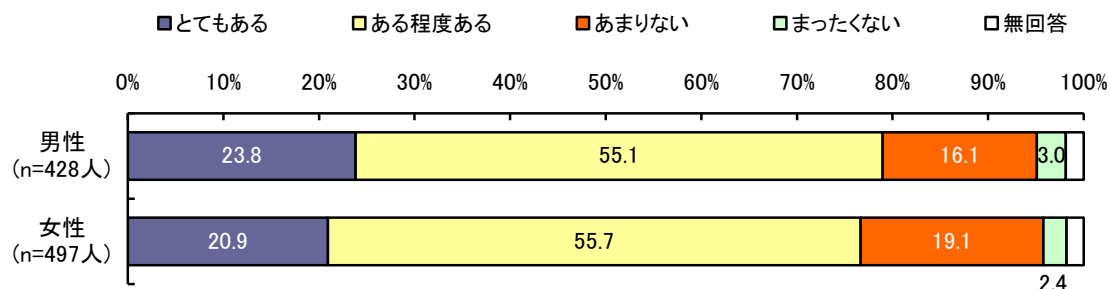
■町への愛着の有無

区 分	人 (%)
回答者総数	933 (100.0)
とてもある	210 (22.5)
ある程度ある	514 (55.1)
あまりない	165 (17.7)
まったくない	25 (2.7)
無回答	19 (2.0)

【性別】

これを性別にみると、男性は女性に比べて「とてもある」の割合がやや高くなっています。

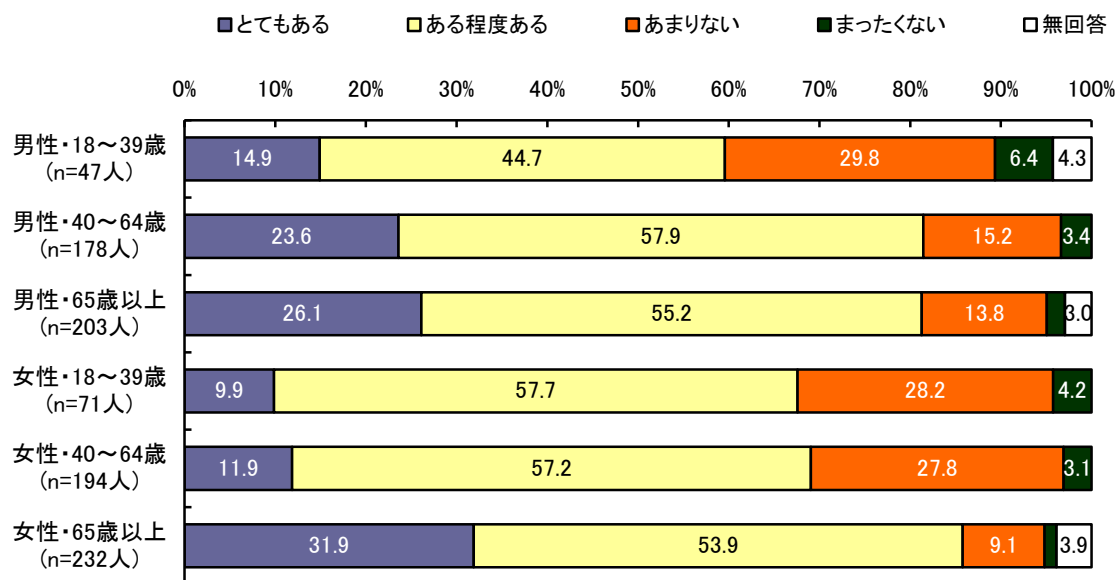
■性別にみた町への愛着の有無



【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性、女性ともに年齢層が高くなるにしたがって「とてもある」の割合が高くなる傾向がみられます。

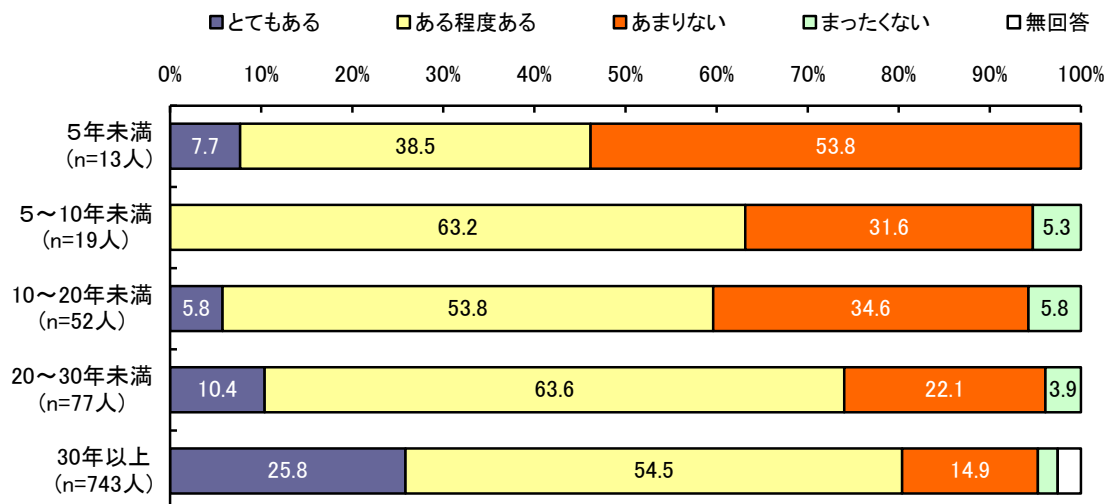
■性・年齢別にみた町への愛着の有無



【居住年数別】

これを居住年数別にみると、居住年数が長くなるにしたがって「とてもある」の割合が高くなる傾向がみられます。

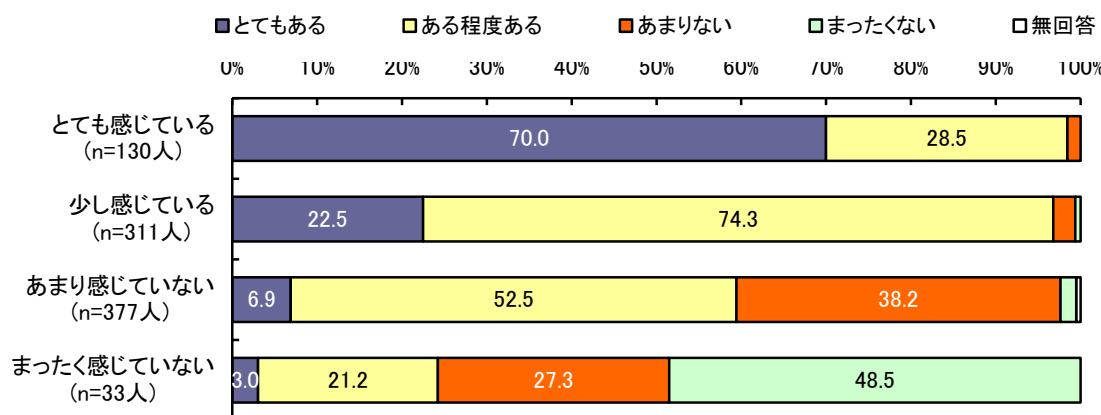
■居住年数別にみた町への愛着の有無



【町の良さを感じているか（問10（1））別】

これを町の良さを感じているか（問10（1））にみると、とても感じている人は他の回答者に比べて「とてもある」の割合が高くなっています。

■町の良さを感じているか（問10（1））別にみた町への愛着の有無



「考察」

- 女性の18～39歳の「とてもある」の割合が低く、若い女性が町に愛着を持てるようなまちづくりが求められる。
- 居住年数と愛着心の相関が強い。これは、町外から転入した人の愛着心が低い傾向にあることと重なっている。そのため、子どもが地域と関わる機会の提供や転入者が地域コミュニティに溶け込んでいけるための取組などによって居住年数が短くても愛着を感じられるような支援が求められる。
- 町の良さを感じているか（問10（1））別にみると、町の良さを「とても感じている」人は7割が愛着を強く持っているものの、「少し感じている」程度では愛着を強く持つ人は2割程度にとどまっている。このことから、町の良さについては、「少し感じる」程度ではなく、「強く感じる」ほどにアピールできる取組が大切になる。

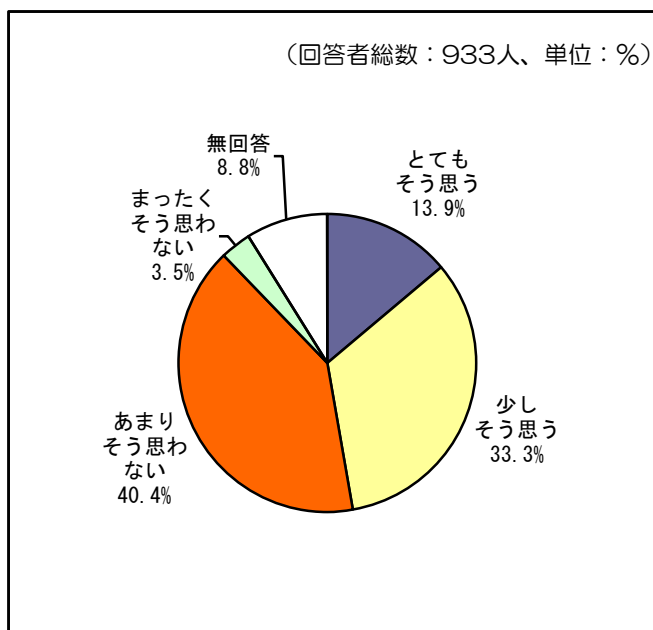
2-2 町の良さを満喫しながら暮らしているか（問10（1））

問 10 小鹿野町での生活や今後のことについて、あなたのお気持ちに最も近いもの1つに○をつけて下さい。（1）小鹿野町の良さを満喫しながら暮らしている

“そう思う” が47.2%

町の良さを満喫しながら暮らしているかについては、「とてもそう思う」が13.9%、「少しそう思う」が33.3%であり、これらを合わせると“そう思う”が47.2%（441人）となっています。

■町の良さを満喫しながら暮らしているか



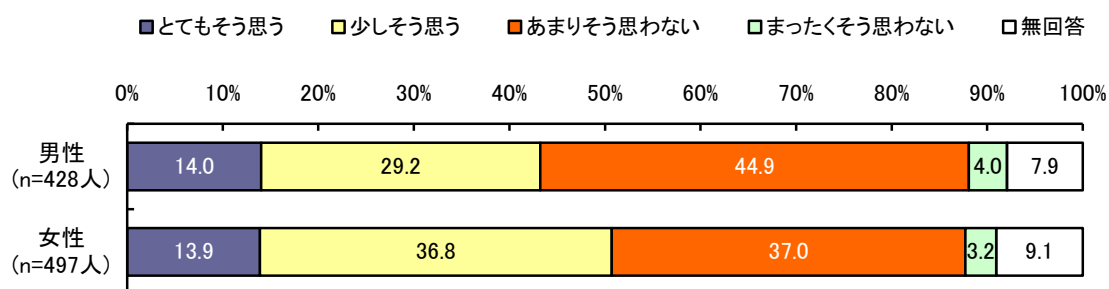
■町の良さを満喫しながら暮らしているか

区 分	人（％）
回答者総数	933（100.0）
とてもそう思う	130（13.9）
少しそう思う	311（33.3）
あまりそう思わない	377（40.4）
まったくそう思わない	33（3.5）
無回答	82（8.8）

【性別】

これを性別にみると、女性は男性に比べて「少し思う」の割合が高くなっています。

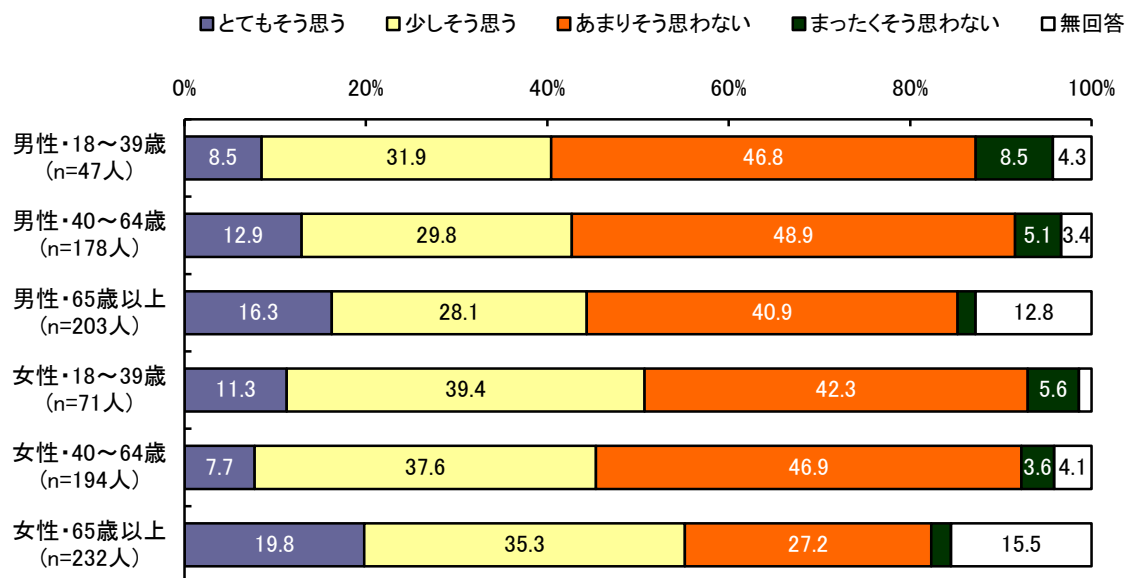
■性別にみた町の良さを満喫しながら暮らしているか



【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、どの年齢層も“そう思う”の割合が4～6割となっています。

■性・年齢別にみた町の良さを満喫しながら暮らしているか



※町の良さについての具体的な内容（問10（1）付問）

付問 あなたにとって、小鹿野町の良さとは何ですか。下の枠内にご自由にお書き下さい。

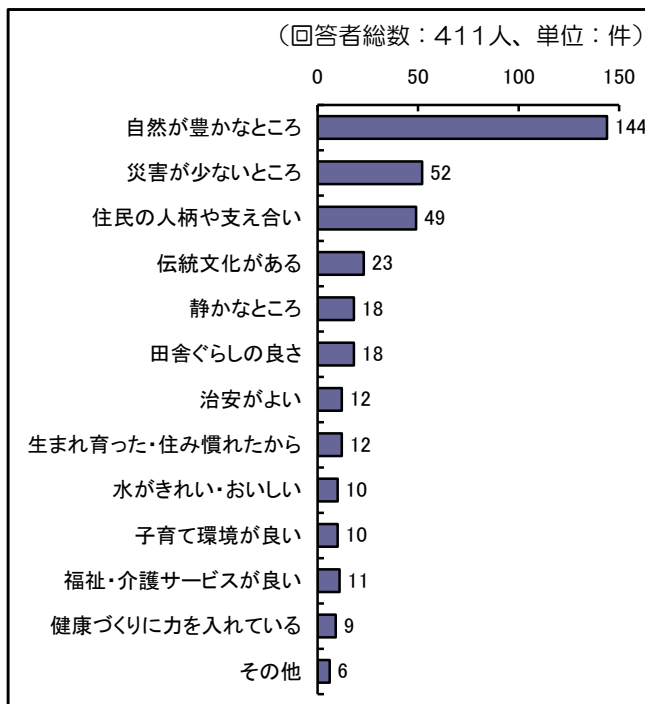
「自然が豊か」、「災害が少ない」、「住民の人柄や支え合い」などが比較的多い

町の良さを満喫しながら暮らしているかについて“そう思う”と回答した411人に対し、その具体的な内容について記述していただきました。

その内容を分類・集計したところ、「自然が豊かなところ」が145件で最も多く、次いで「災害が少ないところ」が51件、「住民の人柄や支え合い」が33件で続いています。

なお、主な意見は次の通りです。一人の回答者が自然、災害、住民の人柄など複数の内容について記述している内容が多く、各要素が調和している点が小鹿野町の良さとなっているようすがうかがえました。

■町の良さについての具体的な内容



【主な意見の内容】

①「自然環境が豊かなところ」に関する意見

- 四季の移り変わりが素晴らしい。新緑・紅葉花、人間が素朴で素直。
- 山柴水明の地と言う言葉通り良い環境に恵まれ、そして人間も素朴で人情に厚く、交通量もあまり多くなく、住み良いし本当に良い町だ。
- 自然が豊かで災害も少なく、近所の人達とのつながりもあり、毎日穏やかに過ごせている。
- 都会に比べ空気がきれい、時の流れが緩やかで親切な人が多い。

②「災害が少ないところ」に関する意見

- 全国各地で災害が度々起きているが、小鹿野町はそういう事がないので安心して生活できる。
- 自然災害が少なく、地域の共同作業ができ、コミニティーもできている。

③「住民の人柄や支え合い」

- 善意に満ち行動力ある方が多いと実感する。
- 春夏秋冬、時期の伝統行事を大切に、人のつながりを保って生活されている。
- 長年の付き合いの人達が多いので、大変気心が知れてとても暮らしやすいです。

④「伝統文化がある」

- 昔からの行事や、お祭りなど若い人が努力している。
- 地域の活動が活発で、昔ながらの祭りや文化が言い伝えられている。
- 豊かな自然・文化・温かい人間関係等、とても人間らしく暮して行けるところ。

2-3 町の活性化のための協力への意向（問10（2））

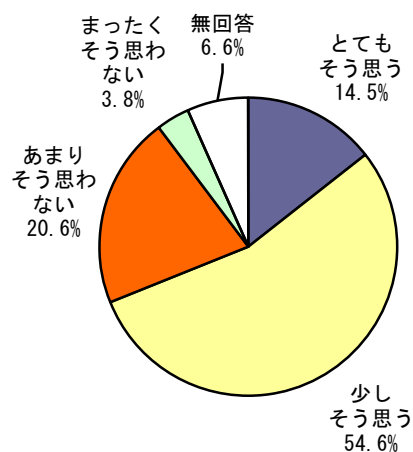
（2）町の活性化のために協力できることがあればしてみたい

“そう思う” が69.1%

町の活性化のための協力への意向については、「とてもそう思う」が14.5%、「少しそう思う」が54.6%であり、これらを合わせると69.1%が“そう思う”と回答しています。

■町の活性化のための協力への意向

（回答者総数：933人、単位：％）



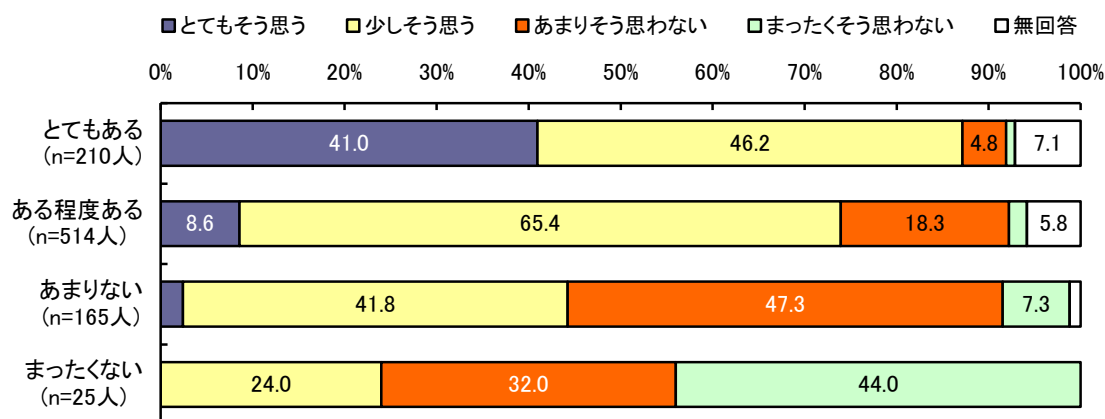
■町の活性化のための協力への意向

区 分	人 (%)
回答者総数	933 (100.0)
とてもそう思う	135 (14.5)
少しそう思う	509 (54.6)
あまりそう思わない	192 (20.6)
まったくそう思わない	35 (3.8)
無回答	62 (6.6)

【愛着心の有無（問9）別】

これを愛着心の有無（問9）別にみると、愛着心が「とてもある」人のうち4割が活性化のための協力のについてとても「そう思う」と回答しています。

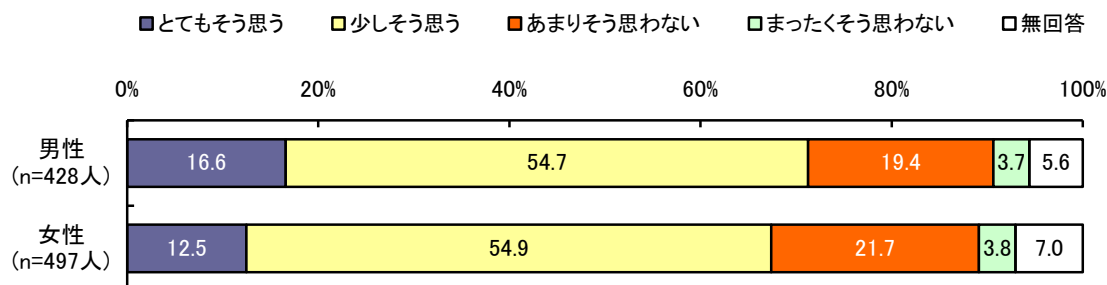
■愛着心の有無（問9）別にみた町の活性化のための協力への意向



【性別】

これを性別にみると、男性は女性に比べて「とてもそう思う」の割合が高くなっています。

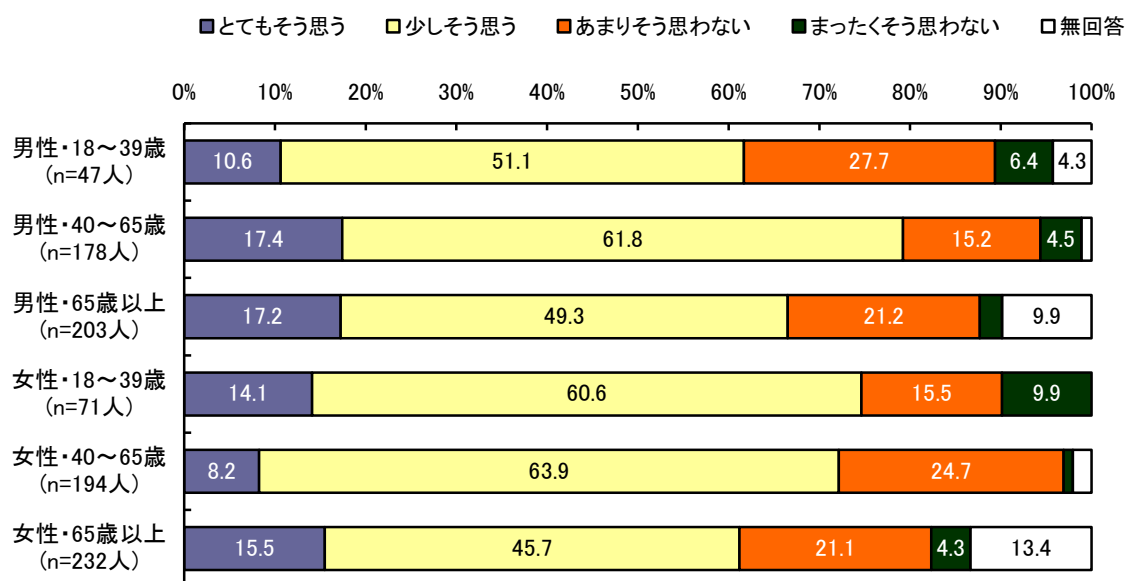
■性別にみた町の活性化のための協力への意向



【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性の40～64歳は“そう思う”の割合が他の回答者に比べて高くなっています。

■性・年齢別にみた町の活性化のための協力への意向



「考察」

- 各年代で「とてもそう思う」人がいるのは、心強い結果であり、様々な人たちが無理なく参加できる形を整えることが大切である。若年層の人でも気軽に参加できるよう、時間的配慮や気軽な雰囲気づくりなど、最初の第一歩を踏み出しやすくする工夫が大切である。
- 愛着心（問9）別では、愛着心がとてもある人では4割が協力の意向を示しており、愛着心が「とてもある」人を増やすことによって、まちづくりに協力する人材が育成されていく可能性がうかがえる。

2-4 地域運営組織に関する考え（問11）

問 11 今後の人口減少を踏まえ、財政状況が厳しくなることが見込まれる中で、町で全ての課題に対応していくことが難しくなっていくと予想されます。そのため、住民主体の「地域運営組織」による取り組みが各地で行われています。あなたは、ご自分が地域運営組織に参加することについて、どのようにお考えですか。あてはまる番号1つに○を付けてください。

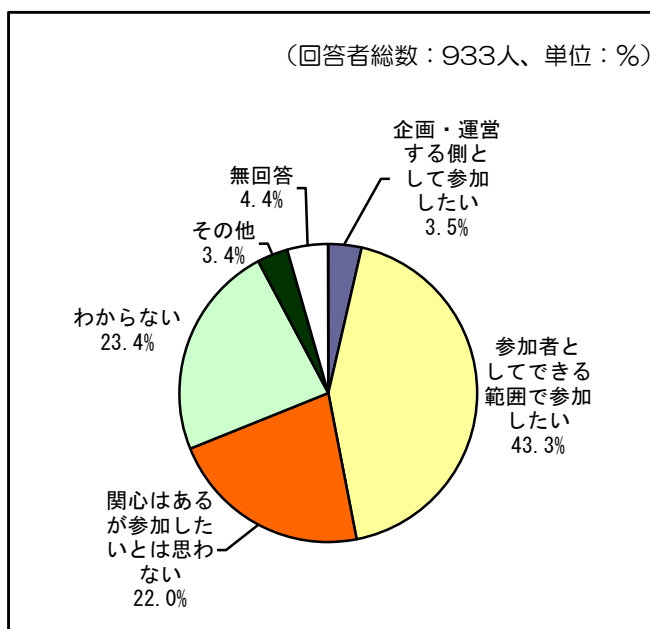
“参加したい”が46.8%

地域運営組織に関する考えについては、「企画・運営する側として参加したい」が3.5%、「参加者としてできる範囲で参加したい」が43.3%であり、これらを合わせると46.8%が“参加したい”と回答しています。

■地域運営組織に関する考え

区 分	人 (%)
回答者総数	933 (100.0)
企画・運営する側として参加したい	33 (3.5)
参加者としてできる範囲で参加したい	404 (43.3)
関心はあるが参加したいとは思わない	205 (22.0)
わからない	218 (23.4)
その他	32 (3.4)
無回答	41 (4.4)

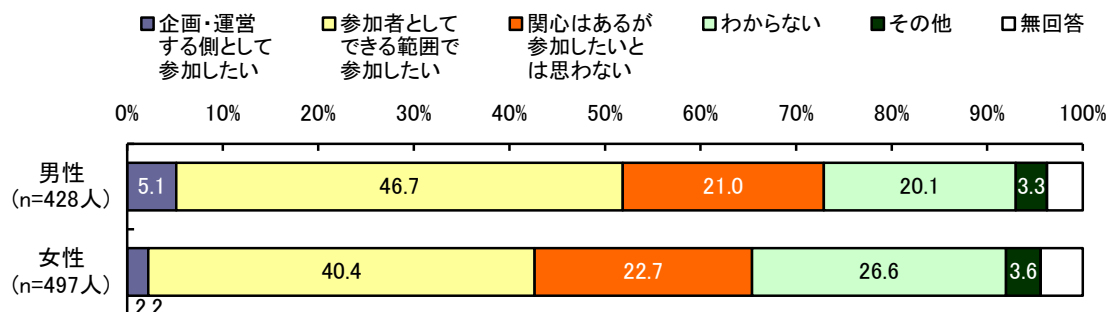
■地域運営組織に関する考え



【性別】

これを性別にみると、男性は女性に比べて“参加したい”の割合が高くなっています。

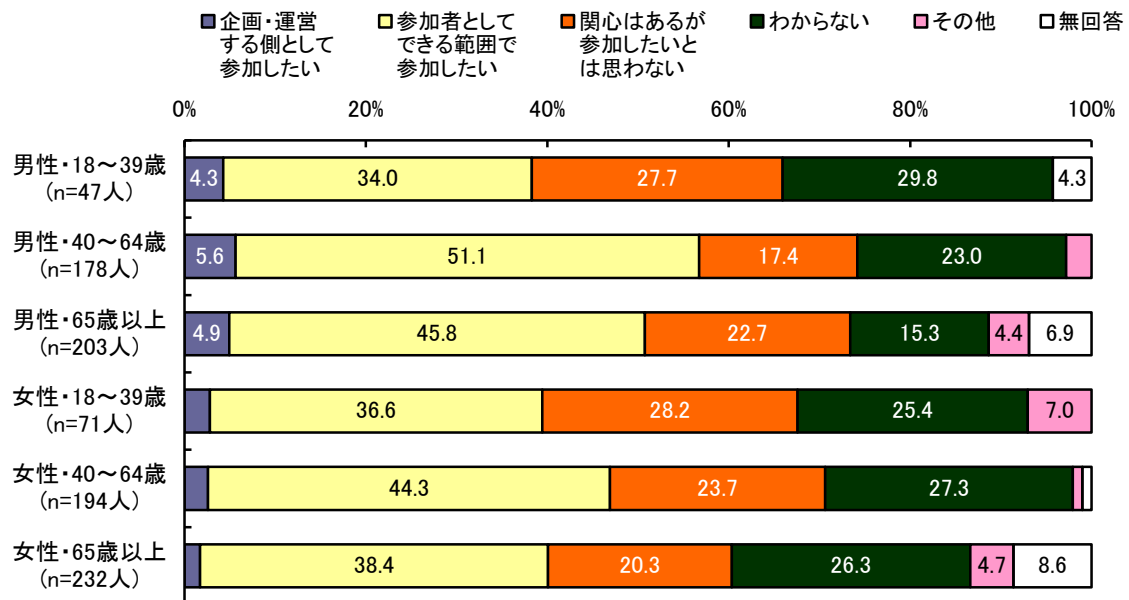
■性別にみた地域運営組織に関する考え



【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性の40～64歳は“参加したい”の割合が他の回答者に比べて高くなっています。

■性・年齢別にみた地域運営組織に関する考え



「考察」

○企画・運営する側として参加したい人はどの地区にでもいる。今後、地域福祉活動計画・地域福祉活動計画と連携し、各地区においてキーパーソンの掘り起こしと育成を行っていく事が求められている。

第3節 町の住みごこちや取組への評価

3-1 生活環境や取組への評価（問12）

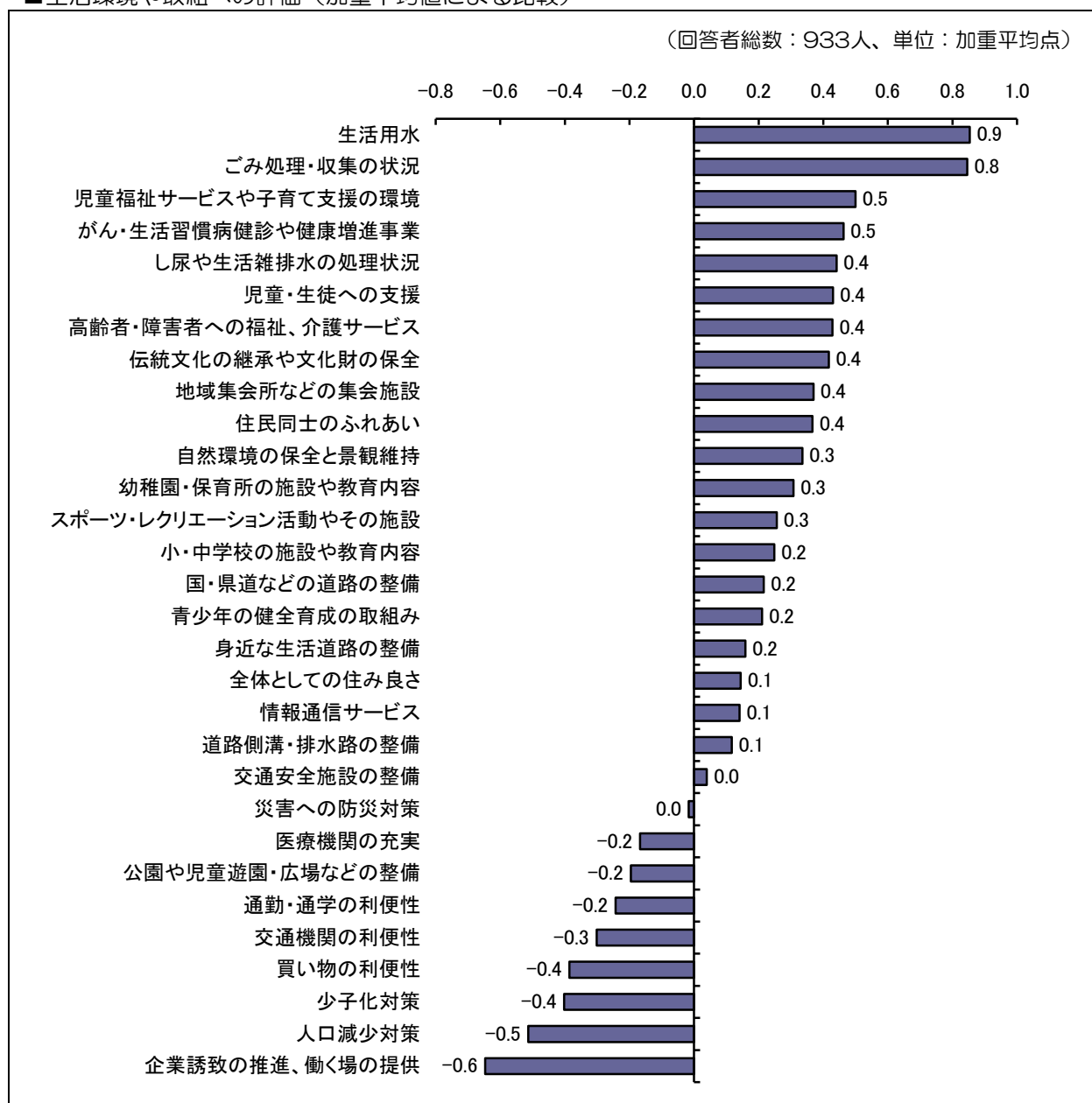
問 12 小鹿野町の現在の生活環境や取組への評価について、どのように感じていますか。次の各項目について、それぞれあてはまる番号 1 つに○を付けてください。

「生活用水」や「ごみ処理・収集の状況」などの評価が高い

生活環境や取組への評価について、加重平均値※を求めて比較したところ、評価の高い項目は「生活用水」や「ごみ処理・収集の状況」が挙げられています。

一方、評価の低い項目としては「買い物の利便性」や「少子化対策」、「人口減少対策」、「企業誘致の推進、働く場の提供」などが挙げられています。

■生活環境や取組への評価（加重平均値による比較）



※ 「加重平均値」の考え方と計算方法については、次ページを参照してください。

※加重平均値の考え方と計算方法

問12は(1)～(30)の各項目について五段階の満足度を聞いていますが、項目間の比較を行いやすくするため、選択肢に+2点、+1点、0点、-1点、-2点といった重みを加えて計算しました。この報告書では、こうして得られた値を「加重平均値」と呼んでいます。

その際、計算結果は「+2」～「-2」の範囲内となり、0を中心に「+2」に近づくほど評価(満足度)が高く、「-2」に近づくほど評価(満足度)が低いということになります。

加重平均値の具体的な計算方法は次のとおりです。

A:「満足」の回答数	(+2点)	⇒	$\frac{(A \times 2) + B - D - (E \times 2)}{A + B + C + D + E}$
B:「どちらかと言えば満足」の回答数	(+1点)		
C:「どちらとも言えない」の回答数	(0点)		
D:「どちらかと言えば不満」の回答数	(-1点)		
E:「不満」の回答数	(-2点)		

■生活環境や取組への評価

単位: 人 (%)

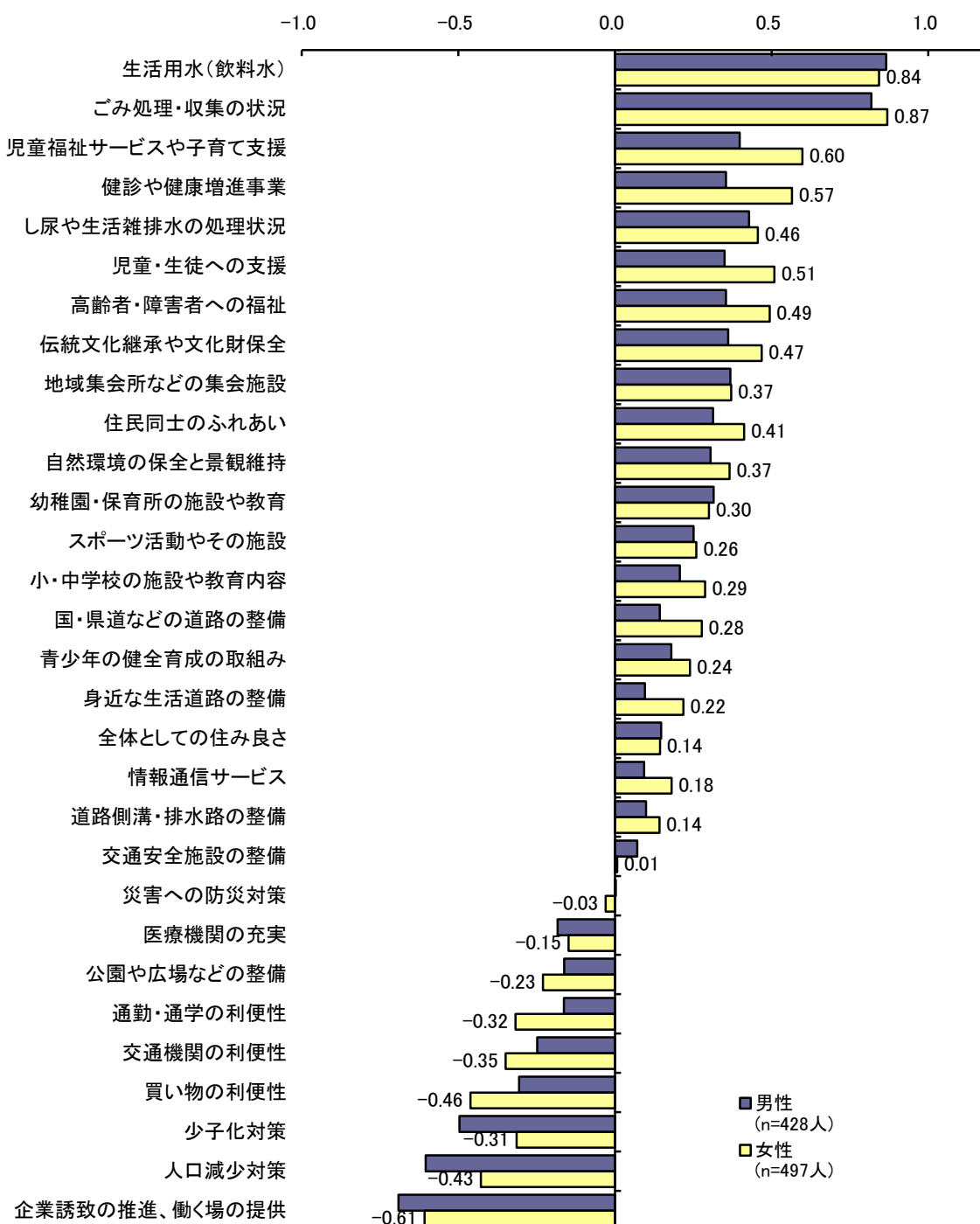
区分	満足	どちらかと言えば満足	どちらとも言えない	どちらかと言えば不満	不満	無回答	加重平均点
生活用水	276 ^(29.6)	306 ^(32.8)	210 ^(22.5)	49 ^(5.3)	32 ^(3.4)	60 ^(6.4)	0.85
ごみ処理・収集の状況	203 ^(21.8)	399 ^(42.8)	219 ^(23.5)	35 ^(3.8)	16 ^(1.7)	61 ^(6.5)	0.85
児童福祉サービスや子育て支援の環境	127 ^(13.6)	255 ^(27.3)	387 ^(41.5)	48 ^(5.1)	21 ^(2.3)	95 ^(10.2)	0.50
がん・生活習慣病健診や健康増進事業	99 ^(10.6)	287 ^(30.8)	398 ^(42.7)	48 ^(5.1)	21 ^(2.3)	80 ^(8.6)	0.46
し尿や生活雑排水の処理状況	114 ^(12.2)	296 ^(31.7)	333 ^(35.7)	70 ^(7.5)	39 ^(4.2)	81 ^(8.7)	0.44
児童・生徒への支援	100 ^(10.7)	214 ^(22.9)	435 ^(46.6)	37 ^(4.0)	16 ^(1.7)	131 ^(14.0)	0.43
高齢者・障害者への福祉、介護サービス	108 ^(11.6)	283 ^(30.3)	393 ^(42.1)	53 ^(5.7)	36 ^(3.9)	60 ^(6.4)	0.43
伝統文化の継承や文化財の保全	76 ^(8.1)	262 ^(28.1)	417 ^(44.7)	39 ^(4.2)	18 ^(1.9)	121 ^(13.0)	0.42
地域集会所などの集会施設	89 ^(9.5)	267 ^(28.6)	386 ^(41.4)	83 ^(8.9)	24 ^(2.6)	84 ^(9.0)	0.37
住民同士のふれあい	81 ^(8.7)	261 ^(28.0)	434 ^(46.5)	48 ^(5.1)	31 ^(3.3)	78 ^(8.4)	0.37
自然環境の保全と景観維持	91 ^(9.8)	267 ^(28.6)	356 ^(38.2)	94 ^(10.1)	36 ^(3.9)	89 ^(9.5)	0.34
幼稚園・保育所の施設や教育内容	64 ^(6.9)	210 ^(22.5)	461 ^(49.4)	45 ^(4.8)	23 ^(2.5)	130 ^(13.9)	0.31
スポーツ・レクリエーション活動やその施設	61 ^(6.5)	214 ^(22.9)	453 ^(48.6)	65 ^(7.0)	30 ^(3.2)	110 ^(11.8)	0.26
小・中学校の施設や教育内容	62 ^(6.6)	185 ^(19.8)	471 ^(50.5)	54 ^(5.8)	28 ^(3.0)	133 ^(14.3)	0.25
国・県道などの道路の整備	97 ^(10.4)	283 ^(30.3)	282 ^(30.2)	131 ^(14.0)	79 ^(8.5)	61 ^(6.5)	0.22
青少年の健全育成の取組み	47 ^(5.0)	159 ^(17.0)	539 ^(57.8)	43 ^(4.6)	20 ^(2.1)	125 ^(13.4)	0.21
身近な生活道路の整備	84 ^(9.0)	284 ^(30.4)	257 ^(27.5)	170 ^(18.2)	72 ^(7.7)	66 ^(7.1)	0.16
全体としての住み良さ	53 ^(5.7)	250 ^(26.8)	360 ^(38.6)	132 ^(14.1)	51 ^(5.5)	87 ^(9.3)	0.14
情報通信サービス	57 ^(6.1)	206 ^(22.1)	428 ^(45.9)	86 ^(9.2)	58 ^(6.2)	98 ^(10.5)	0.14
道路側溝・排水路の整備	76 ^(8.1)	238 ^(25.5)	320 ^(34.3)	156 ^(16.7)	67 ^(7.2)	76 ^(8.1)	0.12
交通安全施設の整備	66 ^(7.1)	226 ^(24.2)	322 ^(34.5)	172 ^(18.4)	76 ^(8.1)	71 ^(7.6)	0.04

災害への防災対策	38 (4. 1)	179 ^(19. 2) ₎	429 ^(46. 0) ₎	129 ^(13. 8) ₎	70 (7. 5)	88 (9. 4)	-0. 02
医療機関の充実	51 (5. 5)	189 ^(20. 3) ₎	315 ^(33. 8) ₎	177 ^(19. 0) ₎	129 ^(13. 8) ₎	72 (7. 7)	-0. 17
公園や児童遊園・広場などの整備	36 (3. 9)	129 ^(13. 8) ₎	417 ^(44. 7) ₎	169 ^(18. 1) ₎	99 ^(10. 6) ₎	83 (8. 9)	-0. 20
通勤・通学の利便性	50 (5. 4)	138 ^(14. 8) ₎	332 ^(35. 6) ₎	177 ^(19. 0) ₎	131 ^(14. 0) ₎	105 ^(11. 3) ₎	-0. 24
交通機関の利便性	45 (4. 8)	137 ^(14. 7) ₎	351 ^(37. 6) ₎	181 ^(19. 4) ₎	154 ^(16. 5) ₎	65 (7. 0)	-0. 30
買い物の利便性	46 (4. 9)	156 ^(16. 7) ₎	253 ^(27. 1) ₎	248 ^(26. 6) ₎	168 ^(18. 0) ₎	62 (6. 6)	-0. 39
少子化対策	14 (1. 5)	58 (6. 2)	440 ^(47. 2) ₎	208 ^(22. 3) ₎	105 ^(11. 3) ₎	108 ^(11. 6) ₎	-0. 40
人口減少対策	12 (1. 3)	55 (5. 9)	390 ^(41. 8) ₎	238 ^(25. 5) ₎	133 ^(14. 3) ₎	105 ^(11. 3) ₎	-0. 51
企業誘致の推進、働く場の提供	14 (1. 5)	51 (5. 5)	336 ^(36. 0) ₎	241 ^(25. 8) ₎	187 ^(20. 0) ₎	104 ^(11. 1) ₎	-0. 65

【性別】

これを性別にみると、女性は男性に比べて「児童福祉サービスや子育て支援」や「健診や健康増進事業」、「児童・生徒への支援」、「高齢者・障害者への福祉」などの項目で評価が高くなっています。

■性別にみた生活環境や取組への評価（加重平均値による比較）

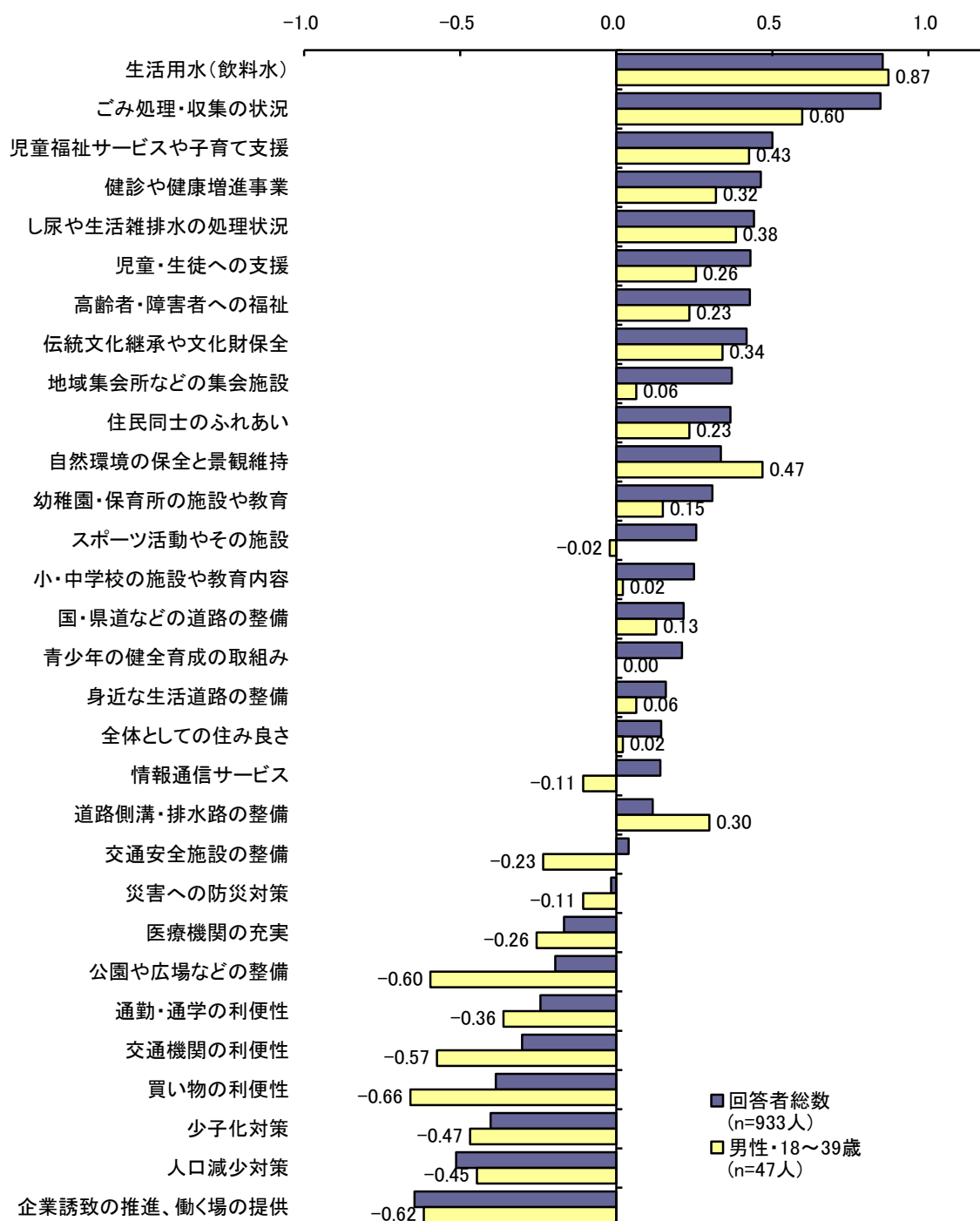


【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性の18～39歳は全体的に評価が低く、女性の65歳以上は全体的に評価が高くなっているなど、性・年齢による違いがみられます。

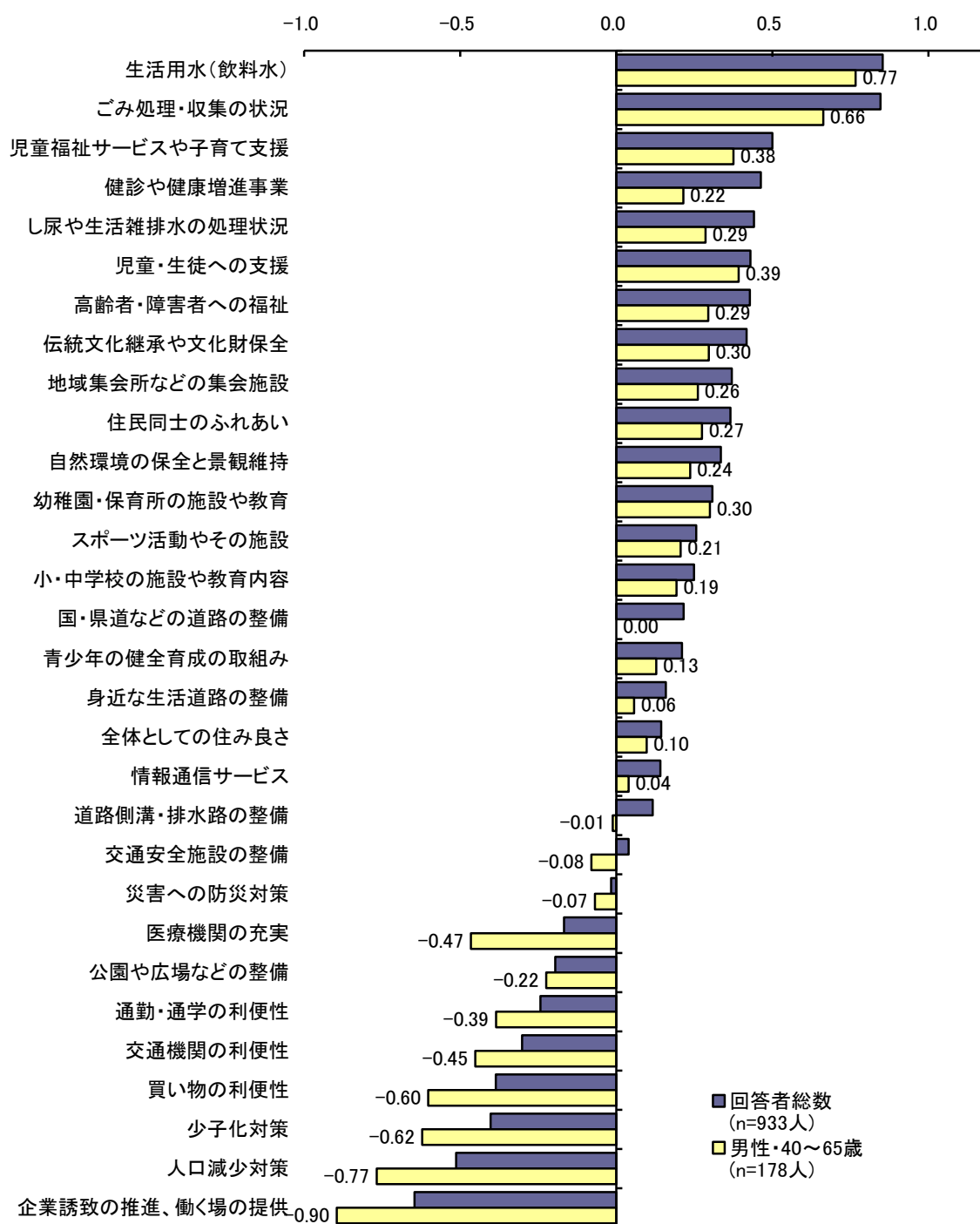
■性・年齢別にみた生活環境や取組への評価（加重平均値による比較）

①男性・18～39歳



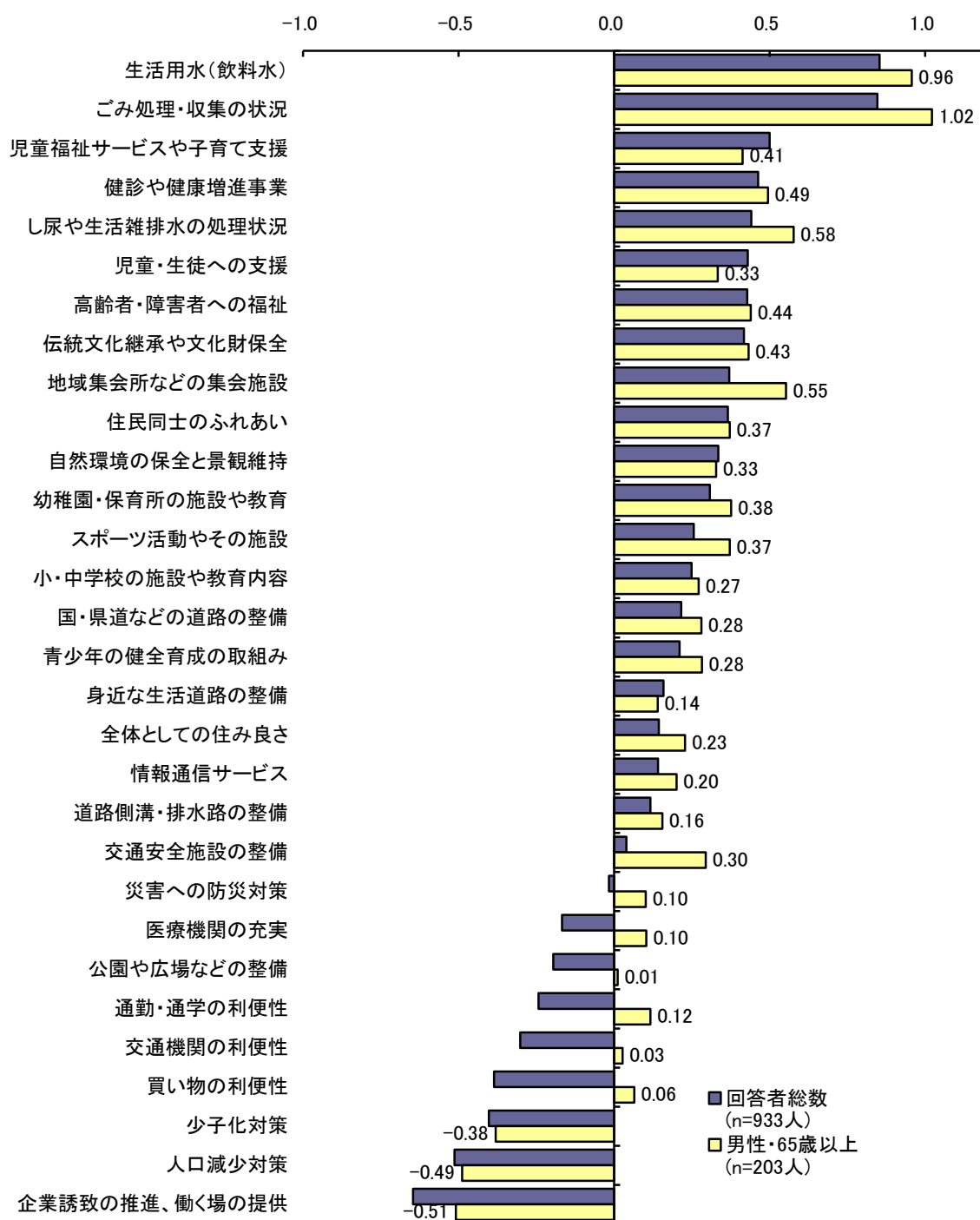
男性の18～39歳は、回答者総数に比べて評価の低い項目が多く、特に「公園や広場の整備」、「交通機関の利便性」、「買い物の利便性」の評価が低くなっています。

②男性・40～64歳



男性の40～64歳は、回答者総数に比べて評価の低い項目が多く、特に「医療機関の充実」、「買い物の利便性」、「人口減少対策」、「企業誘致の推進、働く場の提供」の評価が低くなっています。

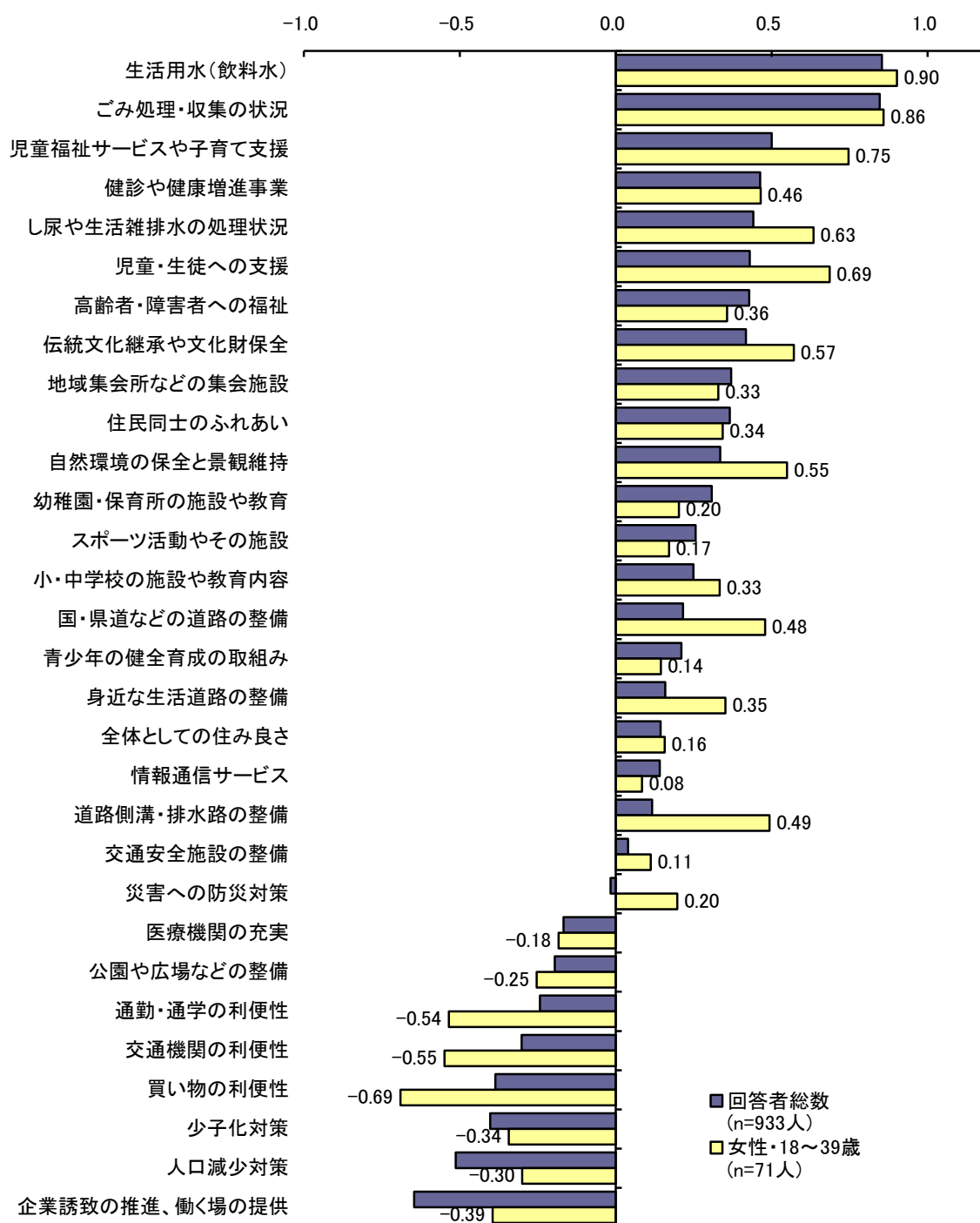
③男性・65歳以上



男性の65歳以上は、回答者総数に比べて評価の高い項目が多く、特に「医療機関の充実」、「公園や広場などの整備」、など全体としてマイナスの項目においてもプラスの評価の項目がみられます。

ただし、「少子化対策」、「人口減少対策」、「企業誘致の推進、働く場の提供」は回答者総数にほぼ同じとなっています。

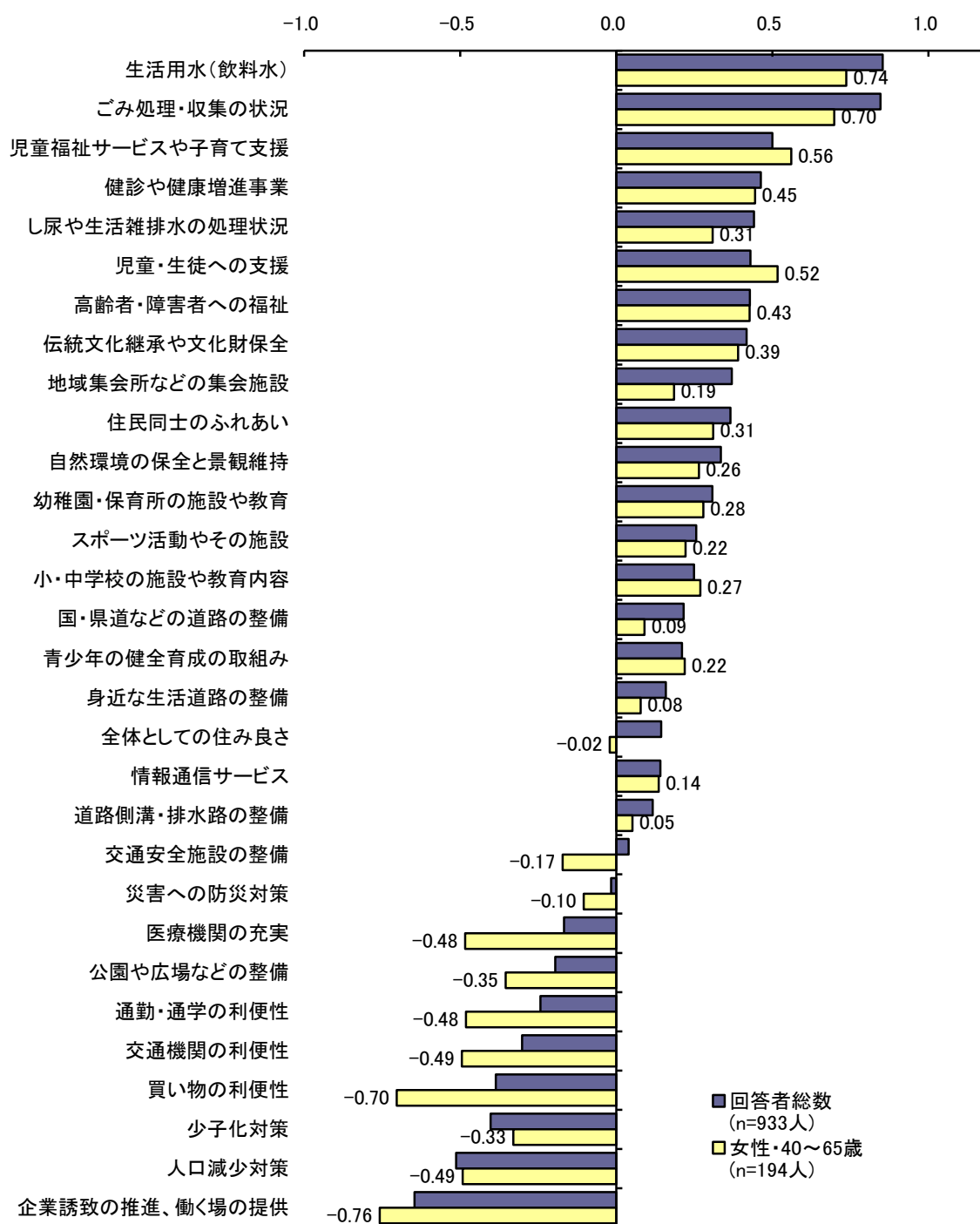
④女性・18～39歳



女性の18～39歳は、回答者総数に比べて「児童福祉や子育て支援」、「伝統文化継承や文化財保全」、「自然環境の保全と景観維持」などで評価が高くなっています。

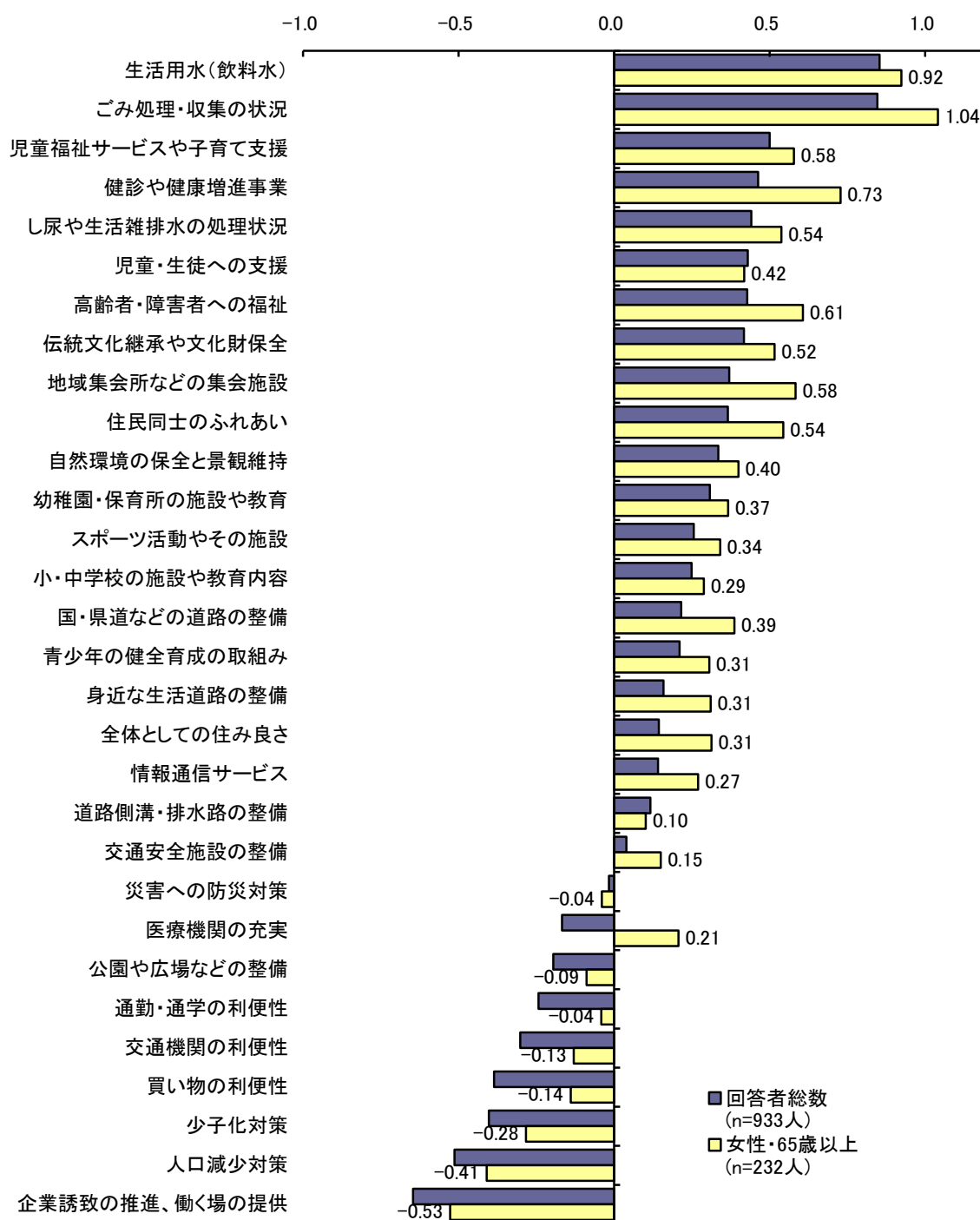
一方、「通勤・通学の利便性」、「交通機関の利便性」、「買い物の利便性」の評価が低くなっています。

⑤女性・40～64歳



女性の40～64歳は、回答者総数に比べて特に評価の高い項目はみられません。逆に、「医療機関の充実」、「買い物の利便性」、「企業誘致の推進、働く場の提供」などの評価が低くなっています。

⑥女性・65歳以上



女性の65歳以上は、全体的に回答者総数に比べて評価の高い項目が多くみられます。

「考察」

○評価の低い項目は働く場の提供・少子化対策など人口減少対策に関連する事項。評価の低い項目を改善する施策を重点的に実施しながら、福祉や文化、教育、コミュニティなど本町の評価の高い項目を維持することが今後のまちづくりで大切になる。

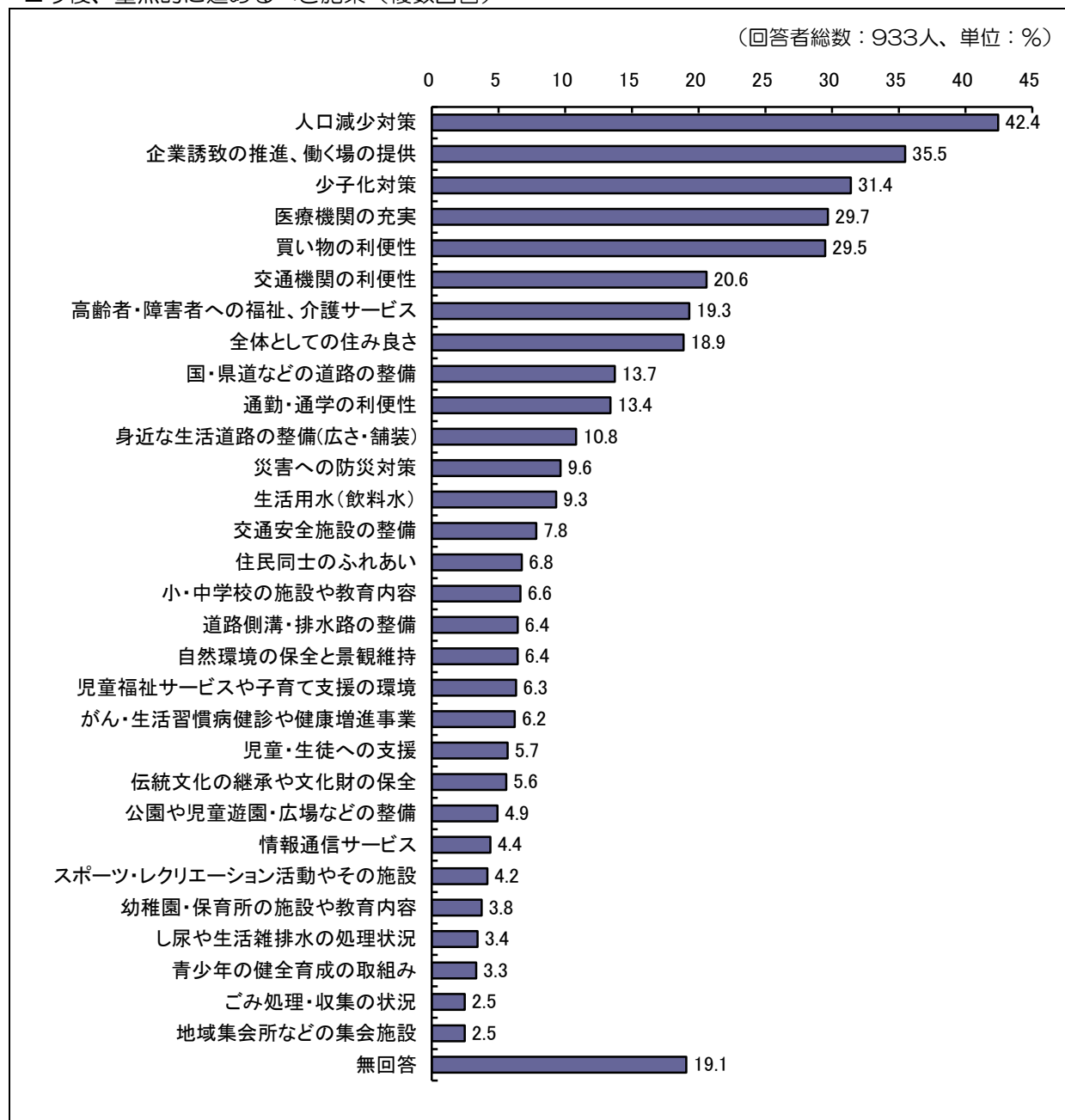
3-2 今後、重点的に進めるべき施策（問13）

問 13 上記の（１）～（30）の中で、今後、重点的に進めるべきものは何だと思いますか。５つまで選んで、下の枠に番号をご記入ください。

「人口減少対策」、「企業誘致の推進、働く場の提供」、「少子化対策」などが多い

今後、重点的に進めるべき施策については、「人口減少対策」が42.4%で最も多く、次いで「企業誘致の推進、働く場の提供」が35.5%、「少子化対策」が31.4%が続いています。

■今後、重点的に進めるべき施策（複数回答）



■今後、重点的に進めるべき施策（複数回答）

区 分	人（％）
回答者総数	933 (100.0)
人口減少対策	396 (42.4)
企業誘致の推進、働く場の提供	331 (35.5)
少子化対策	293 (31.4)
医療機関の充実	277 (29.7)
買い物の利便性	275 (29.5)
交通機関の利便性	192 (20.6)
高齢者・障害者への福祉、介護サービス	180 (19.3)
全体としての住み良さ	176 (18.9)
国・県道などの道路の整備	128 (13.7)
通勤・通学の利便性	125 (13.4)
身近な生活道路の整備（広さ・舗装）	101 (10.8)
災害への防災対策	90 (9.6)
生活用水（飲料水）	87 (9.3)
交通安全施設の整備	73 (7.8)
住民同士のふれあい	63 (6.8)

区 分	人（％）
小・中学校の施設や教育内容	62 (6.6)
道路側溝・排水路の整備	60 (6.4)
自然環境の保全と景観維持	60 (6.4)
児童福祉サービスや子育て支援の環境	59 (6.3)
がん・生活習慣病健診や健康増進事業	58 (6.2)
児童・生徒への支援	53 (5.7)
伝統文化の継承や文化財の保全	52 (5.6)
公園や児童遊園・広場などの整備	46 (4.9)
情報通信サービス	41 (4.4)
スポーツ・レクリエーション活動やその施設	39 (4.2)
幼稚園・保育所の施設や教育内容	35 (3.8)
し尿や生活雑排水の処理状況	32 (3.4)
青少年の健全育成の取組み	31 (3.3)
ごみ処理・収集の状況	23 (2.5)
地域集会所などの集会施設	23 (2.5)
無回答	178 (19.1)

「考察」

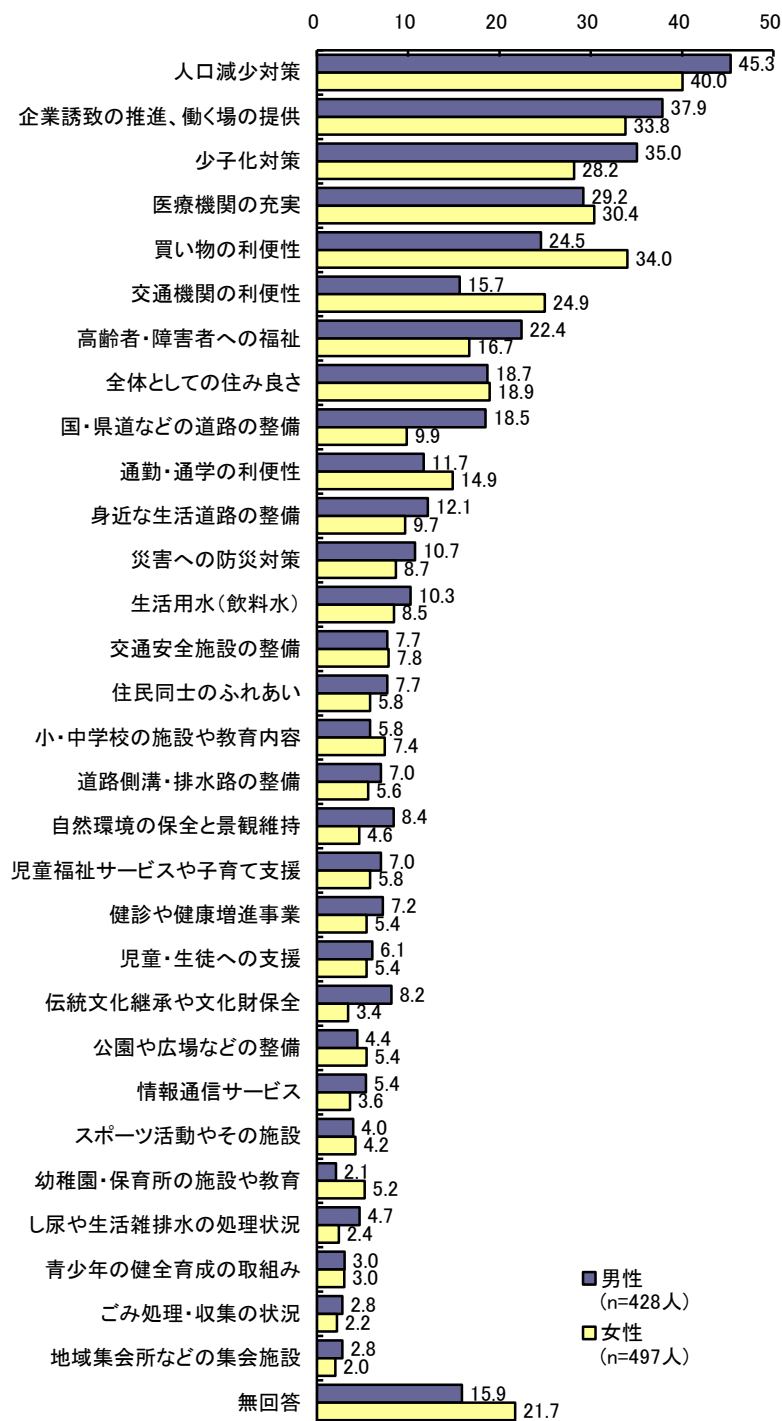
○上位三項目（人口減少対策、働く場の確保、少子化対策）は今後のまちづくりの最大のテーマである。

【性別】

これを性別にみると、男性は女性に比べて「人口減少対策」や「少子化対策」の割合が高くなっています。

一方、女性には男性に比べて「買い物の利便性」や「交通機関の利便性」の割合が高くなっています。

■性別にみた今後、重点的に進めるべき施策（複数回答）



【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性の18～39歳は「企業誘致の推進、働く場の提供」及び「通勤・通学の利便性」の割合が高く、女性の18～39歳は「少子化対策」及び「通勤・通学の利便性」の割合が高くなっています。

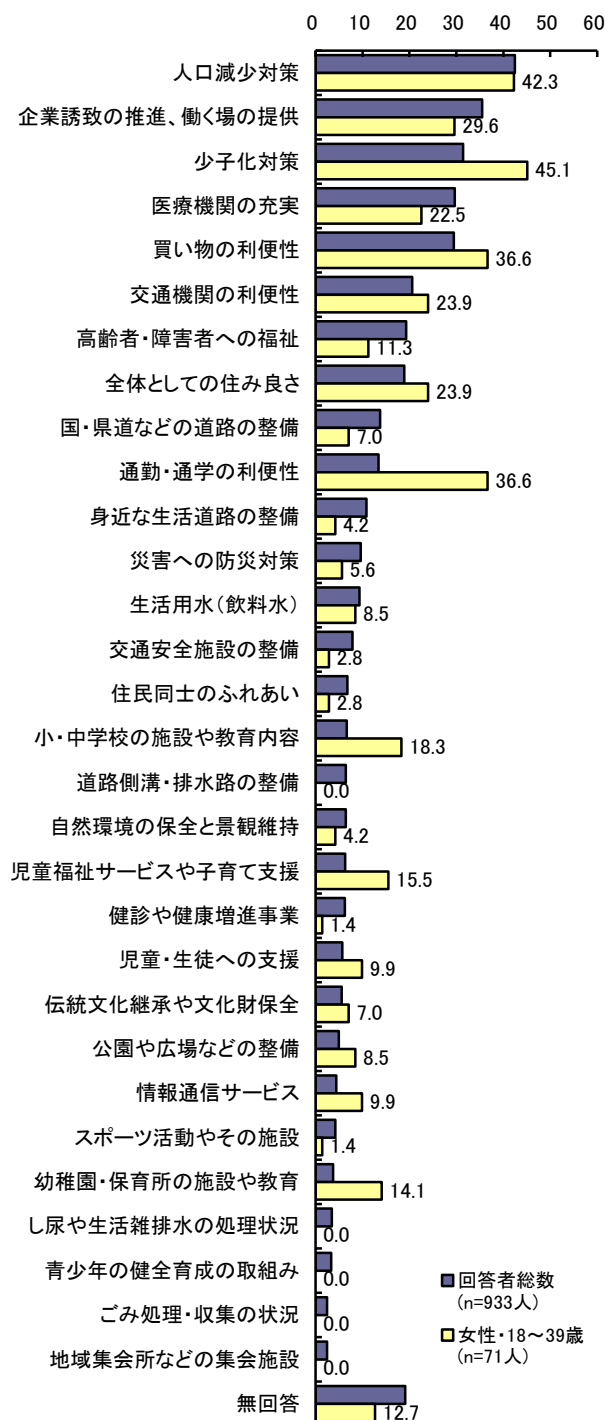
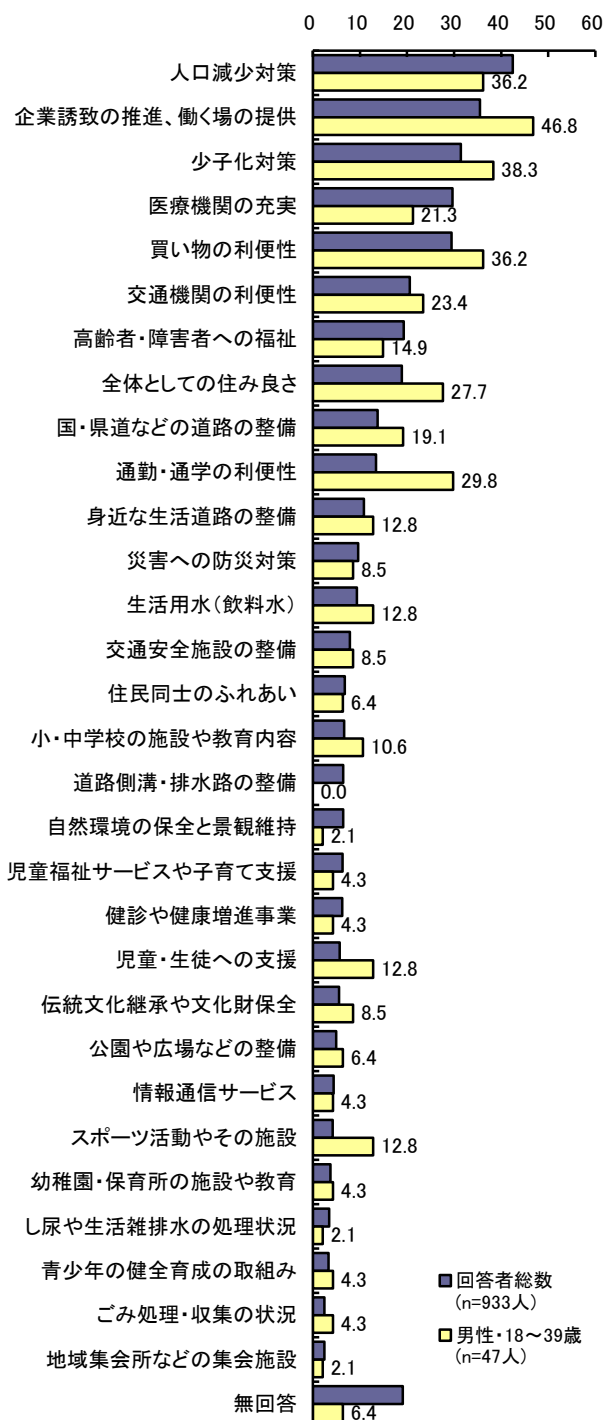
また、男性の40～64歳は「人口減少対策」の割合が高く、女性の40～64歳は「買い物の利便性」の割合が高くなっています。

65歳以上は、男性、女性ともに回答者総数に比べて特に割合が高い項目はみられません。

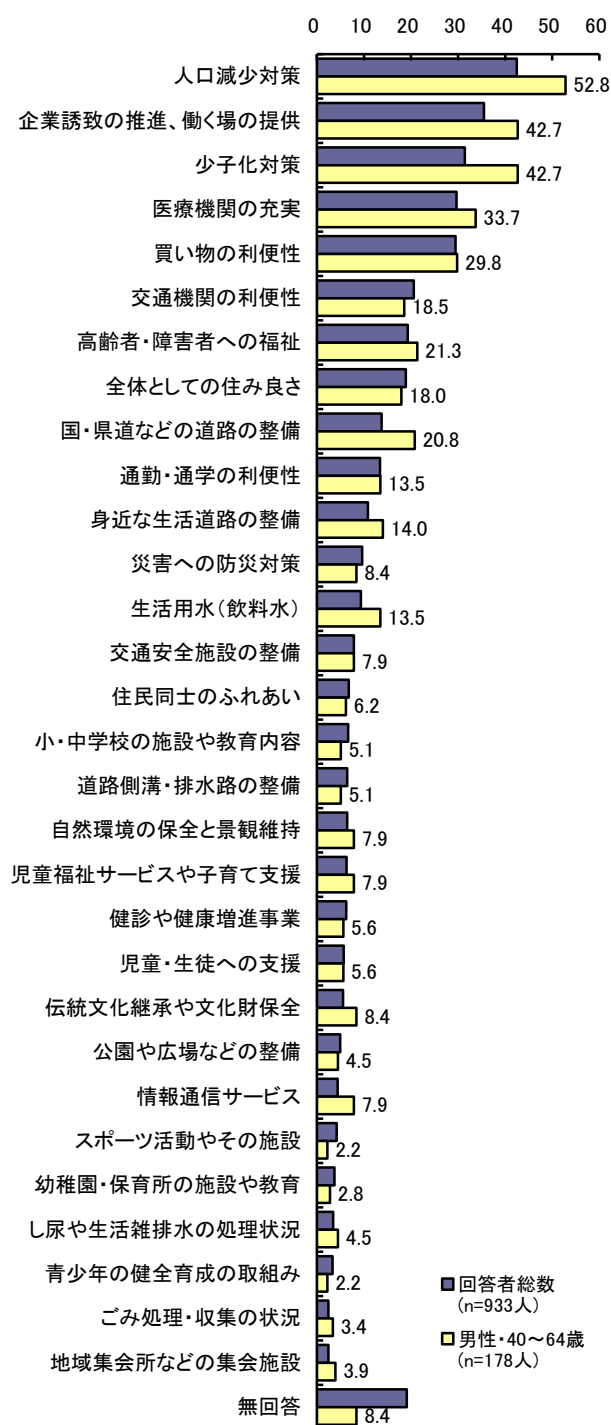
■性・年齢別にみた今後、重点的に進めるべき施策（複数回答）

①男性・18～39歳

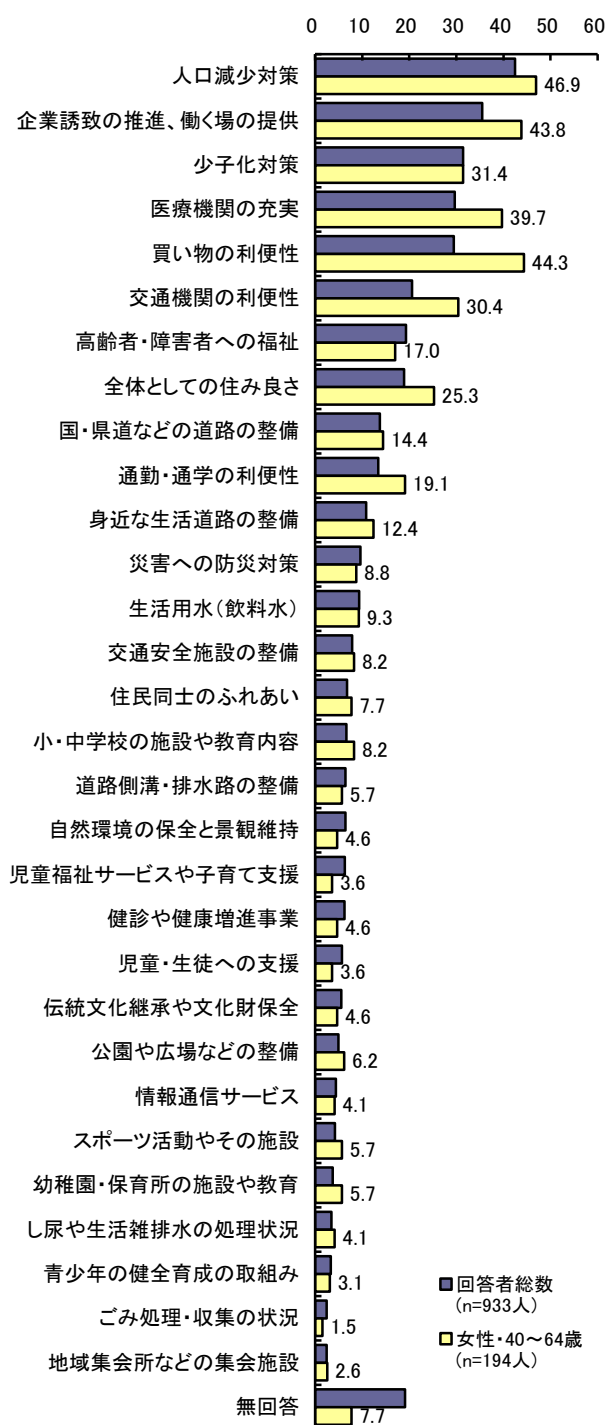
④女性・18～39歳



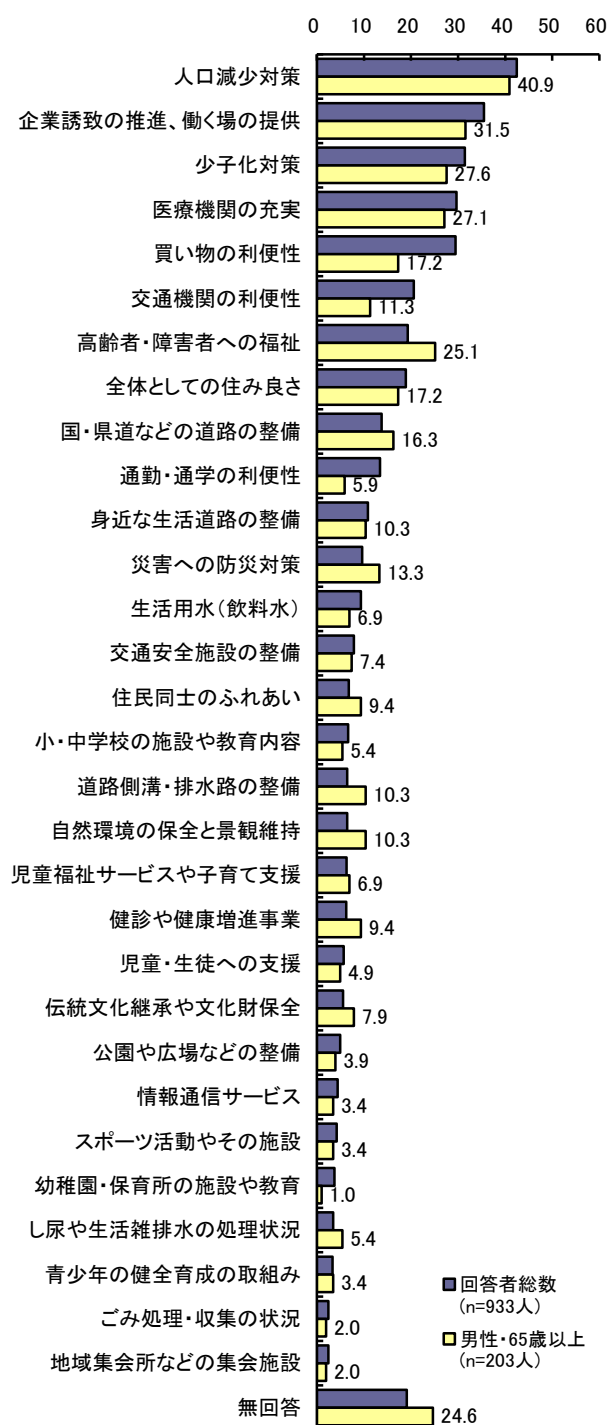
②男性・40～64歳



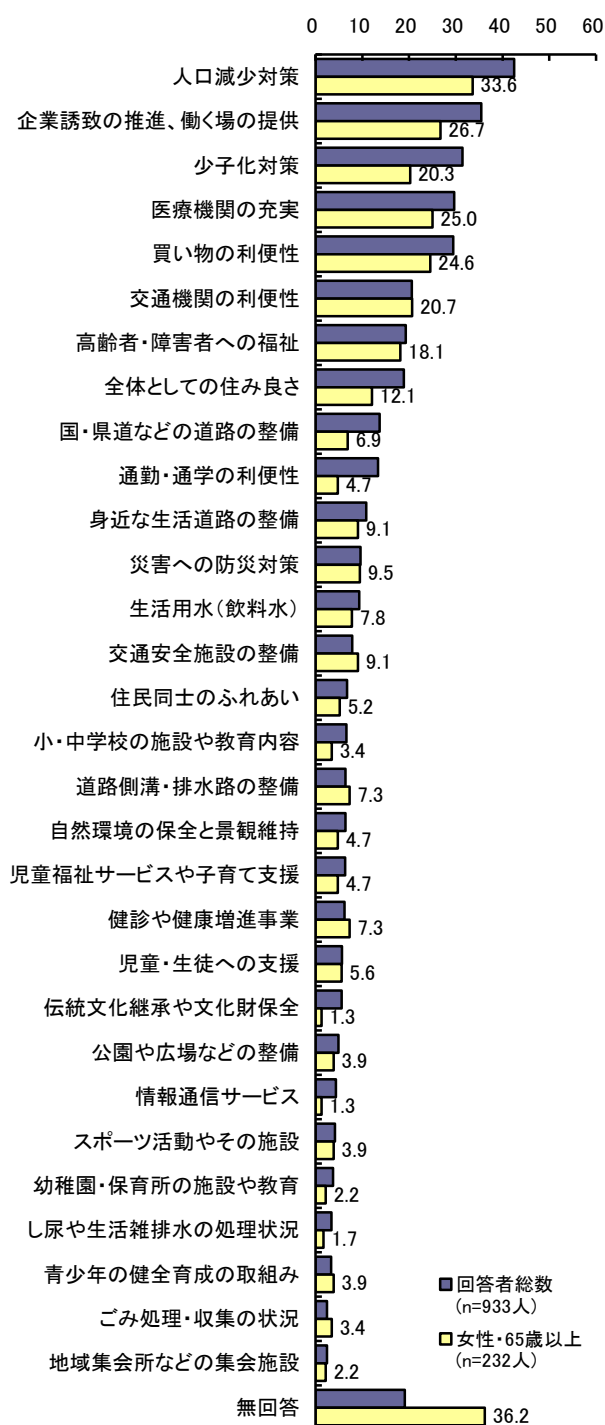
⑤女性・40～64歳



③男性・65歳以上



⑥女性・65歳以上



第4節 これからのまちづくりの方向性について

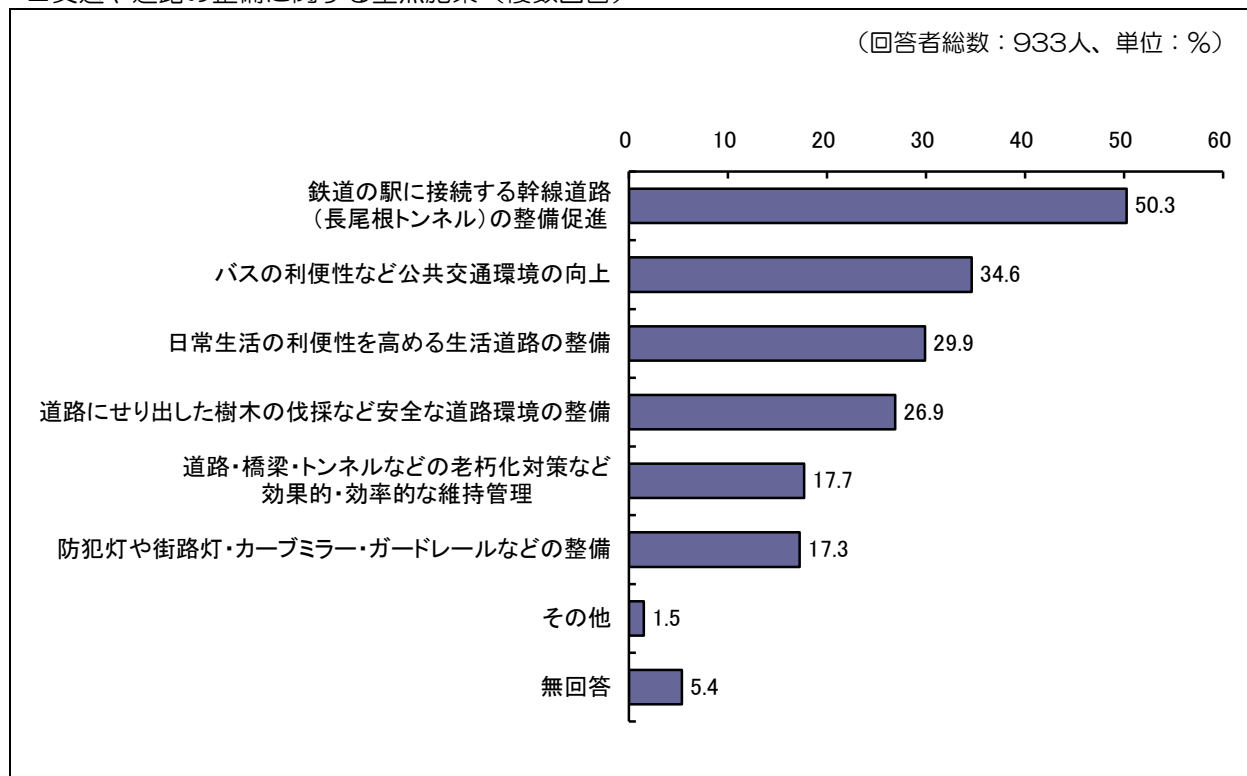
4-1 交通や道路の整備に関する重点施策（問14）

問 14 交通や道路の整備に関し、今後、町で最も力を入れていくべき取組はどれだと思いますか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

「鉄道の駅に接続する幹線道路（長尾根トンネル）の整備促進」が最も多い

交通や道路の整備に関する重点施策については、「鉄道の駅に接続する幹線道路（長尾根トンネル）の整備促進」が50.3%で最も多く、次いで「バスの利便性など公共交通環境の向上」が34.6%、「日常生活の利便性を高める生活道路の整備」が29.9%で続いています。

■交通や道路の整備に関する重点施策（複数回答）



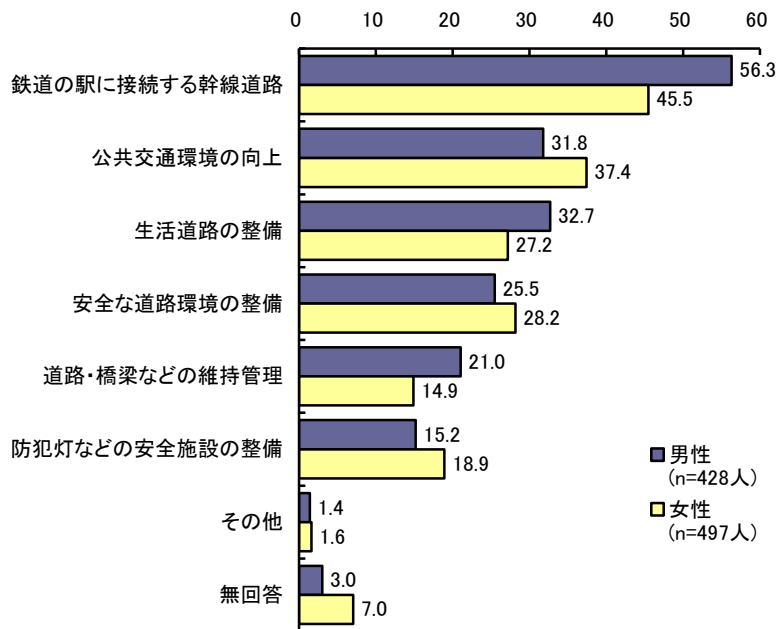
■交通や道路の整備に関する重点施策（複数回答）

区 分	人（％）
回答者総数	933（100.0）
鉄道の駅に接続する幹線道路（長尾根トンネル）の整備促進	469（ 50.3）
バスの利便性など公共交通環境の向上	323（ 34.6）
日常生活の利便性を高める生活道路の整備	279（ 29.9）
道路にせり出した樹木の伐採など安全な道路環境の整備	251（ 26.9）
道路・橋梁・トンネルなどの老朽化対策など効果的・効率的な維持管理	165（ 17.7）
防犯灯や街路灯・カーブミラー・ガードレールなどの安心安全施設の整備	161（ 17.3）
その他	14（ 1.5）
無回答	50（ 5.4）

【性別】

これを性別にみると、男性は女性に比べて「鉄道の駅に接続する幹線道路」の割合が高くなっています。

■性別にみた交通や道路の整備に関する重点施策（複数回答）

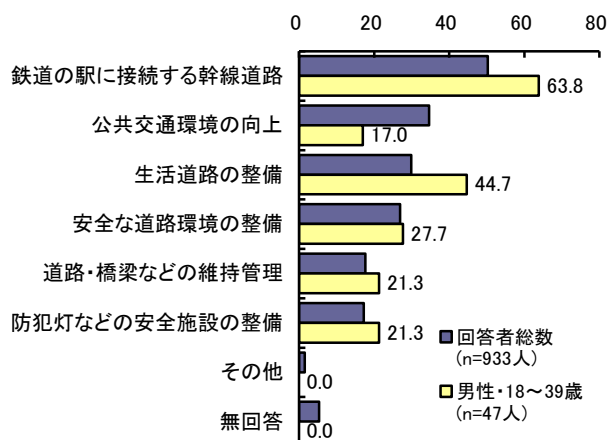


【性・年齢別】

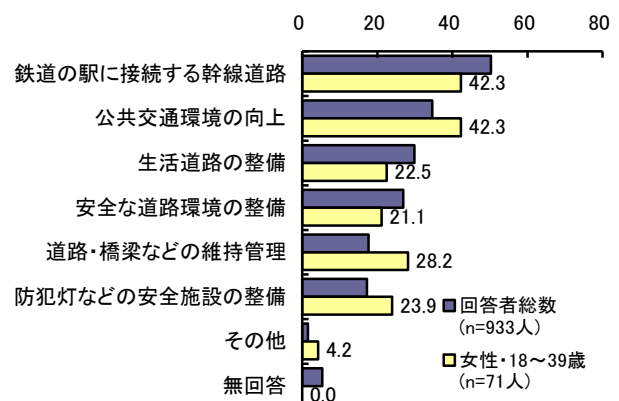
これを性・年齢別にみると、男性の18～39歳は「鉄道の駅に接続する幹線道路」及び「生活道路の整備」の割合が高くなっています。

■性・年齢別にみた交通や道路の整備に関する重点施策（複数回答）

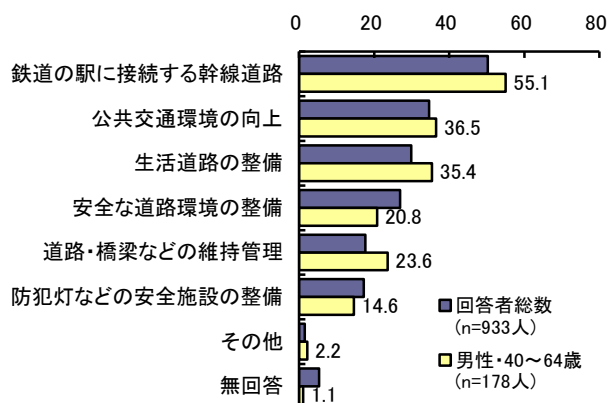
①男性・18～39歳



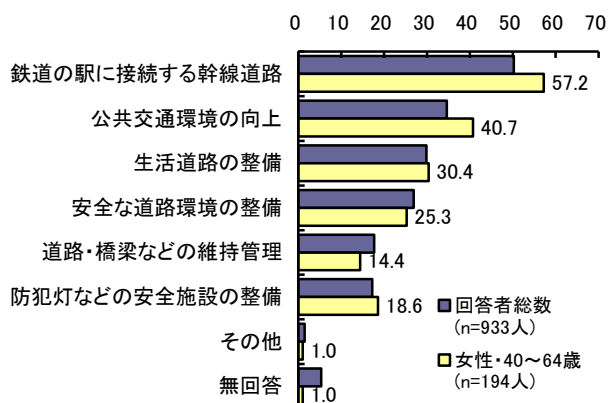
④女性・18～39歳



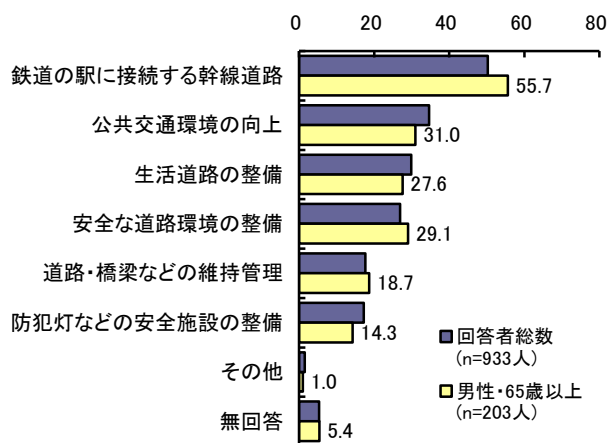
②男性・40～64歳



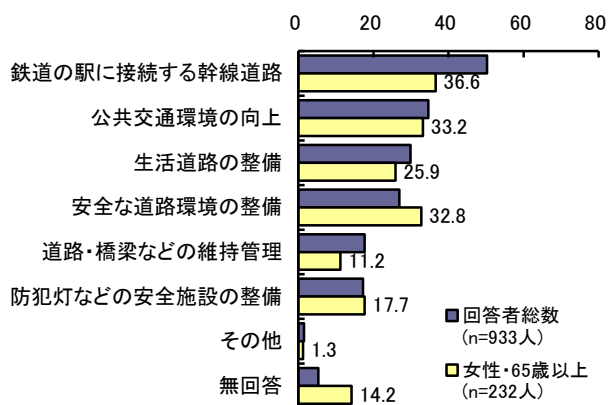
⑤女性・40～64歳



③男性・65歳以上



⑥女性・65歳以上



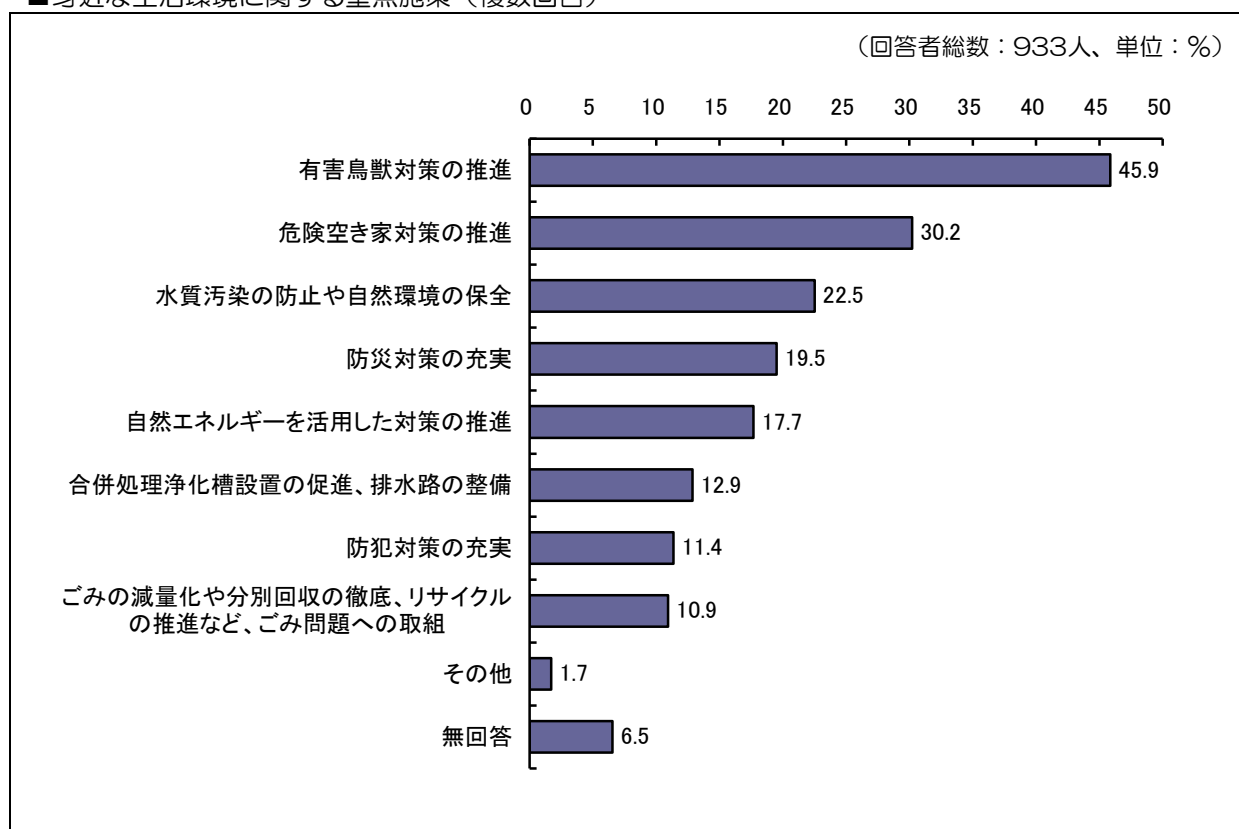
4-2 身近な生活環境に関する重点施策（問15）

問 15 身近な生活環境において、今後、町で最も力を入れていくべき取組はどれだと思いますか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

「有害鳥獣対策の推進」が最も多い

身近な生活環境に関する重点施策については、「有害鳥獣対策の推進」が45.9%で最も多く、次いで「危険空き家対策の推進」が30.2%、「水質汚染の防止や自然環境の保全」が22.5%で続いています。

■身近な生活環境に関する重点施策（複数回答）



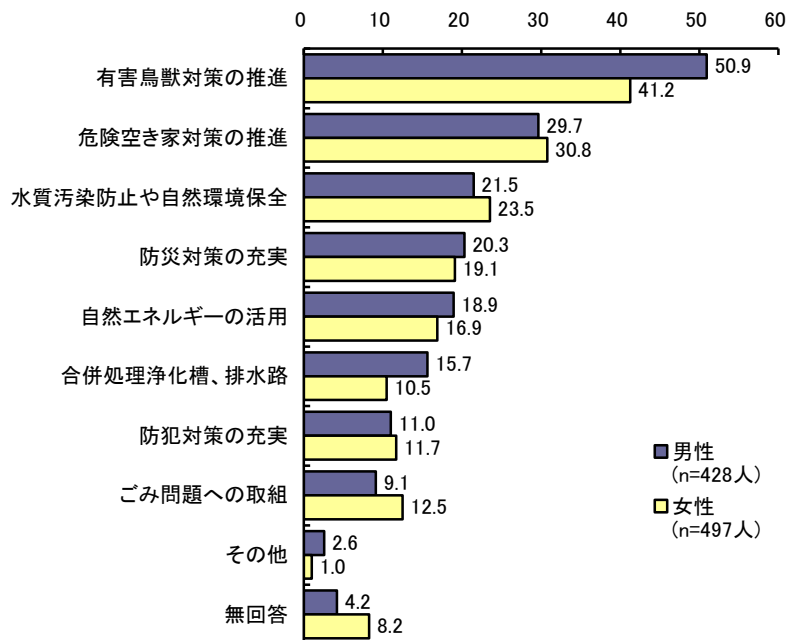
■身近な生活環境に関する重点施策（複数回答）

区 分	人（％）
回答者総数	933（100.0）
有害鳥獣対策の推進	428（45.9）
危険空き家対策の推進	282（30.2）
水質汚染の防止や自然環境の保全	210（22.5）
防災対策の充実	182（19.5）
自然エネルギーを活用した対策の推進	165（17.7）
合併処理浄化槽設置の促進、排水路の整備	120（12.9）
防犯対策の充実	106（11.4）
ごみの減量化や分別回収の徹底、リサイクルの推進など、ごみ問題への取組	102（10.9）
その他	16（1.7）
無回答	61（6.5）

【性別】

これを性別にみると、男性は女性に比べて「有害鳥獣対策の推進」の割合が高くなっています。

■性別にみた身近な生活環境に関する重点施策（複数回答）

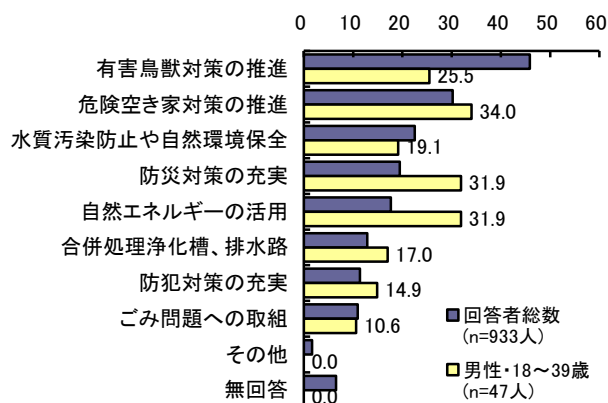


【性・年齢別】

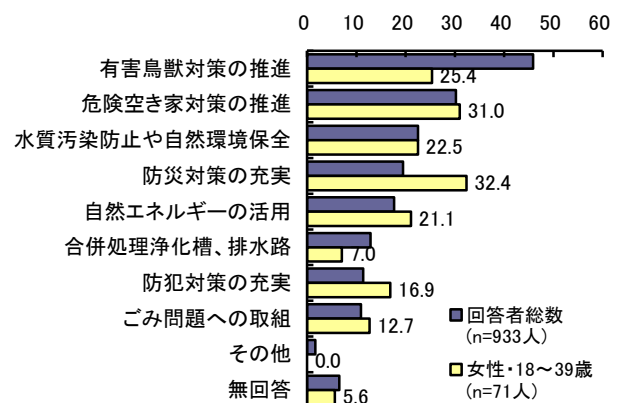
これを性・年齢別にみると、男性の18～39歳は「防災対策の充実」及び「自然得寝るギターの活用」の割合が高くなっています。また、男性の40歳以上は「有害鳥獣対策の推進」の割合が高くなっています。

■性・年齢別にみた身近な生活環境に関する重点施策（複数回答）

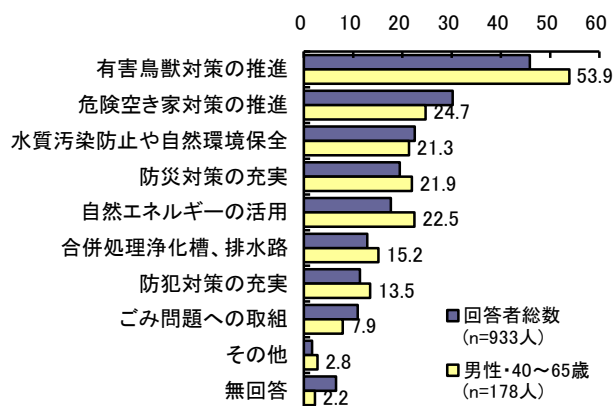
①男性・18～39歳



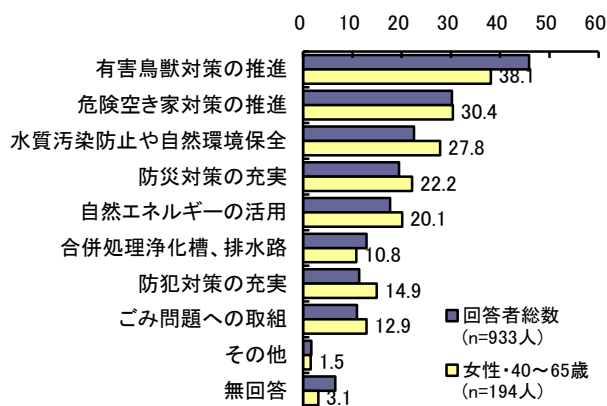
④女性・18～39歳



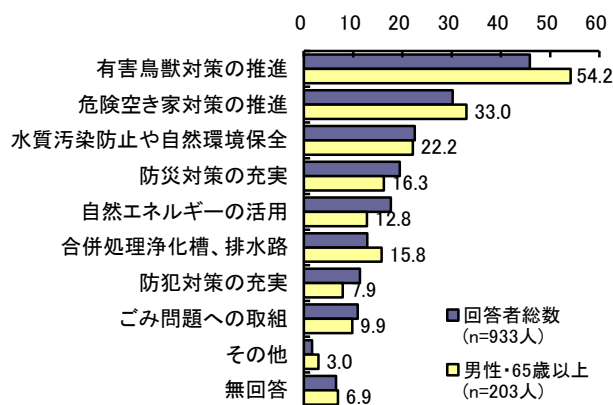
②男性・40～64歳



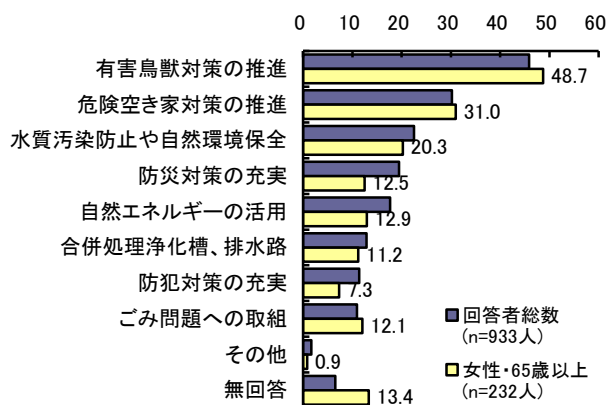
⑤女性・40～64歳



③男性・65歳以上



⑥女性・65歳以上



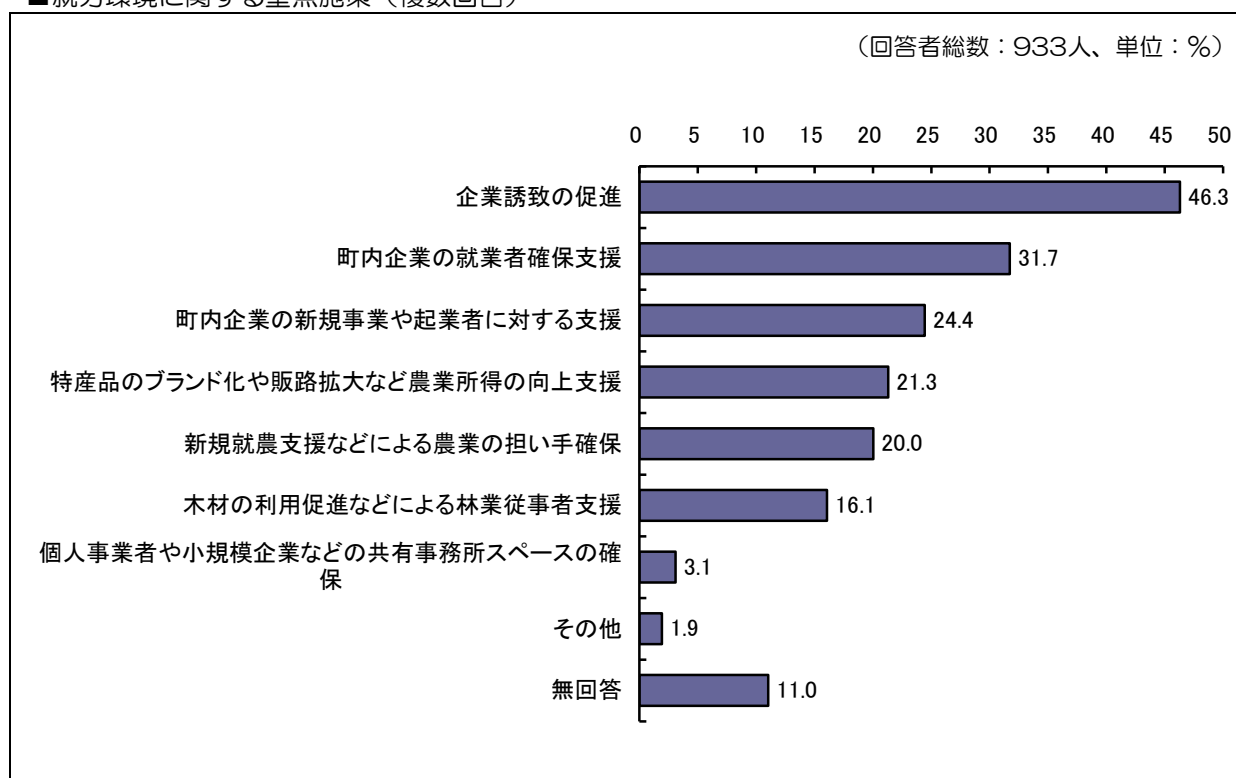
4-3 就労環境に関する重点施策（問16）

問 16 安心して暮らしていける就労環境の整備のため、今後、町で最も力を入れていくべき取組はどれだと思いますか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

「企業誘致の促進」が最も多い

就労環境に関する重点施策については、「企業誘致の促進」が46.3%で最も多く、次いで「町内企業の就業者確保支援」が31.7%、「町内企業の新規事業や起業家に対する支援」が24.4%で続いています。

■就労環境に関する重点施策（複数回答）



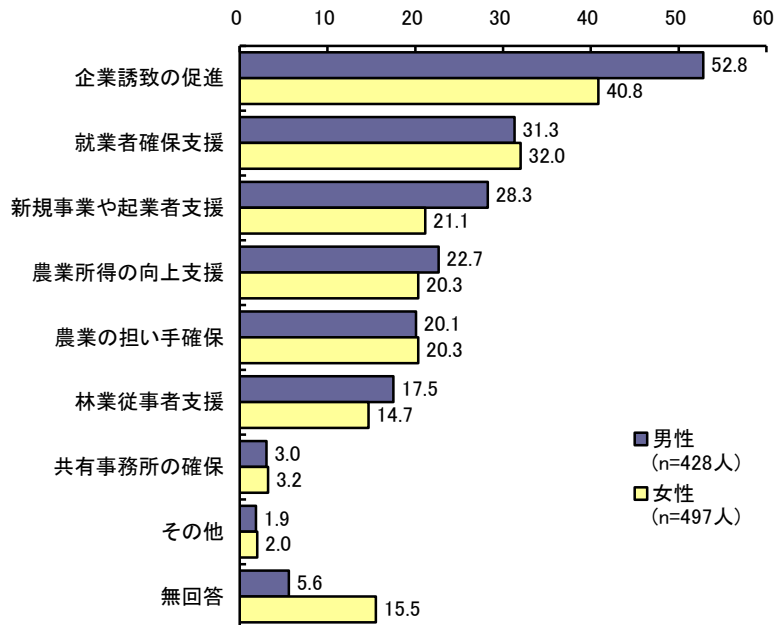
■就労環境に関する重点施策（複数回答）

区 分	人（％）
回答者総数	933（100.0）
企業誘致の促進	432（46.3）
町内企業の就業者確保支援	296（31.7）
町内企業の新規事業や起業家に対する支援	228（24.4）
特産品のブランド化や販路拡大など農業所得の向上支援	199（21.3）
新規就農支援などによる農業の担い手確保	187（20.0）
木材の利用促進などによる林業従事者支援	150（16.1）
個人事業者や小規模企業などの共有事務所スペースの確保	29（3.1）
その他	18（1.9）
無回答	103（11.0）

【性別】

これを性別にみると、男性は女性に比べて「企業誘致の促進」の割合が高くなっています。

■性別にみた就労環境に関する重点施策（複数回答）

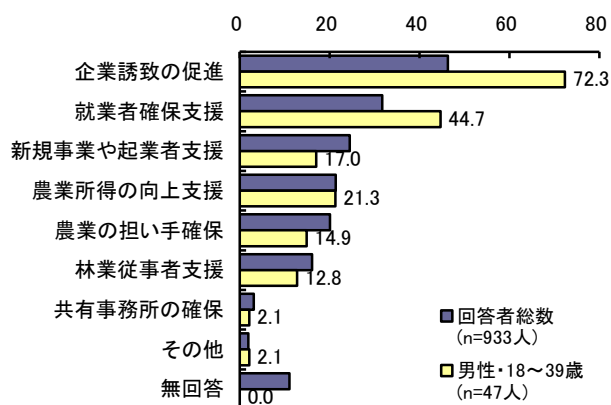


【性・年齢別】

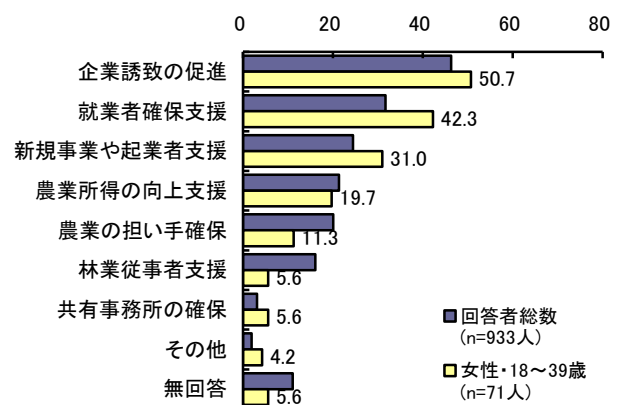
これを性・年齢別にみると、男性の18～39歳は「企業誘致の促進」の割合が他の回答者に比べて突出して高くなっています。

■性・年齢別にみた就労環境に関する重点施策（複数回答）

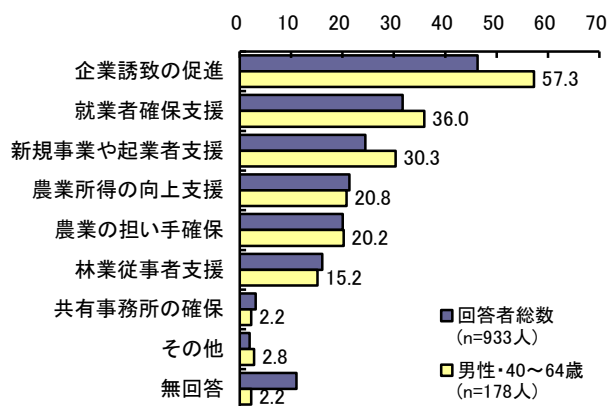
①男性・18～39歳



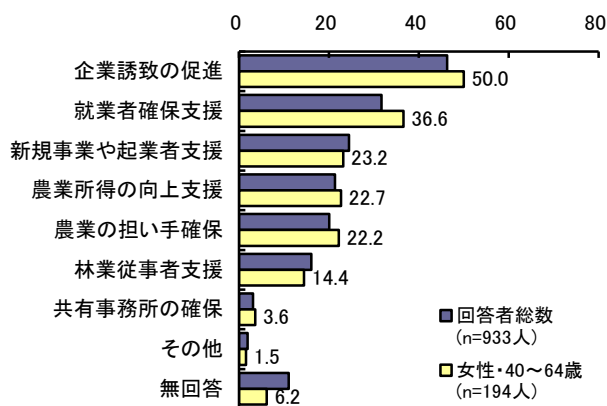
④女性・18～39歳



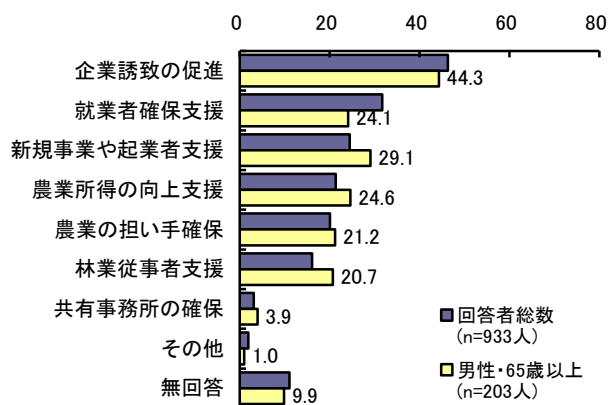
②男性・40～64歳



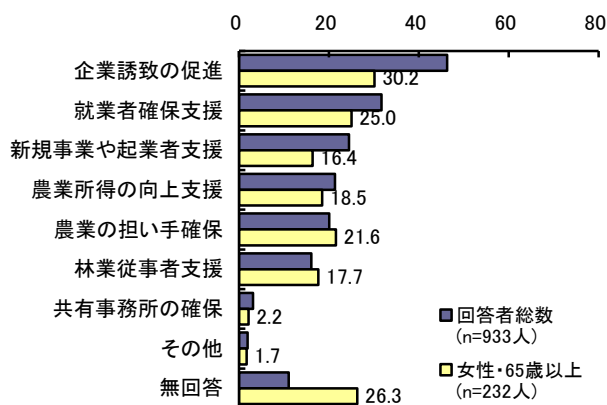
⑤女性・40～64歳



③男性・65歳以上



⑥女性・65歳以上



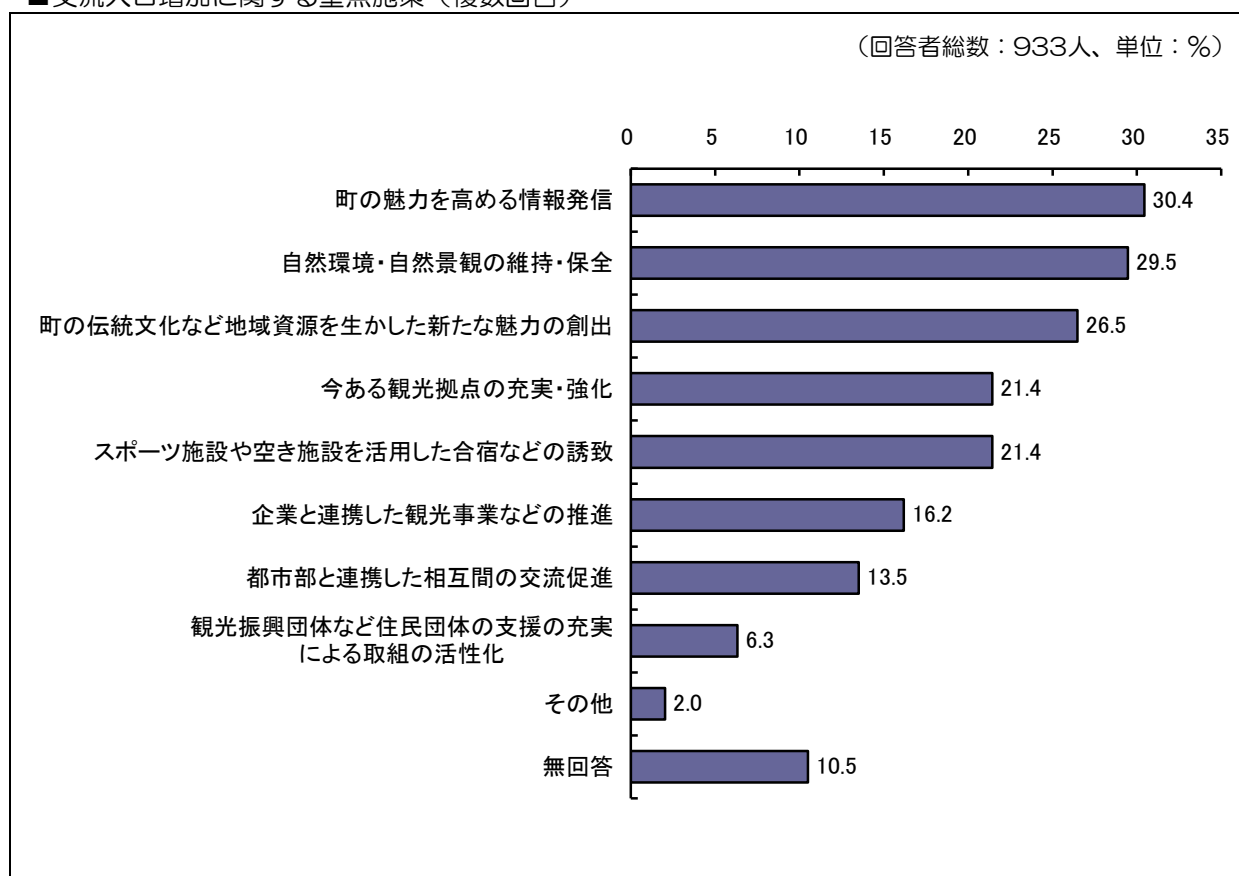
4-4 交流人口増加に関する重点施策（問17）

問 17 観光や都市部との交流などによる交流人口の増加のため、今後、町で最も力を入れていくべき取組はどれだと思いますか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

「町の魅力を高める情報発信」や「自然環境・自然景観の維持・保全」が多い

交流人口増加に関する重点施策については、「町の魅力を高める情報発信」が30.4%で最も多く、次いで「自然環境・自然景観の維持・保全」が29.5%、「町の伝統文化など地域資源を生かした新たな魅力の創出」が26.5%で続いています。

■交流人口増加に関する重点施策（複数回答）



■交流人口増加に関する重点施策（複数回答）

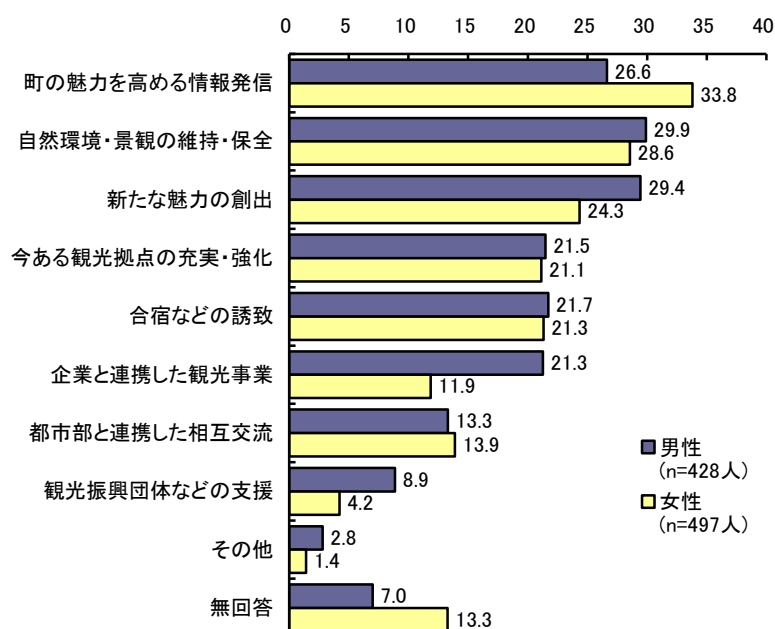
区 分	人（％）
回答者総数	933（100.0）
町の魅力を高める情報発信	284（30.4）
自然環境・自然景観の維持・保全	275（29.5）
町の伝統文化など地域資源を生かした新たな魅力の創出	247（26.5）
今ある観光拠点の充実・強化	200（21.4）
スポーツ施設や空き施設を活用した合宿などの誘致	200（21.4）
企業と連携した観光事業などの推進	151（16.2）
都市部と連携した相互間の交流促進	126（13.5）
観光振興団体など住民団体の支援の充実による取組の活性化	59（6.3）
その他	19（2.0）
無回答	98（10.5）

【性別】

これを性別にみると、男性は女性に比べて「新たな魅力の創出」の割合が高くなっています。

一方、女性は男性に比べて「町の魅力を高める情報発信」の割合が高くなっています。

■性別にみた交流人口増加に関する重点施策（複数回答）

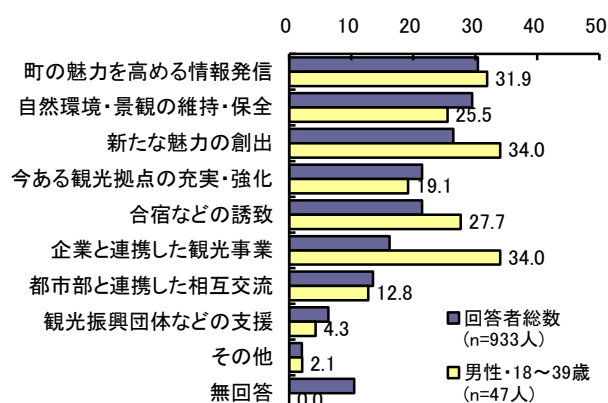


【性・年齢別】

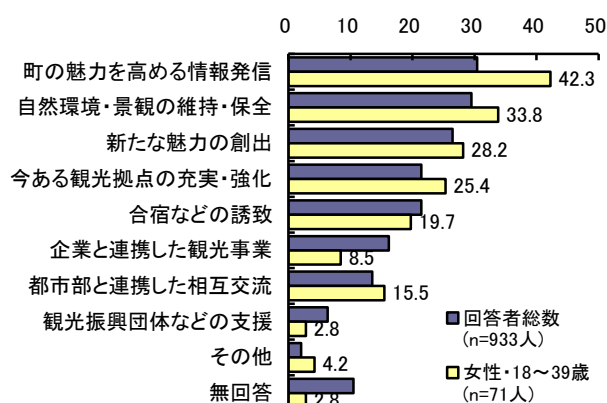
これを性・年齢別にみると、男性の18～39歳は「新たな魅力の創出」及び「企業と連携した観光事業」の割合が高く、女性の18～39歳は「町の魅力を高める情報発信」の割合が高くなっています。

■性・年齢別にみた交流人口増加に関する重点施策（複数回答）

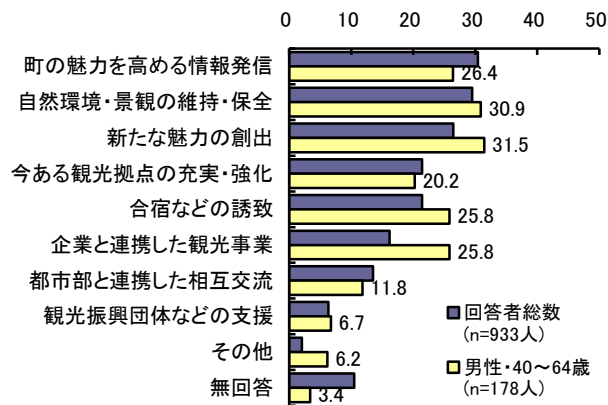
①男性・18～39歳



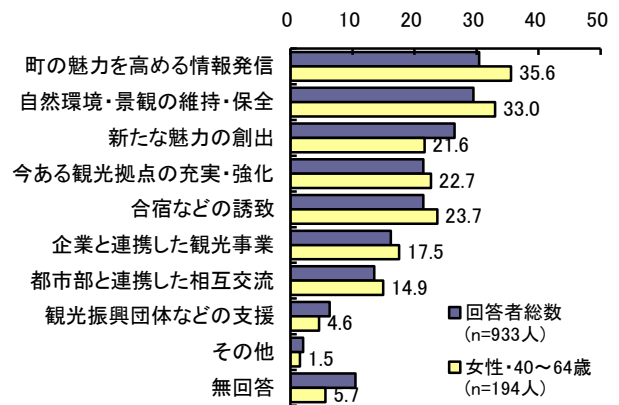
④女性・18～39歳



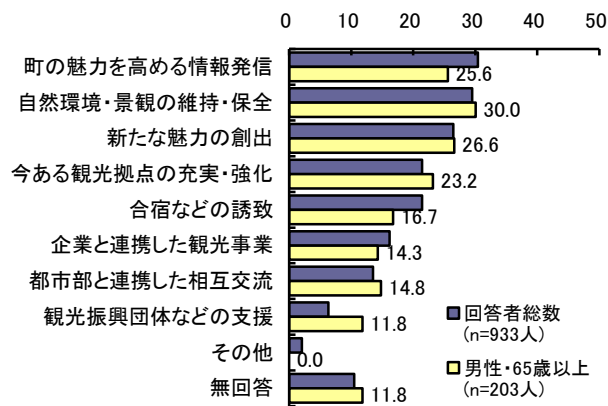
②男性・40～64歳



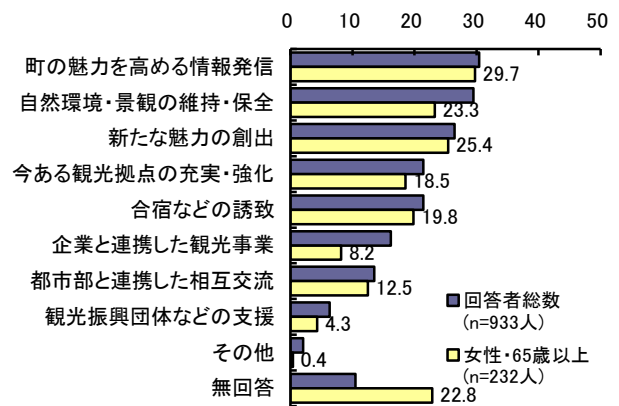
⑤女性・40～64歳



③男性・65歳以上



⑥女性・65歳以上



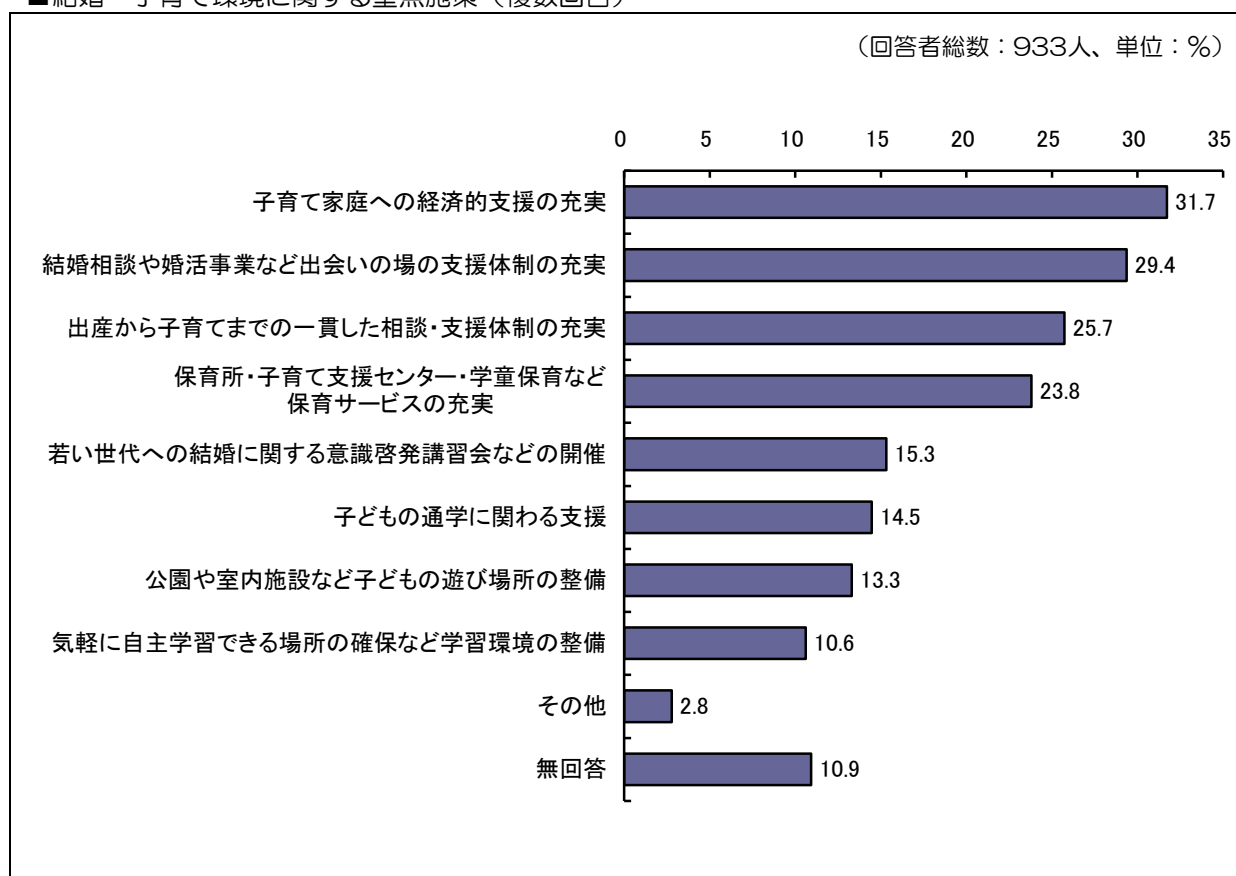
4-5 結婚・子育て環境に関する重点施策（問18）

問 18 結婚や子育て環境の充実のため、今後、町で最も力を入れていくべき取組はどれだと思いますか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

「子育て家庭への経済的支援の充実」や「出会いの場の支援体制の充実」が多い

結婚・子育て環境に関する重点施策については、「子育て家庭への経済的支援の充実」が31.7%で最も多く、次いで「結婚相談や婚活事業など出会いの場の支援体制の充実」が29.4%、「出産から子育てまでの一貫した相談・支援体制の充実」が25.7%で続いています。

■結婚・子育て環境に関する重点施策（複数回答）



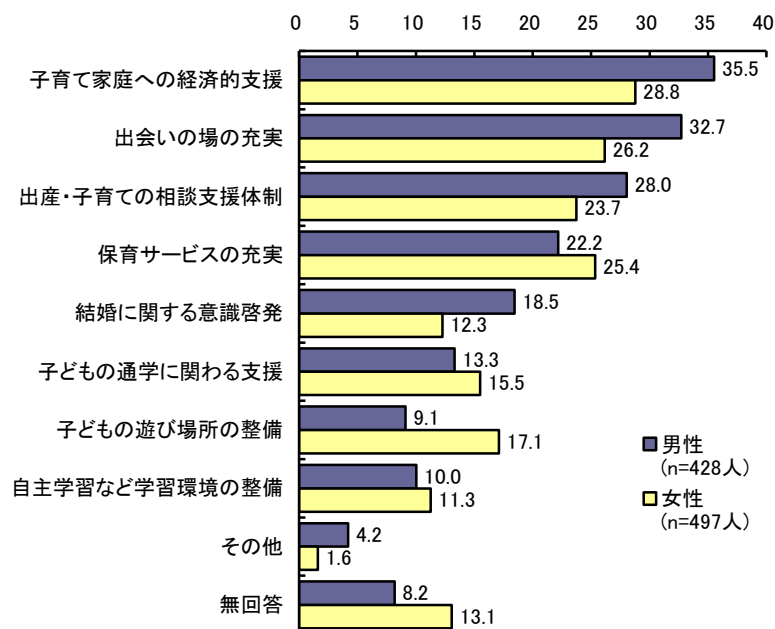
■結婚・子育て環境に関する重点施策（複数回答）

区 分	人（％）
回答者総数	933（100.0）
子育て家庭への経済的支援の充実	296（ 31.7）
結婚相談や婚活事業など出会いの場の支援体制の充実	274（ 29.4）
出産から子育てまでの一貫した相談・支援体制の充実	240（ 25.7）
保育所・子育て支援センター・学童保育など保育サービスの充実	222（ 23.8）
若い世代への結婚に関する意識啓発講習会などの開催	143（ 15.3）
子どもの通学に関わる支援	135（ 14.5）
公園や室内施設など子どもの遊び場所の整備	124（ 13.3）
気軽に自主学習できる場所の確保など学習環境の整備	99（ 10.6）
その他	26（ 2.8）
無回答	102（ 10.9）

【性別】

これを性別にみると、男性は女性に比べて「子育て家庭への経済的支援」や「出会いの場の創出」、「出産・子育ての相談支援体制」の割合が高くなっています。

■性別にみた結婚・子育て環境に関する重点施策（複数回答）

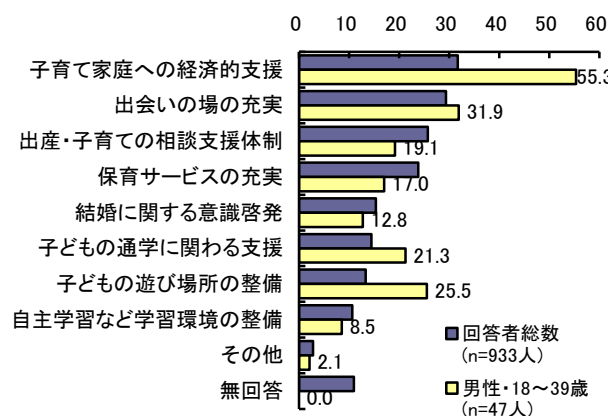


【性・年齢別】

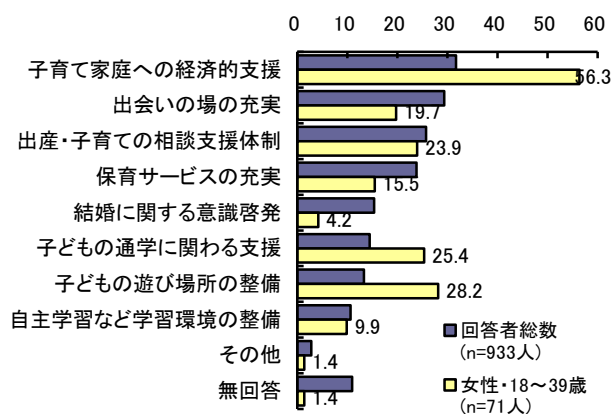
これを性・年齢別にみると、男性、女性ともに18～39歳は「子育て家庭への経済的支援」の割合が特に高くなっています。

■性・年齢別にみた結婚・子育て環境に関する重点施策（複数回答）

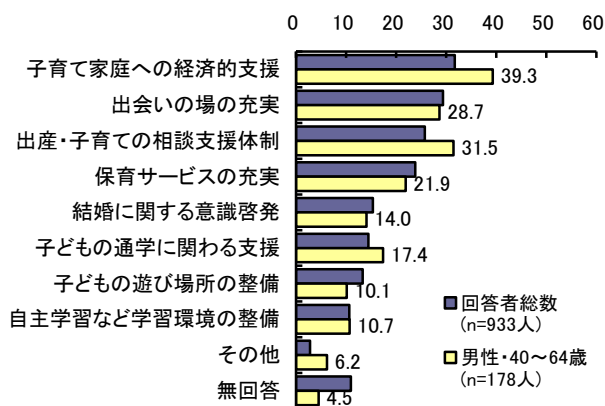
①男性・18～39歳



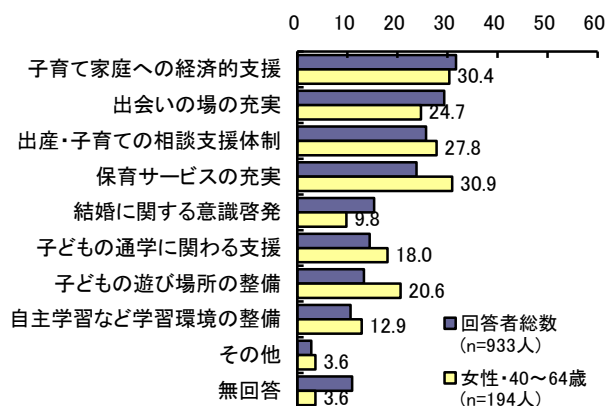
④女性・18～39歳



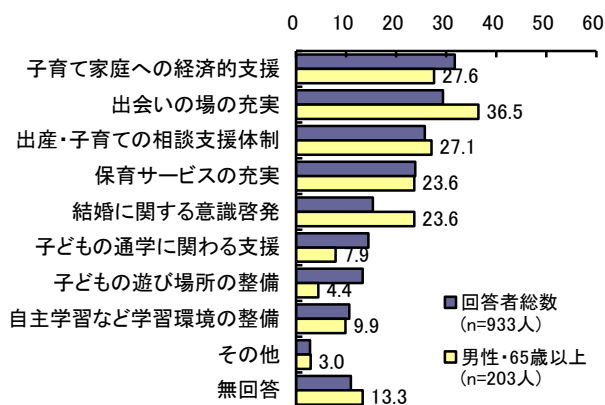
②男性・40～64歳



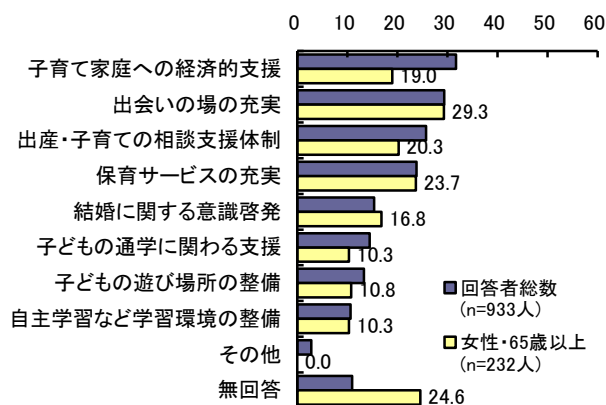
⑤女性・40～64歳



③男性・65歳以上



⑥女性・65歳以上



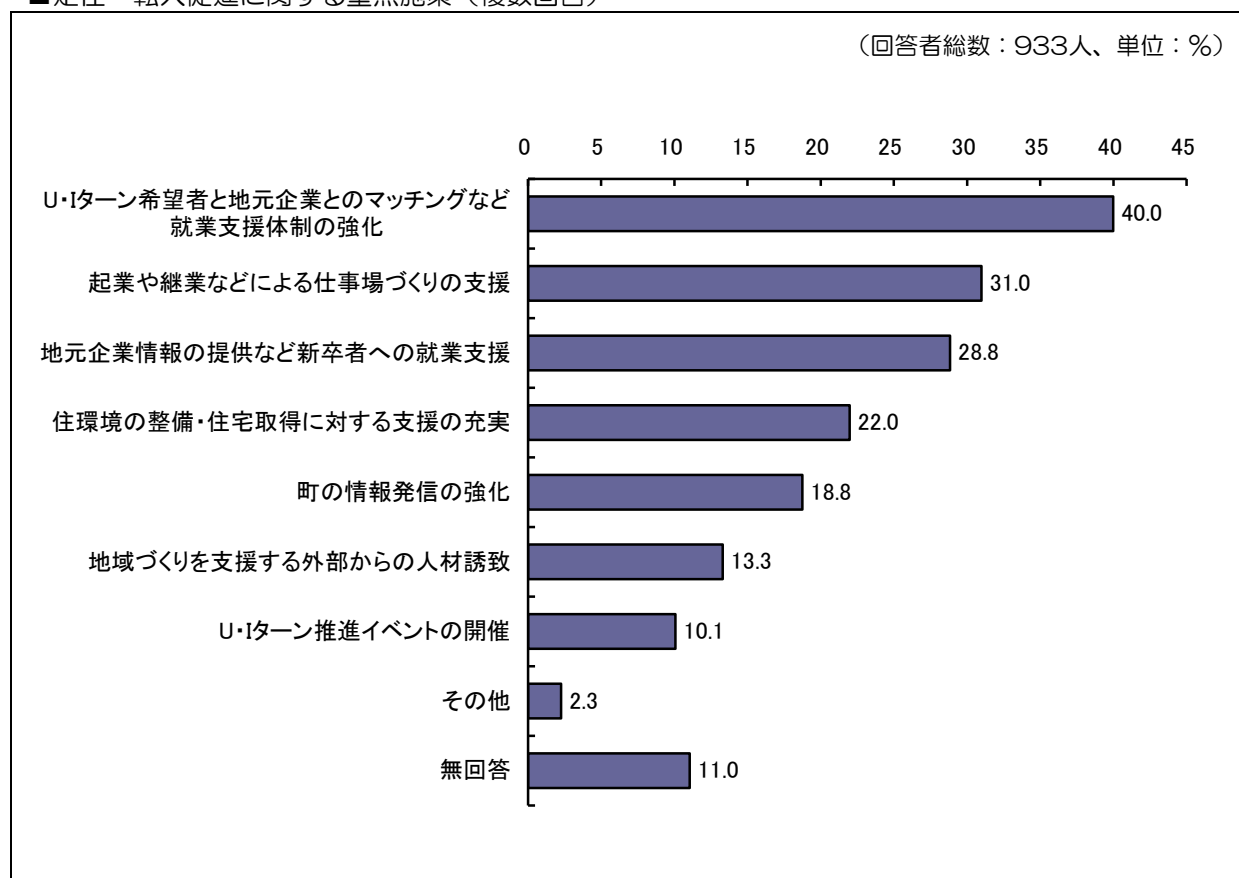
4-6 定住・転入促進に関する重点施策（問19）

問 19 小鹿野町への定住・転入（U・Iターン※）の促進のため、今後、町で最も力を入れていくべき取組はどれだと思いますか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

「U・Iターン希望者と地元企業とのマッチングなど就業支援体制の強化」が最も多い

定住・転入促進に関する重点施策については、「U・Iターン希望者と地元企業とのマッチングなど就業支援体制の強化」が40.0%で最も多く、次いで「起業や継業などによる仕事場づくりの支援」が31.0%、「地元企業情報の提供など新卒者への就業支援」が28.8%が続いています。

■定住・転入促進に関する重点施策（複数回答）



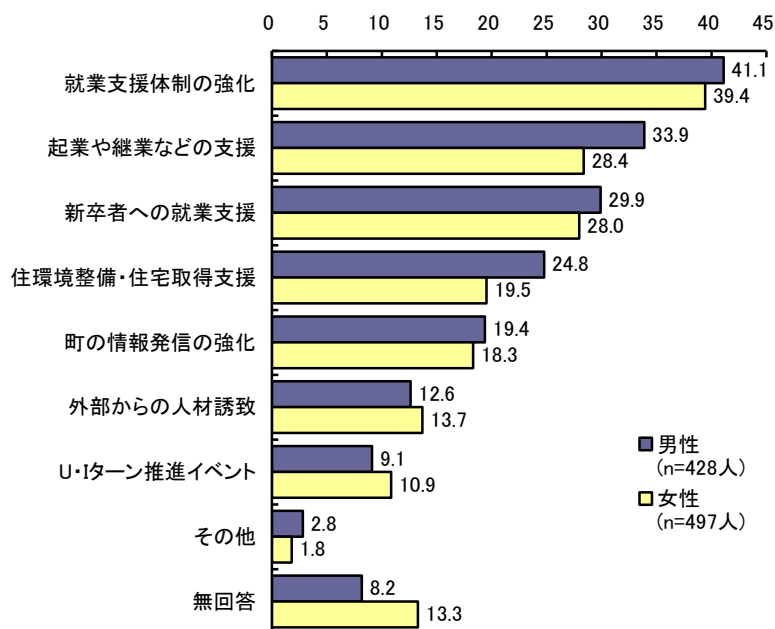
■定住・転入促進に関する重点施策（複数回答）

区 分	人（％）
回答者総数	933（100.0）
U・Iターン希望者と地元企業とのマッチングなど就業支援体制の強化	373（40.0）
起業や継業などによる仕事場づくりの支援	289（31.0）
地元企業情報の提供など新卒者への就業支援	269（28.8）
住環境の整備・住宅取得に対する支援の充実	205（22.0）
町の情報発信の強化	175（18.8）
地域づくりを支援する外部からの人材誘致	124（13.3）
U・Iターン推進イベントの開催	94（10.1）
その他	21（2.3）
無回答	103（11.0）

【性別】

これを性別にみると、男性は女性に比べて「起業や継業などの支援」の割合が高くなっています。

■性別にみた定住・転入促進に関する重点施策（複数回答）

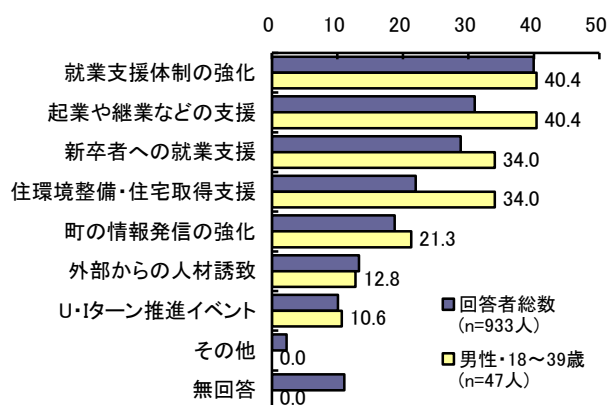


【性・年齢別】

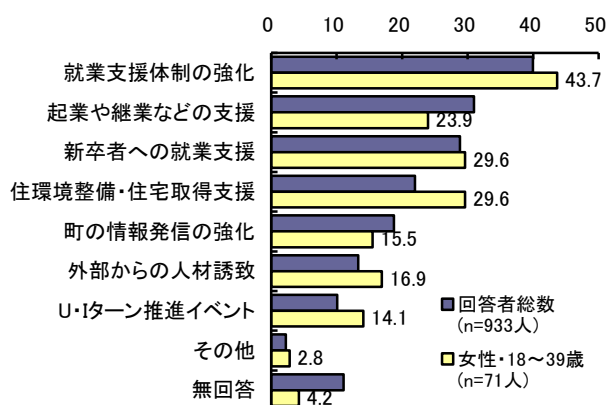
これを性・年齢別にみると、男性の18～39歳は「企業や継業などの支援」や「住環境整備・住宅取得支援」などの割合が他の回答者に比べて高くなっています。

■性・年齢別にみた定住・転入促進に関する重点施策（複数回答）

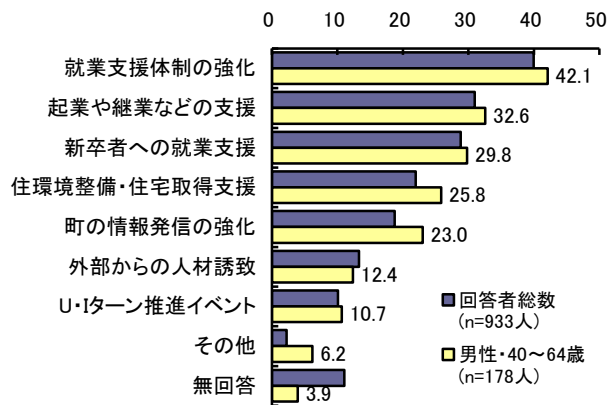
①男性・18～39歳



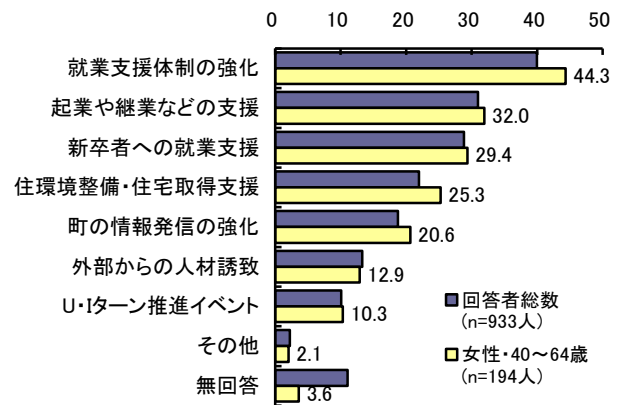
④女性・18～39歳



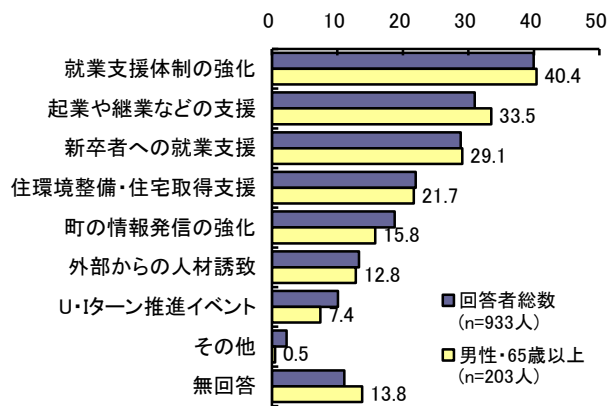
②男性・40～64歳



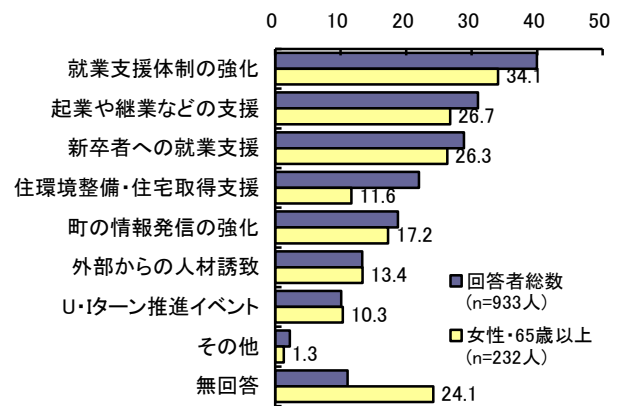
⑤女性・40～64歳



③男性・65歳以上



⑥女性・65歳以上



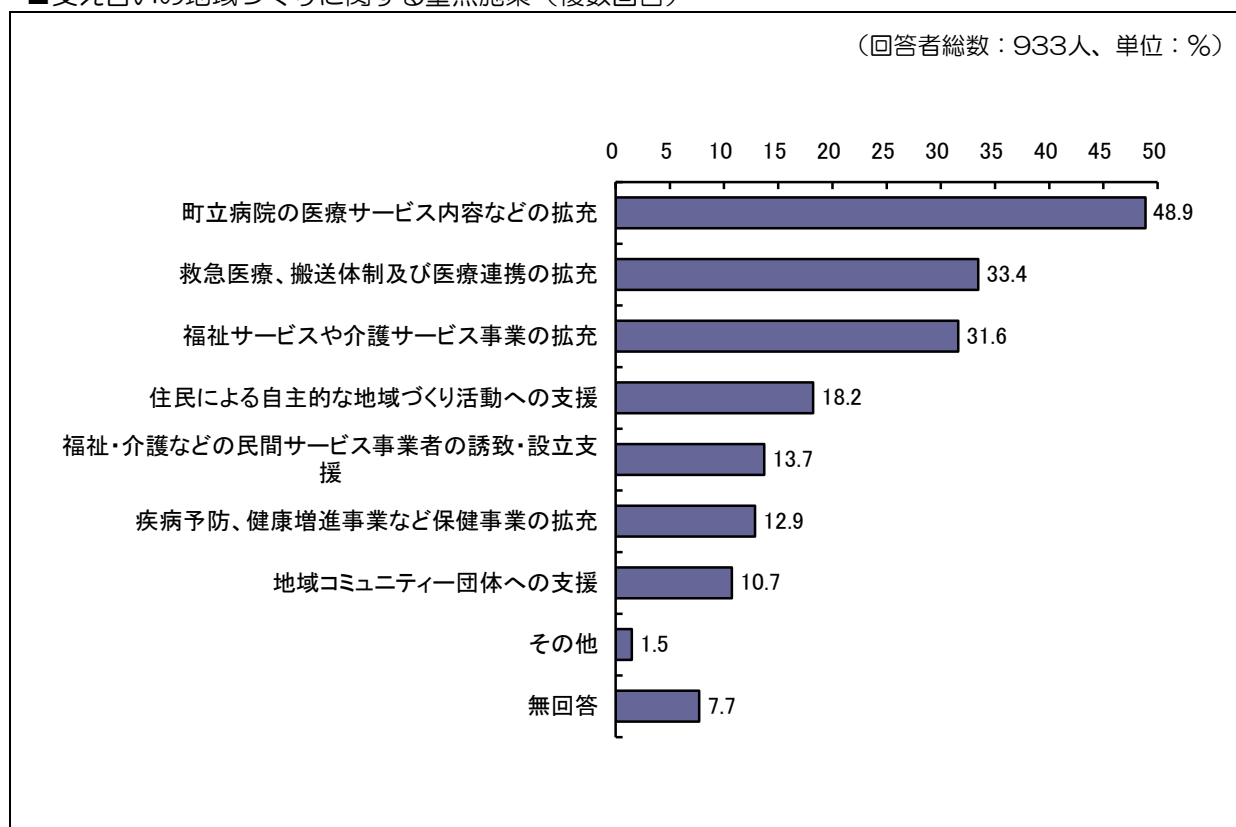
4-7 支え合いの地域づくりに関する重点施策（問20）

問 20 住民同士の支え合いや地域包括ケアシステムなどによって、地域で安心して暮らし続けることができるため、今後、町で最も力を入れていくべき取組はどれだと思いますか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

「町立病院の医療サービス内容などの拡充」が最も多い

支え合いの地域づくりに関する重点施策については、「町立病院の医療サービス内容などの拡充」が48.9%で最も多く、次いで「救急医療、搬送体制及び医療連携の拡充」が33.4%、「福祉サービスや介護サービス事業の拡充」が31.6%で続いています。

■支え合いの地域づくりに関する重点施策（複数回答）



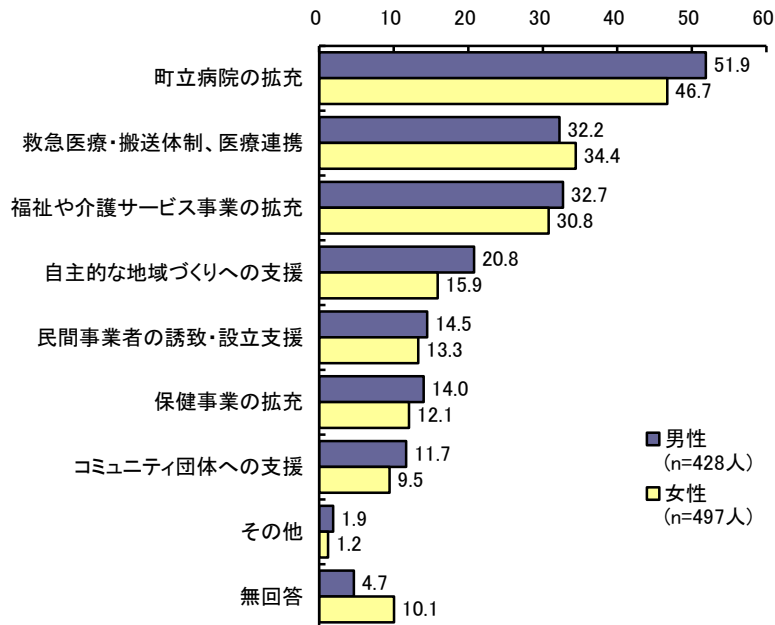
■支え合いの地域づくりに関する重点施策（複数回答）

区 分	人 (%)
回答者総数	933 (100.0)
町立病院の医療サービス内容などの拡充	456 (48.9)
救急医療、搬送体制及び医療連携の拡充	312 (33.4)
福祉サービスや介護サービス事業の拡充	295 (31.6)
住民による自主的な地域づくり活動への支援	170 (18.2)
福祉・介護などの民間サービス事業者の誘致・設立支援	128 (13.7)
疾病予防、健康増進事業など保健事業の拡充	120 (12.9)
地域コミュニティ団体への支援	100 (10.7)
その他	14 (1.5)
無回答	72 (7.7)

【性別】

これを性別にみると、男性は女性に比べて「町立病院の拡充」の割合が高くなっています。

■性別にみた支え合いの地域づくりに関する重点施策（複数回答）

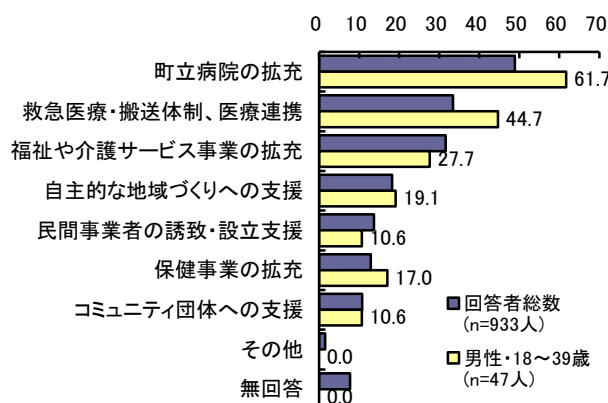


【性・年齢別】

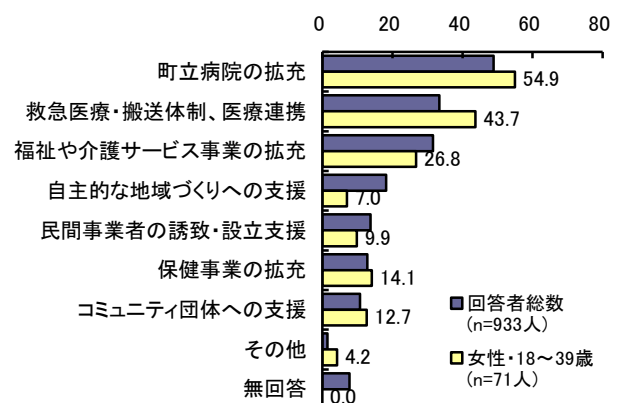
これを性・年齢別にみると、男性、女性ともに「18～39歳」は「町立病院の拡充」及び「救急医療・搬送体制、医療連携」の割合が高くなっています。

■性・年齢別にみた支え合いの地域づくりに関する重点施策（複数回答）

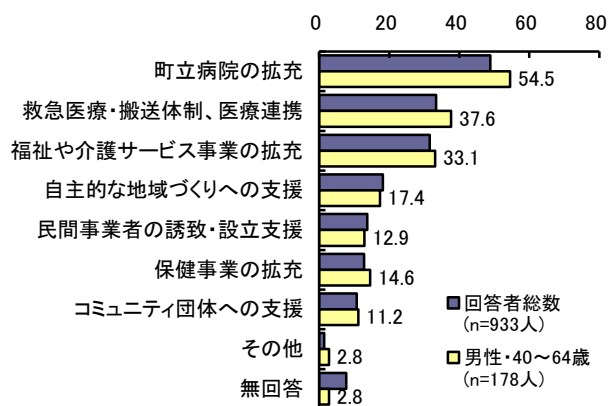
①男性・18～39歳



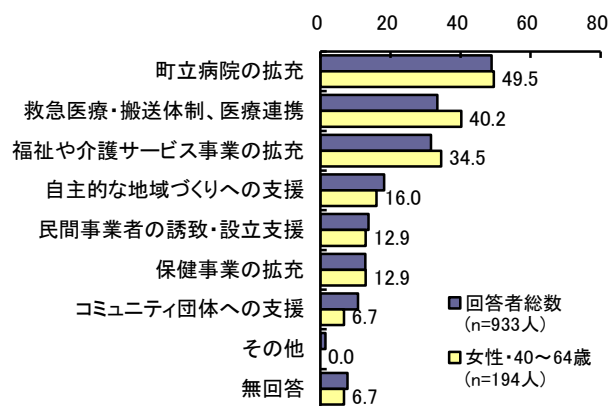
④女性・18～39歳



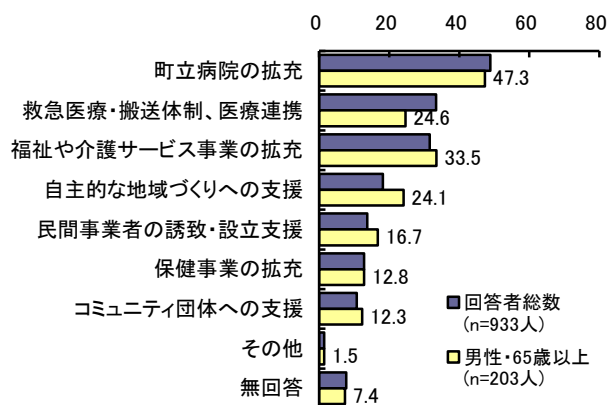
②男性・40～64歳



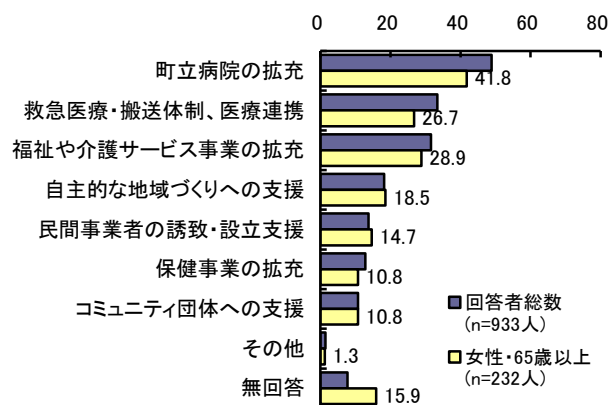
⑤女性・40～64歳



③男性・65歳以上



⑥女性・65歳以上



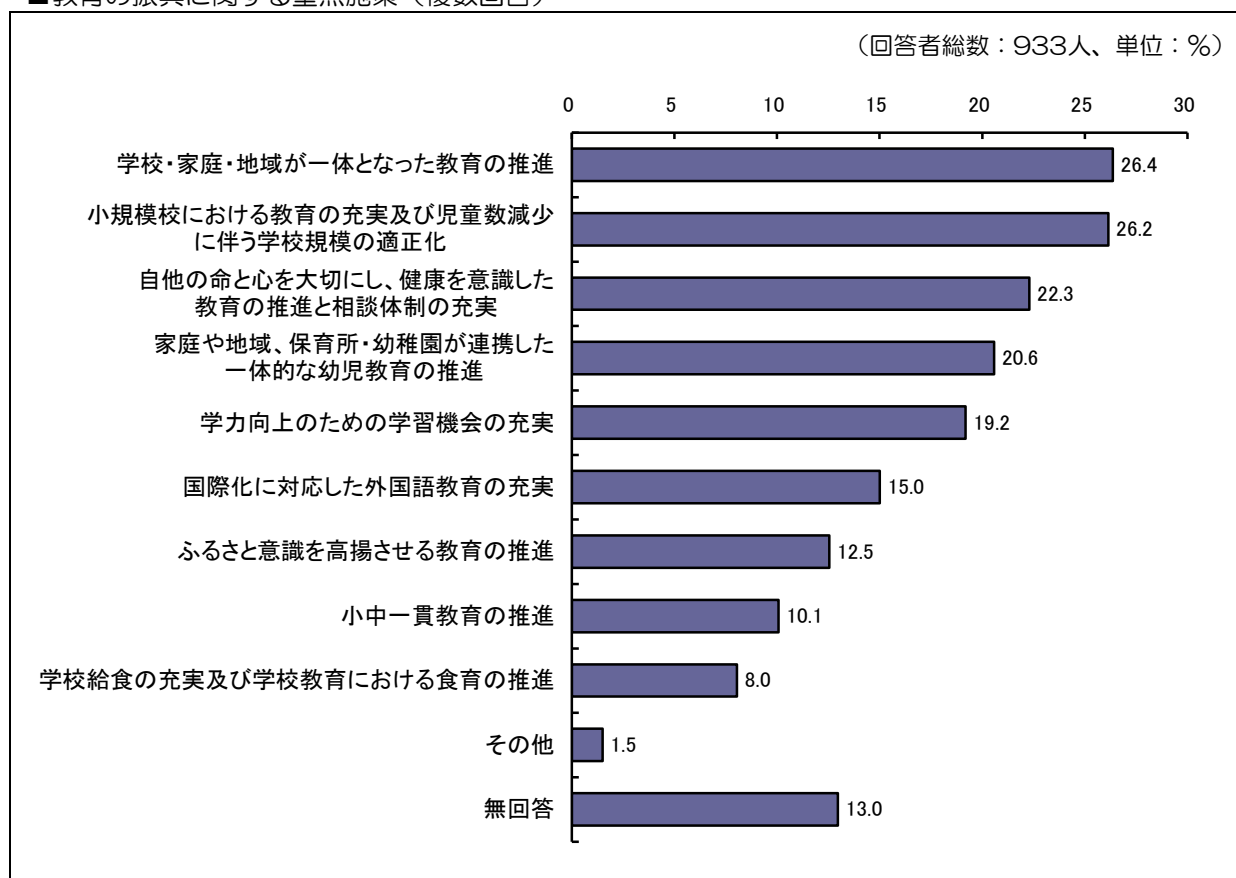
4-8 教育の振興に関する重点施策（問21）

問21 今後の少子化を踏まえ、学校教育の振興や教育環境を整備していくために、町としてどのような取組を推進していくべきだと思いますか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

「学校・家庭・地域が一体となった教育の推進」が最も多い

教育の振興に関する重点施策については、「学校・家庭・地域が一体となった教育の推進」が26.4%で最も多く、次いで「小規模校における教育の充実及び児童数減少に伴う学校規模の適正化」が26.2%、「自他の命と心を大切にし、健康を意識した教育の推進と相談体制の充実」が22.3%で続いています。

■教育の振興に関する重点施策（複数回答）



■教育の振興に関する重点施策（複数回答）

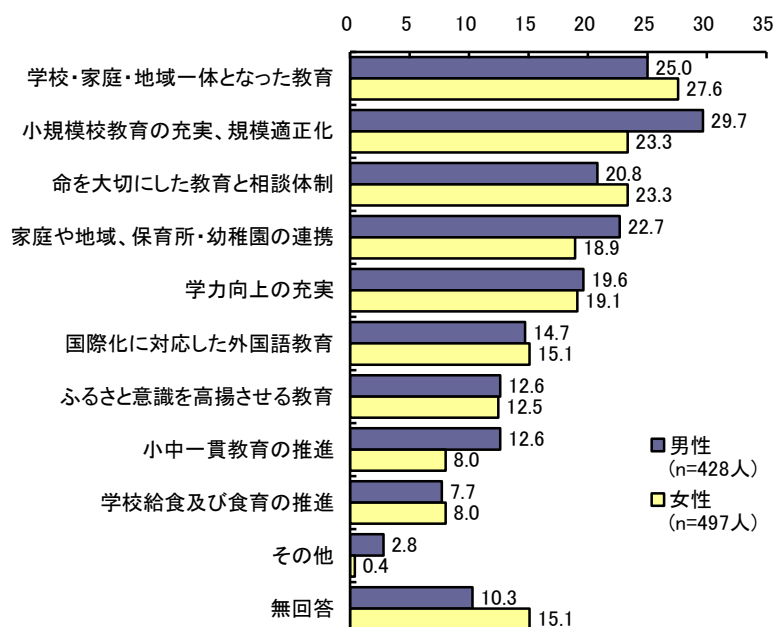
区 分	人（％）
回答者総数	933（100.0）
学校・家庭・地域が一体となった教育の推進	246（26.4）
小規模校における教育の充実及び児童数減少に伴う学校規模の適正化	244（26.2）
自他の命と心を大切にし、健康を意識した教育の推進と相談体制の充実	208（22.3）
家庭や地域、保育所・幼稚園が連携した一体的な幼児教育の推進	192（20.6）
学力向上のための学習機会の充実	179（19.2）
国際化に対応した外国語教育の充実	140（15.0）
ふるさと意識を高揚させる教育の推進	117（12.5）
小中一貫教育の推進	94（10.1）
学校給食の充実及び学校教育における食育の推進	75（8.0）
その他	14（1.5）
無回答	121（13.0）

【性別】

これを性別にみると、男性は「小規模校教育の充実、規模適正化」及び「家庭や地域、保育所・幼稚園の連携」の割合が高くなっています。

一方、女性は「学校・家庭・地域一体となった教育」の割合が高くなっています。

■性別にみた教育の振興に関する重点施策（複数回答）

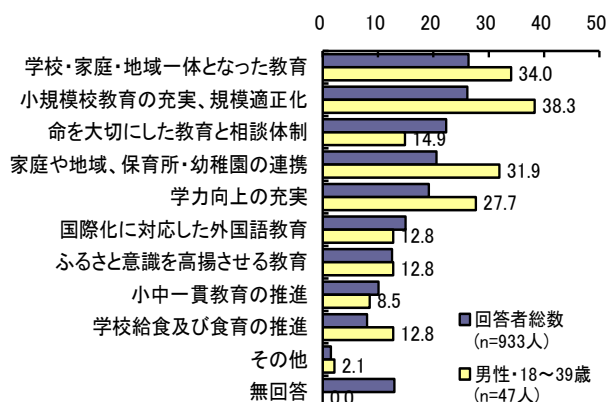


【性・年齢別】

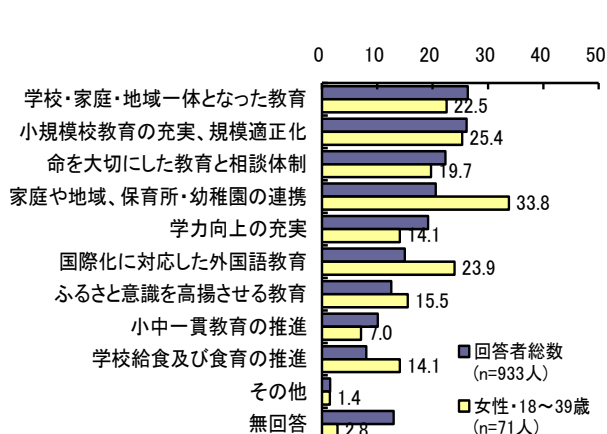
これを性・年齢別にみると、男性の18～39歳は「学校・家庭・地域一体となった教育」や「小規模校教育の充実・規模適正化」、「家庭や地域、保育所・幼稚園の連携」、「学力の向上」の割合が高くなっています。また、女性の19から39歳は「家庭や地域、保育所・幼稚園の連携」の割合が高くなっています。

■性・年齢別にみた教育の振興に関する重点施策（複数回答）

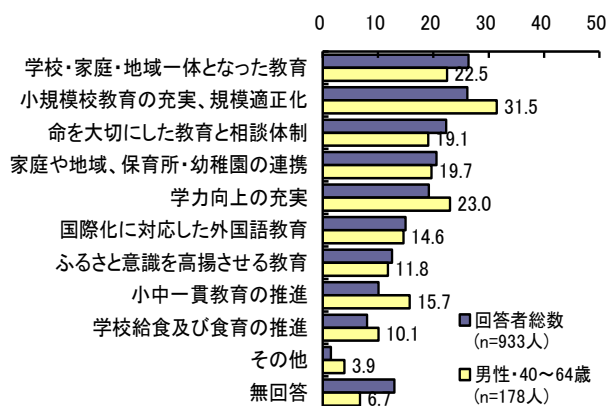
①男性・18～39歳



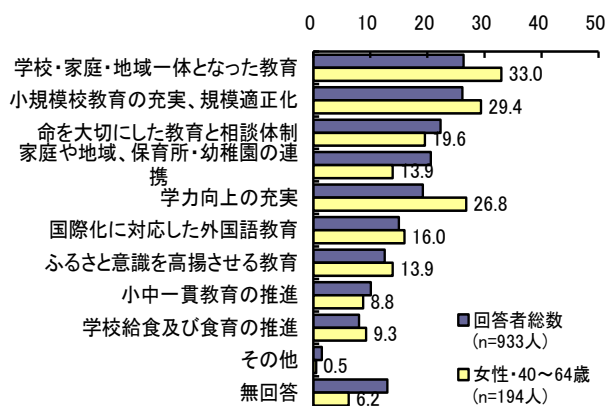
④女性・18～39歳



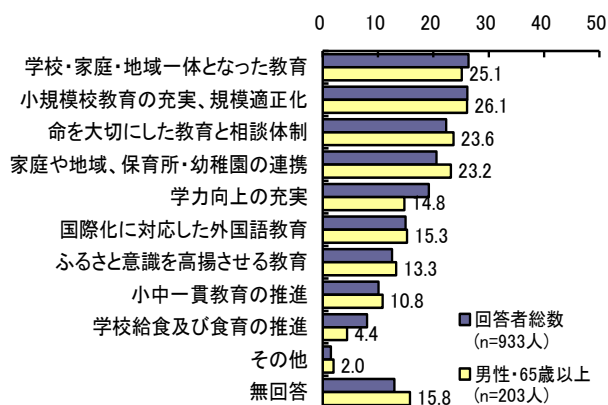
②男性・40～64歳



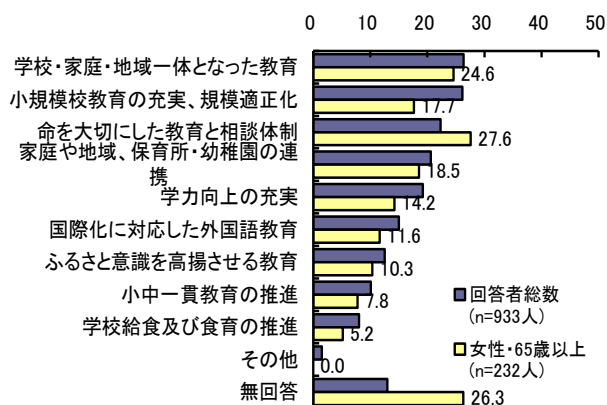
⑤女性・40～64歳



③男性・65歳以上



⑥女性・65歳以上



4-9 社会教育・スポーツ振興に関する重点施策（問22）

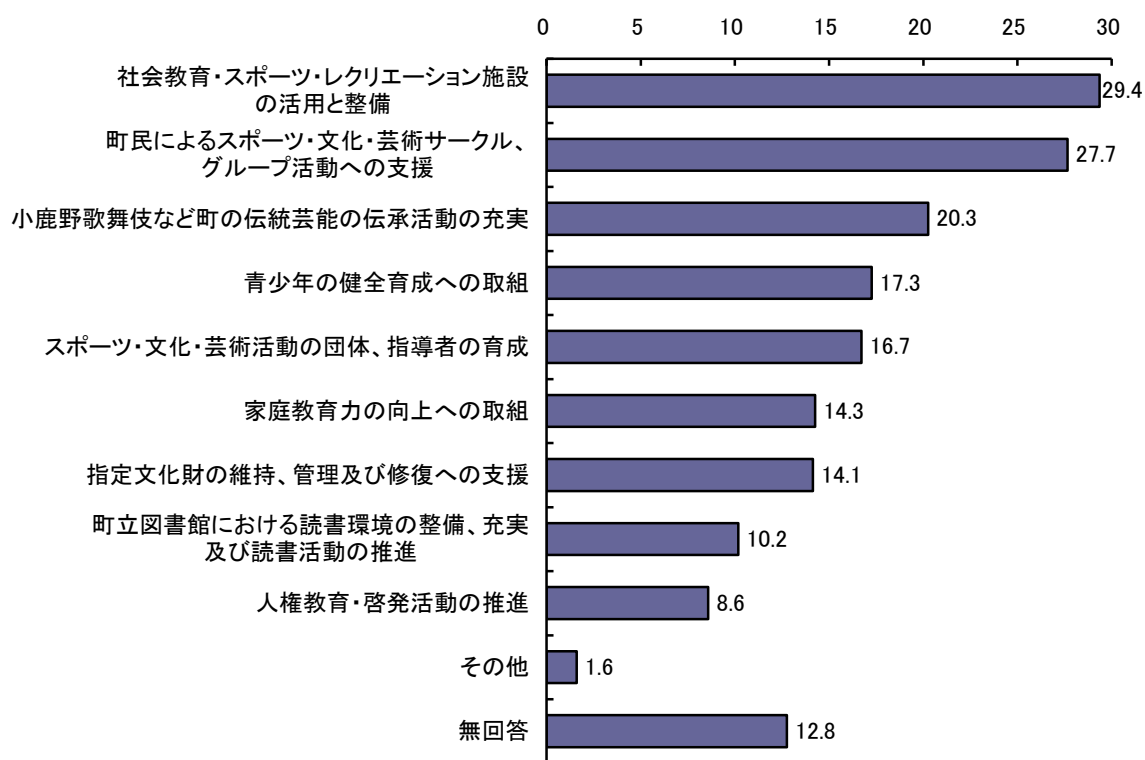
問 22 社会教育・スポーツの振興を図る上で、今後、町で最も力を入れていくべき取組はどれだと思いますか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

「社会教育・スポーツ・レクリエーション施設の活用と整備」が最も多い

社会教育・スポーツ振興に関する重点施策については、「社会教育・スポーツ・レクリエーション施設の活用と整備」が29.4%で最も多く、次いで「町民によるスポーツ・文化・芸術サークル、グループ活動への支援」が27.7%、「小鹿野歌舞伎など町の伝統芸能の伝承活動の充実」が20.3%で続いています。

■社会教育・スポーツ振興に関する重点施策（複数回答）

（回答者総数：933人、単位：％）



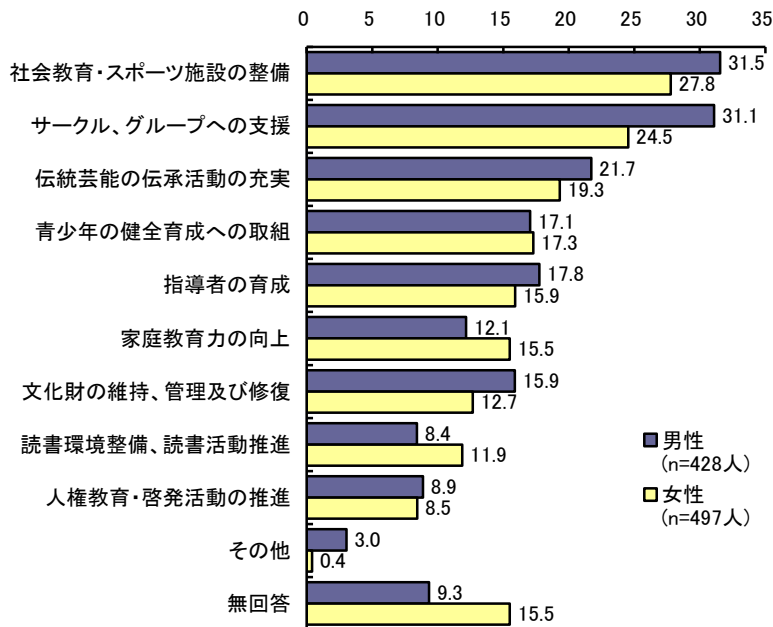
■社会教育・スポーツ振興に関する重点施策（複数回答）

区 分	人 (%)
回答者総数	933 (100.0)
社会教育・スポーツ・レクリエーション施設の活用と整備	274 (29.4)
町民によるスポーツ・文化・芸術サークル、グループ活動への支援	258 (27.7)
小鹿野歌舞伎など町の伝統芸能の伝承活動の充実	189 (20.3)
青少年の健全育成への取組	161 (17.3)
スポーツ・文化・芸術活動の団体、指導者の育成	156 (16.7)
家庭教育力の向上への取組	133 (14.3)
指定文化財の維持、管理及び修復への支援	132 (14.1)
町立図書館における読書環境の整備、充実及び読書活動の推進	95 (10.2)
人権教育・啓発活動の推進	80 (8.6)
その他	15 (1.6)
無回答	119 (12.8)

【性別】

これを性別にみると、男性は女性に比べて「社会教育・スポーツ施設の整備」及び「サークル、グループへの支援」の割合が高くなっています。

■性別にみた社会教育・スポーツ振興に関する重点施策（複数回答）

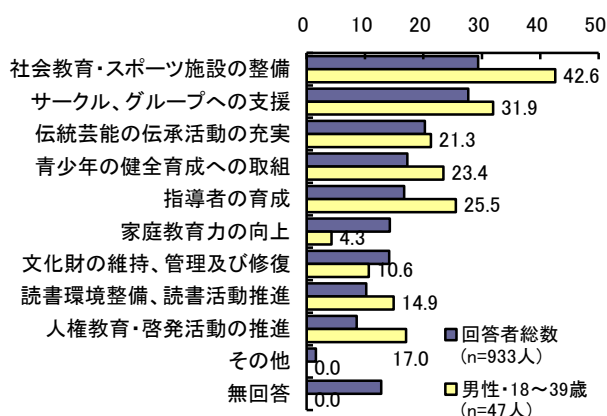


【性・年齢別】

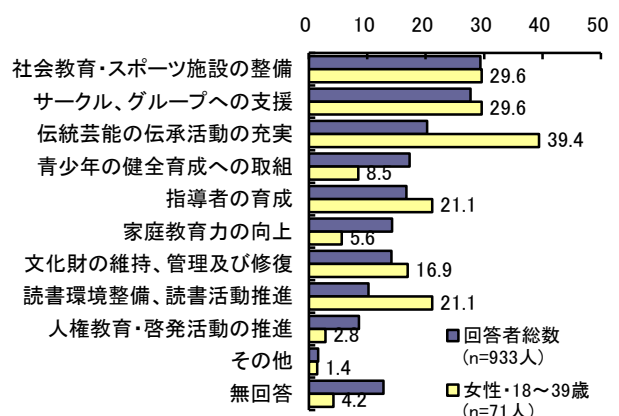
これを性・年齢別にみると、

■性・年齢別にみた社会教育・スポーツ振興に関する重点施策（複数回答）

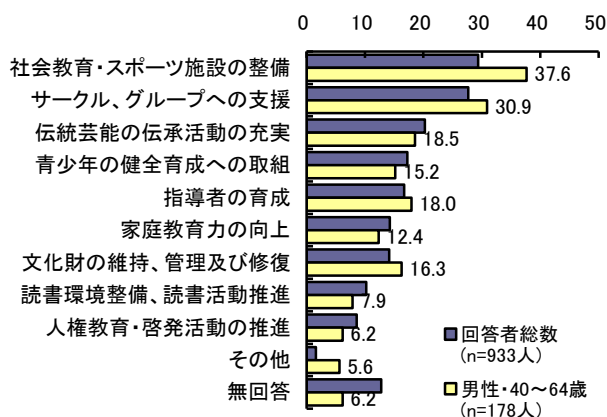
①男性・18～39歳



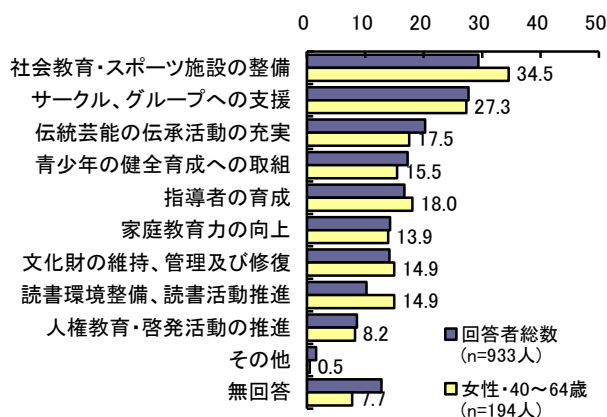
④女性・18～39歳



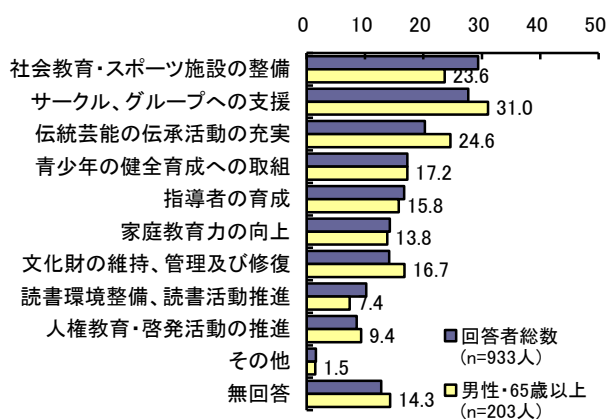
②男性・40～64歳



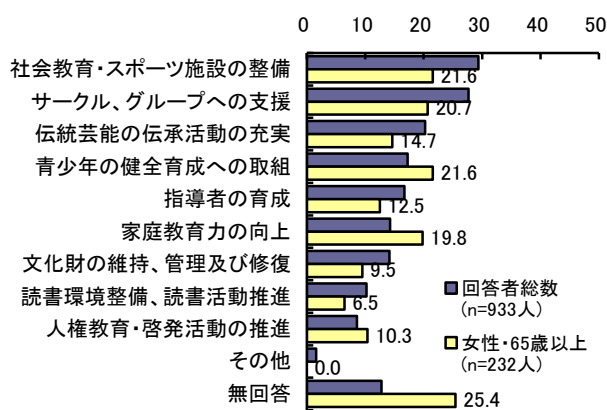
⑤女性・40～64歳



③男性・65歳以上



⑥女性・65歳以上



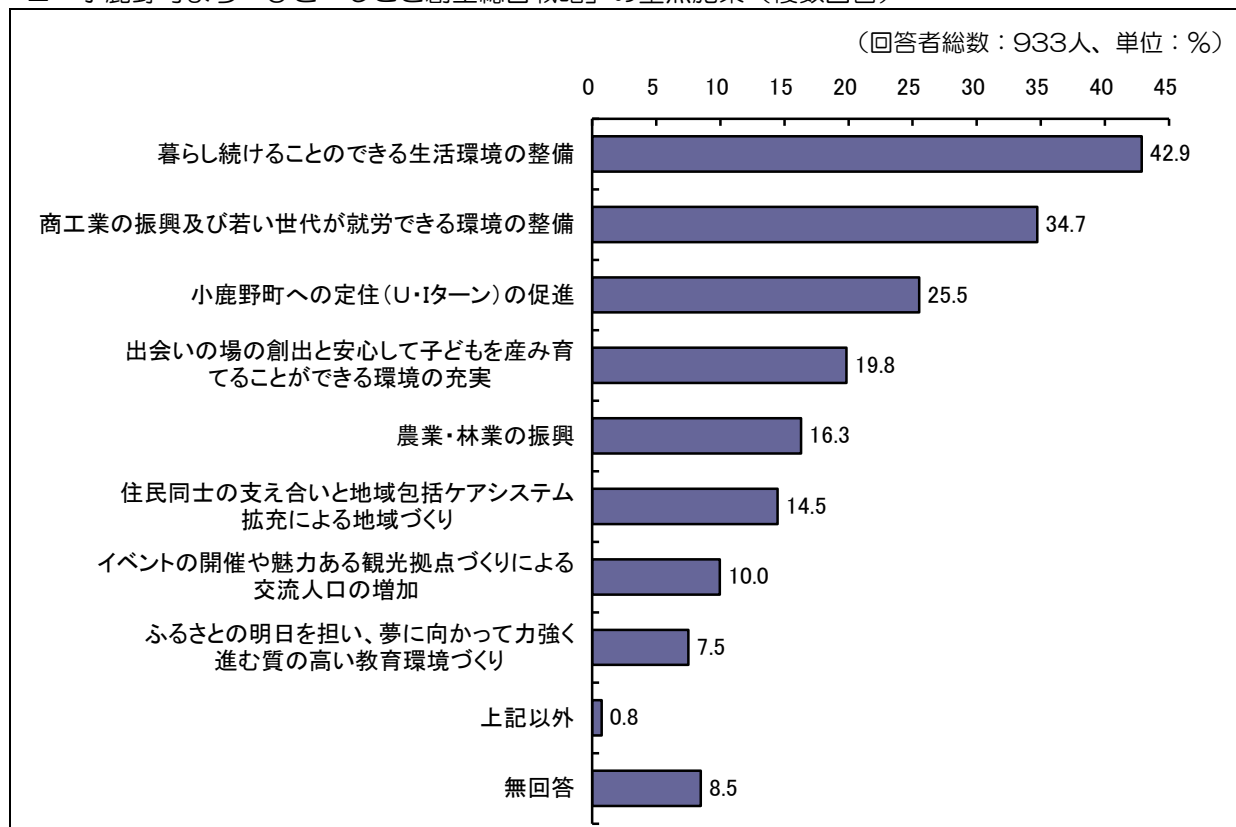
4-10 「小鹿野町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の重点施策（問23）

問 23 町では、持続性のあるまちづくりに向けて、今後目指すべき将来の方向や人口の将来展望を示した「小鹿野町まち・ひと・しごと創生総合戦略※」を平成 28 年 3 月に策定しました。あなたは、次の項目の中で、特にどの取組が大切だと思いますか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

「暮らし続けることのできる生活環境の整備」が最も多い

「小鹿野町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の重点施策については、「暮らし続けることのできる生活環境の整備」が42.9%で最も多く、次いで「商工業の振興及び若い世代が就労できる環境の整備」が34.7%、「小鹿野町への定住（U・Iターン）の促進」が25.5%が続いています。

■「小鹿野町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の重点施策（複数回答）



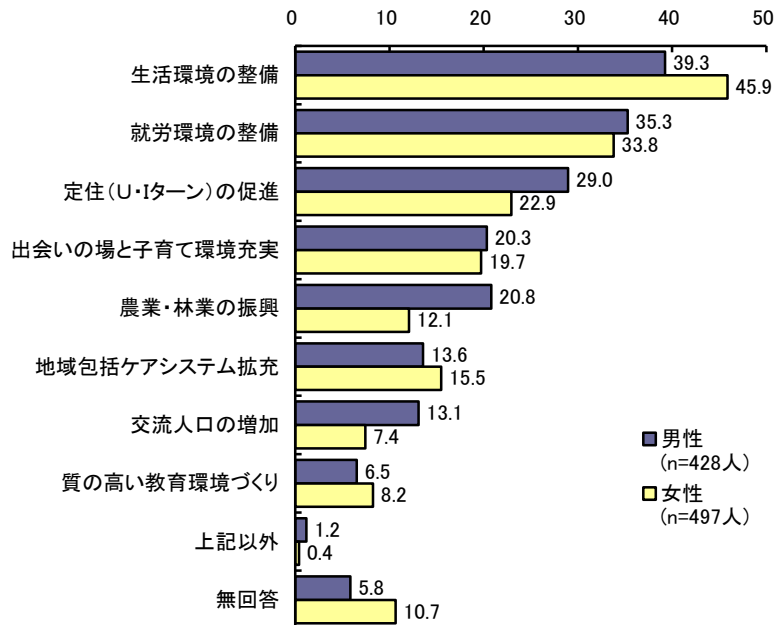
■「小鹿野町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の重点施策（複数回答）

区 分	人（％）
回答者総数	933（100.0）
暮らし続けることのできる生活環境の整備	400（42.9）
商工業の振興及び若い世代が就労できる環境の整備	324（34.7）
小鹿野町への定住（U・Iターン）の促進	238（25.5）
出会いの場の創出と安心して子どもを産み育てることができる環境の充実	185（19.8）
農業・林業の振興	152（16.3）
住民同士の支え合いと地域包括ケアシステム拡充による地域づくり	135（14.5）
イベントの開催や魅力ある観光拠点づくりによる交流人口の増加	93（10.0）
ふるさとの明日を担い、夢に向かって力強く進む質の高い教育環境づくり	70（7.5）
上記以外	7（0.8）
無回答	79（8.5）

【性別】

これを性別にみると、女性は男性に比べて「生活環境の整備」の割合が高くなっています。

■性別にみた「小鹿野町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の重点施策（複数回答）

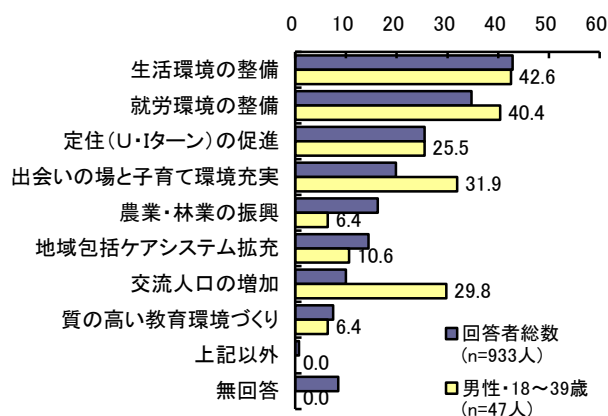


【性・年齢別】

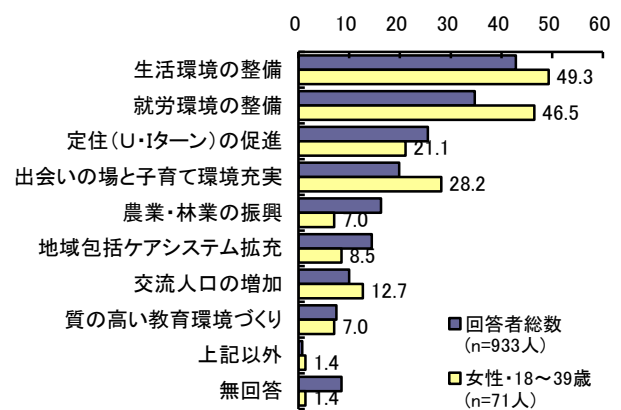
これを性・年齢別にみると、

■性・年齢別にみた「小鹿野町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の重点施策（複数回答）

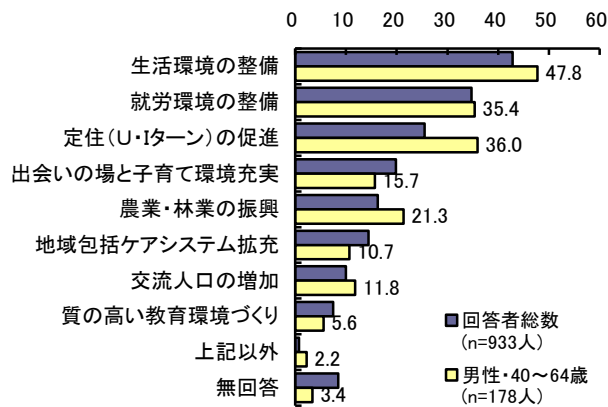
①男性・18～39歳



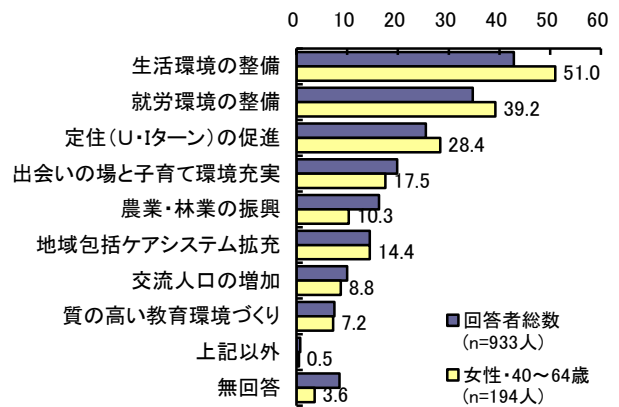
④女性・18～39歳



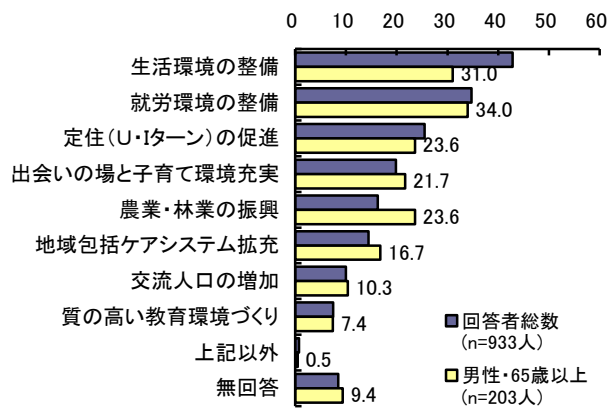
②男性・40～64歳



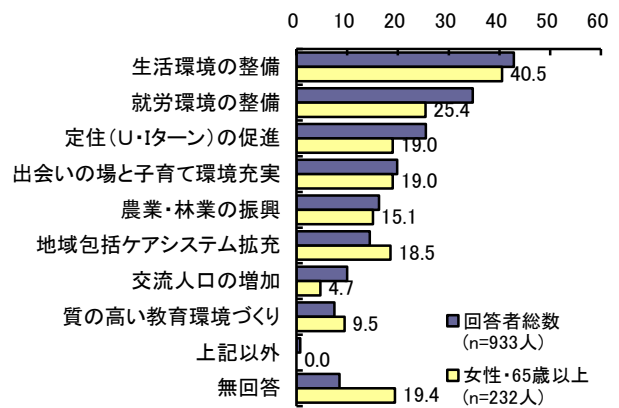
⑤女性・40～64歳



③男性・65歳以上



⑥女性・65歳以上



第5節 これからの交通環境のあり方について

5-1 外出する際の移動手段（問24）

問 24 外出する際の移動手段は何ですか。あてはまる番号すべてに○をつけて下さい。

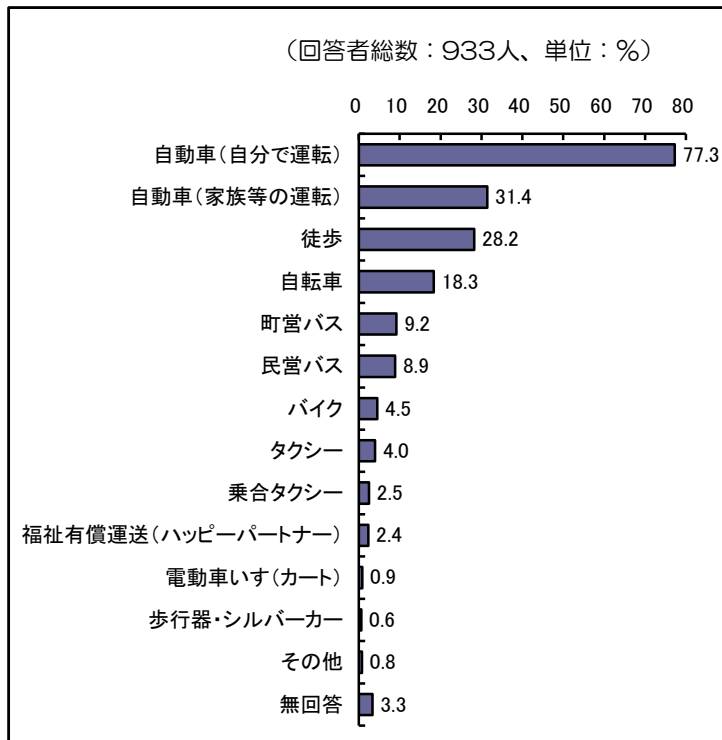
「自動車（自分で運転）」が最も多い

外出する際の移動手段については、「自動車（自分で運転）」が77.3%で最も多く、次いで「自動車（家族等の運転）」が31.4%、「徒歩」が28.2%で続いています。

■外出する際の移動手段（複数回答）

区 分	人 (%)
回答者総数	933 (100.0)
自動車（自分で運転）	721 (77.3)
自動車（家族等の運転）	293 (31.4)
徒歩	263 (28.2)
自転車	171 (18.3)
町営バス	86 (9.2)
民営バス	83 (8.9)
バイク	42 (4.5)
タクシー	37 (4.0)
乗合タクシー	23 (2.5)
福祉有償運送（ハッピーパートナー）	22 (2.4)
電動車いす（カート）	8 (0.9)
歩行器・シルバーカー	6 (0.6)
その他	7 (0.8)
無回答	31 (3.3)

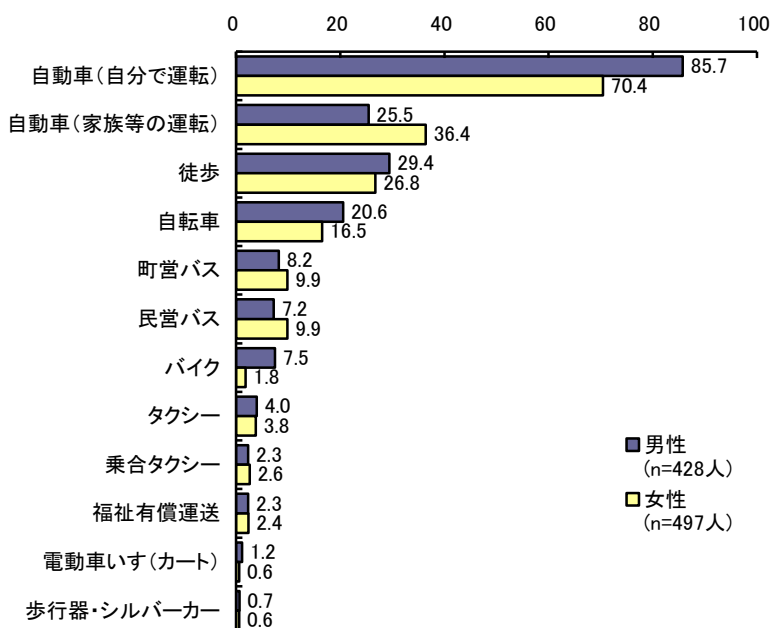
■外出する際の移動手段（複数回答）



【性別】

これを性別にみると、男性は女性に比べて「自動車（自分で運転）」の割合が高くなっています。

■性別にみた外出する際の移動手段（複数回答）

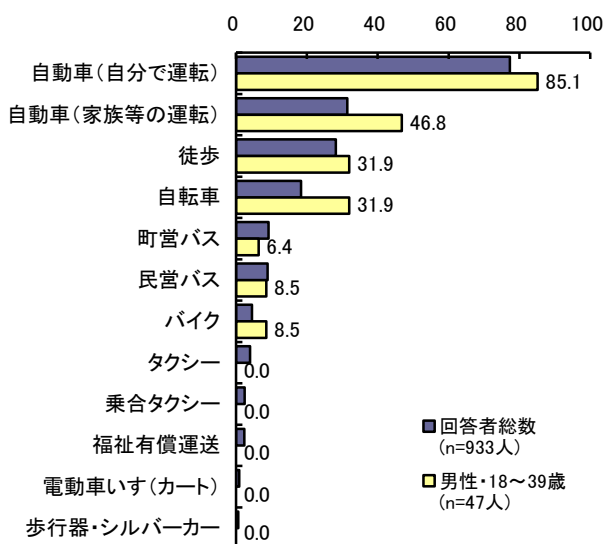


【性・年齢別】

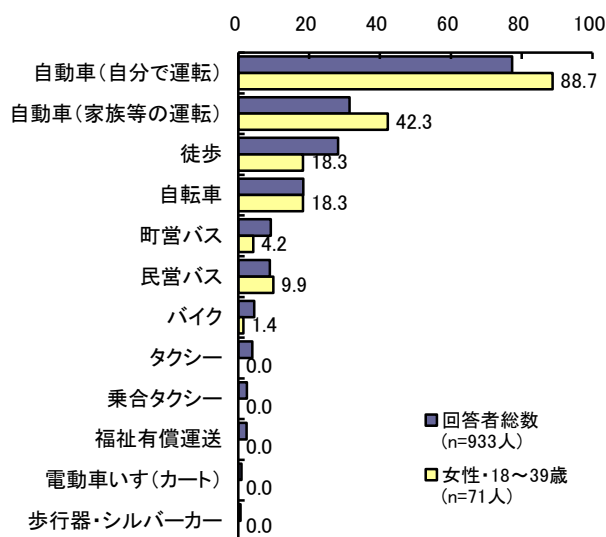
これを性・年齢別にみると、女性の65歳以上は「自動車（自分で運転）」の割合が他の回答者に比べて低くなっています。

■性・年齢別にみた外出する際の移動手段（複数回答）

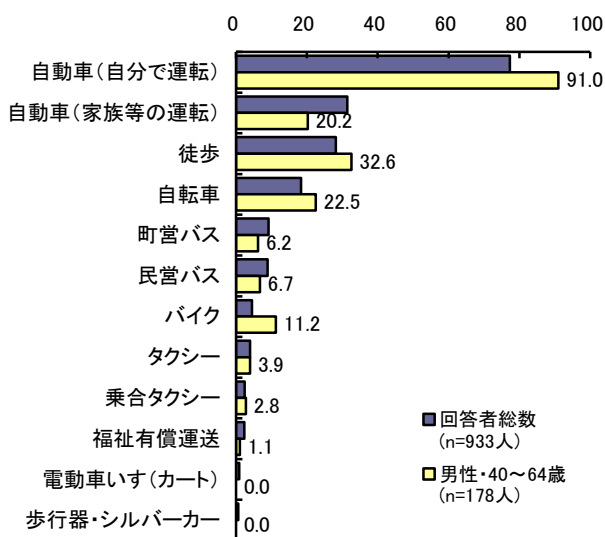
①男性・18～39歳



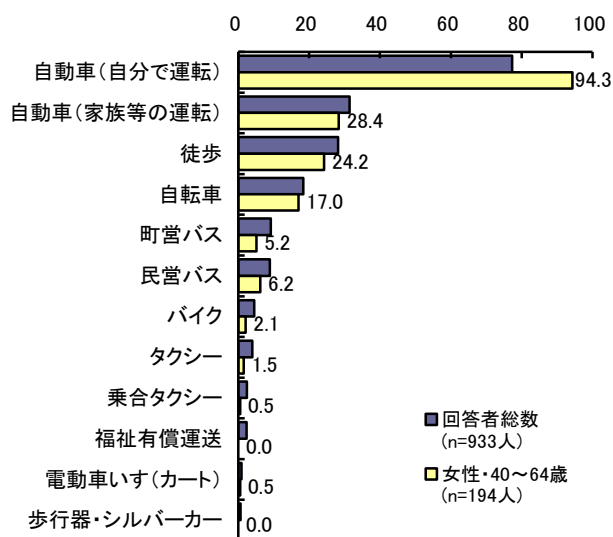
④女性・18～39歳



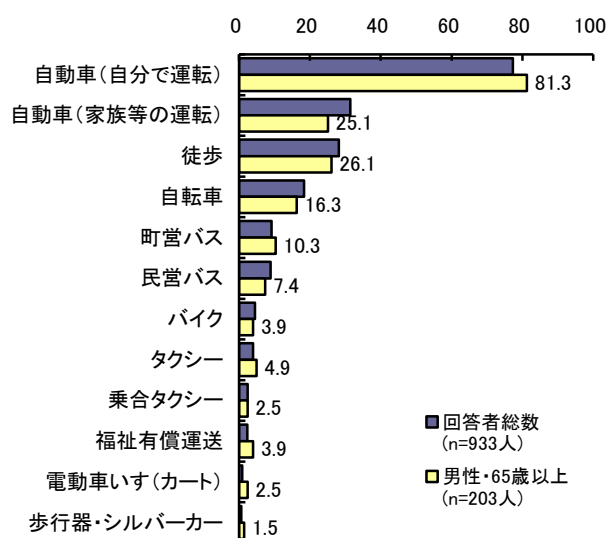
②男性・40～64歳



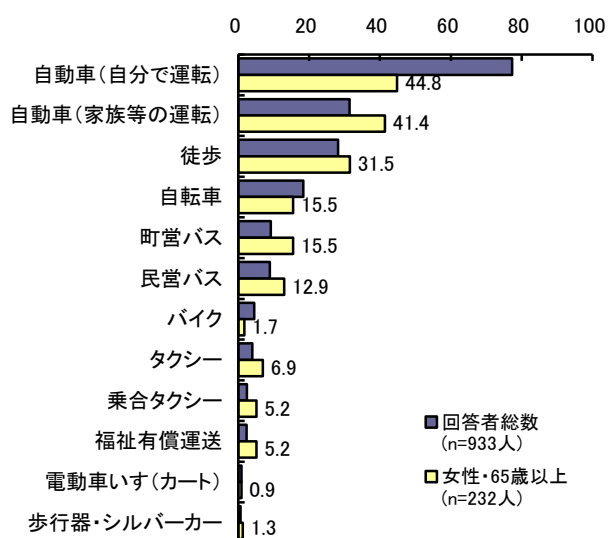
⑤女性・40～64歳



③男性・65歳以上



⑥女性・65歳以上



5-2 公共交通機関の利用状況（問25）

問 25 あなたは、次の交通機関を利用していますか。あてはまる番号1つに○を付けてください。

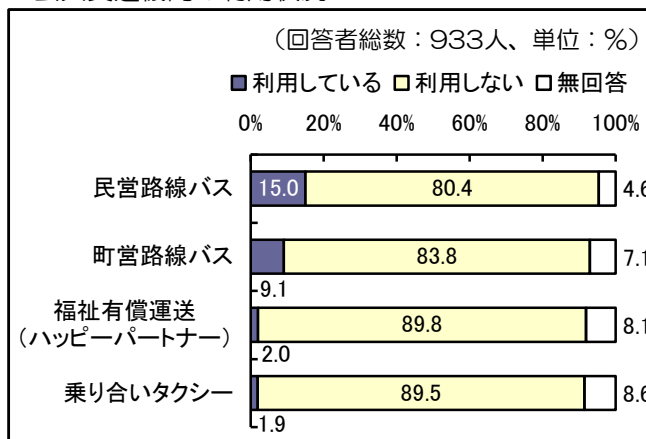
「民営路線バス」利用は 15.0%

公共交通機関の利用状況について、“利用している”の割合に着目してみると、「民営路線バス」が15.0%で最も多く、次いで「町営路線バス」が9.1%、「福祉有償運送（ハッピーパートナー）」が2.0%、「乗り合いタクシー」が1.9%となっています。

■公共交通機関の利用状況

回答者総数：933人単位：人（%）

■公共交通機関の利用状況



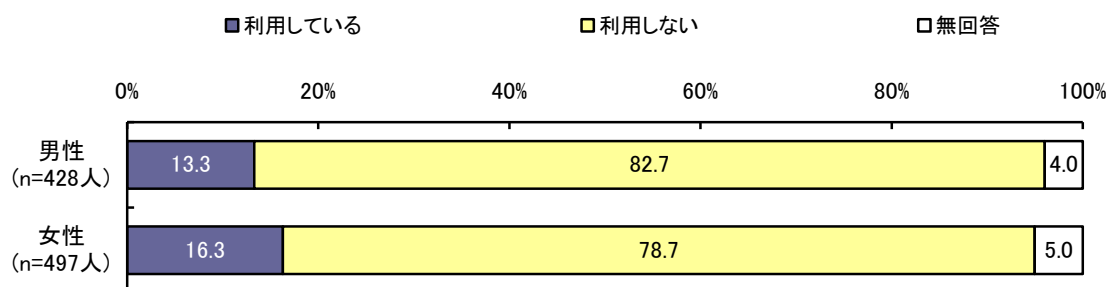
区 分	利用している						利用しない	無回答
	ほとんど毎日	週に2～4回	週に1回	月に2～3回	月に1回以下	不定期(雨天時など)		
民営路線バス	8 (0.9)	5 (0.5)	7 (0.8)	25 (2.7)	37 (4.0)	58 (6.2)	750 (80.4)	43 (4.6)
町営路線バス	0 (0.0)	3 (0.3)	2 (0.2)	15 (1.6)	24 (2.6)	41 (4.4)	782 (83.8)	66 (7.1)
福祉有償運送 (ハッピーパートナー)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (0.2)	2 (0.2)	7 (0.8)	8 (0.9)	838 (89.8)	76 (8.1)
乗り合いタクシー	1 (0.1)	1 (0.1)	0 (0.0)	1 (0.1)	4 (0.4)	11 (1.2)	835 (89.5)	80 (8.6)

【性別】

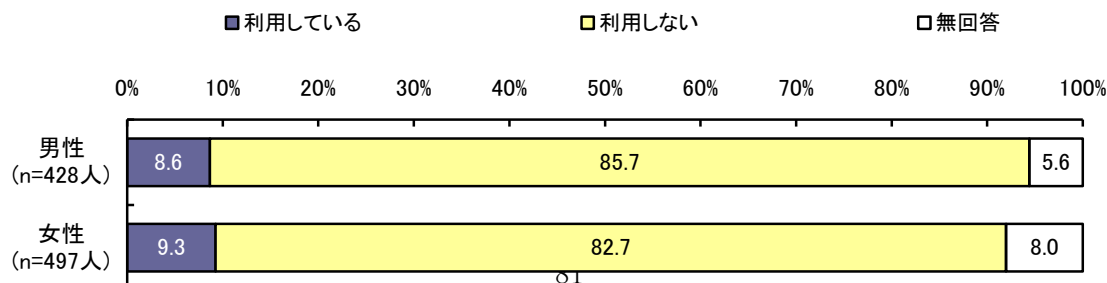
これを性別にみると、民営路線バスでは、女性が男性に比べて「利用している」の割合がやや高くなっています。

■性別にみた公共交通機関の利用状況

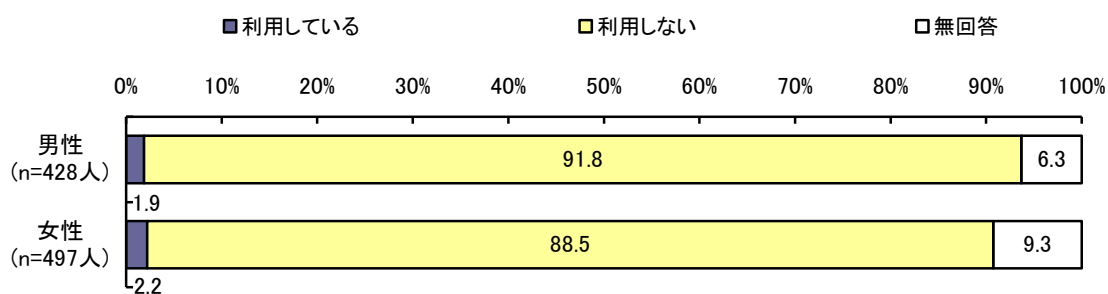
①民営路線バス



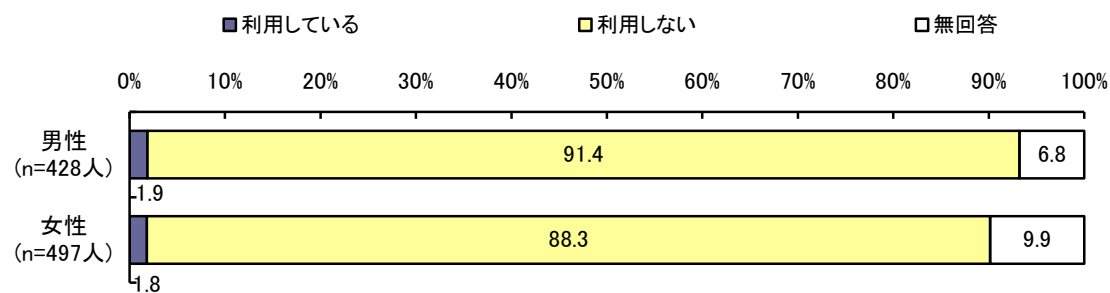
②町営路線バス



③福祉有償運送（ハッピーパートナー）



④乗り合いタクシー

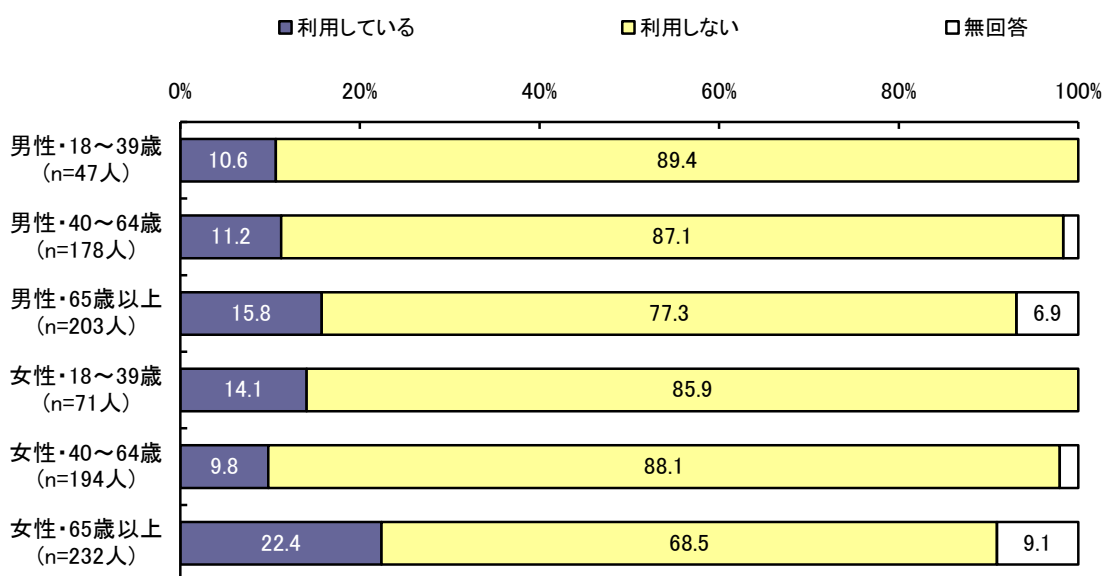


【性・年齢別】

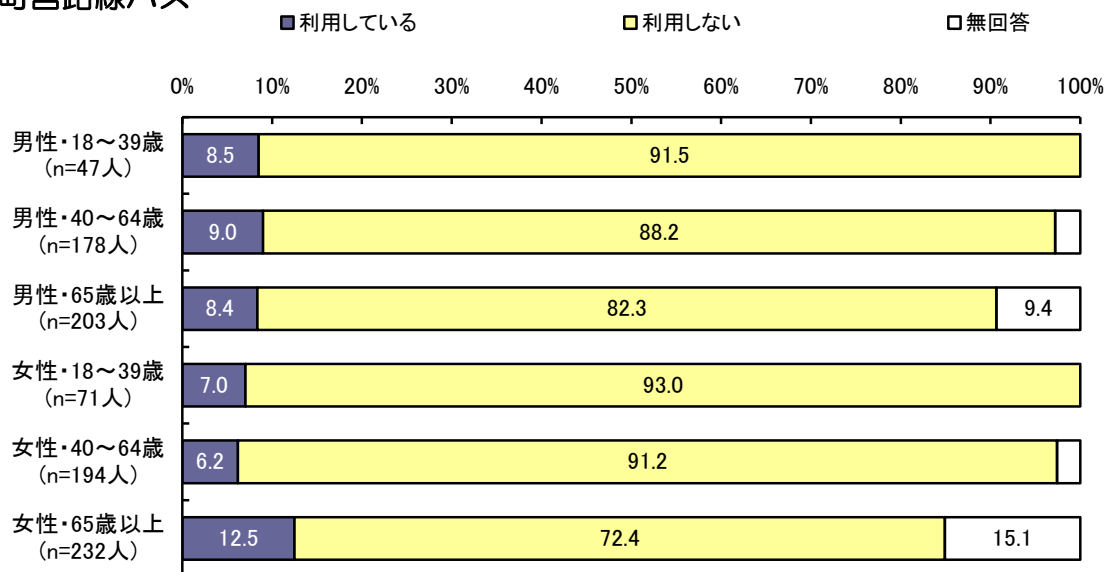
これを性・年齢別にみると、女性の65歳以上は民営路線バスや町営バスで“利用している”の割合が他の回答者に比べて高くなっています。

■性・年齢別にみた公共交通機関の利用状況

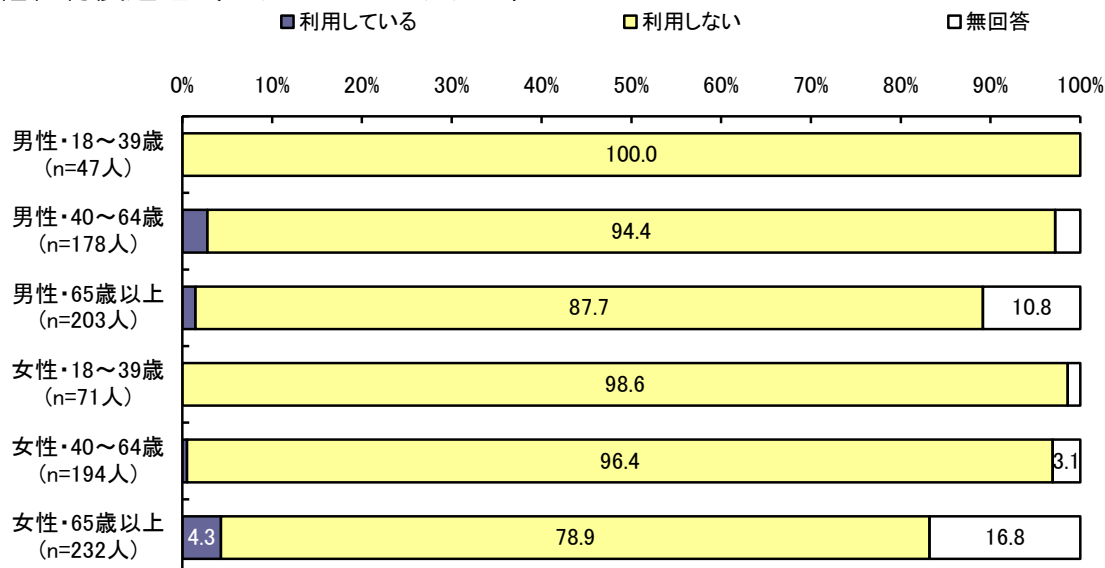
①民営路線バス



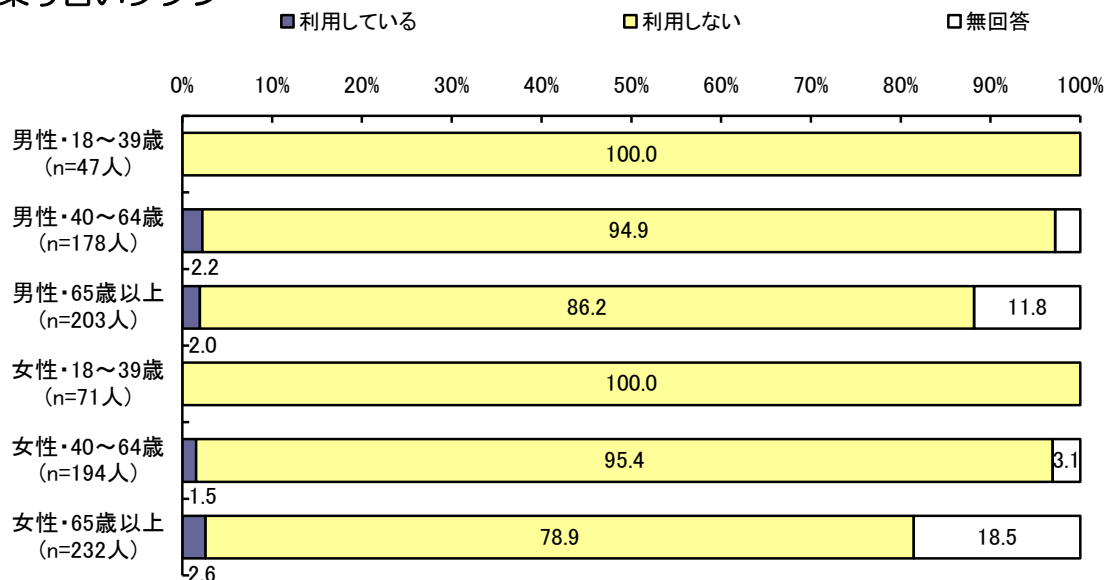
②町営路線バス



③福祉有償運送（ハッピーパートナー）



④乗り合いタクシー



5-3 公共交通に関する重点施策（問26）

問 26 公共交通のサービスを維持していくためには、利用者の増加を図ることや、ニーズに即した運行形態にするなどの見直しを行っていく必要があります。これからの公共交通のあり方としてどのような方策を講じるべきだと思いますか。路線バス（民営・町営）、乗合タクシーそれぞれについて、最も大切だと思う番号1つに○を付けてください。

（1）民営路線バス

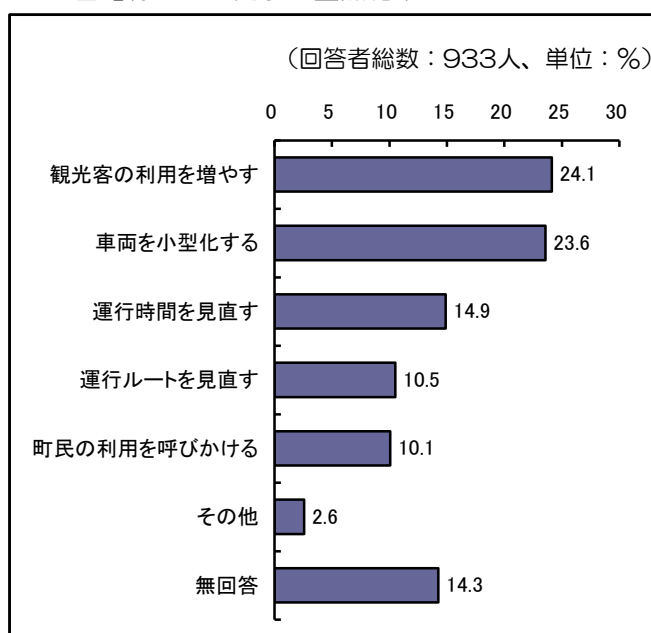
「観光客の利用を増やす」や「車両を小型化する」が多い

民営路線バスに関する重点施策については、「観光客の利用を増やす」が24.1%で最も多く、次いで「車両を小型化する」が23.6%、「運行時間を見直す」が14.9%で続いています。

■民営路線バスに関する重点施策

区 分	人 (%)
回答者総数	933 (100.0)
観光客の利用を増やす	225 (24.1)
車両を小型化する	220 (23.6)
運行時間を見直す	139 (14.9)
運行ルートを見直す	98 (10.5)
町民の利用を呼びかける	94 (10.1)
その他	24 (2.6)
無回答	133 (14.3)

■民営路線バスに関する重点施策



（2）町営路線バス

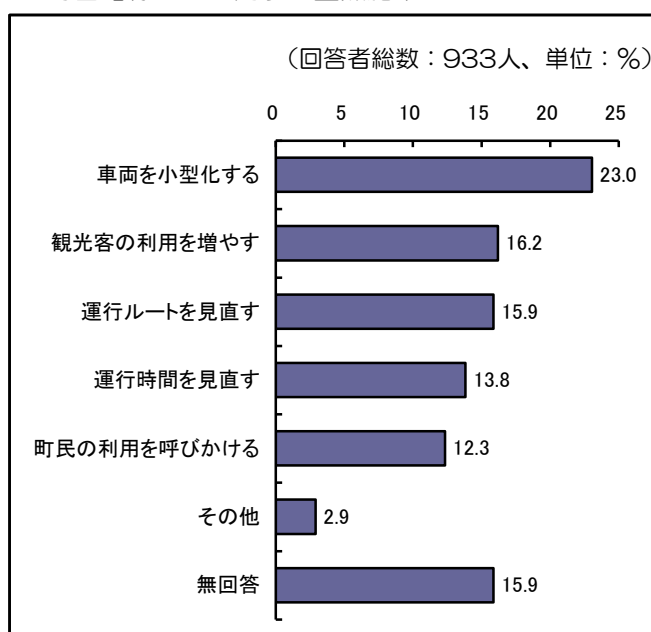
「車両を小型化する」が最も多い

町営路線バスに関する重点施策については、「車両を小型化する」が23.0%で最も多く、次いで「観光客の利用を増やす」が16.2%、「運行ルートを見直す」が15.9%で続いています。

■町営路線バスに関する重点施策

区 分	人 (%)
回答者総数	933 (100.0)
車両を小型化する	215 (23.0)
観光客の利用を増やす	151 (16.2)
運行ルートを見直す	148 (15.9)
運行時間を見直す	129 (13.8)
町民の利用を呼びかける	115 (12.3)
その他	27 (2.9)
無回答	148 (15.9)

■町営路線バスに関する重点施策



(3) 乗り合いタクシー

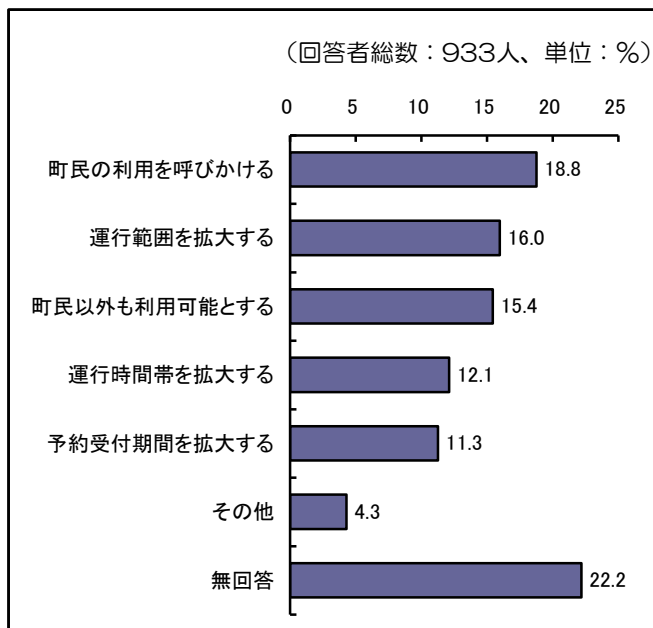
「町民の利用を呼びかける」が最も多い

乗り合いタクシーに関する重点施策については、「町民の利用を呼びかける」が18.8%で最も多く、次いで「運行範囲を拡大する」が16.0%、「町民以外も利用可能とする」が15.4%が続いています。

■乗り合いタクシーに関する重点施策

区 分	人 (%)
回答者総数	933 (100.0)
町民の利用を呼びかける	175 (18.8)
運行範囲を拡大する	149 (16.0)
町民以外も利用可能とする	144 (15.4)
運行時間帯を拡大する	113 (12.1)
予約受付期間を拡大する	105 (11.3)
その他	40 (4.3)
無回答	207 (22.2)

■乗り合いタクシーに関する重点施策



5-4 地域運営組織による輸送サービスへの考え（問27）

問 27 今後の交通のあり方の一つの方法として、地域住民による支え合いが重要になってきます。問 11 で紹介した「地域運営組織」による、住民主体の輸送サービスの運営について、どう思いますか。あてはまる番号 1 つに○を付けてください。

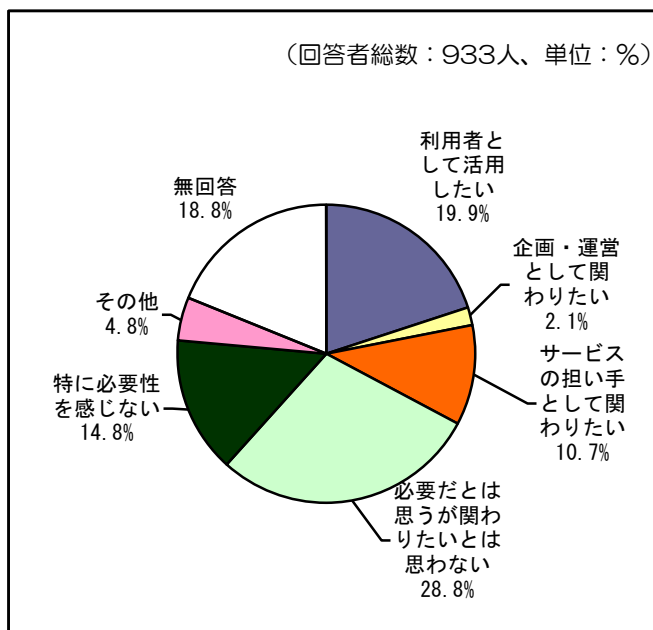
“活用したい・関わりたい” が 32.7%

地域運営組織による輸送サービスへの考えについては、「利用者として活用したい」が19.9%、「企画・運営として関わりたい」が2.1%、「サービスの担い手として関わりたい」が10.7%であり、これらを合わせると32.7%が“活用したい・関わりたい”と回答しています。

■地域運営組織による輸送サービスへの考え

区 分	人 (%)
回答者総数	933 (100.0)
利用者として活用したい	186 (19.9)
企画・運営として関わりたい	20 (2.1)
サービスの担い手として関わりたい	100 (10.7)
必要だとは思いますが関わりたいとは思わない	269 (28.8)
特に必要性を感じない	138 (14.8)
その他	45 (4.8)
無回答	175 (18.8)

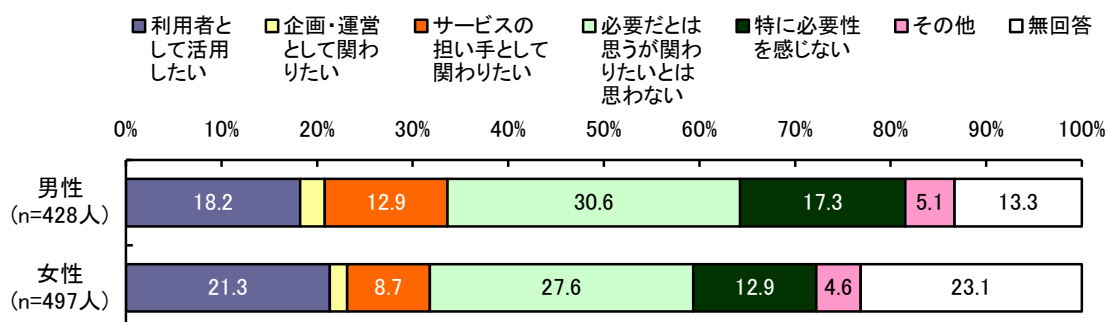
■地域運営組織による輸送サービスへの考え



【性別】

これを性別にみると、男性は女性に比べて「サービスの担い手として関わりたい」の割合が高くなっています。

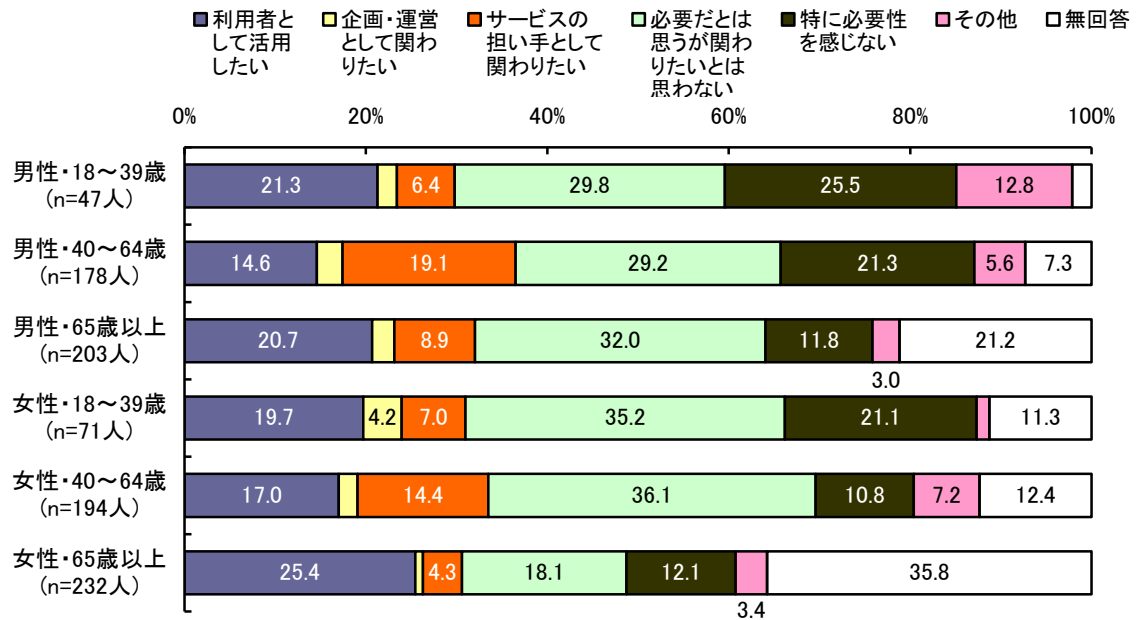
■性別にみた地域運営組織による輸送サービスへの考え



【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、男性の40～64歳は「サービスの担い手として関わりたい」の割合が他の回答者に比べて高くなっています。

■性・年齢別にみた地域運営組織による輸送サービスへの考え



5-5 公共交通に関する重点施策（問28）

問 28 今後の町の公共交通について、町で最も力を入れていくべき取組はどれだと思いますか。あてはまる番号 2 つに○を付けてください。

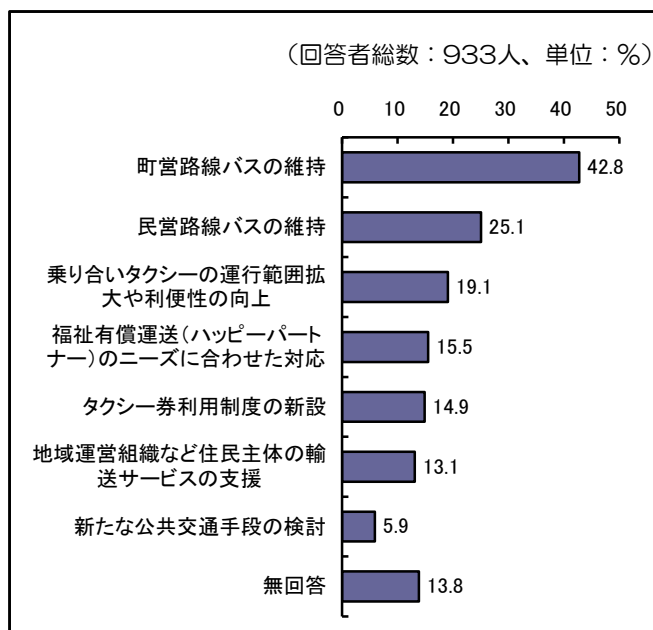
「町営路線バスの維持」が最も多い

公共交通に関する重点施策については、「町営路線バスの維持」が42.8%で最も多く、次いで「民営路線バスの維持」が25.1%、「乗り合いタクシーの運行範囲拡大や利便性の向上」が19.1%が続いています。

■公共交通に関する重点施策（複数回答）

区 分	人（％）
回答者総数	933（100.0）
町営路線バスの維持	399（42.8）
民営路線バスの維持	234（25.1）
乗り合いタクシーの運行範囲拡大や利便性の向上	178（19.1）
福祉有償運送（ハッピーパートナー）のニーズに合わせた対応	145（15.5）
タクシー券利用制度の新設	139（14.9）
地域運営組織など住民主体の輸送サービスの支援	122（13.1）
新たな公共交通手段の検討	55（5.9）
無回答	129（13.8）

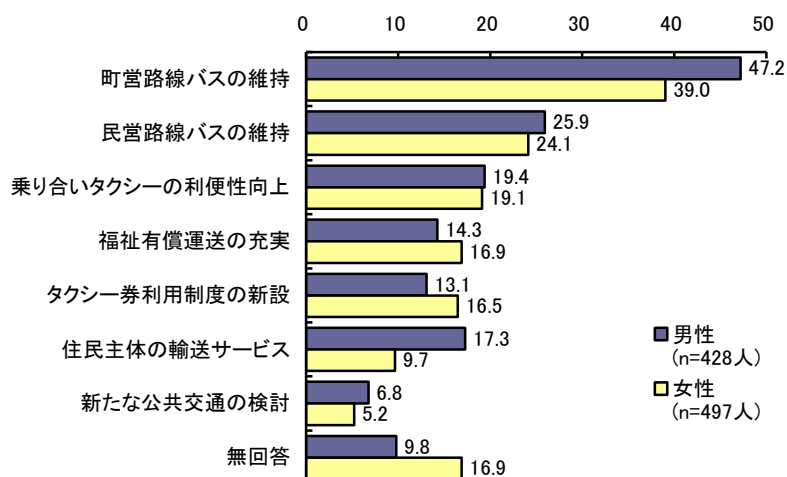
■公共交通に関する重点施策（複数回答）



【性別】

これを性別にみると、男性は女性に比べて「町営路線バスの維持」の割合が高くなっています。

■性別にみた公共交通に関する重点施策（複数回答）

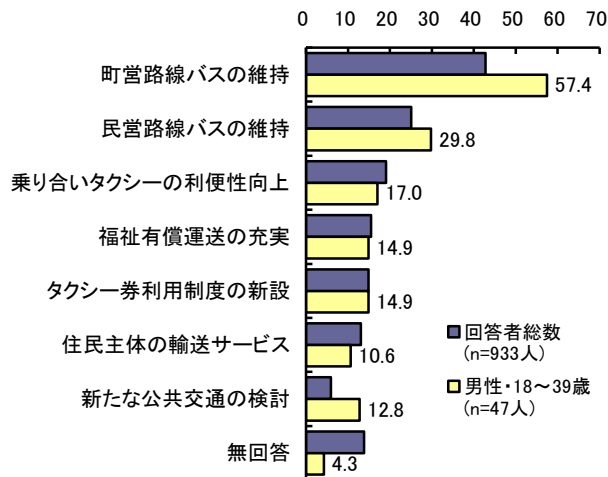


【性・年齢別】

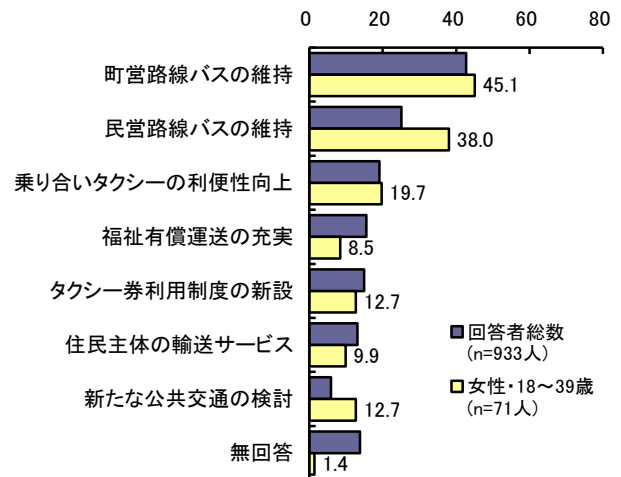
これを性・年齢別にみると、男性の18～39歳は「町営路線バスの維持」の割合が高くなっています。

■性・年齢別にみた公共交通に関する重点施策（複数回答）

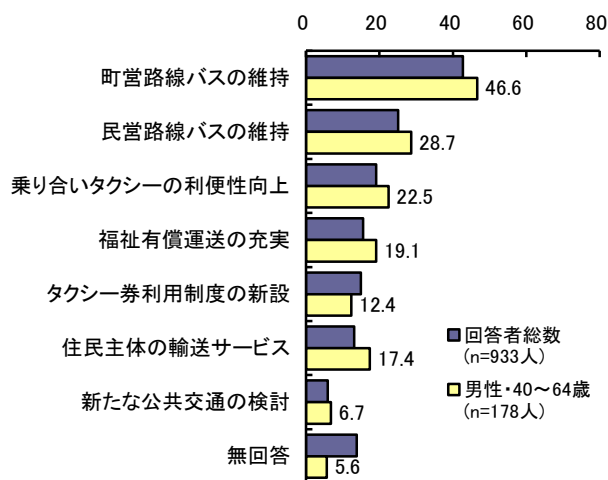
①男性・18～39歳



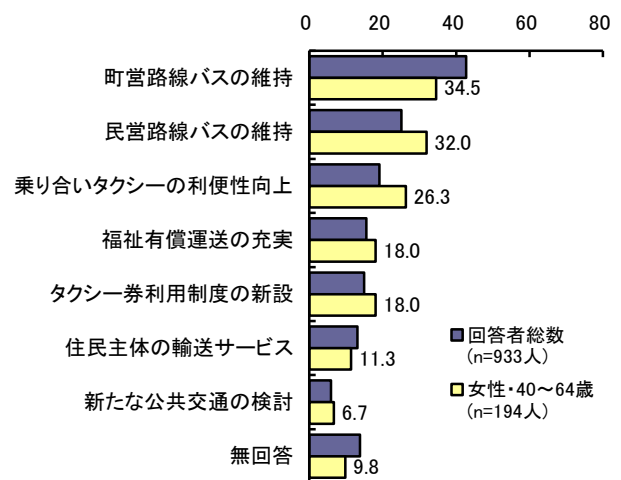
④女性・18～39歳



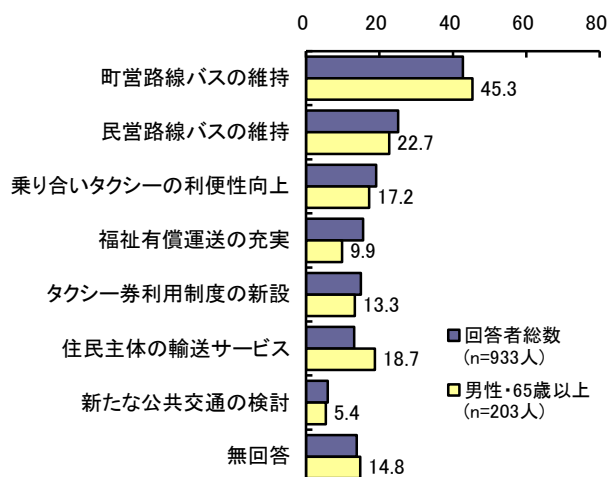
②男性・40～64歳



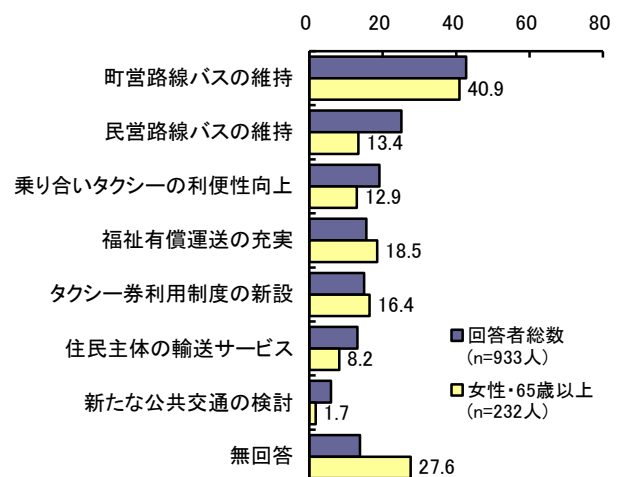
⑤女性・40～64歳



③男性・65歳以上



⑥女性・65歳以上



第5節 生涯学習活動について

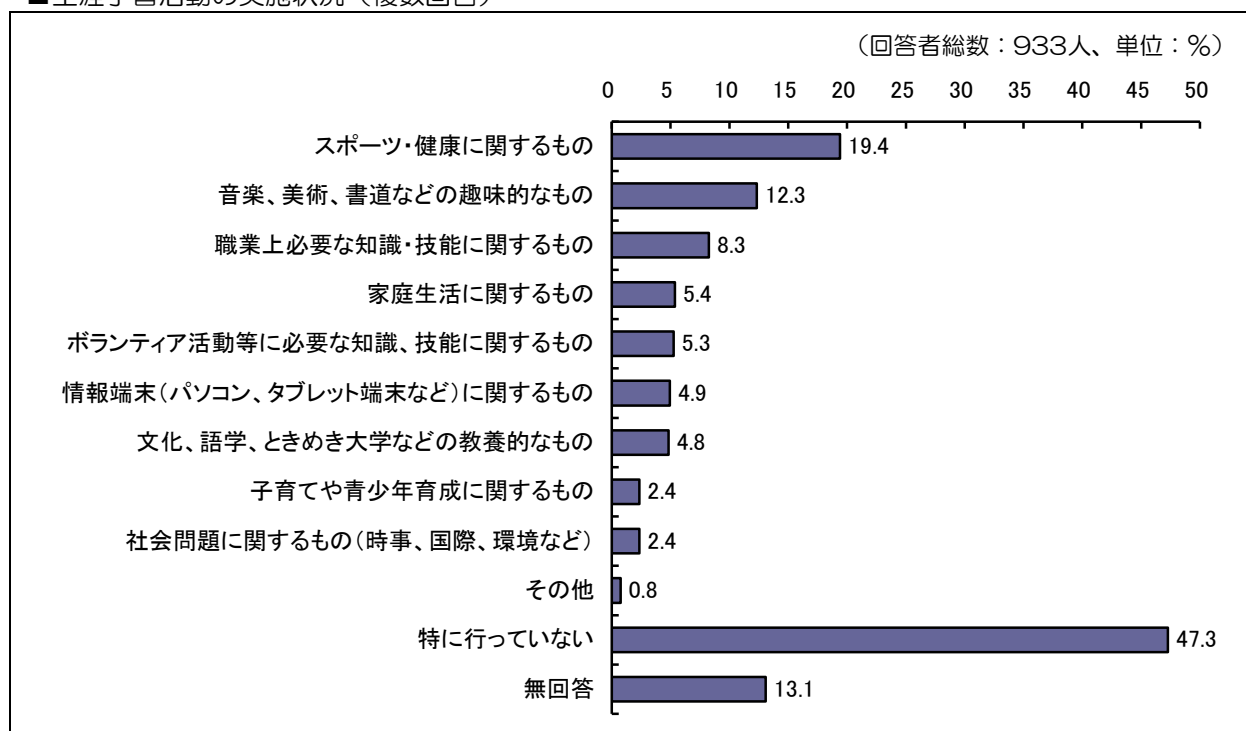
5-1 生涯学習活動の実施状況（問29）

問 29 あなたは、町主催のものに限らず町内外で生涯学習活動を行っていますか。あてはまる番号すべてに○を付けてください。

“行っている” が 39.6%

生涯学習活動の実施状況については、回答者総数から「特に行っていない」（47.3%）及び無回答（13.1%）を除く39.6%が“行っている”と回答しています。その内訳は「スポーツ・健康に関するもの」が19.4%で最も多く、次いで「音楽、美術、書道などの趣味的なもの」が12.3%、「職業上必要な知識・技能に関するもの」が8.3%で続いています。

■生涯学習活動の実施状況（複数回答）



■生涯学習活動の実施状況（複数回答）

区 分	人（％）
回答者総数	933（100.0）
スポーツ・健康に関するもの	181（19.4）
音楽、美術、書道などの趣味的なもの	115（12.3）
職業上必要な知識・技能に関するもの	77（8.3）
家庭生活に関するもの	50（5.4）
ボランティア活動等に必要な知識・技能に関するもの	49（5.3）
情報端末（パソコン、タブレット端末など）に関するもの	46（4.9）
文化、語学、ときめき大学などの教養的なもの	45（4.8）
子育てや青少年育成に関するもの	22（2.4）
社会問題に関するもの（時事、国際、環境など）	22（2.4）
その他	7（0.8）
特に行っていない	441（47.3）
無回答	122（13.1）

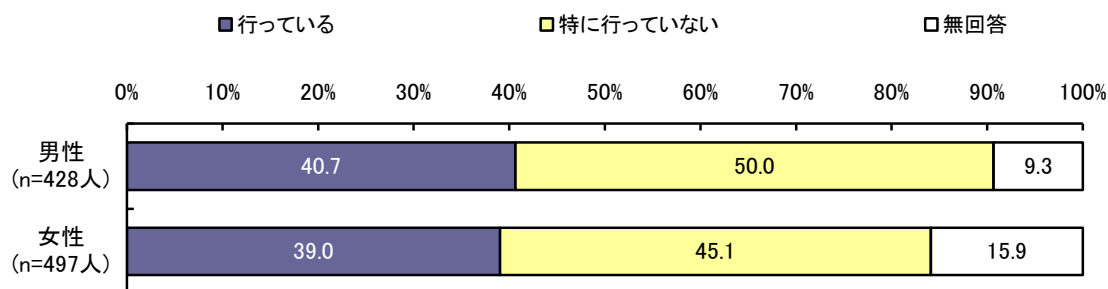
【性別】

これを性別にみると、活動の有無については、特に顕著な違いはみられません。

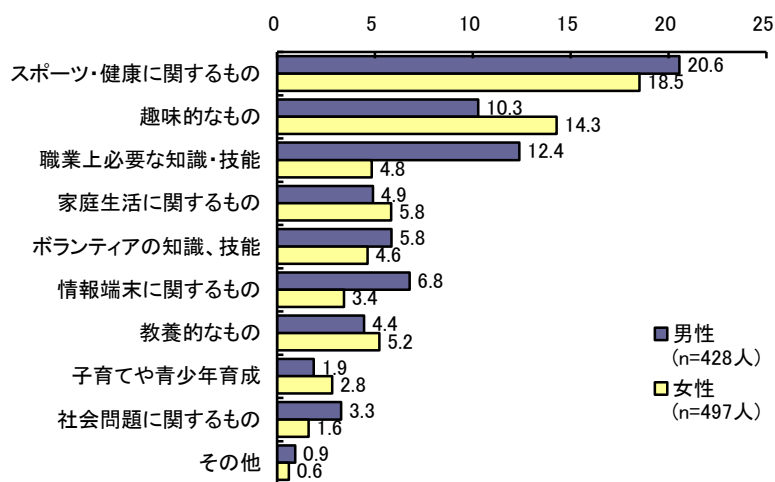
また、活動の内容については、男性は女性に比べて「職業上必要な知識・技能」の割合が高く、女性は「趣味的なもの」の割合が高くなっています。

■性別にみた生涯学習活動の実施状況（複数回答）

〔活動の有無〕



〔活動の内容〕



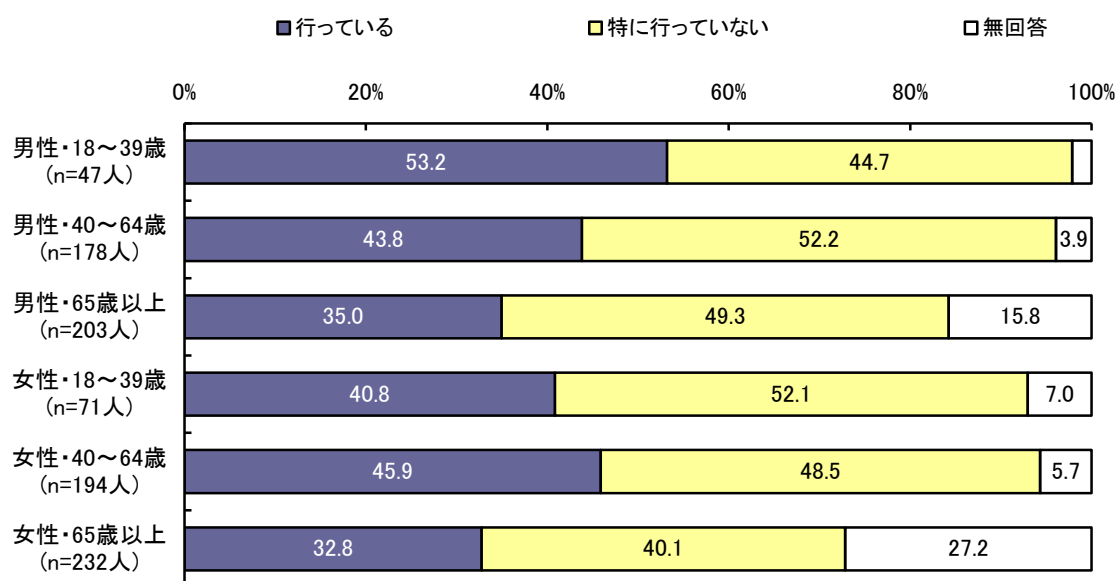
【性・年齢別】

これを性・年齢別にみると、活動の有無については男性の18～39歳で「行っている」の割合が高く、その内訳は「情報端末に関するもの」や「教養的なもの」の割合が他の回答者に比べて高くなっています。

また、女性の18～39歳は「趣味的なもの」、男性の40～64歳は「職業上必要な知識・技能」の割合が比較的高くなっています。

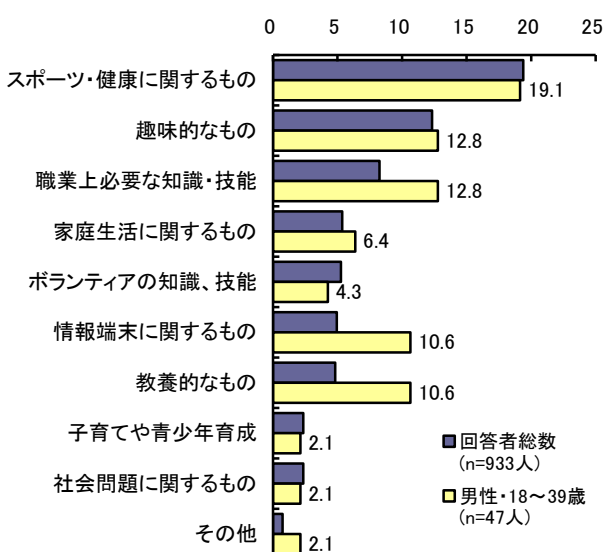
■性・年齢別にみた生涯学習活動の実施状況（複数回答）

〔活動の有無〕

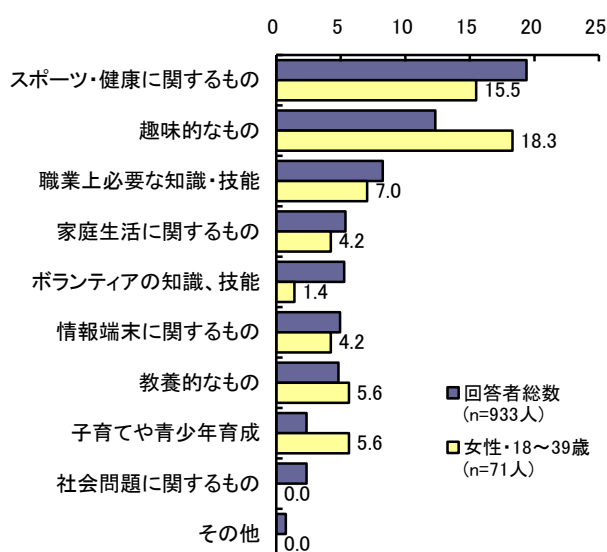


〔活動の内容〕

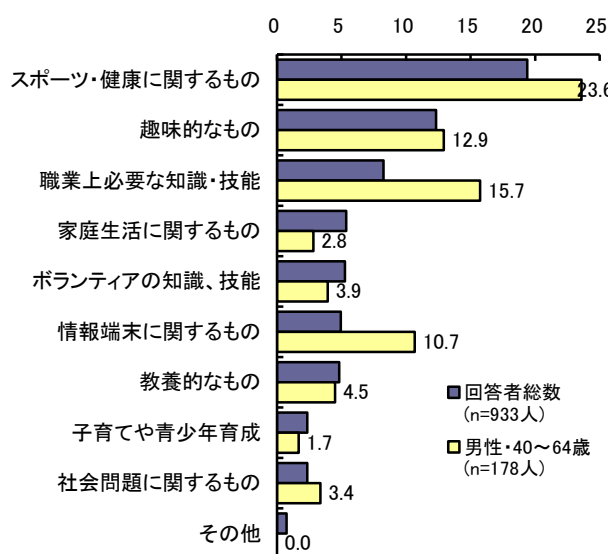
①男性・18～39歳



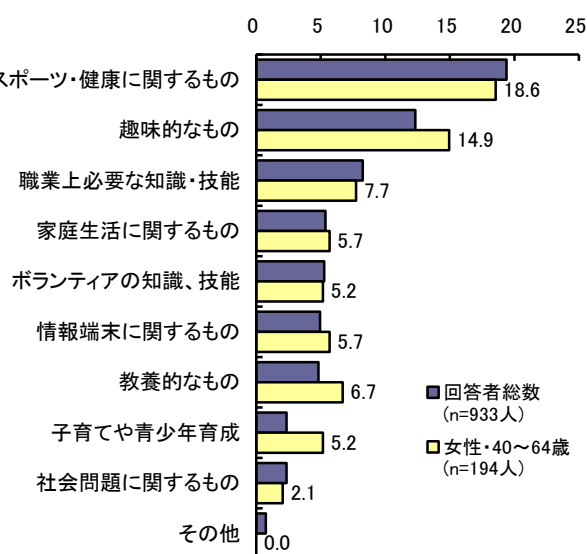
④女性・18～39歳



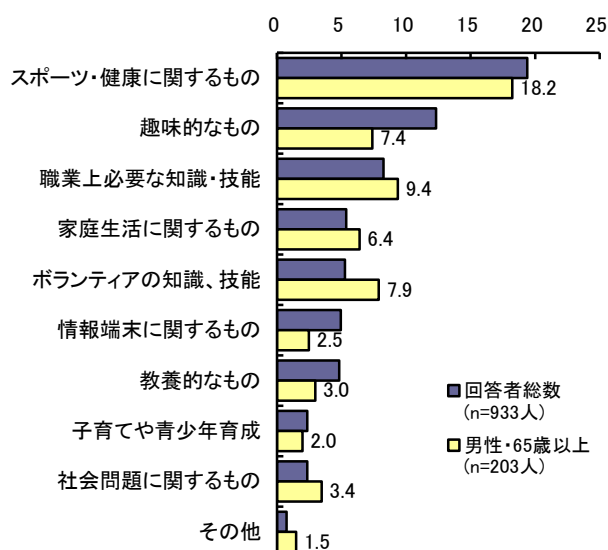
②男性・40～64歳



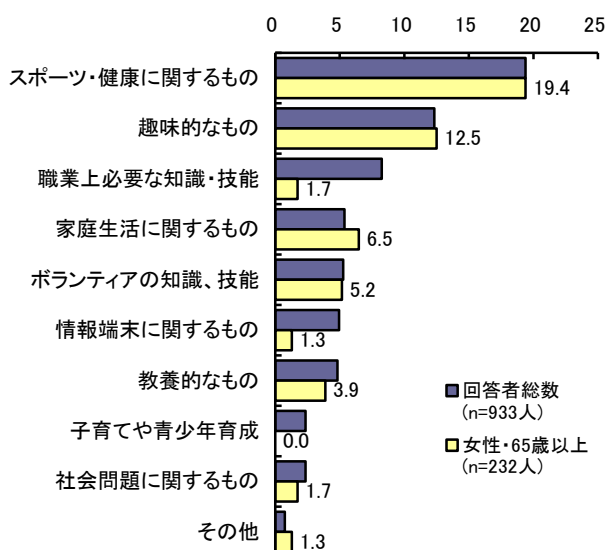
⑤女性・40～64歳



③男性・65歳以上



⑥女性・65歳以上



第6節 公共施設の利用について

6-1 公共施設の利用方法（問30）

問 30 人口減少等に伴い、使用されていない公共施設があります。このような施設について、今後どのような利用が望ましいと思いますか。思い当たる施設があれば、下の枠に施設名と具体的な利用方法をお書きください。

公共施設の利用方法について、記入していただいたところ、「統合後の中学校」や「クアパレスおがの、バイクの森おがの」等についての意見が寄せられました。その全文は次のとおりです。

（1）統合後の中学校

①福祉施設

- 高齢者や一般の方々との交流の場所、地域の交流の場。
- 介護施設、地元より起業。
- 道の駅直売所、又は養護老人ホーム。
- 月に1・2回でもいいので、地区の介護予防体操教室として開放し、集まる場として提供できればいいのかと。移動は、住民主体の移送サービスの利用。
- 老人ホーム、体育関係のもののクライミングの有料施設など、きちんとした会社を誘致。
- 高齢者が利用するための施設。
- 給食調理室：ひとり暮らしや食事に支度が困難な人のための宅配弁当を作る（コンビニ弁当とは差別化をはかる）。
- デイサービスとか老人の憩いの場みたいに活用する。
- 国民年金で入所できる高齢者施設をつくって頂きたい。
- 老人サービス施設に使用する。
- 年寄りが気楽に利用できたらよい（集まって話等する）。月に日を決めて、責任者に任せてやってもらう。
- 国民年金で入れる施設などに利用する。
- 廃校になった校舎を老人ホームとして使用。
- 介護施設への再利用化。
- 介護施設等。
- 住民の高齢化や、ひとり暮らしが増加するため、デイサービスや老人ホーム等、お年寄りが安心して過ごせる場所があれば、町外で仕事の関係等で、やむを得ず暮らしている子ども世代も安心して、仕事に取り組める事と思います。
- グラウンド、体育館を町内の民宿時に有料で利用してもらう。町内外の団体等に利用してもらう。
- 福祉施設に…（施設待ち多数）。
- 老人ホーム、安くして入居しやすくする。（退

職者などの働く場所としてもよいのではないかな）。小さなスポーツクラブなどをつくって、老人達の憩いの場にしては？

- 福祉に関する利用。
- 介護施設。
- 福祉サービスや介護サービス施設としての活用。
- 介護施設等。
- 老人施設、デイサービス宿泊施設への活用。
- 障がい者が日中活動などができる施設。
- 入所できる施設。
- 建物：限界地区（部落）の老人等を収容できる施設に。
- 『学校』をコンセプトしたデイサービスを検討して見ては。
- 改修して安く利用できる老人ホーム等。

②スポーツ施設

- 子どものための室内アスレチックを造る。
- スポーツ施設、空施設を活用した合宿や観光客誘致。
- プール：灌漑用のため池。プラス、施設のメンテナンス・清掃などを任せる人をやとえる。
- スポーツ合宿施設。
- スポーツ施設として利用してもらう。
- 期間限定で神奈川スポーツクラブのスポーツアカデミーの様な施設。
- 校庭や体育館はスポーツ合宿などで利用できる様なので、校舎に宿泊できるようにすればいいと思う。他の地域では、廃校に泊まれる所もあるようなので、合宿に限らず団体が泊まれるようなものになればよいと思う。
- スポーツ交流をし、ボランティアをつどい、食事付きで対応は地域の食材を使い提供する。
- スポーツを自由に行える施設。
- 体育館、運動場もあるので、スポーツクラブ等の誘致。

- スポーツ団体等の宿泊施設（校庭・野球場・テニスコート等が近くにあるので利用しやすい）。
- 福祉施設として考えてほしい。
- 幼児、小学生の室内運動・遊び場。
- 期間限定で神奈川スポーツクラブのスポーツアカデミーの様な施設。
- 運動公園内の施設として、宿泊・販売等に利用。
- スポーツ施設等。
- スポーツ施設（関連）、企業との提携。
- 卓球他…。
- スポーツ施設や、空き施設を活用した合宿などの誘致。
- ボルタリング等。
- スポーツ施設or介護施設所。
- 体育館やグラウンドをもっと有効活用できれば！

③社会教育施設

- 芸術家等の発売の場、またはアトリエとして、低値で貸し出す。
- 文化団体連合会に53団体も属しています。これらの団体の会議、練習、学習会、今まで以上の頻度で部屋が借りられたら、活動が活発になるかも知れません。
- 教室を貸出し、教養講座等行う。
- 歴史資料館。
- 閑散期には文化物展示施設。
- サークル活動の場所として提供。

④農業体験・農業振興関連施設

- 秩父郡外で農業に興味を持っている人に、週末農業を体験させる宿泊施設として利用（低料金で）。耕作していない農地も貸し出す。
- 家庭科室：6次産業の食品加工の拠点。
- 教室：農業研修生の宿泊施設。室内で育てられる野菜などの生産。販売施設。
- 校庭：畑（農業研修用・体験農場）。
- 原木しいたけの栽培場。
- 野菜等の直売所。
- 体験ができる（ex こんにやく・そば等）場として観光客を呼ぶことは？
- 観光客の為にイチゴ・ぶどう・桃狩り等。
- 野菜の販売等。
- 植物工場。
- 農産物や特産品、飲食など観光の総合施設。

⑤合宿・宿泊施設

- 交流の宿泊施設。
- 合宿所として貸し出す。
- 宿泊施設等。
- 合宿所、宿泊施設にできないか。
- 合宿・道の駅等。
- 町外の人達に貸し出す（例えば映画撮影とか）。

- 夏休み期間中、合宿先として宿泊できる施設にする。
- 合宿など。
- 長期の休みなどで、小中学生やスポーツ関係などの団体に解放。宿泊できるようにして利用してもらう。校庭や川遊び、登山などの体験。
- 格安の宿泊施設。
- 都会の大学・中学・小学校の生徒さんに、合宿等に利用できたらいいと考える。
- 宿泊施設（合宿）として使う。
- 他県等から、合宿所として利用できるようにする（土日・祝日、長期休日に利用できるようにする）。
- キャンプ場、宿泊施設、林間学校として施設を活用する。
- 期間限定で相模湖ブレッジャーフォレストの様な施設。
- 民宿との連携を強化した簡易宿泊所。
- 宿泊できるようにする。
- 宿泊施設や野外活動。
- 都会の子ども達の林間学校用… 利用。又は、いつでも開放して地元の人達に利用してもらう。
- 体育館等を一般の人、他地域・県外等の人に貸し出す（例）合宿等に。
- 大学生の研修所（宿泊設備を造る）。
- 合宿。

⑥観光施設

- 月1～2回フリーマーケットの開催。
- コンビニ・農協・ホームセンターが協力した地場産販売所。
- ショッピングモールの様な充実した建物、そのために長尾根の道路整備（トンネル）。
- 道の駅。
- お化け屋敷・サバイバルゲーム等。
- インターネットで『廃校 再利用』の検索キーワードで様々な活用等例が出てきますが、都会から農村留学やフリースクール、私のお勧めは『夏季限定、夏のホラー合宿』（青森の『お山おもしえ学校』を参照）。
- 宿泊施設やレストラン等。
- 店舗の誘致（コーヒー・焼きそば・うどん・そば店など）。
- 西秩父総合センター二階に収納されているという古墳時代の土器の展示及び、収納、完全に形ができなくも町民に見せてほしい。
- 校舎＝木工工房・宿泊。
グラウンド＝骨董品市・リサイクルショップ。
- 総合百貨店。
- ロケ地。きれいで校庭も広いのだから、今流行の学校カフェなどにする。とりあえず、人が集まりやすい環境づくり。

⑦企業誘致・起業支援施設

- 企業誘致。
- 企業誘致。
- 企業誘致。
- 企業への貸し出し等。
- 民間業者への貸し出し。
- 校庭：企業誘致、魅力的な若者の働く場を。
- インターネット関連企業誘致、合宿。
- HPなどでPRし、町外の人や企業などへ貸出ししては？
- いろんな企業（他業種）の人を集めて企業間の共創の場をつくる。そこで、一部の時間をもらって町の課題などを相談して、民間のアイデアを取り入れるなどの企業や、いろんな人が『おもしろい』と思う様な企画をやってほしい。
- イベント（写真展等）に活用。
- 起業を志す者として、建物・駐車場等から腐心する。
- 事業所で利用してもらえるところを見つける。又は、地域で利用。
- バイオマス研究所などとして民間・大学等に貸す。
- 民間に貸す。

⑧コミュニティ施設

- 住民（長若地区）多目的集会所。
- 校庭・体育館の1年中の無料、開放。
- 町民の集会場。
- サークル、グループ活動、集会等に使用できないか。
- 簡単な食事・飲み物があり、人と語り合う場にしても。
- 子どもと親の遊び場、3世代入れるお風呂とか
- 町民多数のいいの場を提案！
- 年寄り・子どもの憩いの場（ふれあいの場）に。
- 町民及び、他地区団体等のスポーツ会合・合宿等への貸出し等。
- 自由に使えるスペースとし貸し出す。長若中は西部秩父に一番近いので、利用できるのでは。

⑨その他

- 多目的な活用。
- 3月に近所に火災がありました。お昼の心配をしましたが、焚き出す場所が決まってません。中学校の実習室をお借りできれば、各家庭より炊飯ジャーを持ちよって皆で少しでもお役に立つかと思いました。
- 多目的な学習塾（自分に合ったものがあるかもしれないから）。
- 庁舎建て替え時に利用する。一時的なことでもよいが、対応年数の大丈夫な内は利用しては？
- 都内の学校等に貸す。
- 休日、雨の日とかに開放、特に子ども達。
- 学校の給食室をお弁当など調理・販売。
- 貸して利用してもらう。
- 一般公募で使い方等を検討する。
- 町の庁舎。
- 壊す。
- 児童館として、小学校・中学生の遊び場としてほしい。
- 地域運営団体の事務所。
- 町のバスが停まったら、車使わない人も行けるし、道の駅とは違う面があれば、競争しないで色んな人に来て貰えるのでは。
- 合併後、人口が約2割位減少している。何か歯止めをかける対策（若い方が結婚しても町外へ住民を求める）として、町営住宅建設を。
- 利用促進の案内等。
- 小・中学校の統合に伴い、休校中の体育館・教室を利用するに対し、管理使用者講習会をして登録。
- 非常避難所などにすぐ利用できるようにする。
- 管理人（見守り人）常駐の高齢者向け長屋。
- おもてなし課での活用。
- 人口増加策とリンクした利用を望む。
- ワークショップ的なものをやったら楽しいかも。
- 災害時、緊急事態などの時の避難場所。
- 役所？
- ボランティア活動等通じて行う。
- ソーラーパネル。

（2）クアパレスおがの、バイクの森おがの

①福祉施設

- 老人の集まる所。
- 介護付き老人ホーム（町営）。
- 老人施設。
- 老人ホーム。
- 老人ホーム等の施設。又は、観光拠点として活用したら・・・。
- いきいき館も近いので老人ホーム。お風呂や調

理場もあっていいと思います。

- デイサービス・リハビリ。
- いきいき館として町のPR発信の場。
- 良質な温泉で、リハビリに良い歩行場がなくなり誠に残念でした。町民が気楽に利用でき、安くてシンプルな場にできないでしょうか。町民が喜んでできる様な施設に変えれば。宝の持ち腐れ、切に願います。

- 老人の急増に対して、グループホーム、もしくはそれに準ずるような場所、大手の民間に貸し出してもよいのでは。
- 老人介護施設。
- デイサービスなどに活用。
- デイサービス施設（夜、一般、お風呂）。リハビリ施設。
- いきいき館との共同利用。
- デイサービスを3施設を統合。
- 老人施設。
- 福祉関係。

②温泉施設の再開

- 温泉をやってほしい。
- 民営再開できれば。
- 日帰り温泉の復活。やり方次第では黒字になるのでは…。
- 入浴施設として復活してほしい。住民の血税で始めたのだから、何とかしてほしい。高い税金を払っているのだから、あの建物を見る度に「何とかできないの」と思ってしまう。
- 日帰り温泉入浴ができ（飲食も含む）、バイクの町として謳っているのだから、そう言う人達中心の宿泊できる様な施設。
- 以前の様な温泉施設（入口や受付が分かりにくかったので、利用する人が分かりやすいとか、利用しやすい様にしたら良いかと思います）。
- クアパレスおがの・みどりの村プール、再開し利用できるようにする。

③その他観光施設

- 両神荘等、老朽化している施設を移すとか…。
- 農産物売場。
- 隣のいきいき館を利用しますが、いつも勿体ない、その内使えなくなるのではと皆が心配しています。運動後おしゃべりしたい、軽い食事ができればなともいつも思います
- BBQ施設として利用する。
- 犬のテーマパーク（ドッグラン・ドッグカフェ・ドッグスパ・室内ドッグラン・ドッグプール）。
- 地元の農産物を使用したレストラン・カフェ・カラオケルーム等統合した使い方。
- 若い人達が集まる様に飲食等もできる外部の客をターゲットに（理想です）。
- 野菜直売所（土・日の利用ではもったいないので、毎日になったらいいかな）。

- 夏場だけでも再開できたら…。
- 道の駅。
- 観光客（登山者など）を対象にした宿泊利用可能施設への改造。
- 合宿など。
- 憩いの場所・軽食事・レストラン、気楽に立ち寄り時間を過ごせる場所
- 子どもが遊べるキッズパークやお土産売場。
- 再度、温泉として営業。
- 般若の丘を芝生の公園に整備し直し、クアパレス施設内をキッズパークとする。一体として、室内外で広々と遊べ、町内外から誘客できる様な遊び場を目指す。
- ライダーズハウス OR 子どもが遊べる場。
- 宿泊ができる様になれば良い。又は、近くの宿泊との連携をとれるようにする（宣伝する）。
- アスレチックの整備や室内の遊び、レストランなど整備して子どもや家族が気軽に遊べる場所を造る。
- 建物がおしゃれで、通るたびもったいないなと思います。大人になった今、旅館施設・温泉施設だったらいいのになと、行きたいなと思います。
- 例えば、歌舞伎に関した品・地元の陶芸家の品と言うように、定期的に展示を変えて、販売も兼ねて住民や観光客を呼べる魅力ある施設の利用を考えてほしいと思います。
- お城の様な外観は、子どもの施設が似合うと思います。室内・室外で遊べる施設&子育てや保育などをサポートする拠点、レストラン・カフェ・講習会やワークショップのできるスペース。郷土玩具店を観ましたが、素晴らしかった。しまっておくのは勿体ないので、常設展示にしてほしい。

④その他

- とにかくもったいない。
- 全く必要なし。
- 土地を利用し何か考えてほしい。
- 温水プール。
- 幼保園。
- 民間に払い下げ。
- 公園を拡大する。
- スポーツの合宿など（？）の誘致。
- 『カラオケハウスの殿堂』他にないような最高音響設備をセットして、プロも歌いたくなる様なステージを造る。

○憩いの場。
○役場など。
○プール（特に希望します）。
○運動施設。
○イベント等の開催。
○みどりの村は暗かったり、遊具が少ない。施設
や道具が汚いので行きづらい。
○町内の人や、スポーツジムみたいなお金のかか
らない施設にする。

○会社・団体に貸す。
○提案ではないですが、バイクの森おがのが閉館
になっているのに、看板・標識等を未だに見か
けます。閉館と書いてありますが、無くして良
いと思います。
○気軽に寄れ、町の事が分かる施設に。又は道の
駅。

(3) その他

施 設 名	利 用 方 法
化石館	早く壊す。子ども達に負の遺産を残さないのも我々の務め。
化石館	キャンプ場にする等もう少し有効に利用したい。
みどりの村のプール	民宿やスポーツジムとして、人を集める事はできないのか。
みどりの村	プールを再開してほしい。
埼玉県山西省友好記念館 (神怡館)	(旧) 両神村出身でフランスにて壁画修復で活躍するフレスコ画家の高 橋久雄画伯に関しての記念館がよいのではないと思う。高橋画伯の協 力を得られれば、町としても反響があるのではないか。
神怡館	館内に芝居小屋を造って、歌舞伎や郷土芸能の日、一日の上演で観光客 を呼んでライブやコンサート会場として活用する(収容人数 200~300 人) のが良い。
神怡館	もっと観光客が来て楽しめる様にするべきだと思う。
小川屋のあった建物	室内で伸び伸びと子どもが遊べる施設。 室内プール(子どものスイミングや年寄りのリハビリなど)。
給食センター	学習の場・文化センター事業と異なる。
公会堂	何の会議にも使用する事。
災害センター	災害の倉庫。
郷土資料館	使用されていない公共施設
ようばけジオパーク	見学できる様に整備すべき。
総合センター	趣味的なものでも常時展示でき、開館していると楽しみも増えるのでは ないでしょうか。
津谷木温泉施設	利用者に条件を付けず、使用してもらい首都圏からの人々を呼び込む
西秩父総合センター	小鹿野町の活性化の為に、町の文化財的な物を展示し、観光客の誘致に つながる様考えて見てはどうでしょうか。
豊団地の集会所跡地の広場	少し土を入れて家庭菜園化して希望者に貸し出してはいかがでしょうか。 雑草の管理ができますよ。
運動広場	地主に返す。
NPO法人による、『ここほっ と』(コミュニティルーム)* 赤ちゃんもお年寄りも行ける 広々カフェ	NPO法人カローレで調べてみて下さい。 コミュニティカフェは、定価価格でできる範囲で提供しています。なん ならコーヒーだけでもOKです。レジに様々な地域の方の作品が展示さ れています。(視察に行ってみて下さい)
スポーツジム	大学頃のジムは機械が置いてあり、自由に使えました。 使用カード位は必要かも。
全て	5年後まで利用の見込みがないものは処分する。 エネルギーの浪費対策として。
分からない	どこの施設が全く利用されていないのかリストを公開し、利用呼び掛け をしたら良いと思う(その為の質問でしたかね?)。
なし	必要な施設に改装する。

第7節 巻末自由記入の内容

調査票の巻末に設けた自由記入欄には、210人の回答者から延べ341件の意見が寄せられました。それらを内容ごとに分類した結果、「雇用の場の創出に関すること」が36件で最も多く、次いで「道路環境の整備に関すること」及び「観光の振興に関すること」が27件、「子育て支援に関すること」が23件で続いています。

■自由記入内容の分類結果

(1) 人口減少対策に関すること (83 件)	
①雇用の場の創出に関すること	36 件
②住環境の整備・空き屋対策に関すること	16 件
③出会い・結婚の支援に関すること	12 件
④UI ターンの促進に関すること	4 件
⑤その他人口増加に関すること	15 件
(2) 都市基盤の整備に関すること (54 件)	
①道路環境の整備に関すること	27 件
②公共交通等の整備に関すること	20 件
③水道の整備に関すること	5 件
④ごみ処理・排水対策に関すること	2 件
(3) 保健・福祉・医療に関すること (53 件)	
①子育て支援に関すること	23 件
②高齢者福祉・介護に関すること	15 件
③医療環境の整備に関すること	9 件
④その他保健・福祉・医療に関すること	6 件
(4) 教育に関すること (9 件)	
①社会教育の充実に関すること	4 件
②学校教育の充実に関すること	5 件
(5) 産業振興に関すること (55 件)	
①観光の振興に関すること	27 件
②商工業の振興に関すること	18 件
③農林業の振興に関すること	10 件
(6) 行財政運営に関すること (30 件)	
①行財政の充実に関すること	11 件
②公共施設の活用に関すること	19 件
(7) その他まちづくりに関すること (57 件)	
①自然や伝統文化を活かしたまちづくりに関すること	9 件
②町の魅力の情報発信に関すること	8 件
③有害鳥獣対策に関すること	3 件
④行事の簡素化に関すること	3 件
⑤その他	34 件

具体的な記述内容は、次の通りです。

(1) 人口減少対策に関すること

①雇用の場の創出に関すること

- 問題は暮して行けるかどうかです。働く場所があるかどうかです。当町に店が無ければ、秩父や東京に行けばいいだけです。相当額の賃金を支払う企業が誘致できるかの問題です。魅力がある町づくりは、金銭面で暮らせるか否かに鍵があります。(男性・65歳以上)
- 収入の安定の働く場所・税金の安い町、住宅住まい(事情)。(男性・65歳以上)
- 若い人の雇用がないため、県内・外に出てしまう子どもが多く、未来は暗いと思う。老人保健施設やグループホームは多いが、もっと若い世代が選べる職場を誘致して頂きたい。少子化に繋がるのではないか!?(男性・40~64歳)
- 若人の定住できる職場をお願いします。(女性・65歳以上)
- 役場の職員が何人か毎日企業を回って工場誘致をすればよい。人を増やす事・職場を増やす事、これが一番望んでいる事です。10人の向上でも10×300万=3000万になります。(男性・40~64歳)
- 大きい企業を呼んでほしい。仕事がないし、給料も安いのでは若い人達も出て行ってしまう。行政の観光にばかり力を入れても、一時的に人が集まるだけ…行政が力を入れれば民間の商売は大変になる。薬師の湯も人は少なくとも、行政で営業しているから従業員は何も心配なくて、愛想が悪くお客様を増やそうという人もない。赤字でも給料は貰えるのだから…融通がきかない女性の従業員はいるし、あれではお客が減る一方だ。月に一度全従業員に意見書を書かせて、どうすれば良いサービスとか書かせた方がいい。書けない人は辞めてもらった方がいい。料理もまずいし、税金の無駄だ!(女性・40~64歳)
- 大変難しい問題ですが、小鹿野町の人口が減少しないように、老夫婦だけではなくそのお子さん達が働ける企業、職場が小鹿野町にあり、家族として小鹿野町に継承できるように、就業場所・医療・介護福祉・学校教育・生活環境に取り組まねばとは思っていますが、対策としては難しい事です。(男性・40~64歳)
- 企業誘致の推進により、若者が働けば町外から

も、小鹿野町に定住し人口が多くなればよいと思う。(男性・40~64歳)

- 仕事について…中途採用してほしい(40代後半男性)情報が無い。仕事もなければ結婚もできない、女性の情報もない、絶望的状况だ。(男性・40~64歳)
- 自分はまだ仕事に直面している訳ではないので何とも言えませんが、小鹿野町の中で働く場を増やす事も人口減少対策の一つとなると思います。(女性・18~39歳)
- 人口減少、少子化対策は、この町で生計を立てていける事が一番大切だ。若い人が生計を立てられれば、家庭を作り子どもを産み、育てる事ができ、この問題が良い方向へ向いて行くのではないかと思います。働く場所、収入等確立できれば、小鹿野町で生活し外に出なくても済むと思います。若い人達の活力を生かせるよう、町はもっともっと努力してほしい。それも民間の力を借りながらでも良いと思います。今の住民の声をしっかり生かし、取り組まなければちっとも変わらないと思う。アンケートの集計だけで終わらせず、できる事から実行するよう切にお願い致します。(女性・65歳以上)
- 美しい自然を生かした町づくり。ときめき大学の講座で、町の企業の幾つかを知りました。素晴らしい経営をしているのに感心しました。中・高校に出前授業等で宣伝して若者が町に残れる様な…また、魅力ある企業の誘致をしていけたら…。(男性・65歳以上)
- 町の人口減少は、私達高齢者にとっても大変な問題と考えます。我が子も皆外に出て行き地元におりません。どこも若い人は仕事がないから町を離れるのです。理想を述べさせてもらえば、町で土地を安く提供し、いくつかの工場を誘致し、若い労働者(地元の娘や息子)に町に住んでもらい、人口増し商店の活性化等を図る。工場誘致と言っても、輸送等で不便なのでなかなか小鹿野町までは来るところは少ないでしょうが、地代・税金等で優遇すれば来てくれる工場もあるのでは…。または、IT時代で、パソコンがあればどこにいても本社に繋がるとの事。問30の、両中校舎の利用としても可能性はあるかも知れません(温泉が近くにあるの

- で)。いずれにせよ、これらを決定し全国に発信し、希望者を募るまでは職員の方々の相当のお働きが必要だと思います。町の実情が良く分からないまま提言ではなく、夢・希望となってしまいました。失礼しました。(女性・65歳以上)
- 企業誘致をして、人に来てもらう事。(男性・40～64歳)
- 大きな会社が少なく、仕事もパートが多い様に思えます。もっと子育てや仕事が安心してでき、経済的に安心してできる生活になれる事。自分ばかりが良ければそれでよい！という考えは捨てて、皆で足並みそろえてまちづくりを楽しむくらいの心があつたら、少しは心の貧乏な人も救われると思う。ここまで来たら難しいと思う。(男性・65歳以上)
- 仕事があれば、若者も定着すると思うし、若者がいれば少子化も地域にも生きてくるのでは。老人ばかりではこの先不安です。(女性・65歳以上)
- 安心して働ける会社の誘致。(男性・40～64歳)
- 企業誘致。(女性・65歳以上)
- 町外の若者(ＩＴ企業、農業関係など)のアイデアを活用する事はできないのか…。(女性・65歳以上)
- 企業誘致は急務である。市町村合併が遅れたために長尾根トンネルができず、色々な事が後手後手になり、消えていく町に入っている。この遅れを戻すために、町・商工会・ＪＡの執行部はどのように考えているのか。財政困難なために手がかからないのか、多分これが一番の理由と思う。(女性・65歳以上)
- 大企業の誘致活動、及び新天地支援。工業団地等の作成。(女性・18～39歳)
- 働く場の確保。(男性・65歳以上)
- 町内居住者で高校を卒業大学卒業者が町内に就職した人に5年間位補助金を出す。(男性・65歳以上)
- 企業・製造業が増えれば、定着する人も増えると思う。(男性・65歳以上)
- 働く場所があれば戻ると思います。(男性・65歳以上)
- 企業誘致、若い人達が働く所の仕事場づくり。(男性・40～64歳)
- 働く場所が必要。自由な発想を実現したくても、生活しながら働ける場所がないと定住できず出て行ってしまうので。(男性・40～64歳)

- 小鹿野には仕事がない！！小鹿野に仕事があれば人は集まる。子どもも増える。住みよい町に！（男性・40～64歳）
- 道の整備と企業誘致を図る事で、町全体の活力向上を望めるのではないかと思います。(男性・40～64歳)
- 働く場がなく、交通の便が悪いから人が集まらない・増えない。(男性・18～39歳)
- 若者が定住するためには、就労する必要がある職場が重要である。起業するにしても一人では困難な面もあり、複数でまたは組織的に連携していく事も必要と考える。組織的に取り組める相談体制や支援体制を行い、若者への興味や意欲を持たせる情報発信も考えたい。(男性・40～64歳)
- 子ども3人共県外で働いています。小鹿野町が工業面を見直し、青年が働いていける場所を確保して頂ければと願っています。(女性・40～64歳)
- 若い世代の人々が、町に残れる様に安定した仕事の就労が保てる企業の誘致が第一だと考える。この事を町のトップの人達にお願いしたい。(女性・65歳以上)
- 若者が住み易い環境を作る(企業、交通の便、トンネルがほしい)。(女性・18～39歳)
- 定年後働ける所がほしいと願っています。(女性・40～64歳)
- 定年後、Ｕターンした人の働く場所。(女性・65歳以上)

②住環境の整備・空き屋対策に関すること

- 休耕田や空き地が目立つので、町営住宅等を造って若い人を誘致してもらいたいです。(女性・65歳以上)
- 町で住宅地整備する、安くして町外の人に提供する。(性・年齢不明)
- 人口減少は、全国的に起こっているので仕方ないと思います。空家が秩父で19%らしいので、空家を安く売る・貸すなどして、他の地域の人に住んでもらえるようにしたらよいと思います。(女性・40～64歳)
- 空き家対策に力を入れ、老若男女が小鹿野町に住みたいと思える環境づくりをしてほしい。住宅補助。子育て支援。老人福祉施設の建設。働く場所作りにもなると思います。(女性・40

～64歳)

- 高齢者やひとり暮らし、空き家の増加が目立ちます。若い人は安心して子育てができ、お年寄りの暮らせる町が何よりも皆さんが願っている事と思います。(女性・65歳以上)
- 以前は、100人以上も住んでいた集落(耕地)も老人のみ、10人以下になってしまい空家が増し、あと何年もすると腐って壁は落ち、倒れたりくずれたりする家屋が目立ち、廃居(地区)を『自然の美しい町』として見るのが忍びない。今からよい対策は・・・？(男性・65歳以上)
- 小鹿野町へ定住させるため、住居確保。職場の確保はもちろん企業や産業を取り込む。(男性・40～64歳)
- 私はよく運動がてら散歩をしていますが、とても空家が多いのが気になります。町としては、どの様なお考えなのでしょう？とても寂しく感じます。町役場の外観が気になります。”汚く” と思いますが…。(女性・65歳以上)
- 空家が増えていますが、草刈りなど中々できない家もあります。他人の家なので、無断で刈るわけにはいきませんが、とても不愉快です。町ではどう対処しますか？地主の人も最初は手入れに来ますが、何年か経つと放置の方が多いようです。個人的に言うのも×ですので。(女性・65歳以上)
- 誰でも町内に一軒家が持てる町づくり。(男性・65歳以上)
- 若い人が住めるアパートの建設、住宅建築支援、リフォーム支援なども必要だと思います。(女性・40～64歳)
- 町の人口を増やす事が大切だと思います。例えば、空家を利用して他県から移り住んで頂けるようにするとか。(女性・65歳以上)
- 両神にも若い世代が住める住宅、アパートがあるとよいと思います。(女性・18～39歳)
- 小鹿野町内の空地、空家等年々増加していますが、整備してもらい県外の方達にも利用してもらうよう呼び掛けてみたらどうかと思います。(女性・40～64歳)
- 町の人口減少対策として、若い世代家族が住めるような住宅(町営)の増加、そして子育てしやすい環境を作っていく事で子ども達も多くなるのではと思います。(女性・40～64歳)
- 借家の概念の一つとっても考え方が違う事に驚きました。先に住んでいた方の家具や生活品の処分は、借りる側が費用負担と言うのは都市

部(埼玉県郊外)では、聞いた事がなかった。処分なしで使わない部屋にまとめておけばいいと言われたが、自分以外に使用したものが同じ屋根の下にあることを『気持ち悪い』と思う。(女性・40～64歳)

③出会い・結婚の支援に関すること

- 出会いの場を沢山設けるべき。(男性・18～39歳)
- 独身者の家を訪問して、婚活の場を促すべき。(男性・18～39歳)
- 育児の援助も結構ですが、未婚者がおります。何らかの方法を町でも取り上げて、人口増加につながれば良いと思います。(男性・65歳以上)
- 婚活の場を(バツイチもあり)合コンの機会を増やし、企画意見も参考に。消防団員への女性加入。(男性・65歳以上)
- 若い人達が結婚に対しての希望を持てる様な、ワクワクできる出会いが作れる、夢が持てるそんな出会いの場…楽に利用ができて、他の町や県からも気を遣わずにちょっと寄ってみようと思える場所はできないものか。(男性・40～64歳)
- 中学生～高校生の時から(卒業間際でも良いので)、子育て～妊娠、妊活、お金がどれくらいかかるかなど、異性との付き合いへの考え方というか捉え方、自立する事の大切さを考えられるきっかけとなるような場を少しでも(時間)を作って頂きたい。(女性・40～64歳)
- 未婚者が気軽に婚活できる環境づくり(地区委員、区長による写真から始まるお見合い等)。(男性・40～64歳)
- 自然公園(みどりの村など)とブラタモリで人気な秩父の地質を調査。探索するイベントなどを公募して、この集まりを若者の出会いの広場として活用し、多くのカップルを成立して小鹿野町をアピールして、Uターン・Iターン・Jターンの起爆材としていただき、小鹿野町への定住子育てする。空家の無料利用できるよう町として促進する。(男性・65歳以上)
- 若い世代で結婚している人が少ない気がする。若い人の結婚補助金等があれば、結婚する人も増えて少子化対策に繋がるのではないだろうか。子どもの医療費無料や、出産の補助金はとても魅力だが(他の市町村に比べ)「よし、じゃあ産もう」と言う気にはならない(個人的に

は)。保育所の利用時間がもっと長かったり、利用料金が安くなる等一時しのぎの補助金より、その後の暮らしの補助の方が良いと思った。

(女性・18~39歳)

○若い人達の出会いの場や出産・子育てまでの支援の充実。(男性・40~64歳)

○スマホだのラインだの子どもから若人は勿論、初老までが携帯にはまり夢中になってる最近、仮想だか現実だか画像の世界で楽しんでいるような気がするが、私みたいな年ではついていけない現実で何とも言えないが、若人達の生身の男女の出会いの場が無いのではないかと心配する。昔は、映画だのクラブでやるダンスパーティーだの若い人が集える場面があったが、今はうっかり知らない人に声でもかけると警察に通報されてしまうような現実、ナンパも大変だと思う。飲み屋で知り合ってもすぐ別れてしまう場合が多いし、昭和の時代は金が悪くても気持ちに余裕があった気がするが、今の若人は給与のベースアップも無くギリで結婚しても、アパート代を払うと生活が大変とか話をよく聞く。年々景気が悪くなっている感があり、若い人達の将来が心配です(頑張れ若人)。(男性・40~64歳)

○結婚祝い金の充実。新婚・子育て家庭への支援充実。(男性・65歳以上)

④Uターンの促進に関すること

○町へのUターン活動で、人口が増大する事で少子化を解消すると思う。(男性・40~64歳)

○若者が住める町にしたい。(男性・65歳以上)

○(Uターン)新しい人々の転入ではなく、今小鹿野町に住む人の生活の充実や、子どもを産み育てていく安心感が必要、(経済的な安定)。(女性・40~64歳)

○人口減少対策の専門セクションの設置を始め、企業誘致や情報発信等の体制や窓口を強化、一元化して町での雇用・住居・子育ての情報の発信を頑張るなど若い方の定住やU・Jターンなどを行う。

①雇用

既存ストック活用型の企業誘致の推進。空工場や、使わない公共施設など空き情報を統一的に発信し、未活用や居抜き物件などの既存ストックを活用し積極的な企業誘致を行う。

②住居

空家バンクの創設・・・町内にある未活用の住宅に着目して『空家バンク制度』を創設し、空家情報の収集と発信を行い、移住・定住を促進。

③子育て支援

保育料の軽減、無料化、奨学資金制度、英語教育の充実等、他の自治体でやってない事をする。しかし、良い事は真似する。(男性・40~64歳)

⑤その他人口増加に関すること

○広報を見ても、小鹿野町全体で一か月に出産が5人前後では、30年後、50年後の町はどうなるのか。日本国全体の問題にしても難しい問題ですが、現状維持では衰退するような気もするし、新しい施設をつくっても古い使わなくなったのをどうしたらよいか。今の水道の問題にしても良かれとやった事が裏目に出る事もあるので、住民の声を良く聞いて慎重にやって下さい。(これからも難問山積みでしょうが…)。(男性・65歳以上)

○日本一税金が安い町を目指したらどうですか？(若者も定住するのでは？)。(男性・65歳以上)

○まあ、どう努力しても人口減少は止められないだろう。年寄りが増えても子どもは増えないからな…。町づくりと言っても、映画に出てくるような近未来的な物を本気で目指さないと、小鹿野はダメになっていく一方だと思う。できないと思っているようじゃ、減少・少子化対策等を改善するのは不可能だろうと思う。(男性・40~64歳)

○都会にいて便利さを知ってしまったら、小鹿野町の様な所はあまり魅力的ではない。伝統文化などの“昔からある物”もよいが、インスタ映えができる施設や“昔”と“今”の融合など、もっと若い人が来たい！と思うところから始めてみる。それか、今いる若い人達のため？若い人達が残りたいと思う施設を造る(週一の金曜 Movie day)。(女性・18~39歳)

○企業誘致ではなく、ベッタウンになったらどうだろうか。皆野の有料道路から道を延ばしたりして、他の市等への交通を便利にする。そして祭りの時位の安い値段で(通勤者割引の等の名目で)通勤しやすいようサポートすると良いと思う。(女性・18~39歳)

- 長子以外も町内に住める町づくり。(男性・65歳以上)
- 町の学校を卒業後、町外へ出なくてすむ方法だけを考えれば、人口減少は緩やかになる。(男性・65歳以上)
- 若い役場職員は、秩父市などに住っていますが、役場職員が町内に住みたくなる様な町にしなければ人口減少は止まらないと思います。(女性・40～64歳)
- 若い世代が少ない＝少子化。若い世代の方々が住みやすい便利な町にしてもらいたい。(女性・18～39歳)
- 人口減少、少子化対策のために外国人の良民を町に移住させる事です。(女性・40～64歳)
- 少子化対策は、空家情報や小鹿野に住むとこんなメリットがある…という事をもっとアピールしては？高校生(高校生だけでなく全ての人に)などにも…。「地元に住むとこんな良い事がある」、「住みたい町」、「魅力的な町」と感じられる気持ちが少ないから、人口も減り若い人がいなくなってしまう。大人が地元愛を子ども達に伝えていける様な環境になればいいな…と思う。(女性・40～64歳)
- 若者の住みたい町づくり。(女性・65歳以上)

- リスクを負うがシェルターを作り原発のゴミ管理。(国からの多額の補助金を頂く町が潤う！！人口も増える、名前が知れ宣伝になる…反対意見が多いと思うが！！嫌われることをやる)。(男性・40～64歳)
- 今迄の取り組みの遅れから、もう取り返しのつかないところまで来てしまった。雇用創出のため、公務員は一世帯一人までとする。耕作放棄地は、宅地並みの課税とする。グラウンド体育館の利用料を上げる(使用している人が負担する)。公務員の給与は町でしか使用できないお買い物券とする(地域でお金まわす)。企業誘致は不可能。日本中で企業誘致しているのに、その中から小鹿野町を選ぶことはあり得ない。選んだその経営者は無能だ。だから小鹿野の中から企業を立ち上げる人を育てるなどしか方法はない。優秀な人材を育てるため、スパルタ教育のプログラムをやったら良いと思う。いつの時代でも、教育に金をかけた方が良い結果が出るのはあきらか。(男性・40～64歳)
- 交通面や生活に必要な買い物、ショッピング、娯楽…どれをとっても不便です。都会に人が流れていくのは、もう仕方がないとは思えません。(男性・18～39歳)

(2) 都市基盤の整備に関すること

①道路環境の整備に関すること

- 国道299号を整備して(志賀坂トンネルを新設)、埼玉県西部の町として観光客アップを図る。(男性・65歳以上)
- 子ども達が実家から鉄道を利用して通勤していますが、駅までの時間がかかります。トンネルがあればとても便利です。色々な町の問題を改善していくためにも、交通の便利さは重要だと思います。このままでは町の孤立化はありえると思います。どうか考えてトンネルを造って下さい。お願いします。(女性・65歳以上)
- 長尾根のトンネルがほしい“非常に不便”。秩父や各電車の駅までが近くなれば、通勤・通学も自宅からも可能となる行動範囲も広くなり、地元からも向かい易い。(男性・40～64歳)
- 長尾根トンネルを造ったら、皆が外へもっと働きに出て行ってしまうと思います。(女性・40～64歳)
- 小鹿野町に住んでいる方は、車での移動が主であると思います。ですので、一日も早い長尾根トンネルの実現に力を入れて頂きたいと思います。子ども達も、学校(高校)は秩父方面それ以降の方が増えています。駅までの距離を短縮できる方向に持って行って頂きたいです。自分の考えとしては、中学までは小鹿野町で過ごすことは良いのですが、その先を考えると不便な所だと感じています。ちなみに、食料品は秩父まで買いに行かなければ、新鮮な物が買えないという現実です。(女性・40～64歳)
- 長尾根トンネル開設により、都市圏への時間短縮を図り、通勤・通学の広域化を進め、住み易い地域づくりを図る。一本杉峠のトンネル開削を行い、西部地域の人的交流の円滑化が経済活動の拡大に通じると思われる。(男性・65歳以上)
- 秩父市と小鹿野町の交通の利便性、通勤時等の時間短縮や積雪の時の危険、運転回避のために観光向上のために、長尾根トンネルの開通を熱

望します。(女性・18～39歳)

○小鹿野町は自然が豊かで素晴らしいところですが、西部秩父駅まで峠を越え、時間がかかり冬場は特に大変です。長尾根トンネルの開通を強く希望します。トンネルにより秩父市へのアクセスが短い時間になれば、とても有難いです。転入者もきっと増えると思います。(女性・40～64歳)

○道路が必要。長尾根トンネル開通。(女性・40～64歳)

○①長尾根トンネルの早期開通。②松井だより299号に繋がる道の早期開通。上記開通により、市内からの人口流入が見込まれるため、人口対策にもなると考えられる！！(男性・40～64歳)

○道路の整備、トンネルを造ってほしい。(男性・18～39歳)

○R299つづら折りの道のりでの移動は、これからの高齢者増加の中、小鹿野町を陸の孤島にしていきたいと思います。雪の降った日には、病院へも行けない。これでは将来この地に住もうと思える人は減少するばかりです。是非秩父市内などへ、平らな道で車で移動できる長尾根トンネルの早期開通を望みます。交通の利便性は企業との関わり、人口の増加の要です。人が入ってくれば、小鹿野町の魅力を日本人だけでなく、海外の人にも知って頂けるチャンスが広がると思います。早期実現をお願いします。未来を見据えた決断を！(男性・40～64歳)

○長尾根トンネルとの交通機関の充実化。(女性・18～39歳)

○鉄道引く泉田(工業団地)⇄秩父の駅まで(一番の発展)。町内の人は秩父市内へ家を作る人が多いので、急ぎで長尾根トンネルをはやく造る(赤平橋⇄公園橋)。若い人は皆出てしまう、町はなくなる。利益の出ない施設は、取り壊せば借地料も支払する事はない。町で事業している若社長は、秩父市内に家を作る話を聞く。町中、土・日曜日歩く人もいない静かで心細い。寂しいです。(男性・65歳以上)

○長尾根にトンネルを開通させ、秩父市内へ利便性を上げれば、西武線を利用した通勤・通学、更に観光などにも拍車がかかり、長期的に見れば若者の定住にも影響が出ると思われる。(男性・40～64歳)

○今後の町づくりについて鳥瞰的に見ると、県南から見て小鹿野町へ入っていく道が見えにく

い、分かりにくいのではないかと。秩父市や東京への時間短縮、冬期の交通事故等を勘案すれば、幹線道路(長尾根トンネル)の開通は必要不可欠であり、魅力ある町づくりの始めの一步を考える。一部の反対者より、大局的な観点に立った判断を優先してほしいものである。(男性・65歳以上)

○人口減少については、長尾根トンネルの開通が大きな”カギ”になるのではないのでしょうか？やはり利便性の問題はとても大きいと感じています。私も子どもを西武駅まで毎日送り迎えました。何度も「トンネルがあったらいいのに」と願ったものです。特に冬場はなおさらでした。現在も西武駅までの利用が多くあり、トンネル願っています。知り合いは秩父に家を建ててしまいました。(女性・40～64歳)

○長尾根トンネルを目指す！！(男性・40～64歳)

○四季の道ですが、随分お金を投入した様に見えますが、全て中途半端で終わっているように見えます。もっと町民が行きやすいようにきれいにしてほしい。もったいない。(女性・40～64歳)

○子育ての中で下小鹿野の通学でいつも思うのは大型トラック、ぎりぎりのところを子ども達が歩く事です。老人が今後増えて歩道として歩くとしても、巻き込まれそうになる事があります。山際にある道を整備して、気軽に歩ける道がほしいものだといつも思います。(女性・40～64歳)

○三田川地区の国道が明るくなる様に、防犯灯・街路灯がほしいですね。(少しぐらい(道路)と思います)。(女性・65歳以上)

○美女ヶ平の小森方向に向かう道路の木を伐採して、見通しを良くしてもらわないと、事故につながると思います。(男性・18～39歳)

○高速道路を小鹿野バイパスに接続。働きに出られる範囲が広がる。働きに来られる人も範囲が広がる。(男性・65歳以上)

○最近思う事として、140号バイパスが関越になり花園まで35～40分で行けてしまう。トンネル関越もあるようだが、夢であり現在不要と考える。それより、千束峠に降雪、ガードトンネルを設置したら費用も安くなり、安全な峠越えができると思う(願い)。(男性・40～64歳)

○夏場、特に気になるのが道路環境である。道路にせり出した樹々の伐採(年一回程度)、道路

両サイドの草刈り（年2回）は実施してほしいものである。予算面の制約もあると思われるが、町のイメージダウンの一因でもあると考える。

（男性・65歳以上）

○町内のトンネルが暗く、不便な所にあるので改善してほしいです。（女性・18～39歳）

○秩父やお店などに出るのに山を越えて行くのが大変。公共交通サービス、以前の問題・人口減少・少子化、不便過ぎて当たり前。（男性・18～39歳）

②公共交通等の整備に関すること

○他の人々が来る様に交通の不便を無くし、町に來やすくする目玉をみつける。（女性・40～64歳）

○路線バス（民営・町営）について、運行ルートを見直して誰でも利用しやすい様に…（男性・65歳以上）

○町営路線バスを利用したいが、三峯方面へ行くバスとの乗り継ぎが悪くて利用できないのが残念です。（女性・65歳以上）

○交通網の整備が急務。（男性・40～64歳）

○町営バスが下小鹿野も通るようになると良いです。皆さんも言っています。（女性・65歳以上）

○子育てに手厚いという事で、小鹿野町へ引越して来ました。話しで聞いていた通り、とても良いと思うのですが、子どもが高校生になる頃、通学をどうしようとまだ先の事ですが悩んでいます。できれば、小鹿野町に家を建てて今後でも過ごしたいとは思っていますが、通学の事を考えると秩父に出た方が良いのかなと思ったりしています。秩父の高校へ通うとなった時、町営バスの無償化などがあれば、とても有難いと思うので、是非検討して頂きたいです。今年で3人も産まれる予定なので、もっと子育てに力を入れてもらえると若い人も沢山来てくれるだろうし、子どもも沢山産もうと思えます。（女性・18～39歳）

○町営バスをもっと利用しやすい時間にしてほしい。一時間に一本はあるなど…あると良いのではないかと考えます（なかなか難しいと思いますが…）。人口減少や少子化においては、小鹿野町から自力以外でなかなか出ずらいなどの事も理由の一つとして考えられるため、上の事は考える必要はあるのかな？と思いました。

（女性・18～39歳）

○18歳以下の民営バスの無料化と通学時間帯の増量。高校への交通手段として、親の送迎が必要となっている事も多々あると聞きます。子どもが3人以上いると、小・中・高とそれぞれが在籍する様になると、朝がてんでこまいになってしまう。少子化対策としても、バス停まで見送れば時間にも余裕が持てるようになる。下の子との時間も増える。電車が走っていない小鹿野町なので、どうしてもバス通学の選択がある。両神や三田川では、かなりの料金がかかるのでは…。医療費無償になったので、教育と言う面からも無償にならないだろうか…。（男性・18～39歳）

○今は40代で車の運転ができるのでいいのですが、年をとった時小鹿野町で暮らしていけるか不安です。病院も遠く、駅もなく買い物も不便ですので…。これでは、若い人達も安心して町に住めないと思います。（女性・40～64歳）

○道路・鉄道などの公共交通整備。（女性・65歳以上）

○小鹿野町で自営業しております。お客様の年齢は30代・40代の方が多く、結婚する方や家を建てる方が割といらっしゃる。その中でも、実家や今住んでいる所は小鹿野だけど、これから引越すという方がとても多いです。理由は様々ですが、その中でも多い意見は「子どもが高校生になった時のバス代が高すぎるから…家を建てるなら秩父に建てる」という方が多いです。私の家にも高校生の子がいますが、バス代が3カ月で4万になります。5万円の人もいます。その負担がいくらか軽くなれば小鹿野に住み続ける方も多いのではないのでしょうか。あと、いくつか離れて行く理由があります。いつも「そうだよなぁ…」と思う日々です。（女性・40～64歳）

○秩父郡市内に、通学のバス定期券の無料可。（男性・40～64歳）

○通勤の高速料金は無料にする。（男性・65歳以上）

○町外通勤者には、ガソリン代の補助を考える。（男性・65歳以上）

○交通の便をよくしてほしい。（女性・40～64歳）

○通勤通学の都合で町外に出ざるを得ず、出たらそのまま町には戻らない！という人が一定数いるのではないかと考えます。町内からの通勤

通学をしやすくすることで、自宅から通える人を増やすと言うのは1つの方法ではないでしょうか。少子化については、まず住んでいる人達に『安心して子どもを育てられる』という見通しを持ってもらう必要があると思います。また、子どもにできるだけ質の高い教育を受けさせようと言うのは、親の持つ当然の要求です。その点からも、塾などへ通う際の交通が充実していれば、より良いと思われます。(女性・18～39歳)

○矢尾百貨店が行っている『とくし丸』。小型の軽トラックによる移動販売車。高齢や障害のある方には大変便利な事業だと思う…が、そのとくし丸は個人で専用のトラックを所有しなければならず、収入を考えるとなかなか厳しいのが現状。町でとくし丸の様な事業を行う事ができれば、交通の便が悪い地域や、お年寄りには大変便利と思われる。(女性・40～64歳)

○今は自分達で運転し行動する事ができるが、もっと高齢になれば生活に困る事が目前に迫っている。なるべく長く自活したいが、地域の方々と協力し合ったり、助けて頂かなくてはならないだろうと不安に思っている。(女性・65歳以上)

○これからも年寄りのために、ハッピーパートナーを続けて下さい。(女性・65歳以上)

○障がい者1～5でなければいけないわけ？バス停まで食品を買って持って来るのに、困難する。ヤオヨシまで行かなければあまりないので…。(女性・65歳以上)

③水道の整備に関すること

○町の美味しい水を飲み続けたい。命の水、子孫繁栄のためにも…。(女性・65歳以上)

○水は小鹿野の浄水場を使用。秩父と繋ぐのはよいと思うが、秩父から水を引かなくてもよい。(男性・18～39歳)

○水道問題の見直し。(男性・40～64歳)

○水・水質が悪くなった！！水垢がすごくつく、うがいするだけでも口の中がにがい感じがする。(男性・18～39歳)

○水道についてですが、秩父との広域での水道の計画も進め、小鹿野の上水も維持する方策を立ててはいかがでしょう。水は生命線です。50年後・100年後の自然環境がどのように変化しているか予想するのは困難です。水が豊かな土地に人は定住します。未来の子ども達の安心のために、今を生きる人達がその分の水道代を上乗せして払ってもいいのではと思います。(男性・40～64歳)

④ごみ処理・排水対策に関すること

○生ごみ処理機の補助金(ゴミ減量化の一環として)。(女性・40～64歳)

○市街地は合併浄化槽を設置するスペース等に問題があるので、集中浄化槽の設置を検討すべきと考えます。費用については、源流の水がきれいになれば、県南都市部の人達もきれいな水が飲めることを説明し、県・国からも助成して頂く。(男性・65歳以上)

(3) 保健・福祉・医療に関すること

①子育て支援に関すること

○若い世代が仕事で子育てを助けている親世代が結構います。市内にあるキッズパークの様な支援センターとは別の施設があればどんなに助かるか、屋外は無理でも屋内で雨の日でも遊ばせられる所があればと…、また高齢の方からは、小鹿野にないので秩父市の公民館活動に参加させてもらっている(歌声喫茶他)人が多くいます。先ず、クアパレスを子どもと高齢者のために使えば…という人がたくさんいます。具体的に町議さんに話したところ、館内の暖房などの空調にお金が掛るとか、その旨説明した上

での入館料とか、軽い飲食でとか、チリも積もれば…で何とかありませんか？建物も子ども達には夢がある建物なので、他地域から来るのではないかと思います。(女性・40～64歳)

○保育園の定員拡大。幼稚園は定員に足していないようです。住民のニーズに合わせた保育園・幼稚園の定員見直し。(男性・40～64歳)

○人口が減少するのは何が原因でしょうか？転出する人・子どもを産まない・産めない・仕事がない。我が家の場合、妊娠したが産科がなく小川町まで通院出産、仕事をしたくても保育園の定員オーバーで入れず、仕事も場所も時間が

合わず見つからず…思い通りにいかないのは当たり前と思いますが、助けられた感じは全くありません。(男性・40～64歳)

○給食費、医療費無料助かります。ただ、これではもう一人子どもをつくろうか…という事にはなりません。保育所も3人目無料、同時に3人行ける程タイミングうまくいく訳ない！！3人同時じゃなく、3人目は全員とかにして、思い切って4人目は大学の授業料も全額、それに近い金額出します！なら3人子育て終わってもう1人なんてことになるかもしれない。不妊治療費全額とか、少しの補助しても何もならない。なにか思い切った事をしょ！あと、お役所仕事過ぎる！ほんとにこの町のために良くしようと思ってますか？やる気が感じられない。(男性・18～39歳)

○前町長になってから、子育て支援がハッキリと手厚くなったように感じます。補助金やごみ袋の支給、オムツ補助券・・・等とても助かり、これならもう1人産んでも育てていけるかも…と思える様になりました。子育て支援センターも充実していて、お盆や冬休みも行けると話すと、町外のまま友に羨ましがられます。是非、今後も予算を減らすことなく子育て支援を続けていって頂きたいと思います。次回の町長選でも、子育て支援に力を入れて頂ける方を支援したいです。(女性・18～39歳)

○子育て支援には、財政面では保育料や子ども医療の無償。学校給食無償等、いろいろ支援していると思う。だが、保育所に預けている家庭をみると、親が楽をするために利用している様に感じられる家庭がある。入所時の判定をしっかりとやるべきではないか。また、学童保育についても、各地区にあるのは良いが、子どもを持つ親に聞くと、夏休み等の長期休暇にこそ預けたいが夏休みだけは預かってもらえないので、普段も預けているとの事。両神の学童では7・8月だけでも預かるとか・・・居住地によって違いがあるのはおかしいと思うが、どうなのか？必要なところには必要な支援をする、公平に見極める行政を望みます。不公平感をもっているという声が聞こえたので、一言書きました。(女性・40～64歳)

○子育てをする際、保育園に入園できる、できないの問題が不安です。いつでも入れる体制にして頂きたいです。(女性・18～39歳)

○子どもが少なくなると、町に元気がなくなりま

す。小鹿野町でも、少子化が重要な問題になっている。早急に対策を練らないと大変な事になると思われます。しっかりと将来の事を考えて貰いたい。協力できる事は、積極的に取り組んでいきます。(男性・40～64歳)

○第2子以後高額補助金。(女性・65歳以上)

○子育て家庭への経済支援の充実。(女性・40～64歳)

○3人の子育てをしています。これから生まれてくる子どもの事も大切ですが、現在子育て中の家庭に対する援助があると助かるし、2人目・3人目・・・と出産し、進んで子育てしていける心の余裕ができると思います。収入があっても、子どもが1人増えるとかかなりの負担が増えて大変です。そのため、共働きとなり地域の活動などへの参加も、仕事があると難しいです。(女性・18～39歳)

○子育て支援だけでなく、子どもを産みやすい医療機関を町立に再度取り入れることを強く望む。企業誘致を進める。安心して近くで働ける、安心して近くで子どもを産み育てる仕組みを作るべき。夕張の様に、町を集中させる方向に待っていくよう進める。(男性・40～64歳)

○これからの若い世代の人達に保障を増やしてあげてほしい。そうでないと結婚する人も増えないし、子どもも増えていかないと思います。(女性・40～64歳)

○少子化について、金銭面で支援も必要ですが、自分の子を小鹿野幼稚園に出してみ、季節ごとに様々な行事があって(栗拾い・焼き芋・カレー作り・七夕・母の日・クリスマスなど)とても楽しかったのを思い出しました。「小鹿野で子どもを育てるっていいな」としてもらえたらUターンやIターンにも役立つような気がします。子ども達に色々な体験をさせてもらいました。良かったと思っています。(女性・40～64歳)

○道の駅等の公共職場内に委託所を設置し、育児相談をできれば親も安心して働けると思う。また、買い物客も一時的に子どもを見てもらえば、安心して買い物ができると思う。(男性・65歳以上)

○子育てしやすい町にすれば、少子化に繋がると思います。経済的支援が必要。(女性・40～64歳)

○少子化対策の強化。不妊治療の助成制度。収入に関係なく、治療期間・回数(体外受精等)に

関係なく、町として多額の補助を望む（男性・40～64歳）

○若い人達が1人の子どもではなく、何人が育てられる様な対策が必要だと思います。（女性・65歳以上）

○子どもが安心して遊べる公園、屋内施設を造ってほしい。乳幼児から小・中学生まで1日遊べるような充実した内容がよいです。よく群馬の公園に遊びに行くのですが、内容が充実していれば、町外からも大勢の親子連れが来るのではないのでしょうか？アスレチック等で、子どもの体力、運動能力アップも期待できると思います。（女性・18～39歳）

○子育て環境が充実していれば、子どもも増えていくと思う。例えば、幼稚園の保育時間、教育内容の見直しをすればいい。秩父幼稚園など参考にすればいいと思う。（女性・18～39歳）

○子どもが遊べる公園が近くにあればいいと思う。（男性・40～64歳）

○出産・入園・入学等の御祝い金、子育てサービスの様な内容の充実。（女性・40～64歳）

○定年後の方達が活躍、気軽に参加できる環境。（男性・40～64歳）

②高齢者福祉・介護に関すること

○ひとり暮らしの高齢者、若くてもひとり暮らしの人の緊急体制で命を助けたい。医療の充実で人口減少（死亡の減少）（通信システム）秩父でもあり。（女性・40～64歳）

○人口減少は歯止めが効きません。今後10年で高齢化は更に進みます。より具体的にその対策を早めに考えてほしい。老人ホーム・グループホームの設立等切実となります。思いきった政策が必要かと思います。今まではこうだったと言う様な考えでは課題は解決しないのではないのでしょうか。（女性・40～64歳）

○葬儀に関するニーズが多様化しています。必ずしもこれまでの墓地を持ちたい人ばかりではなく、自然葬を望む声も増えてきているようです。多様なニーズに対応できる第二の聖地公園を西の山に開発すれば、西方浄土のイメージと重なって利用者に喜ばれるかと思います。町に『ゆり椅子から墓場まで』の安心して老後を過ごせる環境を作り出せば、都市部からのニーズも見込めると思いますよ。（男性・40～64歳）

○空家が増えているのでグループホームに利用

できないでしょうか。（女性・65歳以上）

○東京都の清水坂あじさい荘の様に、平穏死させてくれる施設が増えてくれることを願っています。（女性・65歳以上）

○働く場所が無いから若い人は町から離れていくのです。企業を誘致するのは、足の便を考えると無理に近いです。今高齢者が多く、ホームに入居できずにいる人が特に東京方面に多いようです。東京の区（渋谷・世田谷区）等と一緒に小鹿野町は土地と働く者を提供し、相手方には建物と入居者を願います。現在、東京の杉並区と静岡県のある市が行っています。小鹿野町でしたら東京と近いし、面会人も来易い。人が動けばお金も物も動き町も今より活気が出るのでは？（女性・65歳以上）

○介護、ショートステイ・デイサービス・老人ホーム・老人保健施設などを増やしてほしい事と、介護度4以上でないと紙オムツの補助が出ないので、要介護になったら補助を出してほしい。介護保険料をたくさん払っているのに、もっと介護に本気で取り組んでもらいたい。介護の資格を持っている人と知り合いだと有利な事が沢山ある。介護度が同じでも扱いが違う事もある。（女性・40～64歳）

○今後高齢者が今以上に増え、今でさえも特養に入れず待っている状態です。老々介護から解放されるのはいつになるか…。特養を増やしてほしいと思います。介護職の不足も言われているのは分かりますが、何とか特養に入れるようにしてほしいと思います。（女性・65歳以上）

○今の所、何の不自由もなく田舎生活を楽しんでおります。あと4～5年で運転免許証も返納しなければなりません。病氣したり、買い物をする時不自由になるのではないかと、少しの不安があります。希望として最後は我が家で終わりたいと思います。巡回看護の充実を希望します。（女性・65歳以上）

○国民年金で支払って、入居できる施設が多くあればよいと思う。（男性・65歳以上）

○町づくりには関係がありませんが、高齢者の職場がないです。今私は67歳、70歳までは今の職場で働くことができますが、70歳過ぎたら働く所がありません。年金では食べていけません。主人はもう亡くなっていますので、自分で働くしかお金は入ってきません。元気なら…職場でもう少し働くことができれば、シルバーにも登録してありますが、今は仕事がないらしい。

どうしたらよいのか…70歳になるのが怖いです。(女性・65歳以上)

○町が年をとると暮らしやすい一番です。ひとり暮らしが多くなる中で、毎日体のためと食事をとったり、身の周りの物もそろえなくては…です。役場の人は、もっと一人ひとりの意見を聞き、どうしたら暮らしやすくなるのか考え、その対策をとるべきだと思います。机上の計画ではなく、町民を助けるための計画を作ってください。(女性・65歳以上)

○人口減少・少子化は避けられない事態なので、高齢者へのサービスを充実させていった方がいいと思います。高齢者だけでなく、学生への教育サービスにも取り組んで、若者の人格形成のために頑張っていったら良いと思います。(男性・18~39歳)

○障がい者、高齢者介護等の相談窓口を役場として1か所にしてほしい！！地域包括ケアシステム。役場は口だけで、町民の血税で職員は給料をもらっているのか！！(男性・40~64歳)

○90歳過ぎの義父母のぼやき(すごいんです)相手となる所があれば…と思っています。(女性・40~64歳)

③医療環境の整備に関すること

○産婦人科がほしい。町立病院の改善。(女性・18~39歳)

○不妊治療ができる環境を作る。(女性・18~39歳)

○小鹿野町は歯医者はいけど耳鼻科・皮膚科がなく、町立病院だと時間・やっている日が少ないため、わざわざ秩父まで行かないと…という不便さもあり、もうちょっと改善してほしいです。(男性・40~64歳)

○高齢社会になった今、施設に入る必要ができてもすぐに入らず、在宅療養するには24時間対応の緩和医療が充実してないと、不安で平穏死というわけにもいかず困ります。(女性・65歳以上)

○医療機関なども看護師さんと知り合いだと有利になる様子がある。特に町立病院は予約しておいても1時間も2時間も待つことがほとんどだ。老人なんかだと待っている間に具合が悪くなる。もっとスムーズにできる様にしてほしい。差別なくして下さい。(女性・40~64歳)

○町立病院をちゃんとした総合病院として機能

させる。(女性・18~39歳)

○町立病院を前のように、救急医療と産婦人科を作り、町民が安心して暮らしていけるよう…。

(男性・65歳以上)

○医者を確保して頂きたい。現状、土・日に脳出血、くも膜化出血、心臓病などで倒れても適当な治療が受けられず、亡くなる人が多い。非常に不安である。聞いたところ医者がいないとの事である。都会でしたら病院が近いし、優秀な医者がいて助けてもらえるのに、田舎は手遅れになるケースが沢山ある。救急車も、どこに患者を運んでくれるのかとても心配である。病院同士の決まりごとがあると思うので、受け入れ先を選べないのは分かっているが…。*都会だったら助かる命を、田舎は救ってもらえないと思うので、何とかして頂きたい。(女性・40~64歳)

○安心して出産ができるよう産婦人科の病院があるとよいと思う。または、助産師の相談のできる人。訪問看護・介護だけでなく、利用できるとよいと思う。特定受診バス・子宮がん検診バス利用ができれば良いかな…。(女性・40~64歳)

④その他保健・福祉・医療に関すること

○町に住む人の生活安定。(女性・40~64歳)

○生活保護の見直しもしっかりしてほしい。働ける人は町の草むしりとかやらせるべきだと思う。(女性・40~64歳)

○生活習慣病の予防防止の講義。(女性・40~64歳)

○人とのふれあいの大切さなど、身近な当り前のことを小さい子どもの頃より指導できる人を育てる。子どもは地域の宝、人は人が育て大きくなるものでしょう。(女性・65歳以上)

○仕事を辞めても、力のある方は沢山いて、60~80代の方々は、本当に本当に元気で、“人のために何かしたい”、“役に立ちたい”と思っている方々ばかりです。町役場の方々が町づくりの中心となり、そういったシニア世代を動かせるようになれば、もっともっと町も美しく、活気ある町になると思います。ボランティアサークルの取り組みも写真付きで、大きく広報等で取り上げれば、私の母や父世代は大喜びです。広報でなくてもおたよりでも OK！小さな事から(1回から)参加できるボランティア、是

非お願いします。頑張りは必ず紹介する形をお願いします。ボランティアカードは10点たまったら温泉券一枚もらえとか、少しプレゼントがあってもいいかもしれません。(女性・18～39歳)

○いきいき館で、各地区の老人対象に行っていますが、もっと小さい各地区で気楽に出掛けられる方法があるとよいと思う。お茶飲みしながら

話ができる方法があればよいと思う。昔はもっと年寄りが近所に行き来したのにと感じます。集まってゲームしたり、軽い手足を動かしたり、各地区に探せばその様に指導する人が必ずいると思います。初めは小さな事からスタートしたらよいと感じます。(男性・65歳以上)

(4) 教育に関すること

①社会教育の充実に関すること

○中心的な図書館を文化センターにおいてほしい。充実している施設が学区外にあっても利用できないしもったいない。年齢問わず、誰でも集える図書館を文化センターに置いてほしいです。文化センターにある分館は司書さんもないし、古い本が多く使う気になれない。(女性・40～64歳)

○全体が集合して行う趣味教室。(女性・65歳以上)

○誰もが気軽に参加できるスポーツと場所。(女性・65歳以上)

○(旧)両神村の小森川上流で、大正期から戦後にかけて、森林伐採製材で活躍した歌人として、有名な『前田夕暮れ』の足跡をたどる記念館等も、神怡館の後の利用として検討してみる必要があると思う。さいたま文学館の分館としての位置付け。他にも小鹿野町(旧両神村出身)には、『大谷藤子』もいる。町づくりとして成功している他県の市町村を詳細に研究し、今後の町づくりに反映した方がよいのではないかな。(男性・40～64歳)

②学校教育の充実に関すること

○小中学校の合併、人数が減ったら合併、という短絡的な方向ではなく、合併したメリット、合併しないで少数のメリットを考えてほしい。(男性・40～64歳)

○少子化問題で給食費を無料！あれも教育的に良くない、払うものは払い、その分は町で使える商品券を配布するとかの方が良い。親も給食費を払わない分だけ遊びに使ったりしているだけなのだから…。(女性・40～64歳)

○小中学校での目玉事業(英語能力向上・システム等)。(男性・40～64歳)

○学校でのいじめがあっても、学校がもみ消してしまっているのが目立ちます。教育をする人達がとる行動ではない。そういう大人が増えていく。アンケートを取っている暇や金があるなら、もっと違う事に使ってほしいと思います。(男性・40～64歳)

○青少年の非行の防止。(男性・18～39歳)

(5) 産業振興に関すること

①観光の振興に関すること

○赤平川(水源です)を魚がたくさん棲める清い川にして、観光地としてアピール。(男性・65歳以上)

○昔の様に、鰻がとれるようにして、鰻の町としてアピール(鰻料理も考案)。(男性・65歳以上)

○催事などを一回のみで終わらせることなく(例えば、ようばけのプロジェクション・マッピング

グなど)定期的に行えたら良いと思います。「四季の催事」とし、観光の目安になる事は大切だと思います。(女性・40～64歳)

○みどりの村を改善し、テーマパークみたいにする。(女性・18～39歳)

○観光施設の更なる宣伝で、観光客を増やす事で町が活性化すると思う。(男性・40～64歳)

○もう少し自然を生かし観光に力を入れて、多方面から人が小鹿野町へ入ってくるよう考えて

- 見てはどうですか？（男性・65歳以上）
- 観光地の開発。（男性・40～64歳）
- スポーツ大会を主催して外部団体と呼ぶ。体育館内競技は体育館が狭くNG、サッカーやフットボール、野球など十分大きな大会が可能と思われる。（男性・40～64歳）
- 今まで小鹿野町は、人口の流出を止めることで人口減少を無くそうとしたが、考え方が逆の方が良いと思う。外部から入りやすい利便性を重視し、若者をターゲットにした観光地にできると良い。今秩父市は、都心から近い観光地として注目されている。小鹿野町にさらに足をのばしてもらい、更には住みやすさをアピールし、定住（移住）を促したい。（女性・40～64歳）
- 折角の『あじさい祭り』なども、いい計画と思い賛同しましたが、管理ができなくなったとかで残念。国道のあじさいにしても、定着せず残念です。両神のダリア園、11月3日の文化祭など継続し伝統を守り、農産物の加工品なども工夫され、努力が実り集客力の見事な事に感服。学生のボランティアや高齢者事業団の人達の継続的に参加できる様な、アイデアマンの出現を期待しています。（女性・65歳以上）
- 道路の整備をして、町外から観光客を増やす。観光のための施設の拡充。若年層が子育てしやすい環境。カーブの道が多いので、雨や雪が降った時スリッパしやすい。トンネルでカーブを少なくする。このアンケートをもとに、今までに実際に行った事はありますか？目で見える形で表してほしいです。町を良くしたいなら、道路をよくし観光しやすく客を呼び。伝統芸能等今後のために、町外県外からSNSやネットを通して参加を促す。もし、目で見える形で表されてない場合は、町には何も協力しません。（男性・18～39歳）
- ここ数年、クライマーの人口が増えていますが、二子山に来る人達也大勢います。今まで吉田町のキャンプ場に安い料金で泊っていましたが、キャンプ場が辞めてしまい、日帰りになってしまいました。また、オートバイで来ても「安く泊まれる所があれば」と言っていました。どこかの学校でも、素泊まりの施設でもあればと思っています。（男性・40～64歳）
- クアパレスをスポーツ（例；ボルダリング等）の若い人達が行う施設にして、廃校も含めてスポーツの町としてはどうか。（男性・65歳以上）
- 町にはわらじカツ・漬物・小鹿野こいし・毘沙門水、とてもおいしいと思う。その他にも私の知らない物があるはず。それをどうにかつなげて、町の活性化・観光PRになれば良いかと思うが、わらじカツだけが有名では…。（女性・40～64歳）
- 西武秩父駅前に温泉ができ、今大変賑わっていますが、その人の流れを何とか小鹿野町へ変えていく方法で、花をもう少し主体にして短期間であっても、とにかく小鹿野町へ足を向け、クアパレスも復活し温泉として活用できたら、花を見て温泉に入り、一日楽しく過ごせる場所を提供して、人が来ない事にはやはり町は発展しないと思う。（女性・65歳以上）
- 小鹿野の良さをこつこつ磨く事ではないか。住み易さ・自然・文化（歌舞伎等）.etc。都心から2時間あまりの環境、秩父市から一歩奥に行ってみようと思える魅力は、今ある財産を磨くことではないか。（男性・40～64歳）
- 秩父以外の友達に自慢できる小鹿野町であってほしい。（男性・18～39歳）
- 小鹿野町へ友達を観光で連れて来ても、見学させる所がない（歌舞伎会館みたいな目玉がない）。（男性・18～39歳）
- 常に町をきれいにしてくれる人達のグループがあればいいと思う。（草刈り）一道路公園。（洗う）ガードレールカーブミラー。（清掃）一道路のゴミ土砂など…。（男性・18～39歳）
- 他の市町村のように、花で観光客を誘致できればと思いますが、今現在、両神のダリア・花しょうぶ・節分草・福寿草と、旧両神村で始めた事が継続されている状態ですので、新たに何処かで花で活性化でき、観光客を誘致できればと思います（例えば、小鹿神社周辺、鹿公園等を整備して何か考えられませんか？）。（女性・65歳以上）
- バイクの町よりサイクリングの町にした方が、騒音や公害問題にも立ち入ってくれるのではないかと、汗を流すのにクアパレス復活（ようばけジオパークに併せて）。（男性・40～64歳）
- 寂れ続ける商店街、オリンピックには間に合わないでしょうが、ノスタルジックな雰囲気を出せるお店をどう増やすか？資金援助だけでなく、どう誘客し全体的に潤えるように持っていくのか？町を歩く人で賑わう→おしゃれな町並み。いっその事、交通制限（一方通行）など増やして、子ども達が安心して歩き回れるゲームの町にするとか…、路地スタってやってま

- したね。勉強不足でした。(男性・40～64歳)
- ドラマ・映画撮影に協力体制整えて→聖地巡礼への道。(男性・40～64歳)
- 観光施設を造る。(男性・18～39歳)
- 鹿公園の場所にお花を植えたら良いのではないのでしょうか？団塊の世代の方々、年配の方々には時間があるので、観光に来て頂ける。(女性・40～64歳)
- クアパレスも何とかしないと勿体ないです。年齢層に関係なく幅広い利用を見込み、観光客等従業員の方々は、高齢者事業団の方にお願ひし、職員は支配人のみでの運営する。(女性・40～64歳)
- オートバイのライダーさん達がツーリングに来てくれているが、整備や宿泊施設(キャンプ場やライダーズハウス etc) などが充実していないので、何か申し訳ない様な気持ちになります。(男性・40～64歳)

②商工業の振興に関すること

- 最低限の買い物ができる店があると良い(秩父市レベル)。(女性・18～39歳)
- スーパーがほしい(2～3件)。(女性・18～39歳)
- 生活する上で、スーパーがー軒しかないのは不便なので、もう一軒位増やしてほしい(スーパー・日用雑貨が揃う店)。(男性・40～64歳)
- Uターン組です。こちらに越して来て、一番の悩みは買い物です。まだ自分で運転できる内はどうにかありますが、高齢になって車の運転ができなくなった時の事を思うと不安です。後、買い物に行く商店が1軒しかなくて、競争がないので店もマンネリ化で選ぶ楽しさが全く無しです。他の店が入って来られるような環境を作ってほしいと切に望みます。(女性・65歳以上)
- 街中の空き店舗等にて、家庭一品料理の販売。(男性・40～64歳)
- お店や商業施設の多様化。(女性・18～39歳)
- スーパー・衣料品店など、若い世代が利用しなくなる、町民以外も小鹿野町へ来なくなる様な施設があればよいと思います。(女性・18～39歳)
- 仕事・仕事場がない。ショッピング・買い物の行く場所無し。若者だけでなく、働き盛り世代にも厳しい。外に出ざるを得ない。そんな気持ち

- ちにならない町になってほしい。仕事がある→町に残る→子どもを産み・育てる…流れのある町であってほしい。(女性・40～64歳)
- とにかく中心街が夜非常に暗い。町の予算で街路灯の整備を早急にやった方がよい。他市町村より子育てしやすい支援対策をする。郷土芸能(町内祭礼)の情報を観光業者などに提供してツアーを企画してもらい、観光客を呼ぶ。このままでは、小鹿野町は鹿の町になってしまう！(男性・40～64歳)
- 町・商工会JAの長は、経営者としての能力を問われる。自らPRの表に立ち、全国の自治体と闘い勝ち取っていく覚悟がないと小鹿野町は消えてしまう。乞うご期待！フレーフレー小鹿野！(女性・65歳以上)
- 町内の店の物価が高すぎる(チェーンの郊外型店舗含め)。そのため、町外へ買い物に行くのだが、町の活性化のためには、町内の店を利用したい気持ちもある。数年前に販売していたプレミアム商品券？のようなものをまた作ってくれば、町内で買い物をすると思う。(女性・18～39歳)
- スーパーや商業施設を増やし、生活しやすくしてほしい。(女性・40～64歳)
- 空き店舗対策や、皆が歩きたがる綺麗なまちづくり。(男性・40～64歳)
- 色々な催し物があるが、いまいち盛り上がりには欠ける気がします。地元の商店がもっと元気になれば良いと思います。(男性・65歳以上)
- 働く場所(企業)の確保を実施し、若者たちが定住できる環境づくりが必要です。それには買い物が楽しくでき、また外食等も町内で可能なまちづくりからスタートすべきだと思います。(男性・40～64歳)
- 買い物は秩父へ車で行くついでに秩父のスーパーで買い物をします。物が珍しいのと色々な物があるため、見るだけで楽しいです。なるべく小鹿野で買い物をしたいと思っておりますが、スーパーが1つなので、物足りないと感じております。(女性・40～64歳)
- 地元のスーパーや、小売店でも使ってもらえる流通性のある品を作る事が大事であると思っています。(女性・65歳以上)
- 町の中に食品スーパーはできないですか？町の中にお客様が来ても買い物する所がないです。「やおよしまでは少し距離があるね」との声が聴かれます。高齢者・子ども達が、自転車・

徒歩で買い物できるように。(女性・65歳以上)

③農林業の振興に関すること

○住民の所得の向上策の推進が重点課題です。所得の低い町では、人口減少も少子化も止まりません。企業誘致と特産品の拡大により農産業の活性化を行う事。(男性・65歳以上)

○地の利が良いとは言い難いので、企業誘致は難しいのではないのでしょうか。林業や農業を強化して加工し、直売する事で雇用が生まれるのではないのでしょうか(既存の加工業者にも協力を依頼する)。インスタ映えなど見た目を重視したり、ブランドが好きな消費者でも人生を重ねてくると、結局口にする食べ物へ戻ってくると思います。また心を豊かにするため、自然や花への関心も高くなってくると、小鹿野町の各地域の花畑には魅力を感じます。大きく括ると自然豊かなこの地を最大に生かすのが良いと考えます。“超”地産地消で健康的な食生活、身近な農作業を行う事で健康維持、どんな年代も大なり小なり働いているという事を売りにしてはどうでしょうか。(女性・40~64歳)

○私事ですが、懸念している事は近い将来、耕作放棄地になってしまうだろうという事です。離れて住む子どもが管理するのは無理だし、これは我が家だけの心配ではないだろうと思う。(女性・65歳以上)

○空き家や耕作放棄地を農業希望者等に積極的

に紹介、仲介できるシステム作り。田舎暮らしに憧れている人は多い。小鹿野町は全般的に余所者に対して寛容ではない気がする。町を活性化しようと思うなら、役人の考えではなく、その道のプロに意見を求めるなり依頼するべき。(女性・40~64歳)

○空き家や、使っていない農地を借り、指導者を集め元気のある、やる気ある人に農業体験をさせる。地震にも強いこの土地、大自然の中でゆったりと、あちこちに良い風呂もあり文化もあり最高だと思う。子孫のために本気で考えていかなければ大変な事になる。よろしくお願いします。(女性・65歳以上)

○コンビニ以外の夜遅くまで営業している店があると便利。(男性・18~39歳)

○空いている畑を利用して、野菜を作ってそれを安い値段で利用する。(女性・65歳以上)

○耕作放棄地を農業を希望する、県内外の人を呼び込み、土地を提供し移住者を増やす。(男性・65歳以上)

○農業にしても、町に適した農作物を特色のある農業で町おこしをお願いしたい。(女性・65歳以上)

○今のようない個人(小規模)農業でなく、農協とか町とかで借り上げて、大規模農業(集約)でないとやっていけないのではないかと素人の私が考えています。(女性・65歳以上)

(6) 行財政運営に関すること

①行財政の充実に関すること

○少子高齢化で消滅可能性もある町では、限りある財源を有効的に使い、コンパクトな町政を望みます。(女性・65歳以上)

○古来、政事は『入るを量りて出るをためす』と言いますが、未来に借金を押し付けないでいただきたい。(女性・65歳以上)

○色々な無駄があるのではないですか？その見直しが必要だと思います。(女性・65歳以上)

○町づくりは大切ですが、まずは町の財政が一番で、これから年金生活し、若者も身近にいない生活をするのに家庭でも収入次第です。考えはそこです。埼玉県内ワーストにやっている財政を考えないと若者のUターンもないですよ！！まずは無駄の廃止等からです！！(女

性・40~64歳)

○広域合併の再検討。(男性・40~64歳)

○議員定数の削減、質の向上。職員の定数削減、質の向上。(女性・40~64歳)

○町では総合計画、基本計画と素晴らしい計画が行政全般にわたり発表されていますが、達成度合いはいかがなものでしょうか。絵に描いた餅にならないように更なる努力を望みます。(男性・65歳以上)

○地方分権の時代ですので、資金を受け入れたら地域と自らの判断、きめ細かな対応を図る事。焼石に水ではいけない。時代の変化は早いので、未来を読む。再利用必要。大勢の意見を聞く。(女性・65歳以上)

○役場職員の人材向上。(女性・65歳以上)

○対策等を実行に移す人材の育成（執行者の意識改革）。町民の危機意識の高揚と民度の向上。大名商法からの脱却。◎『井の中の蛙大海を知らず』以上はこの言葉につきる。（男性・65歳以上）

○転入手続きを町役場にしに行った際、特に『町のしおり』のようなものは渡されなかった。ごみ収集カレンダーについても、年度末だから無いと言われた。新しいカレンダーはどのように取得すればよいか尋ねたら、地区から配布されるはず…との事だった。地区とはなんですか？私達の地区はどこですか？と尋ねたが分からないとの事だった。自治会の様なものですか？と尋ねると「そうです」との事だった。私達の転入は歓迎されているのだろうか？不安な幕開けでした。今はネットやスマホの普及で、経費の掛かる物は省略するのもわかる。しかし、当時の小鹿野ホームページは非常に分かりずらいものだった。現在は大分見やすくなっていると思う。先だって配布された『暮らしの便利帳』は大変わかりやすい。Uターン者は別として、Iターン者にとって新しい土地で生きていくと言うのは本当に勇気が必要なことだ。そのスタートに町からは『暮らしの便利帳』、商工会などから『町のお店マップ』などが配布されたら心強いのではなかろうか？住民自治組織があることを、町役場から言うことは難しい事なのだろうか？都市部からのIターン者であると自治組織に対して、拒絶する傾向もあり得る。強制加入ではないが、必要不可欠な現状を誰（どの立場の人）が、説明できるのであろうか？例えば、ごみ集積所の鉄のカゴ、これはその拠点を使用する住民が費用を負担しているので、修繕も住民負担である。他の市町村では、公費での対応する者なので非常に驚いた。U・Iターン説明会では、町の財政状況も話し、共助で補っている現実も説明しつつ、財政困難になり地域住民の協助・共助で補っている現実も説明した方がよいと思う（よそとの違いを総合的に整理すると、弱点もわかるが長所が判ると思います）。秩父弁は独特な特徴だと思う。よそから来た者としては非常に強い口調に聞こえ、ケンカ腰かと思った。それがこの地の方言だとわかったので安心した。（女性・40～64歳）

②公共施設の活用に関すること

- 未使用公共施設の利用方法の検討。（男性・40～64歳）
- 使用されない施設があるが、町で運営できない事を一個人に分かるわけがない、利用されない様な物を作る方が悪いと思う。（男性・65歳以上）
- 経営者の好きなように使ってもらう（温泉を強要しない）。もはや条件を言っている場合ではないです。（女性・18～39歳）
- 人口減少に伴い、新施設は建てない事。現在ある施設、空施設を再利用する。（男性・65歳以上）
- 無駄な施設は作らないで、もっと他に有効に使ってほしい。他人事のような政策はやめてほしい（個人企業なら既に倒産だ！！）。（男性・40～64歳）
- 町民が知らないうちに造って、使用されていない施設とは？造った者たちに聞け。（男性・40～64歳）
- 町の公共施設を有効活用するため、有料で町外の人にも利用できるようにする（活用率を上げる）。（男性・65歳以上）
- 役場庁舎を建て替える場合。庁舎には資料館・文化会館・図書館などの複合型にして、利便性を高めてもらいたい。（女性・40～64歳）
- 総合センター・文化センターは耐用年数が過ぎたら解体する。（女性・40～64歳）
- おがの化石館の町民無料化。（男性・40～64歳）
- 空き施設を利用できる様にする。都会の小学校の合宿やイベント等に利用してもらう。（男性・40～64歳）
- 町民体育館等年内を通して使用する団体があり、日曜日に利用したくても利用できないので、「利用する1か月前位に他の体育館等と利用団体等に交渉できたらなあ〜」。（男性・40～64歳）
- 空き施設を地域のイベント・運動会等に活用。（男性・40～64歳）
- 旧クアパレスを観光『道の駅』みたいな利用。（男性・40～64歳）
- 空き施設について、歌舞伎の練習場、土日等一般に歌舞伎の上演の場として利用。（男性・40～64歳）
- 文化センターの大駐車場入り口が狭いです。広

くしてほしいです。(女性・40～64歳)
○誰でも利用できるプールがあったら、利用したいと思って人が多いので、その点を考えてほしい！！(女性・40～64歳)

○いきいき館では色々やっていますが、遠いので行けず羨ましいです。(女性・65歳以上)
○そもそも公共施設が認知されていない。(女性・18～39歳)

(7) その他まちづくりに関すること

①自然や伝統文化を活かしたまちづくりに関すること

○自然が荒れているので、山・畑の利用を願う。(アンケートをよく取るが結果が分からないので、知らせることも必要と思います)。(男性・65歳以上)
○もっと本気でこの美しい町を守る。中途半端はせず山と川、とにかく自然しかないのだからそれを生かすしかない。定住してくれる様に、定住したい人がどうして定住したいのか？リサーチしてよく理解する事。自然を生かした職業、産業を生み出し自分達で(自然エネルギー・水・山観光・環境)うまく生きられる。無理なく(自給自足(エネルギーや産業、食べ物)でできるぐらいのシステムを作る。*目先の事しか考えない事はやらないでほしい。自然や伝統を守る教育(町民全体)、意識を上げる。(女性・40～64歳)
○伝統芸能、伝統行事に対する町からの経済的支援の増加。(男性・40～64歳)
○町の商店街が寂しくなる一方です。一人でも多くの人に来て貰えるような核となるものがが必要です。幸い、小鹿野歌舞伎は対外的にも有名で、町民が一番誇れる伝統文化です。年に二日間だけの芸能祭では駄目です。いつ来ても地芝居を体感できる様な施設がほしい。年に何年も使われていない総合センターを「小鹿野町歌舞伎会館」としてリニューアルして、歌舞伎関係のものを中心とした展示にして、合角ダム出土品やその他文化財等も展示する。単に展示だけではいけません。専門スタッフを配置し、一年を通して種々の企画・展示等をして、何度も人々に来てもらう。商店街にも来町者を受け入れる雰囲気づくりに協力してもらう事が大事だと思う。(男性・65歳以上)
○定年されたシルバー人材を活用し、郷土芸能を広める。例えば歌舞伎の町なので、歌舞伎を覚えてもらい、毎週披露する。観光客にいつでも見て貰えるようにできないか？(男性・40～

64歳)

○小鹿野(歴史・歌舞伎・神楽などの世界文化遺産の登録)。(男性・40～64歳)
○自然の風景への若人の取組。(女性・65歳以上)
○町の中に緑が少ない。老木を簡単に伐ってしまう。育ってきた年月をこれから経過するのは、大変なことなのに歴史のある重みを感じられない。側に合ったもみじの木が証明していたのに、今年その木も伐られてしまい悲しくなってしまった。古木の重みを大切にしてほしい。(性・年齢不明)
○町づくりにおいては、今の現状を保ってほしいです。物をつくることも大切だと思いますが、それにより今の自然が減少していくのは、町民として悲しいところがあります。小鹿野町は自然が豊かで、花や歌舞伎など良いところが沢山あります。それらを外へと発信していき、もっと町外の人にも小鹿野の事を知ってもらいたいです。これから、小鹿野町がもっと良くなることを期待しています。頑張ってください。(女性・18～39歳)

②町の魅力の情報発信に関すること

○災害の無い町をアピールして秩父止まりにならないようにする。(女性・40～64歳)
○アニメなど、小鹿野を題材にした作品でアピール。(男性・40～64歳)
○テレビのドラマ、映画のロケに使ってもらう。現在、町地区で行っているイベント等テレビラジオインターネット等で紹介してもらい、観光地としてアピール。観光大使も検討。(男性・65歳以上)
○小鹿野町に生まれ小鹿野町で育った人達には地元の良さは分かりにくいと思いますので、その道のプロに小鹿野町の良さをどうアピールするか伝授してもらい、若い人達に頑張ってもらう事が大切だと思います。(男性・65歳以上)
○小鹿野町の魅力を見つけたいですね。人を呼ぶのではなく、人が来てしまうような(定住・観

光共に) 町にしたいものです。歌舞伎・ジオパーク・林業・田舎暮らし…どこでもあるが…。(男性・40～64歳)

○町民の小鹿野町に住んでいて良かったと満足度を上げていく事が大切だと思います。外から見ると羨ましいくらい豊かな暮らし(自然・文化・人情など)も、住んでいる者には当たり前すぎて大したことに思っていない。それが自己肯定感の低さにつながっていませんか。小鹿野町で働く、学ぶ、町をきれいにする、文化を受け継ぐ、小鹿野で楽しむ、小鹿野のよい所を発信する。それが実って「小鹿野を愛する」になる。住民がその町を好きな所は間違いなく魅力的な町です。もっと役場が主導して小鹿野町を好きになる仕掛けを作っていってほしいです。広報やホームページ、役場での対応、地域に向くときなど役場の職員さんがもっと明るく元気に、「I love 小鹿野」をアピールしてはどうでしょうか。町民が小鹿野を好きになって小鹿野での活動が増える→消費が発生→活性化→雇用も生まれる→楽しそうな所に他所からも人が来る。(男性・40～64歳)

○マスコミを利用して魅力をアピール。小鹿野高校をスポーツ強豪校に！福祉も！(男性・18～39歳)

○埼玉新聞に掲載されているが、埼玉県内企業の取組の発信のような、町企業の優れたところや農業等の優れたところを、こまめに情報提供して周知していく事も大切と考える。(男性・40～64歳)

③有害鳥獣対策に関すること

○有害鳥獣対策と耕作放棄地の対策も推進して下さい。今の小鹿野町は本当によい町だと思います。(男性・65歳以上)

○有害鳥獣対策の強化、鹿・猪等の害が増大している、困っています。ハンター等による駆除の急務。(男性・40～64歳)

○山間地の20年ほど前は、畑作りをしていた地が猪・鹿等に荒らされて、農作物が収穫できず放棄地になってしまった。土地は荒れ、道は獣道の方がみがかれている。(男性・65歳以上)

④行事の簡素化に関すること

○祭り・集まり等が偏った人だけが行う事になっている。仕事に支障が出る程多いので苦しい。

工夫して住みやすくなってくれたら良いと思います。(男性・40～64歳)

○行事が多く、嫌になる人がいるから減少していく。お祭りの行事が嫌で町を出た人がいる…考えを変えた方がよい。(女性・18～39歳)

○良く耳にするのは、消防をやりたいから小鹿野町は嫌だと言う意見。自分も消防活動には参加していません。大切な組織だとは思いますが、全員で同じ活動をしなくても良いと思います。参加していない人は、一度は必ず不快な気分を味わった事があると思います。消防活動をしていない人＝悪ととれる発言をされた事もあります。地域交流に積極的に参加したい気持ちはありますが、まず消防活動をしているかどうかによって受け込んでいない事があります。とても大切な事だと思いますが、「消防の町」ではなく「歌舞伎と名水の町」なので、それが全てではないと思います。個々の団員の意識の高い事は素晴らしいですが、「同じようになれ」と強要するような言動は控えて頂きたい。若者が流出する一番の要因であることは間違いないと思います。関係者には理解できないかもしれませんが、私の友人・知人で小鹿野町に転入をしようと考えた人達は、決まって「消防がなければ」と言います。場合によっては私も転出をするつもりです。それほど不快だと思う場面があります。(男性・18～39歳)

⑤その他

○耕作放棄地を活用し、太陽光発電所の検討。その太陽光でクアパレス学校(廃校)へ利用。(男性・65歳以上)

○積雪時の迅速化。(女性・18～39歳)

○長い目で見て町全体のコンパクト化推進。(男性・65歳以上)

○(願望) 安全・安心そして善意溢れる町。住民の人間性、包括力ある町。また、住民参加の町づくり意識の啓培。(男性・65歳以上)

○人口減少はしょうがないところがあると思います。増やそうと頑張るのもいいと思いますが、今住んでいる方々にもよりもっと住みやすい環境を…と考えていくとよいのではと思います。(女性・18～39歳)

○人口減少の著しい土地に住んでいる人、その中でも特に老人の方達の不便さを、少しでも取り除くことのできるような町づくりをして行っ

てもらえたら幸いです。(男性・18～39歳)

○地区によって、住みずらい場所がある。町にいたくなくなる。下小鹿野だと学校が遠く住みたくない。(女性・18～39歳)

○小鹿野町が日本の市町村をリードするという気持で、何事にもチャレンジ精神で取り組んで頂きたい。(男性・40～64歳)

○若者の意見を取り入れる。(女性・18～39歳)

○土地を探しているが全くいい場所がない、遊べない。秩父で探すしかない。(女性・18～39歳)

○公共(国・県・町)の取組が目立つような気がします。3年5年ではなく、10年～50年の長期的な取組をお願いします。市民の多くが心の拠所を失っていると感じます。バブルを経験するほどの経済的に豊かになったのと引き換えに、心が貧しくなっているようです。『衣食足りて礼節を知る』とも言います。礼節を磨く時ではないでしょうか？人間性の低下が主な問題の要因になっている様な気がします。人口減少は国全体の傾向です。対策は困難です。今までできなかった事が急にできるとは思いません。困難と自覚する事の方が大切なのではないのでしょうか。そして、現状充実した舵を切ってはでしょうか。(男性・40～64歳)

○政治のレベルが低すぎる。(女性・65歳以上)

○国全体が少子化なので、小鹿野町だけで対策を考えるのではなく、お偉い政治家さん達が考えて頂きたい。(女性・65歳以上)

○家に1人子がいて、娘婿ができない。(男性・65歳以上)

○町の忠魂碑について、戦死者が町全体では700名も出たとの事、倉尾と両神地区では犠牲者のお名前を刻んであるが、三田川と小鹿野地区では刻まれておらず、もし全員の名前が刻まれていれば、後世の人や戦死者を出していない家の人にも、町でこんな戦死した人がいるのだと示すことができる上に、無意味な戦争を再び起こす事のない様、抑止力になる筈だと思います。(性・年齢不明)

○秩父市との合併。(女性・65歳以上)

○若い人達の教養育成の場設立(役場内)。(女性・65歳以上)

○消防団の組織編成の見直し。下小鹿野1ヶ所ポンプ車2台、長若地区1ヶ所ポンプ車2台、倉尾1ヶ所ポンプ車3台、三田川2ヶ所ポンプ車4台、両神3ヶ所ポンプ車3ヶ所×2台計6台。以

上の事は消防団員の減少のため、経費削減にもなる。各分団の詰所が老朽化しているので、再編成後建て替える。*役場庁舎より先にしてもらいたい。(女性・40～64歳)

○小鹿野町(秩父郡市内)の良さ＝日本国内のどんな山間地・僻地・地方でも起こっている大きな事故、事件、トラブルなどがここ25年程起こっていない。ほぼ皆無。これは喜ばしい事であると同時に、ある突飛な考えが浮かんでしまいます。これは、ここ数年間いろいろ観察したり、分析したりした。かなり思い込みや、超常的な力やら色々交っている、かなり間違っている部分もあると思いますが…。(女性・40～64歳)

○娯楽施設が少ないため、遠出する事をしているので、町内にあれば自然と人が集まると思います。(男性・18～39歳)

○『田舎』だけで町を宣伝するには無理があると思います。(女性・18～39歳)

○無駄な事に大金を使わずに、本当に必要としている事に目を向け、良い判断をしてほしい。子ども達の未来を考えるなら、もっと暮らしやすい地域にしてほしい。色々な情報を知らないで、知っている人だけが得をする様な社会になっている。知っていたらと思っている人が沢山いるのを、上に立っている人達が知らなすぎる。(男性・40～64歳)

○今回のアンケート調査等は多数行い、市民の声をどんどん町政に取り入れてほしい。調査結果もただ統計処理をするだけでなく、小鹿野町市民のために何をやったらいいのか、やらない方がいいのか町長を始めとした役場職員一人一人も、真剣に考え助言してもらいたい。悪い事はしないが、良い事もしないと言うのでは、給料泥棒と言われかねません。(男性・40～64歳)

○アイデアを提供しても取り上げない行政なので、提供するつもりはない。(男性・65歳以上)

○小鹿野町、町内が寂しい。(女性・65歳以上)

○町内の地価を一律にできないか？(男性・65歳以上)

○問23で創生総合戦略について、計画についてはホームページで公開とありました。問24の福祉有償運送には説明がついているのですから、創生総合戦略に関しても別紙などで説明をつけて頂いた方が、見るほうとしては良かったと考えます。(女性・18～39歳)

○アンケートの配布・収集・集計・分析等大変かと思いますが、町民の意をくみあげる努力をして頂き、ありがとうございます。（女性・40～64歳）

○転入し、まだ全くと言ってよい程、地域に馴染めてない（隣の人も知りません）。仕事を辞めてからでないと近所の事も分からず、子育ても関わっていないのでこのアンケートは無意味です。（女性・40～64歳）

○私のような後期高齢者は無理、もっと若い人に出して下さい。お願いします。（女性・65歳以上）

○町長が代わる今、なぜアンケート調査をするのか？（女性・65歳以上）

○昨年11月に役場に行き、町長と話をした際、その様な細かい事は年をとるとできないと言われた。（役場の仕事は細かい仕事の積み重ねではないか）、その様な町長は早く退職するのが良い。（男性・65歳以上）

○80歳を過ぎた老人となってしまいました。多くの事に興味を失ってしまって、あまり物事に執着する事が無くなりました。世界の動きには興味が非常に高いのですが、身の周りの事はどうでも良くなってしまいました。あまり返答ができなくて申し訳ありません。（男性・65歳以上）

○常日頃、まちづくりなどに関し研鑽努力に敬意を覚えます。私は、人口減少・少子化に対し、さほど危機感を抱いておりません。老人が大半を占める町があっても良いと考えています。結婚しろ、町に住め、子を三人産め、などと言うのは個人の内助の範囲だと思います。幸い私は、また要は定職がありましたし、子も三人恵まれました。こんな私が言う資格があるとは思えませんが、その意味恵まれていたのでしょう。（男性・65歳以上）

資料編 調査票

小鹿野町まちづくりアンケート

～ アンケート調査へのご協力をお願い ～

日頃、町政に対しましてご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

町では、新たな住民ニーズに対応するとともに、暮らしやすく魅力的なまちづくりの実現を目指し、平成25年度に第1次総合振興計画後期基本計画（平成26年度～30年度）を策定いたしました。

平成30年度に後期基本計画期間が終了することにより、第2次総合振興計画基本構想（平成31年度～40年度）及び前期基本計画（平成31年度～平成35年度）の策定を進めるにあたり、町民の皆様の日常生活における現状と将来への希望、考え方等をおうかがいし、計画に役立てていきたいと考えています。そこで、町内にお住まいの18歳以上の方のうち、2,000人を選ばせていただき、無記名で回答していただくことにいたしました。

調査結果につきましては、統計的に処理しますので、個人的にご迷惑をおかけすることはありません。なお、最後の自由記入欄のご意見等につきましては、公表させていただきますことでもありますので、あらかじめご了承ください。ご多忙のところ誠に恐れ入りますが、より一層魅力ある町づくりのため、ご協力くださいますようお願いいたします。

平成29年8月

小鹿野町長 福島 弘 文

【ご記入にあたって】

- 1 必ず、あて名のご本人がお答えください。
- 2 回答者の属性情報となる問1～問6は非開示とし、個人が特定されることは決してありませんので、ありのままのお気持ちでお答えください。
- 3 ご記入は、黒のボールペンか鉛筆をお願いします。
- 4 お答えは、最初から一問ずつ全部の質問にお答えください。

【ご返送について】

ご記入いただいたアンケート票は、同封の返信用封筒に入れて、8月31日（木）までにご返送をお願いいたします。（切手は貼らなくて結構です）

ご住所・お名前は、お書きになる必要はありません。

【問い合わせ先】

ご質問等がありましたら、下記までご連絡ください。

小鹿野町役場 総合政策課

TEL：75－1238・4197（直通）

◆ あなた自身についておうかがいします。

問1 あなたの性別はどちらですか。あてはまる番号1つに○を付けてください。

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

問2 あなたの年齢はいくつですか。あてはまる番号1つに○を付けてください。

- | | | |
|-----------|-----------|----------|
| 1 18～29 歳 | 4 50～59 歳 | 7 70 歳以上 |
| 2 30～39 歳 | 5 60～64 歳 | |
| 3 40～49 歳 | 6 65～69 歳 | |

問3 あなたが住んでいる地区はどこですか。あてはまる番号1つに○を付けてください。

- | | | |
|--------|-------|---------|
| 1 下小鹿野 | 5 般若 | 9 日尾 |
| 2 小鹿野 | 6 飯田 | 10 藤倉 |
| 3 伊豆沢 | 7 三山 | 11 両神薄 |
| 4 長留 | 8 河原沢 | 12 両神小森 |

問4 あなたの世帯の構成について、あてはまる番号1つに○を付けてください。

- | | |
|------------------|-------------------------------|
| 1 ひとり暮らし（単身赴任含む） | 4 多世代世帯 |
| 2 夫婦のみ | 5 その他（ ） |
| 3 二世帯世帯 | |

問5 あなたの職業（主たる収入源となっているもの）は何ですか。あてはまる番号1つに○を付けてください。

- | | |
|------------------|--------------------------------|
| 1 勤め人 | 6 家事従事（主婦など） |
| 2 自営業（商工・サービスなど） | 7 学生 |
| 3 農業 | 8 パートタイマー・アルバイト |
| 4 公務員（公社・公団含む） | 9 無職 |
| 5 自由業（医師・司法書士など） | 10 その他（ ） |

問6 小鹿野町での定住もしくは転入・転出の状況は、次のどれですか。【1つ】

- 1 生まれたときから同じ住所地に住んでいる
2 町外に転出はしていないが、町内で転居した
3 町外に転出したのちに戻ってきた
4 町外から転入してきた

→ 問6-1 あなたは、小鹿野町に住んで何年くらいになりますか。Uターンの方は、通算の年数でお答えください。【1つ】

- | | | |
|-----------|------------|---------|
| 1 5年未満 | 3 10~20年未満 | 5 30年以上 |
| 2 5~10年未満 | 4 20~30年未満 | |

→ 問6-2 あなたは、現在の住所地に転入する前にどちらに住んでいましたか。【1つ】

- 1 秩父郡市内 2 埼玉県内 3 県外

問7 あなたは、普段の生活の中で、主に買い物をどこで行いますか。【1つ】

- 1 小鹿野町内 4 通信販売（カタログやインターネット）
2 秩父郡市内 5 移動販売
3 秩父郡市外 6 その他（ ）

問8 あなたのお住まいになっている地区では、住民生活に何か支障がでていますか。あてはまる番号すべてに○を付けてください。

- 1 特に支障はない
- 2 地域の担い手が不足し、冠婚葬祭や普段の支え合いに支障がある
- 3 地域の共同作業などに参加しない人が増えてきている
- 4 環境清掃活動などの共同作業が減少している
- 5 防犯・防災面に不安がある（消防活動などを含む）
- 6 地区内・地区間の交流が減少し、孤立感が増している
- 7 地域の伝統行事、民俗芸能活動などが衰退・減少してきている
- 8 空き家が増えている
- 9 耕作放棄地や管理できない山林が増加している
- 10 有害鳥獣による農作物への被害が増加している
- 11 その他（ ）

◆ 町への愛着やまちづくりへの参加についておうかがいします。

問9 あなたは、小鹿野町に「わがまち」といった愛着（地元愛）をもっていますか。あてはまる番号1つに○を付けてください。

- | | |
|----------|----------|
| 1 とてもある | 3 あまりない |
| 2 ある程度ある | 4 まったくない |

問10 小鹿野町での生活や今後のことについて、あなたのお気持ちに最も近いもの1つに○をつけて下さい。

(1) 小鹿野町の良さを満喫しながら暮らしている

- | | |
|-----------|--------------|
| 1 とてもそう思う | 3 あまりそう思わない |
| 2 少しそう思う | 4 まったくそう思わない |

→ 付問 あなたにとって、小鹿野町の良さとは何ですか。下の枠内にご自由にお書き下さい。

--

(2) 町の活性化のために協力できることがあればしてみたい

- | | |
|-----------|--------------|
| 1 とてもそう思う | 3 あまりそう思わない |
| 2 少しそう思う | 4 まったくそう思わない |

問11 今後の人口減少を踏まえ、財政状況が厳しくなることが見込まれる中で、町で全ての課題に対応していくことが難しくなっていくと予想されます。そのため、住民主体の「地域運営組織^{*}」による取り組みが各地で行われています。あなたは、ご自分が地域運営組織に参加することについて、どのようにお考えですか。あてはまる番号1つに○を付けてください。

- | |
|--|
| 1 企画・運営する側として参加したい
2 参加者としてできる範囲で参加したい
3 関心はあるが参加したいとは思わない
4 わからない
5 その他（ ） |
|--|

※「地域運営組織」とは、地域住民自らが主体となって、住民自治組織やボランティア団体、NPO法人、社会福祉法人、学校、PTA、企業などの多様な活動団体と連携・協働のもと、通院・買い物の支援など生活サービスの提供や地域の経済活動など地域課題の解決に向けた取り組みを持続的に実践する組織のことで、概ね小学校区単位を想定した国の制度です。

◆ 小鹿野町の住みごこちや取組への評価についておうかがいします。

問12 小鹿野町の現在の生活環境や取組への評価について、どのように感じていますか。
次の各項目について、それぞれあてはまる番号1つに○を付けてください。

	満足している	どちらかと言えば満足している	どちらとも言えない	どちらかと言えば不満である	不満である
【暮らしの基盤】					
(1) 国・県道などの道路の整備	1	2	3	4	5
(2) 身近な生活道路の整備(広さ・舗装)	1	2	3	4	5
(3) 道路側溝・排水路の整備	1	2	3	4	5
(4) 生活用水(飲料水)	1	2	3	4	5
(5) 交通機関の利便性(バス・タクシーなど)	1	2	3	4	5
(6) 公園や児童遊園・広場などの整備	1	2	3	4	5

【暮らしの環境】					
(7) 自然環境の保全と景観維持	1	2	3	4	5
(8) し尿や生活雑排水の処理状況	1	2	3	4	5
(9) ごみ処理・収集の状況	1	2	3	4	5
(10) 通勤・通学の利便性	1	2	3	4	5
(11) 買い物の利便性(日用品・食料品など)	1	2	3	4	5
(12) 交通安全施設の整備(街路灯・防犯灯やカーブミラー・ガードレールなど)	1	2	3	4	5
(13) 災害への防災対策(火災・風雪水害・地震など)	1	2	3	4	5
(14) 企業誘致の推進、働く場の提供	1	2	3	4	5
(15) 情報通信サービス(携帯電話・インターネットなど)	1	2	3	4	5

	満足している	どちらかと言えば満足している	どちらとも言えない	どちらかと言えば不満である	不満である
【保健・福祉・医療】					
(16) 高齢者・障害者への福祉、介護サービス	1	2	3	4	5
(17) 児童福祉サービスや子育て支援の環境（18歳までの医療費無料化など）	1	2	3	4	5
(18) がん・生活習慣病健診や健康増進事業	1	2	3	4	5
(19) 医療機関の充実	1	2	3	4	5

【教育・文化】					
(20) 幼稚園・保育所の施設や教育内容	1	2	3	4	5
(21) 小・中学校の施設や教育内容	1	2	3	4	5
(22) 児童・生徒への支援（教材費や学校給食費無料化など）	1	2	3	4	5
(23) 伝統文化の継承や文化財の保全	1	2	3	4	5
(24) スポーツ・レクリエーション活動やその施設	1	2	3	4	5
(25) 青少年の健全育成の取り組み	1	2	3	4	5

【コミュニティ】					
(26) 住民同士のふれあい	1	2	3	4	5
(27) 地域集会所などの集会施設	1	2	3	4	5

【まちづくり全体】					
(28) 少子化対策	1	2	3	4	5
(29) 人口減少対策	1	2	3	4	5
(30) 全体としての住み良さ	1	2	3	4	5

問13 上記の（1）～（30）の中で、今後、重点的に進めるべきものは何だと思いますか。5つまで選んで、下の枠に番号をご記入ください。

--	--	--	--	--

より多くの方にとって暮らしやすく、また、より多くの方が住みたいと思えるまちづくりを進めていくため、今後、町としてどのような取組に力を注ぐべきか、お聞きます。

問14 交通や道路の整備に関し、今後、町で最も力を入れていくべき取組はどれだと思いますか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

4 防犯灯や街路灯・カーブミラー・ガードレールなどの安心安全施設の整備
5 道路・橋梁・トンネルなどの老朽化対策など効果的・効率的な維持管理
6 バスの利便性など公共交通環境の向上（路線バス、デマンド交通※など）
7 その他（ ）

- 1 日常生活の利便性を高める生活道路の整備
- 2 鉄道の駅に接続する幹線道路（長尾根トンネル）の整備促進
- 3 道路にせり出した樹木の伐採など安全な道路環境の整備
- 4 防犯灯や街路灯・カーブミラー・ガードレールなどの安心安全施設の整備
- 5 道路・橋梁・トンネルなどの老朽化対策など効果的・効率的な維持管理
- 6 バスの利便性など公共交通環境の向上（路線バス、デマンド交通※など）
- 7 その他（ ）

※デマンド交通：乗客の需要に応じて運行する交通方式で、過疎地をかかえる地方自治体などで注目されています。小鹿野町では乗合タクシーがこれにあたります。

問15 身近な生活環境において、今後、町で最も力を入れていくべき取組はどれだと思いますか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

- 1 有害鳥獣対策の推進
- 2 自然エネルギーを活用した対策の推進
- 3 合併処理浄化槽設置の促進、排水路の整備
- 4 ごみの減量化や分別回収の徹底、リサイクルの推進など、ごみ問題への取組
- 5 水質汚染の防止や自然環境の保全
- 6 防災対策の充実
- 7 防犯対策の充実
- 8 危険空き家対策の推進
- 9 その他（ ）

問16 安心して暮らしていける就労環境の整備のため、今後、町で最も力を入れていくべき取組はどれだと思いますか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

- 1 企業誘致の促進
- 2 町内企業の新規事業や起業家に対する支援
- 3 町内企業の就業者確保支援
- 4 新規就農支援などによる農業の担い手確保
- 5 特産品のブランド化や販路拡大など農業所得の向上支援
- 6 木材の利用促進などによる林業従事者支援
- 7 個人事業者や小規模企業などの共有事務スペースの確保
- 8 その他（ ）

問18 結婚や子育て環境の充実のため、今後、町で最も力を入れていくべき取組はどれだと思いますか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

- 1 結婚相談や婚活事業など出会いの場の支援体制の充実
- 2 若い世代への結婚に関する意識啓発講習会などの開催
- 3 出産から子育てまでの一貫した相談・支援体制の充実
- 4 子育て家庭への経済的支援の充実
- 5 保育所・子育て支援センター・学童保育など保育サービスの充実
- 6 公園や室内施設など子どもの遊び場所の整備
- 7 子どもの通学に関わる支援
- 8 気軽に自主学習できる場所の確保など学習環境の整備
- 9 その他（

※U・Iターン：町へ転入してくることの意味。Uターンとは進学や就職などで町を離れたのち、再びこの町に戻ってくる。Iターンとは別な地域で生まれ暮らしてきた方がこの町へ移り住むこと。

問21 今後の少子化を踏まえ、学校教育の振興や教育環境を整備していくために、町としてどのような取組を推進していくべきだと思いますか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

- 1 家庭や地域、保育所・幼稚園が連携した一体的な幼児教育の推進
- 2 小規模校における教育の充実及び児童数減少に伴う学校規模の適正化
- 3 国際化に対応した外国語教育の充実
- 4 学校・家庭・地域が一体となった教育の推進
- 5 自他の命と心を大切にし、健康を意識した教育の推進と相談体制の充実
- 6 小中一貫教育※の推進
- 7 学力向上のための学習機会の充実
- 8 ふるさと意識を高揚させる教育の推進
- 9 学校給食の充実及び学校教育における食育の推進
- 10 その他（ ）

問22 社会教育・スポーツの振興を図る上で、今後、町で最も力を入れていくべき取組はどれだと思いますか。次の中から2つまで選んで○をつけてください。

- 129

(2) 町営路線バス

1 ほとんど毎日	4 月に2～3回	7 利用しない
2 週に2～4回	5 月に1回以下	
3 週に1回	6 不定期(雨天時など)	

(3) 福祉有償運送(ハッピーパートナー)

1 ほとんど毎日	4 月に2～3回	7 利用しない
2 週に2～4回	5 月に1回以下	
3 週に1回	6 不定期(雨天時など)	

(4) 乗り合いタクシー

1 ほとんど毎日	4 月に2～3回	7 利用しない
2 週に2～4回	5 月に1回以下	
3 週に1回	6 不定期(雨天時など)	

問26 公共交通のサービスを維持していくためには、利用者の増加を図ることや、ニーズに即した運行形態にするなどの見直しを行っていく必要があります。これからの公共交通のあり方としてどのような方策を講じるべきだと思いますか。路線バス(民営・町営)、乗合タクシーそれぞれについて、最も大切だと思う番号1つに○を付けてください。

(1) 民営路線バス (1つに○)

1 観光客の利用を増やす	4 運行ルートを見直す
2 町民の利用を呼びかける	5 車両を小型化する
3 運行時間を見直す	6 その他()

(2) 町営路線バス (1つに○)

1 観光客の利用を増やす	4 運行ルートを見直す
2 町民の利用を呼びかける	5 車両を小型化する
3 運行時間を見直す	6 その他()

(3) 乗合タクシー (1つに○)

1 運行時間帯を拡大する(現状 8:00～16:30)
2 町民の利用を呼びかける
3 町民以外も利用可能とする
4 予約受付期間を拡大する(現状 1週間前～前日 17:00 まで)
5 運行範囲を拡大する
6 その他()

問27 今後の交通のあり方の一つの方法として、地域住民による支え合いが重要になってきます。問11で紹介した「地域運営組織」による、住民主体の輸送サービスの運営について、どう思いますか。あてはまる番号1つに○を付けてください。

- 1 利用者として活用したい
- 2 企画・運営として関わりたい
- 3 サービスの担い手として関わりたい
- 4 必要だとは思いますが関わりたいとは思わない
- 5 特に必要性を感じない
- 6 その他（ ）

問28 今後の町の公共交通について、町で最も力を入れていくべき取組はどれだと思いますか。あてはまる番号2つに○を付けてください。

- 1 民営路線バスの維持
- 2 町営路線バスの維持
- 3 福祉有償運送（ハッピーパートナー）のニーズに合わせた対応
- 4 乗り合いタクシーの運行範囲拡大や利便性の向上
- 5 タクシー券利用制度の新設
- 6 地域運営組織など住民主体の輸送サービスの支援
- 7 新たな公共交通手段の検討（ ）

◆ 生涯学習活動についておうかがいします。

問29 あなたは、町主催のものに限らず町内外で生涯学習活動を行っていますか。
あてはまる番号すべてに○を付けてください。

- 1 音楽、美術、書道などの趣味的なもの
- 2 文化、語学、ときめき大学などの教養的なもの
- 3 スポーツ・健康に関するもの
- 4 家庭生活に関するもの
- 5 子育てや青少年育成に関するもの
- 6 社会問題に関するもの（時事、国際、環境など）
- 7 情報端末（パソコン、タブレット端末など）に関するもの
- 8 職業上必要な知識・技能に関するもの
- 9 ボランティア活動等に必要な知識、技能に関するもの
- 10 その他（具体的に
- 11 特に行っていない

◆ 公共施設の利用についておうかがいします。

問30 人口減少等に伴い、使用されていない公共施設があります。このような施設について、今後どのような利用が望ましいと思いますか。思い当たる施設があれば、下の枠に施設名と具体的な利用方法をお書きください。

公共施設名	利用方法についてのご提案

◆ 今後のまちづくりへの意見や人口減少、少子化対策等について提言がありましたら、ご自由に記入してください。

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins or other markings on the paper.

※ アンケートは以上で終了です。お忙しい中、ご協力いただきありがとうございました。
8月31日(木)まで に返信用封筒に入れてご返送くださいますようお願いいたします。

「小鹿野町まちづくりアンケート」
調査結果報告書

平成30年3月

編 集 小鹿野町総合政策課

〒368-0192 秩父郡小鹿野町小鹿野89番地

電 話 0494(75)1238(直通)

FAX 0494(75)2819